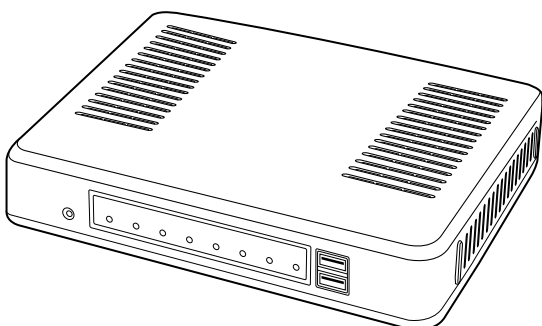


VoIP ROUTER VR-7000

IP電話対応



Icom Inc.

導入ガイド	1
管理者用の設定画面について	2
「ルーター機能設定」メニュー	3
「電話回線設定」メニュー	4
「Peer to Peer設定」メニュー	5
「簡単設定」メニュー	6
「PBX設定」メニュー	7
「PBX拡張設定」メニュー	8
「管理」メニュー	9
ご参考に	10

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IP電話対応のVoIPルーターです。

ご使用の際は、この設定マニュアルをよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

不正アクセス対策についての重要なお知らせ

下記のような環境でご使用になる場合、容易に推測できるパスワードを本製品に設定すると、正規利用者になりすまして本製品にアクセスし、パソコンや電話回線(IP電話回線/ISDN回線/アナログ電話回線など)が不正に利用される危険性があります。

◎本製品をインターネット(サービスプロバイダー)に接続して利用している

◎本製品のVoIPルーター機能により、本製品が対応するIP電話機を利用している

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更されることをおすすめします。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」 表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[] 表記：各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

< > 表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows® 8.1、Microsoft® Windows® 8.1 Proは、Windows 8.1と表記します。

Microsoft® Windows® 7 Home Premium、Microsoft® Windows® 7 ProfessionalおよびMicrosoft® Windows® 7 Ultimateは、Windows 7と表記します。

Microsoft® Windows Vista® Home Basic、Microsoft® Windows Vista® Home Premium、Microsoft® Windows Vista® BusinessおよびMicrosoft® Windows Vista® Ultimateは、Windows Vistaと表記します。

※本書は、Ver. 1.19(N)のファームウェアを使用して説明しています。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

※本書では、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N)を「KX-UTシリーズ」と表記しています。

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、Adobe Readerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

本製品の概要について

- ◎本製品の子機として、IP電話機や対応端末を最大24台★¹まで登録できます。
 - ★1. 本製品の[TEL]ポートに接続するアナログ電話機(2台)を含めると、最大26台まで使用できます。
 - ※本製品で無線IP携帯を使用したい場合は、本製品のネットワーク上に無線アクセスポイントを接続してください。
 - ※2016年5月現在、弊社製VP-701(生産終了品)、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N)が使用できます。
- ◎FTTH、xDSL対応のVoIPルーター機能を搭載しています。
 - ※物理インターフェース変換用モデムが別途必要です。
- ◎一般加入電話回線は、NTT東日本、またはNTT西日本のアナログ回線(2回線)、ISDN回線(3回線★²)に対応しています。
 - ★2. 2回線は、本製品に内蔵のDSUを使用し、残りの1回線は、市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器を使用した場合の回線数です。
- ◎一般加入電話回線とIP電話回線★³との併用ができます。
 - ★3. 本製品が対応するIP電話回線は、NTT東日本、またはNTT西日本のフレッツ光ネクスト(インターネット接続サービス)で提供するひかり電話サービスです。
 - このひかり電話サービスには、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタイプ、ひかり電話オフィスエースの3種類があり、それぞれ、網直収とゲートウェイ(GW)接続に対応しています。
- ◎本製品に接続されたアナログ電話機、IP電話機や対応端末同士で内線通話や内線転送ができ、IP電話回線、アナログ回線、ISDN回線を使用して外線通話★⁴ができます。
 - ★4. 内線通話と外線通話を合わせた最大通話数は、12通話までです。
 - なお、外線通話は、最大8通話までです。
- ◎IP電話機(VP-701/KX-UTシリーズ)用の共通電話帳には最大300件、グループ電話帳ごとに最大100件まで、相手先電話番号を登録できます。
- ◎本製品に登録したIP電話機(VP-701/KX-UTシリーズ)用の共通電話帳(最大300件)とグループ電話帳(最大100件)は、IP電話機起動時に、IP電話機本体の電話帳に自動転送されます。
- ◎Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)の発信で使用するVoIP電話帳には、相手先電話番号を最大1000件まで登録できます。
- ◎留守番電話機能を搭載していますので、不在時に指定した応答メッセージ★⁵を流し、相手の用件を録音できます。
 - ※録音できるのは、最大45件(留守電ボックスの合計)で、1件あたり最大120秒まで録音できます。
 - ★5. 応答専用モードでは、3種類の応答専用メッセージ、またはオリジナル応答メッセージから選択し、自動応答後、切断します。
- ◎有線LANは、10BASE-T/100BASE-TXの自動切り替えに対応し、ポートの極性についても、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)を自動判別します。
- ◎ネットワーク管理機能として、SNMPに対応しています。
- ◎IPフィルター機能を搭載していますので、アクセス制限ができます。

ISDN用のインターフェースについて

VR-7000に内蔵のDSUにより、ISDN回線を本製品の[U1]ポートと[U2]ポートに直接接続できます。(1章)

G4ファクシミリなどのISDN機器、市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器(TAなど)を[S/T1]ポートと[S/T3]ポートに接続できます。

[S/T1]ポートに接続したISDN機器は、ISDN2とISDN3の回線では使用できません。

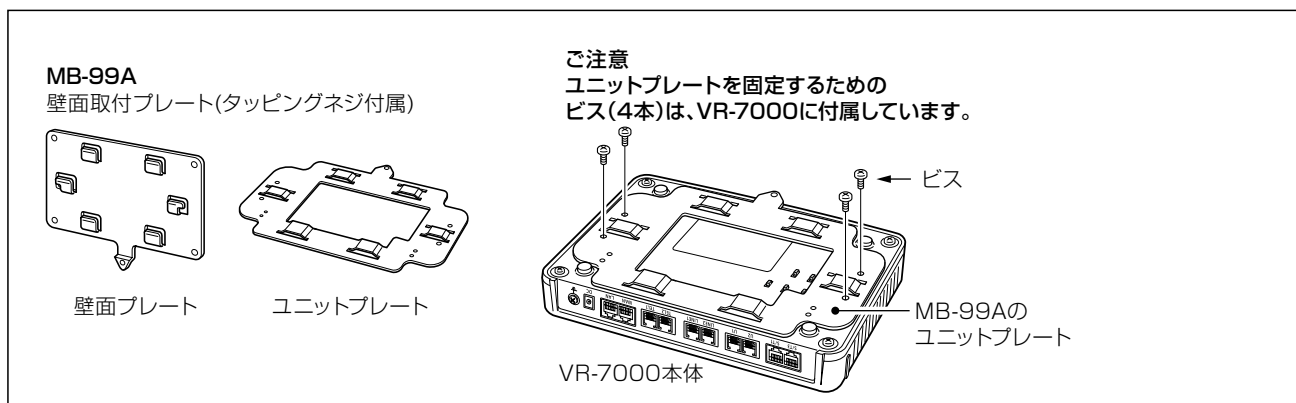
[S/T3]ポートに接続したISDN機器は、ISDN1とISDN2の回線では使用できません。

○：使用可能 ×：使用不可能

ポート 回線	U1	U2	S/T1	S/T3
ISDN1	○	×	○	×
ISDN2	×	○	×	×
ISDN3	×	×	×	○

はじめに

別売品について



別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じるネットワーク機器の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

出荷時のおもな設定値について

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ルーター機能設定	LAN設定	LAN設定	LAN IPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
		DHCPサーバー設定	DHCPサーバー機能	有効
			開始IPアドレス	192.168.0.10
			割り当て個数	30個
	WAN動作モード設定	回線種別設定	回線種別	使用しない
PBX設定	基本設定	基本設定	留守番電話機能	無効
電話回線設定	IP回線	SIPサーバー接続共通設定	接続先の選択	ひかり電話(網直収)
管理	管理者設定	パスワードの設定	現在のパスワード	admin(半角小文字)
	USB設定	USB設定	USBポート	有効

※上記以外の設定値については、本書10章をご覧ください。

※本製品の管理者用ID(admin)は、変更できません。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。

数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更されることをおすすめします。

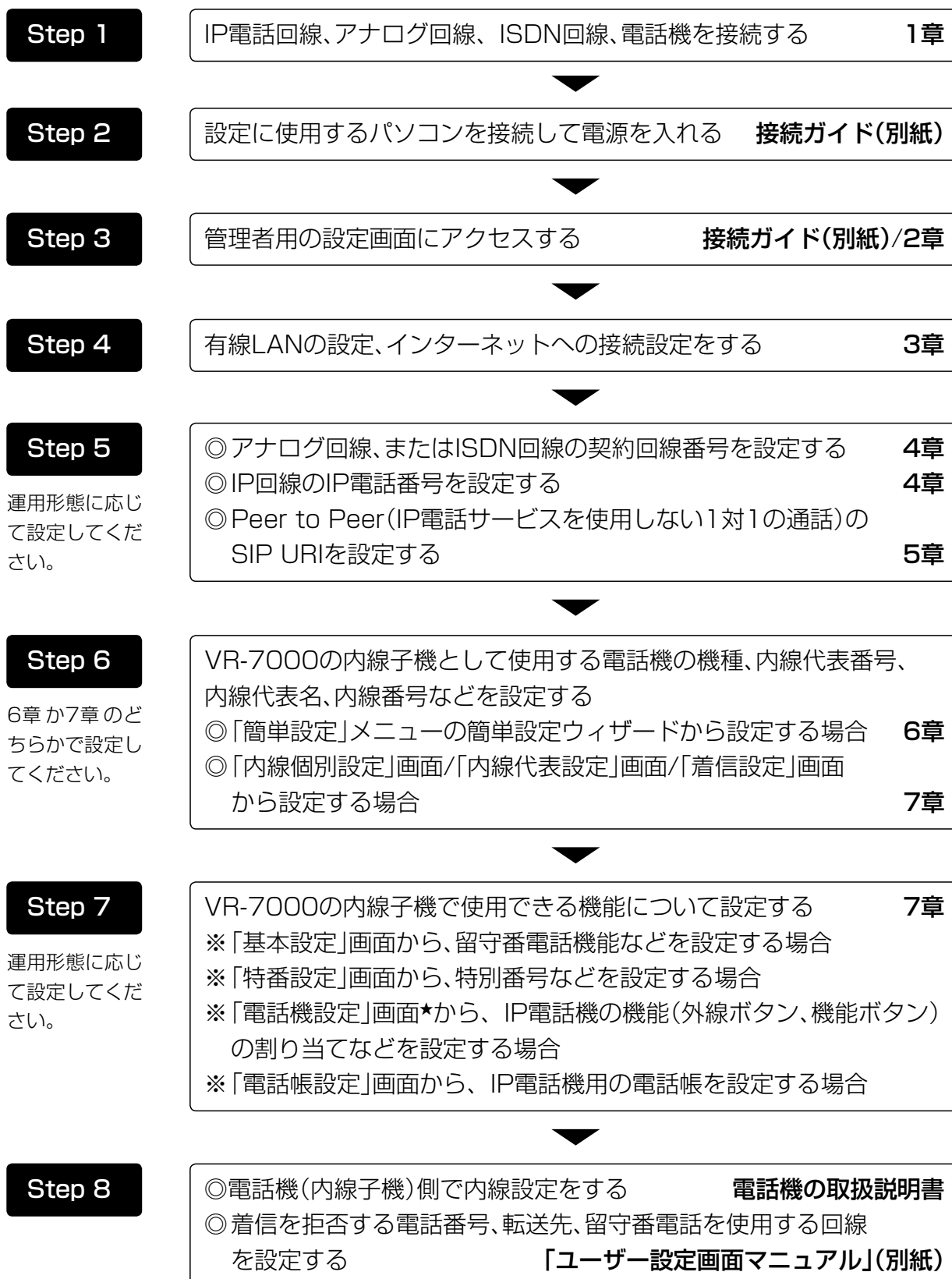
はじめに

管理者用の設定画面を使用した設定の流れ

本書で説明する管理者用の設定画面を使用して設定する場合は、次の手順にしたがってお読みください。

※各Stepの右端に記載する数字は、本書の参照箇所です。

※運用形態やご契約の回線によっては設定不要のStepもありますので、その場合は次のStepに進んでください。



★VP-701、KX-UTシリーズごとに設定画面があります。

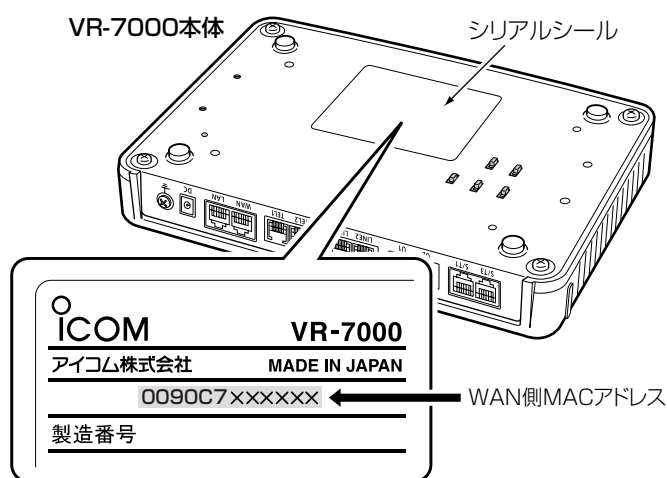
はじめに

本体MACアドレスが必要なときは

本体MACアドレス(機器固有の番号)は、本製品のシリアルシール(下図)に12桁で記載されています。

次のような場合は、本体MACアドレスが必要ですので、下図の場所をご覧ください。

- ◎1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアのバージョンアップをするときは、あらかじめ、本製品のWAN側本体MACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。(P.20)
- ◎本製品をインターネットに接続してご使用になる場合、ご契約の接続業者、またはプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、モデムに直接接続するネットワーク機器(本製品)がそれぞれ独自に持っているWAN側MACアドレス(機器固有の番号)を、ご契約の接続業者、またはプロバイダーに対して事前申請する必要があります。そのような場合、申請、および登録が完了するまで、本製品を利用してインターネットに接続できません。



※MACアドレスの記載位置は、お買い上げの製品によって若干異なる場合があります。

ご参考

上記の WAN 側 MAC アドレスは、管理者用の設定画面 (P.37) で確認できます。

この章では、
本製品をご使用いただくために必要な基本設定の手順を説明しています。

1. ご使用になるまでの流れ	8
■ 接続/設定準備について	8
■ 設定の流れについて	9
2. 光通信回線と接続するには	11
■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合 (ひかり電話(網直収))	11
■ NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイと接続する場合 (ひかり電話(GW配下))	11
3. ISDN回線と接続するには	12
■ ISDN回線を[U1]ポートに接続するには	12
■ 外部DSUを[S/T1]ポートと接続する場合	13
■ ISDN回線を[U2]ポートに接続する場合	13
■ 外部DSUを[S/T3]ポートと接続する場合	13
4. アナログ電話回線と接続するには	14
■ アナログ回線を直接接続する場合	14
■ ADSLモデムやVDSLモデムと接続する場合	14
■ アナログ電話回線からの発信を確認するには	15
■ ナンバーディスプレイ機能について	15
5. 内線電話の構築について	16
6. USBポートで利用できる機能について	17
■ USBメモリーによる自動設定機能について	17
7. USBメモリーから自動で設定を復元するには	22
8. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには	24
9. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには	25
■ オリジナル保留音の場合	25
■ オリジナルおまたせメッセージの場合	26
10. KX-UTシリーズの電話機について	27
■ ご使用になるまでの流れ	27
■ 固定IPでご使用になる場合は	28
■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は	29
■ 電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには	30
■ 電話機のボタン機能について	31
■ 発信操作について	33
■ 着信操作について	33
■ 保留/転送操作について	33

ネットワーク環境について

ご使用になる端末を内線電話として使用するには、本製品に接続できるネットワーク環境が必要です。
事前にご使用のネットワーク、および各機器の設定をご確認ください。

アイコンについて

ひかり電話(網直収) は、「ひかり電話(網直収)」でお使いになる場合にご覧ください。

ひかり電話(GW配下) は、「ひかり電話(GW配下)」でお使いになる場合にご覧ください。

1 導入ガイド

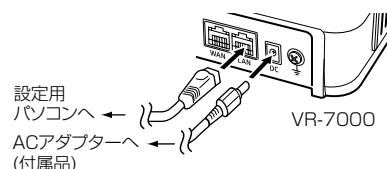
1. ご使用になるまでの流れ

■ 接続/設定準備について

本製品に機器を接続して、管理者用の設定画面にアクセスするまでの流れです。

1. 設定用パソコンの接続(詳細は、別紙の「接続ガイド」をご覧ください。)

設定用パソコンを本製品の[LAN]ポートに接続し、電源を接続します。



2. 管理者用の設定画面へアクセス(2章)

- ① WWWブラウザを起動し、WWWブラウザのアドレスバーに「<http://本製品のLAN側IPアドレス/admin/>」を入力します。
入力例) <http://192.168.0.1/admin/>
- ② [Enter]キーを押します。
- ③ [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックします。

VR-7000の設定画面について

VR-7000の設定画面には、管理者用とユーザー用があります。

※管理者用の設定画面で電話回線やPBXなどを設定していない場合や本製品を出荷時の状態に戻した場合は、ご使用になる端末を内線電話として利用できませんのでご注意ください。

管理者用の設定画面(2章～9章)

管理者用の設定画面で電話回線やPBXなどの設定が完了すると、ご使用になる端末を内線電話として利用できます。

- ルーター機能設定(ネットワーク関連)
- 電話回線設定(外線関連)
- Peer to Peer設定
- 簡単設定(内線関連)
- PBX設定(内線関連)
- PBX拡張設定(内線関連)
- 管理(保守関連)

ユーザー用の設定画面(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

本製品の「ユーザー設定」画面★1を利用して、下記の項目を設定できます。

- 主装置の時刻を修正
- 非通知着信拒否設定
- 迷惑電話お断り設定
- 外線着信転送設定
- 留守番電話設定
- 昼夜交替設定
- 電話帳の編集
- 保留音設定
- 着信設定(端末ごとの転送設定)★2
- パスワード変更★2
- 着信おまたせ設定

★1 パソコンから、本製品の「ユーザー設定」画面にアクセスするときは、<http://本製品のLAN側IPアドレス/>をWWWブラウザのアドレスバーに入力して、[Enter]キーを押します。

入力例 <http://192.168.0.1/>

★2 端末ごとの着信設定やパスワード変更(初期設定:内線番号)をするときは、端末に設定された内線番号(ユーザーID)とパスワードを入力して、〈ログイン〉をクリックします。

RS-SIP1 (VoIP設定ツール)を使用して設定する場合

VR-7000初期導入時の電話設定情報をRS-SIP1で作成できるのは、ひかり電話(網直収)、ISDN回線、アナログ電話回線をご利用になる場合だけです。

RS-SIP1を起動すると表示される画面にしたがって、ご使用になるアナログ電話回線やISDN回線の契約者番号、ひかり電話(網直収)の契約者番号、および追加番号、内線番号などを設定し、ネットワーク経由、またはUSBメモリーを使用してVR-7000に反映してから、ご使用になるネットワーク環境に応じて、VR-7000のLAN側IPアドレス(出荷時の設定:192.168.0.1)やDHCPサーバー機能(出荷時の設定:有効)を管理者用設定画面で変更してください。

※RS-SIP1で設定した契約者番号や内線番号の数に応じて、内線代表名(Group1、Group2～Group26)と内線代表番号(9999999、9999998～9999974)が、VR-7000の設定画面に自動設定されます。

※RS-SIP1を使用して、VR-7000初期導入時の設定情報を作成する方法は、RS-SIP1のCD(VR-7000に付属)に収録されている取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

1 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ(つづき)

■ 設定の流れについて

管理者用の設定画面を使用して設定する場合の流れです。

1. ルーター機能設定(3章)

ご利用の環境に合わせて、管理者用の「LAN設定」画面でLAN側のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)を設定します。

★出荷時、本製品のルーター機能のWAN動作モードは、「使用しない」に設定されています。

ひかり電話(網直収)に加えてインターネットをご利用になる場合は、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN動作モード設定」画面の「回線種別設定」項目で「PPPoE」を選択します。(P.49)
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、「登録して再起動」をクリックします。(P.52)
- ③再起動後、「回線状態表示」項目で「接続」をクリックします。(P.48)

ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は、「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面で「ひかり電話(GW配下)」を選択して、「登録」をクリックしてから、下記の①～③の手順で設定します。

- ①「WAN動作モード設定」画面の「回線種別設定」項目で「DHCPクライアント」を選択します。(P.49)
- ②「回線設定」項目で必要事項を入力し、「登録して再起動」をクリックします。(P.50)
- ③再起動後、「回線状態表示」項目に接続状態が表示されます。(P.48)

※ひかり電話(GW配下)に加えてインターネットをご利用になる場合は、本製品と接続されたNTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのインターネット接続設定が必要です。

2. 電話回線設定(4章)

本製品に接続するアナログ電話回線の契約回線番号、またはISDN回線の契約回線番号やダイヤルイン番号、IP回線のIP電話番号を設定します。

3. PBX設定(7章)

次の手順で内線番号などを設定して、ご使用になる端末を本製品の内線子機として登録します。

「基本設定」画面/「特番設定」画面

保留音、留守番電話機能、TELポートの通信中転送、特別番号を設定します。

※出荷時、本製品の留守番電話機能、TELポートの通信中転送は、「無効」に設定されていますので、必要に応じて設定してください。

「内線個別設定」画面/「内線代表設定」画面/「着信設定」画面

「簡単設定」メニュー(6章)にあるウィザードを使用しない場合、本製品に内線子機として登録する端末の内線番号、プリセット発信時の外線選択設定、本製品に接続する端末の機種と留守電ボックス、外線を着信させる端末の内線代表、または内線番号、鳴り分け判別(着信音)の選択、内線代表内にある端末の鳴動設定(スライド着信)などを設定します。

「電話機設定」画面/「電話帳設定」画面(VP-701/KX-UTシリーズ)

IP電話機の機能(外線ボタン、機能ボタン)の割り当て、電話帳など、必要に応じて設定します。

(次ページにつづく)

設定の更新について

本製品で変更した設定を端末に反映させるためには、端末の再起動が必要な場合がありますので、ご注意ください。

1 導入ガイド

1. ご使用になるまでの流れ

■ 設定の流れについて(つづき)

4. 簡単設定(6章)

「PBX設定」メニュー(7章)の「内線個別設定」画面/「内線代表設定」画面/「着信設定」画面を使用しない場合、本製品に内線子機として登録する端末の内線代表名、内線番号、機種などをウィザードにしたがって設定します。

「簡単設定」メニュー

- ① 内線代表名と内線番号の設定
 - ② 内線代表内にある端末の鳴動設定(スライド着信)
 - ③ 外線を着信させる端末の内線代表、または内線番号、鳴り分け判別(着信音)の選択
 - ④ 本製品に接続する端末の機種と留守電ボックスの選択
 - ⑤ プリセット発信時の外線選択設定
- ※「発信設定」画面の〈完了〉をクリックすると、設定が有効になります。

5. 電話機の登録

PBX設定完了後、内線子機としてご使用になる端末側の内線設定をします。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

6. 着信拒否/転送先/留守番電話設定

必要に応じて、ユーザー用の設定画面で、着信を拒否する電話番号、転送先、留守番電話を使用する回線などを設定します。(詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。)

ご参考:ひかり電話(GW配下)をご利用になる場合は

2016年5月現在、NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの出荷時のIPアドレスは、192.168.1.1に設定されていますので、本製品のLAN側IPアドレス(出荷時の設定:192.168.0.1)との重複はありませんが、将来的に、これらのゲートウェイ製品の仕様変更されることもありますので、ご使用になる前に、ゲートウェイ装置の取扱説明書で、設定をご確認ください。

ゲートウェイ装置のIPアドレスが本製品のLAN側IPアドレスと重複する場合は、ご使用になる前に、IPアドレス(サブネット)が異なるように、IPアドレス「aaa.bbb.ccc.ddd」の「ccc」部分を変更する必要があります。(ddd部分の変更では同一サブネットとなりLAN-WAN間の通信となりません。)

本製品側を変更する場合

「LAN設定」画面(3章)で、本製品の「LAN IPアドレス」、および自動割り当ての「開始IPアドレス」を変更します。

変更例:

LAN側IPアドレス :192.168.24.1
DHCP開始IPアドレス :192.168.24.2

ゲートウェイ側を変更する場合

ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続したパソコンより、設定画面にアクセスして、「詳細設定」メニュー→「DHCPv4サーバ設定」画面で、下記のように変更します。

LAN側IPアドレス :192.168.24.1/24
開始IPアドレス :192.168.24.2

※操作方法については、ご使用になるホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの「機能詳細ガイド」をご覧ください。

ホームゲートウェイ配下で転送をご利用の場合

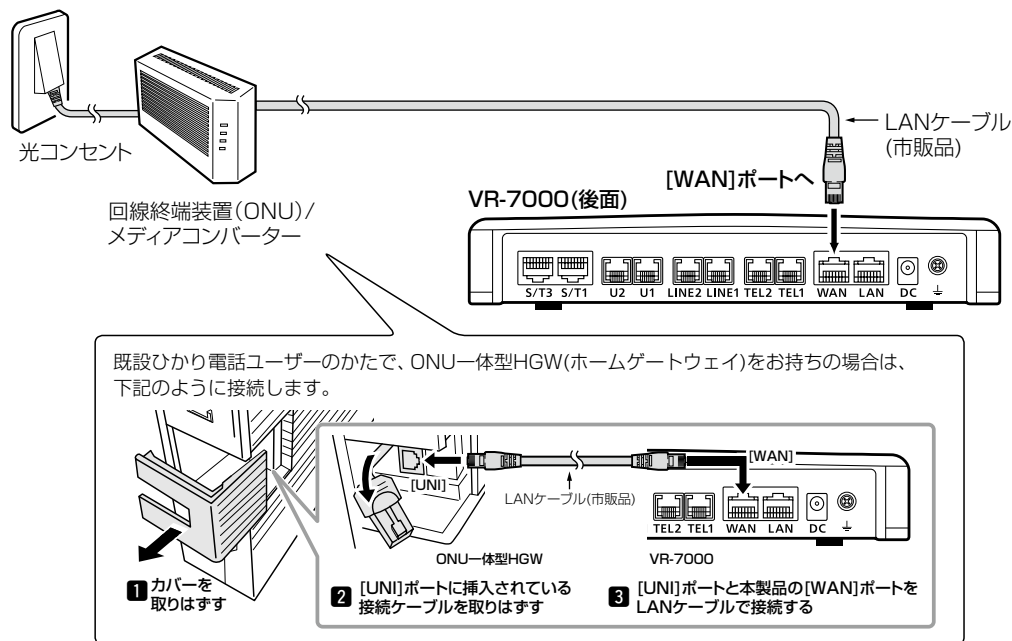
転送先によっては転送発信に失敗する場合があります。

1 導入ガイド

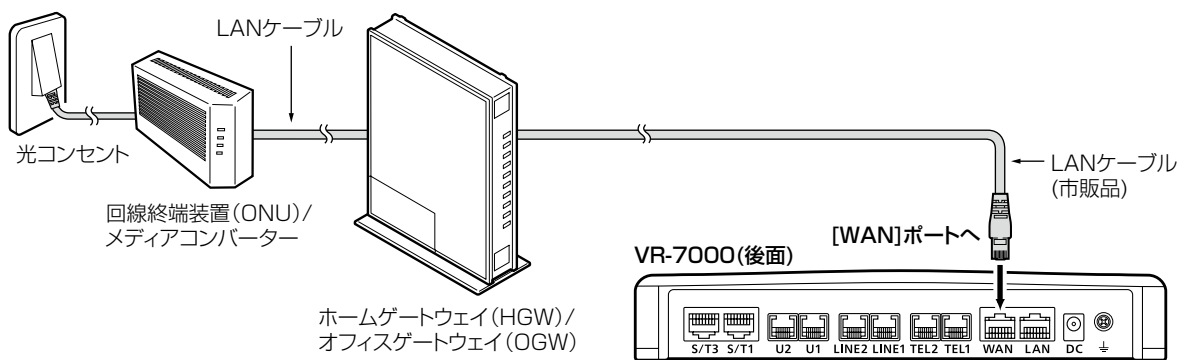
2. 光通信回線と接続するには

ご使用になる機器と本製品の[WAN]ポートをLANケーブルで接続します。

■ 回線終端装置(ONU)/メディアコンバーターと接続する場合 (ひかり電話(網直収))



■ NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイと接続する場合 (ひかり電話(GW配下))



※HGW(ホームゲートウェイ)は、ONU一体型の場合もあります。

1 導入ガイド

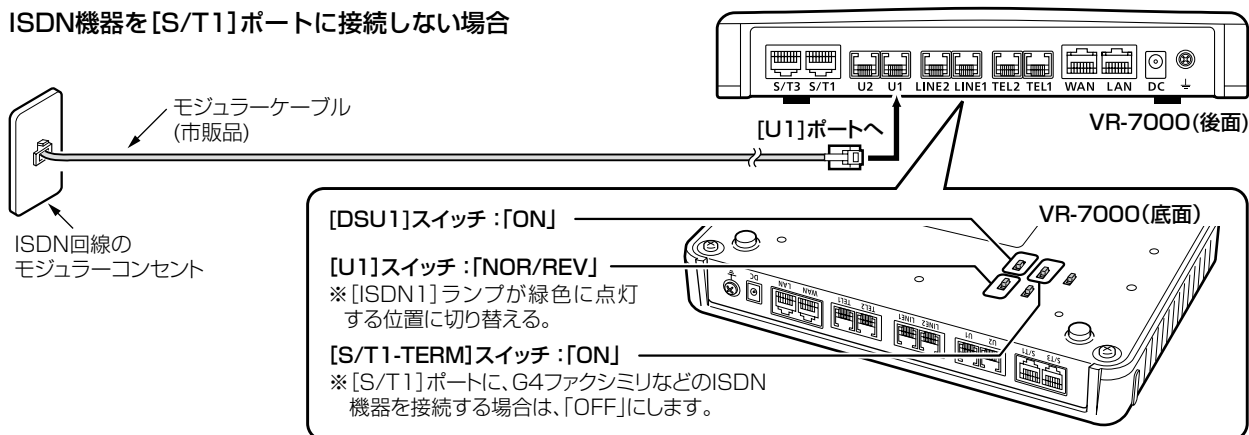
3. ISDN回線と接続するには

本製品に内蔵のDSUを使用すると、ISDN1 (U1)とISDN2 (U2)の2回線が接続できます。
外部DSUを[S/T3]ポートに接続することで、合計3回線分のISDN回線で使用できます。

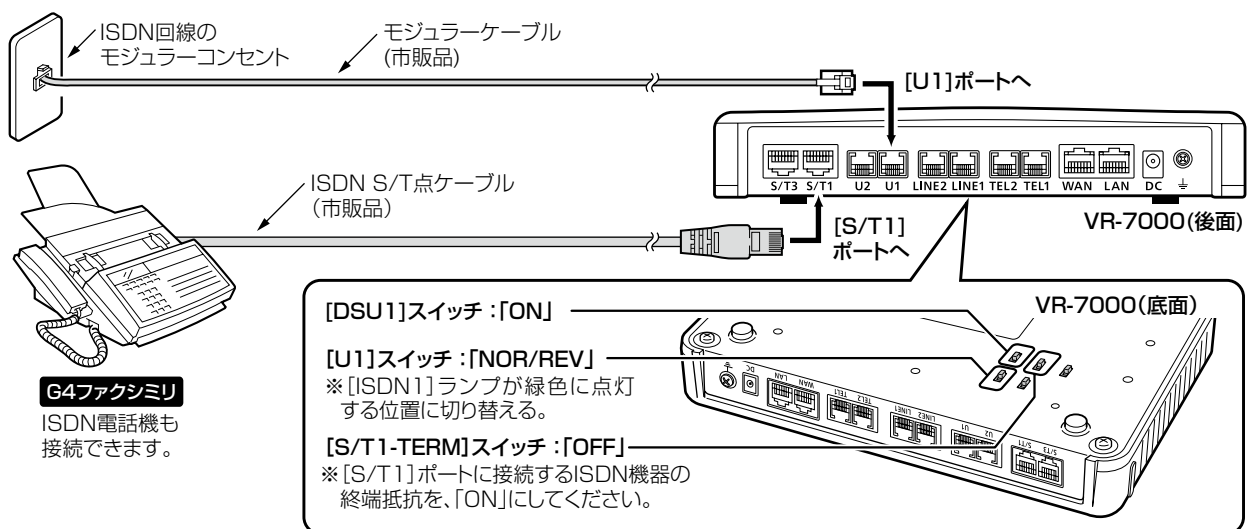
■ ISDN回線を[U1]ポートに接続するには

底面部の[DSU1]スイッチを「ON」(内蔵のDSUを使用する)にしてください。

ISDN機器を[S/T1]ポートに接続しない場合



ISDN機器を[S/T1]ポートに接続する場合



G4ファクシミリ

ISDN電話機も接続できます。

ISDN用のインターフェースについて

VR-7000に内蔵のDSUにより、ISDN回線を[U1]ポートと[U2]ポートに直接接続できます。

G4ファクシミリなどのISDN機器、市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器(TAなど)を[S/T1]ポートと[S/T3]ポートに接続できます。

[S/T1]ポートに接続したISDN機器は、ISDN2とISDN3の回線では使用できません。

[S/T3]ポートに接続したISDN機器は、ISDN1とISDN2の回線では使用できません。

○:使用可能 ×:使用不可能

ポート 回線	U1	U2	S/T1	S/T3
ISDN1	○	×	○	×
ISDN2	×	○	×	×
ISDN3	×	×	×	○

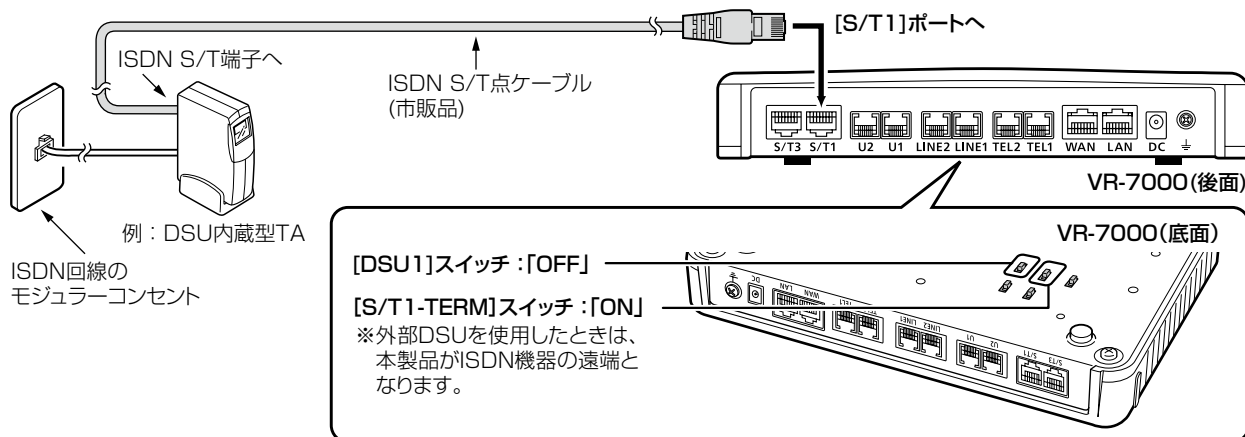
1 導入ガイド

3. ISDN回線と接続するには(つづき)

■ 外部DSUを[S/T1]ポートと接続する場合

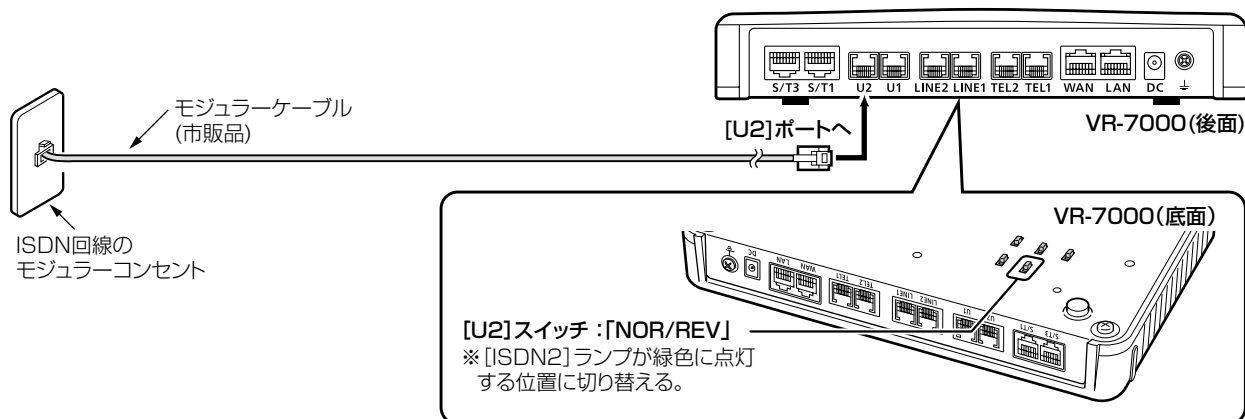
市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器を本製品の[S/T1]ポートに接続する場合は、底面部の[DSU1]スイッチを「OFF」(内蔵のDSUを使用しない)にしてください。

※ISDN S/T点ケーブル(市販品)、または全ピンストレート結線されたLANケーブル(市販品)をご使用ください。



■ ISDN回線を[U2]ポートに接続する場合

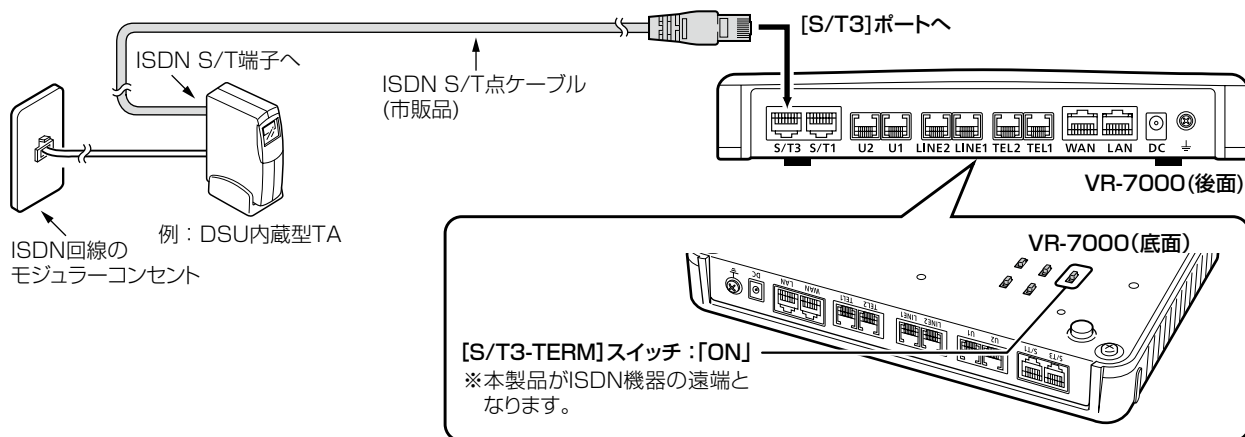
ISDN2には、[S/T]ポートを装備していませんので、内蔵DSUだけでのご使用となります。



■ 外部DSUを[S/T3]ポートと接続する場合

市販のDSUやDSU内蔵のISDN機器を本製品の[S/T3]ポートに接続する場合は、図のように接続します。

※ISDN S/T点ケーブル(市販品)、または全ピンストレート結線されたLANケーブル(市販品)をご使用ください。

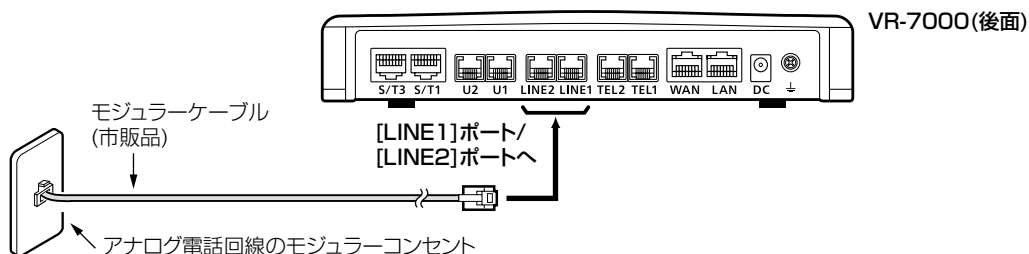


1 導入ガイド

4. アナログ電話回線と接続するには

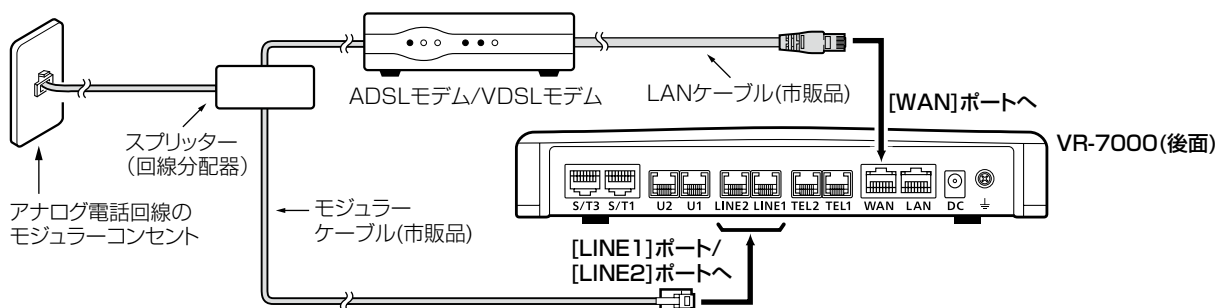
本製品には、LINE1とLINE2の2回線を接続できます。

■ アナログ回線を直接接続する場合



■ ADSLモデムやVDSLモデムと接続する場合

ADSLモデムやVDSLモデムとの接続の前に、本製品のWAN動作モード設定が必要な場合がありますので、ご契約の回線接続業者の指示にしたがってください。



1 導入ガイド

4. アナログ電話回線と接続するには(つづき)

■ アナログ電話回線からの発信を確認するには

停電時*でも、一般加入電話回線を使用するために、あらかじめ、本製品の電源が切れた状態で本製品の[TEL1]ポート、または[TEL2]ポートに接続された電話機から発信できることを確認しておいてください。



★停電時は、本製品の[LINE1]ポートと[TEL1]

ポート、[LINE2]ポートと[TEL2]ポートが内部で直接接続された状態になります。

※停電中に、IP電話回線(ひかり電話を含む)やISDN回線は使用できません。

■ ナンバーディスプレイ機能について

ナンバーディスプレイサービスをご契約の場合

本製品は、出荷時、[LINE1]ポートと[LINE2]ポートのナンバーディスプレイ機能が「自動」に設定されていますので、本製品の設定を変更することなくナンバーディスプレイサービスを利用できます。

※回線分配器などで複数の機器を接続した場合、ナンバーディスプレイ機能が正常に動作しないことがありますのでご注意ください。

本製品の[TEL1]ポートと[TEL2]ポートにナンバーディスプレイ機能付き電話機を接続する場合

本製品は、出荷時、[TEL1]ポートと[TEL2]ポートのナンバーディスプレイ機能が「無効」に設定されています。

[PBX設定]メニューの「内線個別設定」画面にある[TEL1]設定項目、または[TEL2]設定項目で、[ナンバーディスプレイ]欄(P.148)を「有効」に変更してからご使用ください。

※[TEL1]ポート、または[TEL2]ポートに接続された電話機の機能と異なる設定をした場合、着信や通話ができないことがあります。

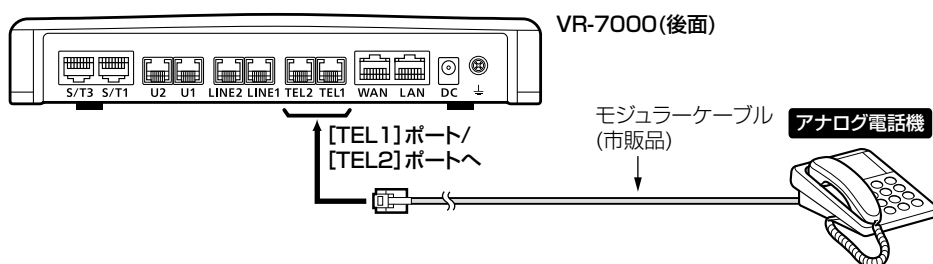
アナログ電話機などの接続について

[TEL1]ポートと[TEL2]ポートには、電話機(またはG3ファクシミリ)を1台だけ接続してください。

※モジュラー2分配用コネクターなどを使用すると、誤動作の原因になります。

※IP電話回線によるファクシミリ通信は、保証いたしません。

ネットワークの状態により、正常に動作しない場合があります。



1 導入ガイド

5. 内線電話の構築について

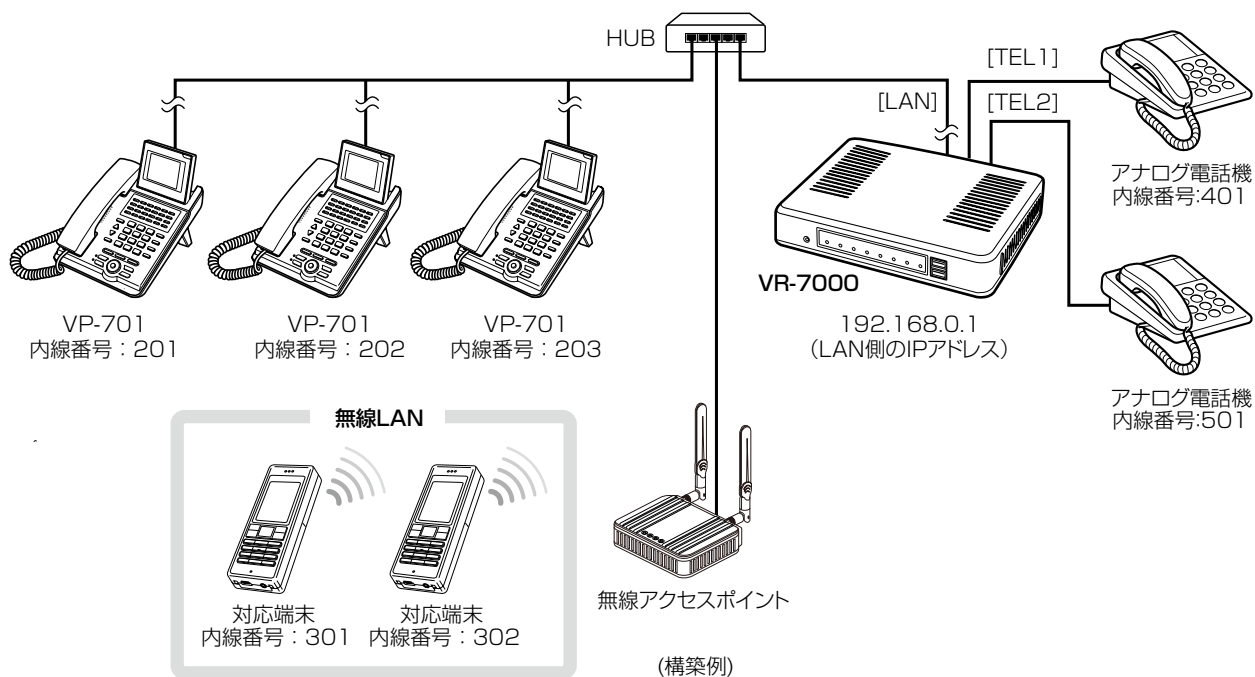
本製品の子機として、[TEL1]ポート、または[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機(2台)とは別に、IP電話機や対応端末を最大24台まで登録できます。

※本製品で無線IP携帯を使用したい場合は、本製品のネットワーク上に無線アクセスポイントを接続してください。

※2016年5月現在、弊社製VP-701、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N)が使用できます。

※内線子機としてご使用になる端末ごとに、「内線番号」の設定が必要です。

内線代表番号やプレフィクスなど、番号が重複しないように構築してください。(6章、7章)



内線子機として使用する端末に内線番号を設定するときは

◎半角数字で2桁～7桁の番号にしてください。

◎緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。

◎「0」ではじまる番号は、使用しないでください。

※本製品の設定完了後、電話機本体側の設定をすると、内線電話としてご利用になれます。

※内線設定、および操作については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書を併せてご覧ください。

6.USBポートで利用できる機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について

あらかじめ、本製品の設定が保存されたファイル(以後、設定ファイルと表記)やファームウェアファイルをUSBメモリー(市販品)に保存しておくことで、本製品の電源を入れたとき、本製品にあらかじめ接続されたUSBメモリーから設定ファイルやファームウェアファイルを読み込んで、自動設定される機能です。

また、本製品のWAN側MACアドレスをフォルダー名とするフォルダーを作成することで、1つのUSBメモリーを使用して、複数台(本製品)の設定復元やファームウェアのバージョンアップができます。

※USBメモリー使用時のご注意については、本書18ページをご覧ください。

◎ファームウェアの更新(P.24)

本製品のファームウェアファイル(拡張子: dat)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、ファームウェアをバージョンアップします。

◎設定のバックアップ/リストア(P.22)

本製品の設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。

◎オリジナル保留音(P.21、P.25)

オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、オリジナル保留音として読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、保留機能にオリジナル保留音を設定していると、保留音が再生されないまま保留状態となります。

◎オリジナルおまたせメッセージ(P.21、P.26)

オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、着信おまたせ機能のオリジナルおまたせメッセージとして読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面でオリジナルおまたせメッセージを選択していると、メッセージが再生されないまま、着信おまたせ機能が動作します。

ご参考

「管理」メニューの「USB設定」画面で、「USBポート」欄が「有効」に設定されているとき、USBメモリーが差し込まれた本製品の電源を入れたとき、USBメモリーへのアクセスが開始されます。(P.239)

USB設定	
USBポート	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
USBアクセス許可	<input checked="" type="checkbox"/> ファームウェアの更新
	<input checked="" type="checkbox"/> 設定のバックアップ/リストア
	<input checked="" type="checkbox"/> オリジナル保留音
	<input checked="" type="checkbox"/> オリジナルおまたせメッセージ

(※画面の内容は、出荷時の設定です。)

(次ページにつづく)

6.USBポートで利用できる機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について(つづき)

USBメモリー使用時のご注意

- ◎ 指紋認証型、アプリケーション認証(パスワードを入力したらアクセスできる)型など、セキュリティー対応型のUSBメモリーは使用できません。
- ◎ ご使用になる前に、あらかじめ、USBメモリー内のデータをバックアップしてください。
- ◎ データ保護のため、必ず本製品のACアダプターを取りはずしてから、USBメモリーの接続や取りはずしをしてください。
特に、設定保存/復元、ファームウェアのバージョンアップを使用する場合など、USBメモリーにアクセス中([PWR/MSG]ランプ緑/橙交互点滅中)は、絶対にUSBメモリーを取りはずさないでください。
ファイルの消失や故障の原因になります。
- ◎ USBメモリーは、どちらか一方の[USB]ポートにだけ接続してください。
2つの[USB]ポートを同時には使用できません。
- ◎ USBメモリーを差し込むときは、形状と差し込み方向に注意して、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎ USBメモリーにアクセス中は、[PWR/MSG]ランプが橙色と緑色で交互に点滅します。
設定復元が完了すると、[PWR/MSG]ランプが緑色の点灯に切り替わります。
ファームウェアのバージョンアップ中は、すべてのランプが橙色で点灯します。
- ◎ 設定を復元する直前の設定値は、設定ファイル(bakdata.sav)として、本製品に接続したUSBメモリーにバックアップされます。
- ◎ USBメモリーに保存された設定ファイルやファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり、本製品以外のものであったりするときは、自動設定、またはファームウェアの更新をしません。
- ◎ 設定ファイルとファームウェアファイルの両方がUSBメモリーに保存されている場合は、設定復元、ファームウェアのバージョンアップの順に自動設定を実行します。

対応するUSBの規格

インターフェース :USB2.0以上

デバイス :USB 大容量デバイス(USB Mass Storage Class)

フォーマット :FAT16/FAT32(exFATやNTFSなど、ほかのフォーマットには対応していません。)

※USB対応のすべての周辺機器での動作を保証するものではありません。

6.USBポートで利用できる機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について(つづき)

自動設定に使用するファイル名の付けかた

設定ファイル名は、「savedata」(拡張子:sav)でUSBメモリーに保存してください。

※自動設定に使用する設定ファイルは、「管理」メニュー→「設定のバックアップ/リストア」画面→「設定のバックアップ」項目(P.229)で保存したもの以外を使用できません。

ファームウェアファイル名は、「firmware」(拡張子:dat)でUSBメモリーに保存してください。

※ファームウェアの自動バージョンアップに使用するファームウェアファイルは、弊社ホームページからダウンロードしてから、ファームウェアファイル名を変更してください。

自動バックアップされる設定ファイルについて

バックアップは、下記のファイル名で、最大10世代前まで自動バックアップされます。

最新のバックアップ設定ファイルは、bakdata.savで自動バックアップされます。

例: 1世代前のファイル bakdata_1.sav

2世代前のファイル bakdata_2.sav

3世代前のファイル bakdata_3.sav

～ 中略 ～

10世代前のファイル名 bakdata_10.sav

※10世代を超えると、最も古いバックアップ設定ファイル(bakdata_10.sav)が削除されます。

また、削除と同時に、ファイル名の数字が1世代後退します。(例:bakdata_9.sav→bakdata_10.sav)

※ファームウェアファイルは、バックアップされません。

※本製品の設定内容を変更した場合に、設定ファイル(bakdata.sav)が自動バックアップされます。

(次ページにつづく)

1 導入ガイド

6.USBポートで利用できる機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について(つづき)

複数台分の設定ファイルを1つのUSBメモリーで管理するには

1つのUSBメモリーを使用して、本製品(複数台分)の設定復元やファームウェアのバージョンアップをするときは、あらかじめ、本製品のWAN側本体MACアドレス(P.6、P.37)をフォルダー名★とするフォルダーを作成し、そのフォルダーに本製品の設定ファイルやファームウェアファイルを保存しておく必要があります。

★全角のフォルダー名は使用できません。

例:本製品のWAN側本体MACアドレスが0090C7000001と仮定した場合の動作

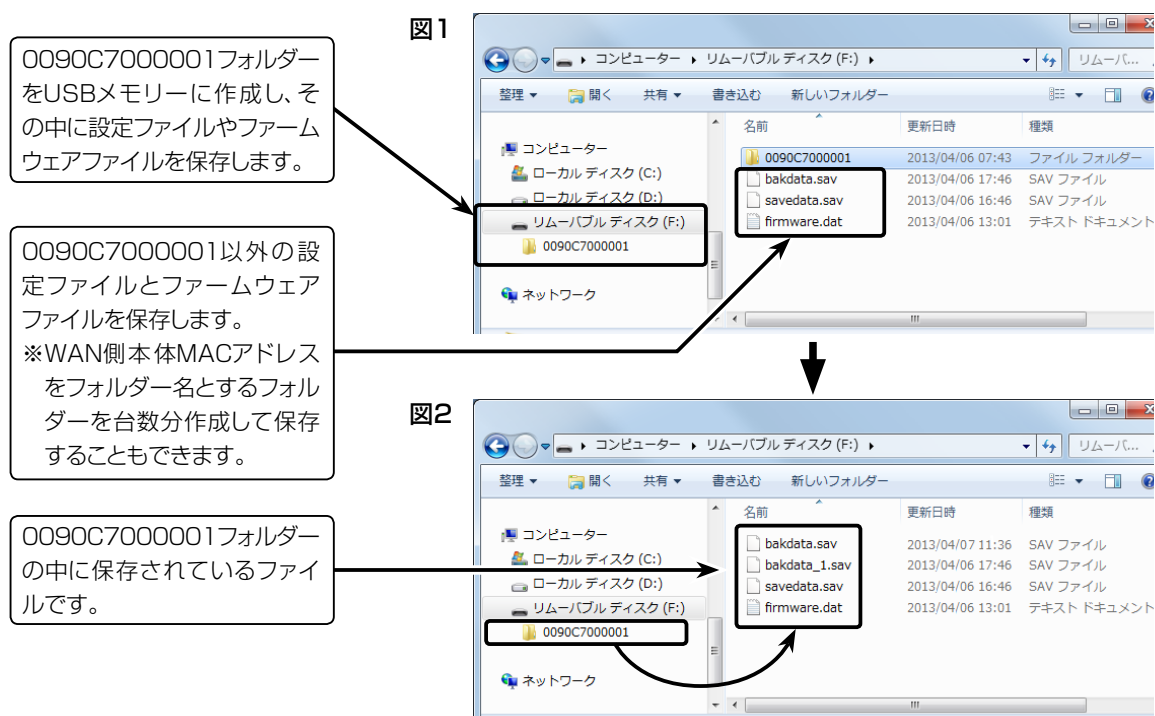
◎下記の内容(図1、図2)が保存されたUSBメモリーをVR-7000(0090C7000001)に差し込むと、作成した0090C7000001フォルダーの中にバックアップ設定ファイルを作成します。

設定ファイルやファームウェアファイルも0090C7000001フォルダーの中から読み込みます。

※0090C7000001フォルダー以外の場所に保存されたsavedata.savとfirmware.datは、利用されません。

◎下記の内容(図1、図2)が保存されたUSBメモリーをVR-7000(0090C7000002)に差し込むと、自身のWAN側本体MACアドレスと一致するフォルダーがないため、USBメモリーのルートディレクトリーにバックアップ設定ファイルを作成します。

また、ルートディレクトリーにある設定ファイルやファームウェアファイルを読み込みます。



1 導入ガイド

6.USBポートで利用できる機能について

■ USBメモリーによる自動設定機能について(つづき)

オーディオファイルについて

オリジナル保留音、オリジナルおまたせメッセージ、は、それぞれ最大3件まで本製品に登録できます。

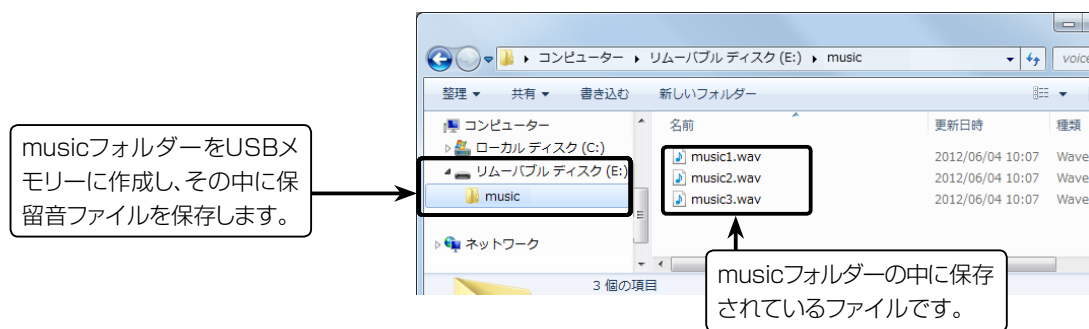
(1件につき60秒まで)

※対応するファイルフォーマットは、下記のとおりです。

コーデック	サンプリング周波数	ビット数	チャンネル数	コンテナフォーマット
リニアPCM	8kHz	16ビット	モノラル	wav
G711 μ -law	8kHz	8ビット	モノラル(μ -law)	wav

1.オリジナル保留音

読み込ませる保留音ファイル(拡張子:wav)は、下記のように、musicフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。

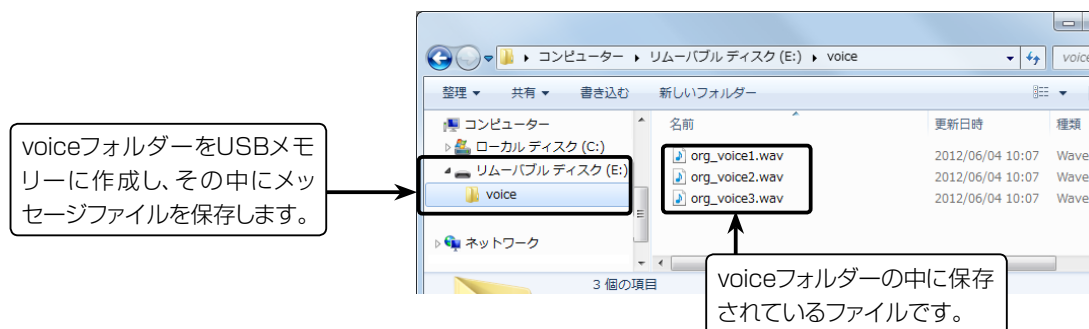


※保留音ファイルは、本製品に読み込まれると、下記のように管理者用、ユーザー用の設定画面で扱われます。

music1.wav:オリジナル保留音1 music2.wav:オリジナル保留音2
music3.wav:オリジナル保留音3

2.オリジナルおまたせメッセージ(着信おまたせ機能で使用する自動応答メッセージ)

読み込ませるメッセージファイル(拡張子:wav)は、下記のように、voiceフォルダーの中に格納して、下記のファイル名でUSBメモリーに保存してください。



※メッセージファイルは、本製品に読み込まれると、下記のようにユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で扱われます。

org_voice1.wav:オリジナルおまたせメッセージ1
org_voice2.wav:オリジナルおまたせメッセージ2
org_voice3.wav:オリジナルおまたせメッセージ3

※自身のWAN側本体MACアドレスと一致するフォルダーがある場合は(P.20)、そのフォルダーにあるmusicフォルダーやvoiceフォルダーに保存されているデータを読み込みます。

この場合、ルートフォルダーにあるmusicフォルダーやvoiceフォルダーは参照されません。

1 導入ガイド

7. USBメモリーから自動で設定を復元するには

本製品の設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存後、設定を復元する本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元するまでの手順について説明します。

※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.17)をご覧ください。

※ パソコンのWWWブラウザは、Microsoft Internet Explorer 8を使用している場合を例に説明しています。

設定ファイルを保存して復元するまでの手順

- 1 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
- 2 本製品の設定画面にアクセスします。
- 3 「管理」メニュー、「設定のバックアップ/リストア」の順にクリックします。
「設定のバックアップ」画面を表示します。
- 4 [設定のバックアップ]欄にある<バックアップ>をクリックします。
「ファイルのダウンロード」画面(別画面)を表示します。

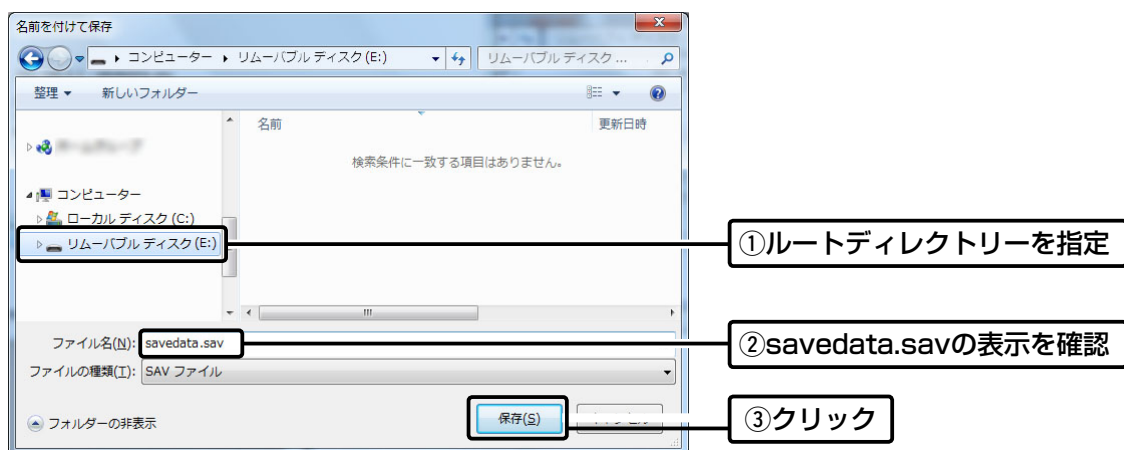
設定のバックアップ

設定のバックアップ

バックアップ

クリック

- 5 「ファイルのダウンロード」画面の<保存(S)>をクリックします。
「名前を付けて保存」画面(別画面)を表示します。
- 6 「名前を付けて保存」(別画面)画面で、設定ファイルの保存先にUSBメモリーのルートディレクトリーを指定し、ファイル名を「savedata」(拡張子:.sav)に変更してから<保存(S)>をクリックします。
※設定ファイルは、必ず「savedata.sav」で保存してください。
「savedata.sav」以外のファイルでは、USBメモリーからの復元に使用できません。



- 7 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※ USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

1 導入ガイド

7. USBメモリーから自動で設定を復元するには

設定ファイルを保存して復元するまでの手順(つづき)

8 設定を復元する本製品を用意します。

9 本製品から電源を取りはずします。

10 savedata.savが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、電源を本製品に接続します。



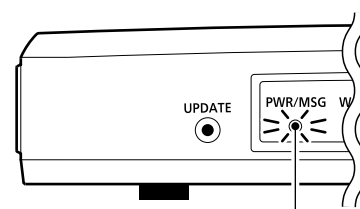
11 [PWR/MSG]ランプが緑色で点灯後、約3秒経過すると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。

アクセス(設定の復元)中は、[PWR/MSG]ランプが橙色と緑色で交互に点滅します。

ご注意 設定復元(アクセス)が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を取りはずしたりしないでください。

途中で、USBメモリーや電源を取りはずすと、設定ファイルの消失や故障の原因になります。

また、設定復元が完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。



アクセス中は交互に点滅(橙色/緑色)

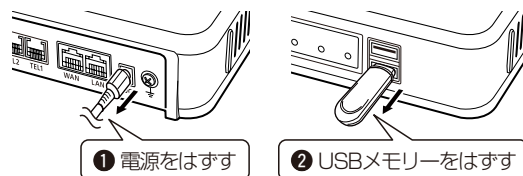
12 [PWR/MSG]ランプが消灯し、本製品が再起動されます。

起動中、[PWR/MSG]ランプが緑色の点滅から点灯に切り替わったことを確認してから本製品から電源をはずします。

最後に、本製品からUSBメモリーを取りはずします。

※ USBメモリーには、復元前の設定内容を保存した設定ファイルが自動でバックアップファイル(bakdata.sav)として保存されています。

ご注意: データ保護のため、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを取りはずしてください。



1 導入ガイド

8. USBメモリーからファームウェアをバージョンアップするには

弊社ホームページよりダウンロードした本製品のファームウェアファイル(拡張子:dat)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品のファームウェアをバージョンアップするまでの手順について説明します。

※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.17)をご覧ください。

※バージョンアップの前に、「バージョンアップについてのご注意」(P.233)をご覧ください。

バージョンアップするまでの手順

- 1 本製品のファームウェアファイルを弊社ホームページよりダウンロードします。
- 2 ダウンロードしたファームウェアファイルのファイル名を「firmware」(拡張子:dat)に変更します。
※ 「firmware.dat」以外のファイル名では、USBメモリーからのバージョンアップに使用できません。
※ ファイル名について詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.19)をご覧ください。
- 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
- 4 firmware.datをUSBメモリーのルートディレクトリーに保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※ USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。

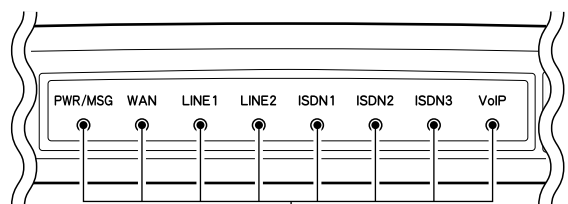
- 6 バージョンアップする本製品を用意します。

- 7 本製品から電源を取りはずしてから、本製品に接続するすべての機器を取りはずします。

- 8 firmware.datが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、電源を本製品に接続します。
 - [PWR/MSG]ランプが緑色で点灯します。



- 9 約3秒経過すると、USBメモリーへのアクセスが開始され、[PWR/MSG]ランプが橙色と緑色で交互に点滅します。
 - ファームウェアのバージョンアップ中は、すべてのランプが橙色に点灯します。



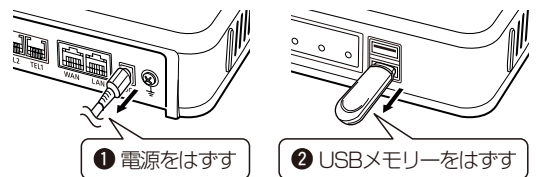
バージョンアップ中は橙色で点灯

ご注意

ファームウェアのバージョンアップが完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を取りはずしたりしないでください。

バージョンアップ中に、USBメモリーや電源を取りはずすと、故障の原因になります。

- 10 すべてのランプが消灯し、本製品が再起動されます。起動中、[PWR/MSG]ランプが緑色の点滅から点灯に切り替わったことを確認してから本製品から電源をはずします。



最後に、本製品からUSBメモリーを取りはずします。

ご注意:データ保護のため、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを取りはずしてください。

バージョンアップ操作後は、本製品の管理者用設定画面にアクセスして、ファームウェアバージョンを確認してください。USBメモリーに保存されたファームウェアファイルが、本製品に適用されているものと同じ場合や、破損していたり、本製品以外のものであったりするときは、ファームウェアの更新を中止します。

1 導入ガイド

9. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには

オーディオファイル(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存して、本製品に読み込むまでの手順について説明します。

※ 使用条件については、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.17~P.21)をご覧ください。

■ オリジナル保留音の場合

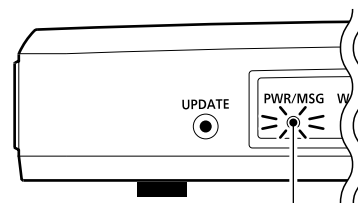
- 1 オリジナル保留音として使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※ オーディオファイルを本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
- 2 オーディオファイル名を「music1.wav」～「music3.wav」に変更します。
※ 上記以外のファイル名は、使用できません。
※ オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.21)をご覧ください。
- 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
- 4 USBメモリーにmusicフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※ USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
- 7 本製品から電源を取りはずしてから、本製品に接続するすべての機器を取りはずします。

- 8 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、電源を本製品に接続します。



- 9 [PWR/MSG]ランプが緑色で点灯後、約3秒経過すると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。そのまま、10秒ほどお待ちください。

ご注意 読み込み(アクセス)が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を取りはずしたりしないでください。途中で、USBメモリーや電源を取りはずすと、データ消失や故障の原因になります。また、読み込みが完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。



アクセス中は交互に点滅(橙色/緑色)

ご注意

◎読み込んだオリジナル保留音をご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。

◎オリジナル保留音機能を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを取りはずしてください。

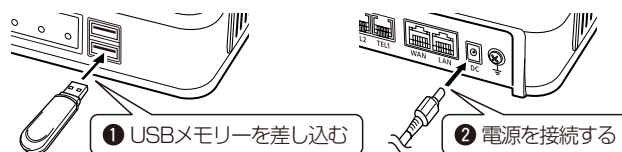
1 導入ガイド

9. USBメモリーからオーディオファイルを読み込むには(つづき)

■ オリジナルおまたせメッセージの場合

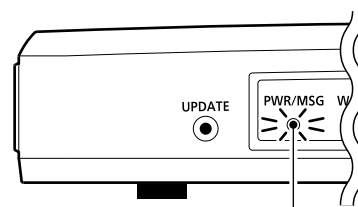
- 1 オリジナルおまたせメッセージとして使用するオーディオファイル(拡張子:wav)を準備します。
※オーディオファイルを本製品に読み込んだあとは音量を調整できませんので、オーディオファイルを準備するときに、適度な音量になるように、あらかじめ調整しておいてください。
- 2 オーディオファイル名を「org_voice1.wav」～「org_voice3.wav」に変更します。
※上記以外のファイル名は、使用できません。
※オーディオファイルについて詳しくは、「USBメモリーによる自動設定機能について」(P.21)をご覧ください。
- 3 USBメモリー(市販品)をパソコンに差し込みます。
- 4 USBメモリーにvoiceフォルダーを作成してオーディオファイルを保存します。
- 5 USBメモリーをパソコンから取りはずします。
※USBメモリーの取りはずしかたは、各周辺機器に付属する取扱説明書の記載内容にしたがってください。
- 6 オーディオファイルを読み込む本製品を用意します。
- 7 本製品から電源を取りはずしてから、本製品に接続するすべての機器を取りはずします。

- 8 オーディオファイルが保存されたUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んでから、電源を本製品に接続します。



- 9 [PWR/MSG]ランプが緑色で点灯後、約3秒経過すると、USBメモリーへのアクセスが開始されます。そのまま、10秒ほどお待ちください。

ご注意 読み込み(アクセス)が完了するまで、絶対にUSBメモリーを取りはずしたり、電源を取りはずしたりしないでください。
途中で、USBメモリーや電源を取りはずすと、データ消失や故障の原因になります。
また、読み込みが完了するまで、本製品の設定画面にアクセスしないでください。



アクセス中は交互に点滅(橙色/緑色)

ご注意

- ◎読み込んだオリジナルおまたせメッセージをご利用になる場合は、USBメモリーは本製品に取り付けた状態のまま運用してください。
- ◎オリジナルおまたせメッセージ機能を使わなくなった場合など、読み込んだ内容を消去するときは、データ保護のため、必ず本製品の電源を取りはずしてから、USBメモリーを取りはずしてください。

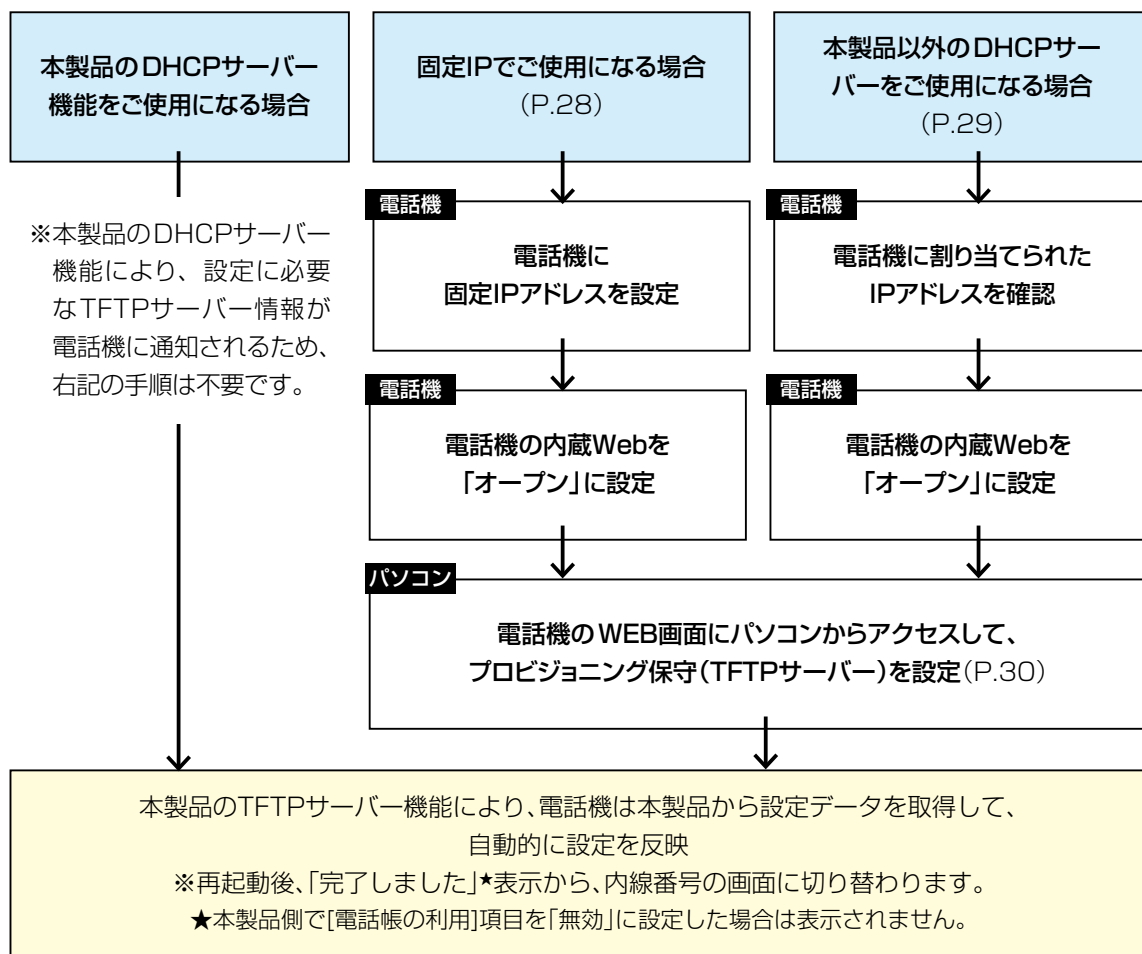
10.KX-UTシリーズの電話機について

■ ご使用になるまでの流れ

本製品にKX-UTシリーズの電話機を登録してご使用になる場合、下記のように接続するネットワーク環境により、初期導入時に電話機側でプレプロビジョニング設定が必要になることがあります。

※本製品側で、ご使用になる電話機ごとのMACアドレス登録や内線番号などの設定が完了しているものとして説明しています。(P.123、P.143)

※電話機の操作や設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。



ご注意

- ◎初期導入時以外は、電話機のWEB画面で設定を変更しないでください。
※電話機のWEB画面で設定を変更した項目は、本製品から設定が適用されなくなります。
- ◎電話機のWEB画面にアクセスして「403 Forbidden エラー」が表示された場合は、内蔵Webで「クローズ」を設定し、再度「オープン」にしてください。(P.28、P.29)
- ◎電話機のWEB画面にアクセスしたあとは、本製品からのアクセスできるように電話機を再起動してください。
- ◎ファームウェア Ver. 01.167より前のKX-UTシリーズでは、一部の機能が動作しませんので、電話機本体や電話機のWEB画面でファームウェアバージョンをご確認ください。

初期導入時に設定データを取得できないときは

- ◎電話機のMACアドレスが正しく登録されているか、本製品の設定画面で確認してください。(P.124、P.145)
- ◎KX-UTシリーズの電話機を固定IPアドレスでご使用になる場合、または本製品以外のDHCPサーバーを使用する場合、ネットワーク環境によっては、設定データを取得できないことがあります。
同一ネットワーク上にあるDHCPサーバーと切りはなすか、電話機を初期化(P.30)してから、設定をやり直してください。

1 導入ガイド

10.KX-UTシリーズの電話機について(つづき)

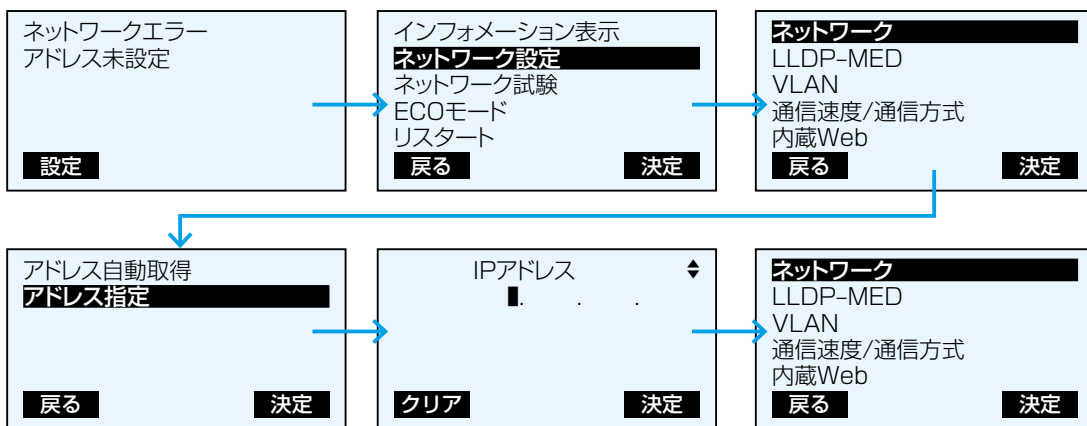
■ 固定IPでご使用になる場合は

固定IPアドレスでご使用になる場合は、初期導入時に電話機(KX-UTシリーズ)側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機(KX-UTシリーズ)の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

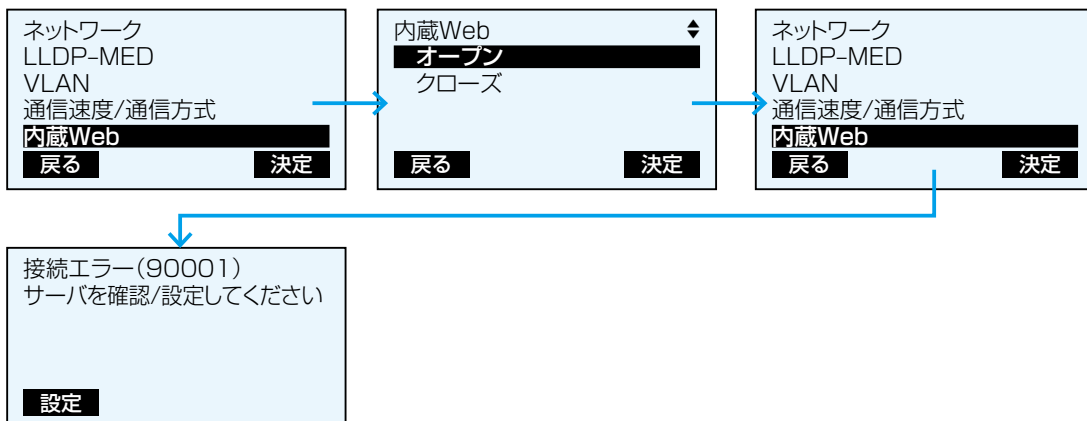
- 1 設定する電話機の電源を入れます。
※DHCPサーバーや既存のネットワークは、切りはなした状態にしてください。

- 2 電話機に固定IPアドレスを設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- ①電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- ②「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- ③「ネットワーク」を選択して、〈決定〉を押します。
- ④「アドレス指定」を選択して、〈決定〉を押します。
- ⑤IPアドレス、サブネットマスク*などを設定して、〈決定〉を押します。
★各設定項目は、カーソルキー(上下)で変更できます。

- 3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- ①「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- ②「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
- ③〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.30の「プロビジョニング保守(TFTPサーバー)を設定」につづく)

1 導入ガイド

10.KX-UTシリーズの電話機について(つづき)

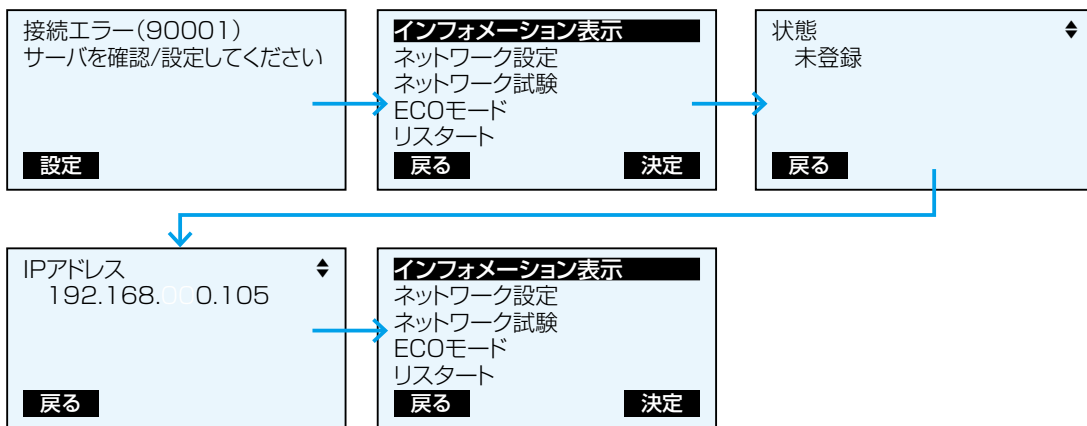
■ 本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は

本製品以外のDHCPサーバーをご使用になる場合は、初期導入時に電話機本体(KX-UTシリーズ)側でプレプロビジョニング設定が必要です。

※電話機本体(KX-UTシリーズ)の操作、設定など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

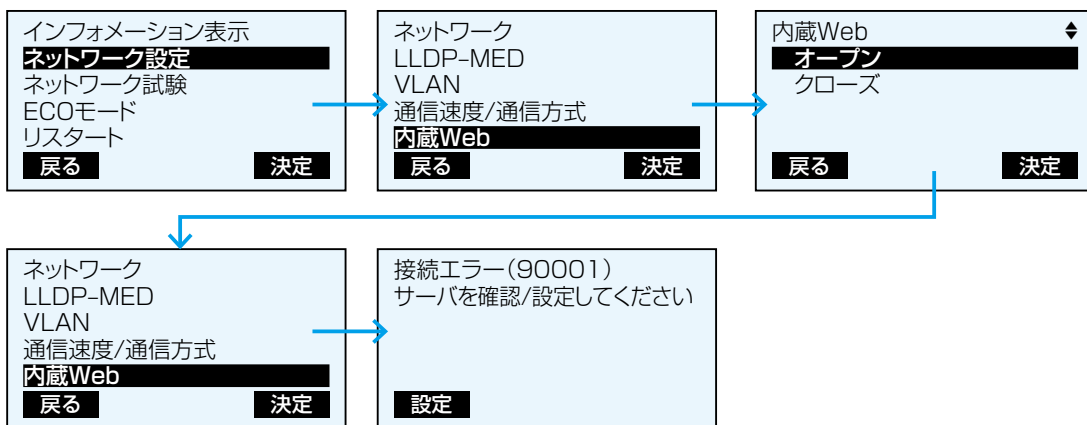
1 使用するDHCPサーバーからIPアドレスを自動取得できる状態で、設定する電話機の電源を入れます。

2 電話機に割り当てられたIPアドレスを確認します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで設定項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- ①電話機が起動したら、〈設定〉を押します。
- ②「インフォメーション表示」を選択して、〈決定〉を押します。
- ③カーソルキー(下)を押します。
- ④IPアドレスを確認して、〈戻る〉を押します。

3 電話機の内蔵Webを「オープン」に設定します。
※画面下のソフトボタンで操作、カーソルキーで項目の切替(上下)、カーソルの移動(左右)をします。



- ①「ネットワーク設定」を選択して、〈決定〉を押します。
- ②「内蔵Web」を選択して、〈決定〉を押します。
- ③「オープン」を選択して、〈決定〉を押します。
- ④〈戻る〉を2回押して、待受画面にします。

(P.30の「プロビジョニング保守(TFTPサーバー)を設定」につづく)

1 導入ガイド

10.KX-UTシリーズの電話機について(つづき)

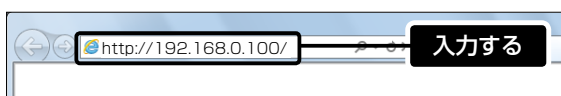
■ 電話機のWEB画面でプロビジョニング保守を設定するには

同じネットワーク上のパソコンから、電話機のWEB画面にアクセスして、プロビジョニング保守(TFTPサーバー)を設定します。

※電話機のWEB画面にアクセスするためには、電話機に設定されたIPアドレス(P.28、P.29)が必要です。

1 WWWブラウザを起動します。

2 WWWブラウザのアドレスバーに、「http://[電話機のIPアドレス]/」の形式で、電話機に設定されたIPアドレス(例: 192.168.0.100)を入力します。



3 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求めめる画面が表示されます。

4 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「adminpass」を入力し、〈OK〉をクリックします。
電話機のWEB画面が表示されます。

5 WEB画面上部の[保守]タブをクリックします。

6 WEB画面左側の「プロビジョニング保守」をクリックします。

7 [スタンダードファイルURL]欄に、「http://[本製品(TFTPサーバー)のIPアドレス]/{MODEL}_{MAC}.cfg」の形式で、本製品に設定されたIPアドレス(例: 192.168.0.1)を入力し、〈登録〉をクリックします。
本製品から設定を自動的に取得するため、電話機本体が再起動します。

入力例 `http://192.168.0.1/{MODEL}_{MAC}.cfg`

┆
本製品のIPアドレス

電話機を工場出荷時の状態に戻す場合は

エラーが表示され、登録に失敗した場合は、下記の手順で電話機を初期化してください。

- ①〈設定〉を押します。
- ②「#136」をダイヤルして、〈決定〉を押します。
- ③「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
- ④「実行しますか?」が表示されたら「はい」を選択して、〈決定〉を押します。
確認音が鳴り、初期化するために電話機が再起動します

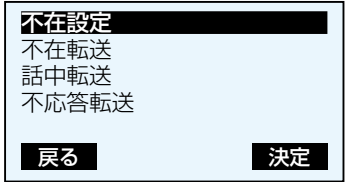
1 導入ガイド

10.KX-UTシリーズの電話機について(つづき)

■ 電話機のボタン機能について

本製品に接続して内線子機として使用する場合のボタン機能について説明します。

※電話機の操作など、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書と併せてご覧ください。

不在 <input type="checkbox"/>	電話に応答できないときなど、あらかじめ不在設定しておくこと、着信を拒否できます。 ※「不在転送」、「話中転送」、「不応答転送」(右図)は操作できません。 これらの機能を使用するときは、本製品で設定したフレキシブルボタンや特番を操作してください。(P.32)	
会議 <input type="checkbox"/>	3者会議通話をするとき使用します。 通話中に <input type="checkbox"/> 、または <input type="checkbox"/> を押します。 会議に参加させたい相手へ発信し、応答確認後、 <input type="checkbox"/> を押します。	
フック <input type="checkbox"/>	通話中に押すと、通話を切断します。 ※転送操作中に <input type="checkbox"/> 、 <input type="checkbox"/> の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	
再ダイヤル <input type="checkbox"/>	直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。	
メッセージ <input type="checkbox"/>	留守番電話を確認するときに使用します。 待受画面で操作すると、留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインします。	
保留 <input type="checkbox"/>	通話中の相手にしばらく待ってもらおうときに押します。 ※ほかの電話機からは応答できません。	
転送 <input type="checkbox"/>	通話を保留して転送するときに押します。 ※転送操作中に <input type="checkbox"/> 、 <input type="checkbox"/> の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	
ミュート <input type="checkbox"/> 自動応答	ミュート： 通話中に押すと、マイクがミュート状態になり、こちらの声が相手に聞こえなくなります。 もう一度押すとミュートを解除します。 ※ミュート中は <input type="checkbox"/> が赤色に点滅します。 自動応答： あらかじめ設定しておくこと、着信時、数回鳴動したあと、自動的に応答します。	
戻る <input type="checkbox"/>	操作などを取り消すときに使用します。	
スピーカーホン/ ヘッドセット <input type="checkbox"/>	受話器を置いたまま通話するとき、または電話にヘッドセットを接続して通話するときに使用します。	

1 導入ガイド

10.KX-UTシリーズの電話機について

■ 電話機のボタン機能について(つづき)

フレキシブルボタン(1～24)と特番操作

KX-UT136Nに割り当てられたフレキシブルボタン機能は、下記のように、ほかの内線子機(KX-UT123Nなど)でも特番をダイヤルすると使用できます。

ボタン割当	ほかの内線子機	備考(ダイヤル操作)	参照
ワンタッチ	×	あらかじめ本製品側で登録した電話番号にワンタッチで発信できる機能	P.180
DNキー	×	※KX-UT123Nでは内部で2つ固定割り当て	P.180
外線状態通知キー	×		P.181
外線発信キー	×	(外線発信特番プレフィクス + 相手先の電話番号)	P.182
外線着信キー	×		P.182
パーク	○	(パーク保留・応答するための特番+パーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24))	P.183
留守電開始/停止	○	(留守電の開始と停止特番)	P.185
着信おまたせ開始/停止★	○	(着信おまたせの開始と停止特番)	P.185
不在転送切替	○	(不在転送特番)	P.185
不応答転送切替	○	(不応答転送特番)	P.185
話中転送切替	○	(話中転送特番)	P.187
昼夜切替	○	(昼夜切替特番)	P.188
外線着信転送切替	○	(外線着信転送の切替特番)	P.188
ヘッドセット	△	※KX-UT123Nではヘッドセット接続時有効	P.188
音声呼出	○	(音声呼出特番)	P.188

★回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉が割り当てられたKX-UT136Nのフレキシブルボタンで確認できます。

DNキーについて

- ◎DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。
- ◎DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。
- ◎フレキシブルボタンがないKX-UT123Nでは、DNキーは本体内部に2つ固定割り当され、追加設定はできません。
外線通話中に新たな外線着信を受けると、先の通話を保留したり転送したりできません。(DNキー不足状態のため)
このような場合は、先の通話を終了するか、ほかの電話機であとの着信に応答する必要があります。

パーク保留/応答について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。
電話機ごとの操作については、本書254ページ～257ページでご確認ください。

KX-UT136Nで外線を捕捉するときは

KX-UT136Nに割り当てられた〈外線発信キー〉につづけて、電話番号をダイヤルするか、あらかじめ電話番号を登録した〈ワンタッチ〉を押すと、回線を捕捉して外線発信できます。

※外線発信時は、回線捕捉の設定が必要です。

ご使用になる電話機ごとに、「内線個別設定」画面で、優先度や回線を設定してください。

※KX-UT136Nで、電話帳から発信する場合は、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。

10.KX-UTシリーズの電話機について

■ 発信操作について

1.ダイヤル発信する(P.254)

- 受話器を上げ、電話番号をダイヤルする
 - 電話番号をダイヤルして受話器を上げる
- ※ダイヤルした電話番号に応じて、内線/外線に発信します。

2.ワンタッチで発信する(P.254)

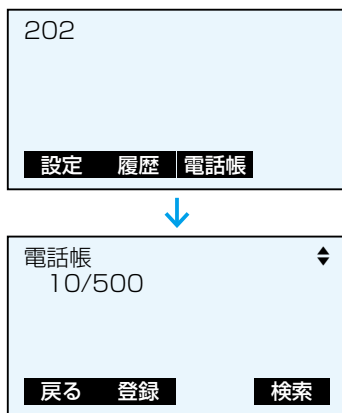
- 受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す
 - 〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる
- ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。

3.外線発信キーで発信する(P.254)

- 受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする
- 〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる

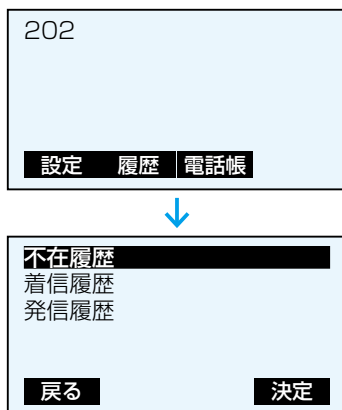
4.電話帳から発信する(P.254)

電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる



5.履歴から発信する

- ①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する
- ②相手先を選択してから受話器を上げる



■ 着信操作について

1.内線着信に応答する(P.255)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に応答する場合)
- 高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2.外線着信に応答する(P.255)

- 受話器を上げる
(画面に表示されている発信元に応答する場合)
 - 〈外線着信キー〉を押す
 - 高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉、または高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す
- ※〈外線着信キー〉が割り当てられている場合は、〈DNキー〉は点滅しません。

3.応答を拒否する

着信中に、拒否を押す

※一斉着信時など、ほかの内線子機が鳴動している場合を除き、発信元には話中音が聞こえます。

※アナログ回線から発信された着信の場合、発信元には呼出音が聞こえつづけます。

4.代理で応答する

自分以外の電話機が着信中に、代理応答の特番を押して、受話器を上げる

※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している〈外線状態通知キー〉でも代理応答できます。

※あらかじめ〈ワンタッチ〉に代理応答の特番を登録しておくと、同様に代理応答できます。

■ 保留/転送操作について

1.自己保留する(保留/解除)(P.255)

- 通話中に、保留を押す
- 解除するときには、高速点滅(緑■)している〈DNキー〉を押す

2.転送する(P.256)

- ①通話中に、転送を押す
 - ②転送先の電話番号をダイヤルする
 - ③応答確認後、実行を押す、または受話器を置く
- ※転送操作中にフック、転送の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

3.パーク保留/応答する(P.256)

- ①通話中に、〈パーク〉を押す
- ②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する
- ③転送先に、口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
- ④転送先は、伝えられた番号の〈パーク〉(低速点滅(赤■))を押して、応答する

この章では、
管理者用の設定画面、アクセスしたときに表示される設定一覧について説明します。

1. 管理者用の設定画面にアクセスするときは	35
2. 設定画面の名称と機能について	36
3. 「設定一覧」画面	37
■ 設定一覧(製品情報)	37
■ 設定一覧(ネットワーク)	37
■ 設定一覧(外線電話番号)	37

ご注意

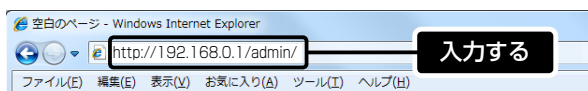
本製品を出荷時の状態に戻した場合は、本製品のLAN側IPアドレスは、「192.168.0.1(出荷時の設定)」で動作します。出荷時の状態に戻すと、ご使用になる端末を内線子機としてご利用いただけなくなりますので、ご契約の回線接続業者から指定された回線種別と契約者番号、本製品に接続する電話機の内線番号などを設定しなおしてください。

2 管理者用の設定画面について

1. 管理者用の設定画面にアクセスするときは

本製品に接続したパソコンのWWWブラウザから、管理者用の設定画面にアクセスする手順を説明します。

- 1 WWWブラウザを起動し、WWWブラウザのアドレスバーに「http://本製品に設定されたLAN側IPアドレス/admin/」を入力します。



※上図は、出荷時のLAN側IPアドレス(192.168.0.1)を入力した場合です。

- 2 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求めめる画面が表示されます。

- 3 [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、<OK>をクリックすると、管理者用の設定画面が表示されます。



不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更されることをおすすめします。

WWWブラウザについて

Microsoft Internet Explorer 11で動作確認しています。

設定画面が正しく表示できるように、WWWブラウザのJavaScript機能、およびCookieは有効にしてください。

※Microsoft Internet Explorer 8以前をご使用の場合は、正しく表示できないことがあります。

2 管理者用の設定画面について

2. 設定画面の名称と機能について

管理者用の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
設定画面の構成について詳しくは、本書10章をご覧ください。

①

②

③

③

※説明には、管理者用の「LAN設定」画面を使用しています。

- ① 設定画面選択メニュー …… 各メニューのタイトル上にマウスポインターを合わせてクリックすると、そのメニューに含まれる画面名を表示します。
- ② 設定画面表示エリア …… [設定画面選択メニュー]で選択したメニューに含まれる画面名(例:ルーター機能設定/LAN設定)をクリックしたとき、その内容を表示します。
- ③ 設定ボタン …………… 設定した内容の登録や取り消しをします。
※「登録」をクリックして、「再起動が必要な項目が変更されています。」と表示されるときは、「登録して再起動」をクリックすると、画面上で確定された内容が再起動後に有効となります。
再起動中は、下記の画面を表示します。

再起動中

再起動するまでXX秒です。

本体の起動を確認後、画面更新されない場合は、[Back]をクリックしてください。
[Back]

※再起動が完了(約50秒)するまで、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックしても、設定画面に戻りませんので、しばらくしてから再度クリックしてください。

※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

2 管理者用の設定画面について

3. 「設定一覧」画面

「設定一覧」-「TOP」

本製品の製品情報や設定内容を一覧で表示します。

■ 設定一覧(製品情報)

ファームウェアのバージョン情報、本製品の本体MACアドレス(WAN/LAN)を表示します。

設定一覧(製品情報)	
IPL	Rev. []
ファームウェアバージョン	Ver. [] Copyright [] Icom Inc.
WAN MACアドレス	[]
LAN MACアドレス	[]

※MACアドレスは、本製品のようなネットワーク機器がそれぞれ独自に持っている機器固有の番号で、12桁(0090C7××××××)で表示されています。

※本製品本体に貼られているシリアルシール(P.6)では、WAN側のMACアドレスを確認できます。

■ 設定一覧(ネットワーク)

WAN側、LAN側のIPアドレスなど、ネットワーク情報を表示します。

設定一覧(ネットワーク)	
WAN動作モード	使用しない
WAN情報	-
LAN IPアドレス	192.168.0.1
DHCPサーバー機能	有効

※「WAN動作モード設定」画面で[回線種別]項目、[回線設定]項目を設定すると、[WAN情報]欄にWAN側のIPアドレスを表示します。

■ 設定一覧(外線電話番号)

本製品に設定した回線(外線電話番号)を表示します。

設定一覧(外線電話番号)	
アナログ回線1	-
アナログ回線2	-
ISDN回線1	-
ISDN回線2	-
ISDN回線3	-
IP回線	-

この章では、
管理者用の「ルーター機能設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 「LAN設定」画面	40
■ LAN設定	40
■ DHCPサーバー設定	42
■ 固定IPアドレス設定	44
■ 固定IPアドレス一覧	44
■ DHCPクライアント一覧	44
2. 「スタティックルーティング設定」画面	45
■ IP経路情報	45
■ スタティックルーティング設定	46
■ 現在の登録	46
3. 「WAN動作モード設定」画面	47
■ 回線状態表示 (DHCPクライアント設定時)	47
■ 回線状態表示 (固定IP設定時)	48
■ 回線状態表示 (PPPoE設定時)	49
■ 回線種別設定	50
■ 回線設定 (DHCPクライアント設定時)	51
■ 回線設定 (固定IP設定時)	52
■ 回線設定 (PPPoE設定時)	53
■ 回線設定一覧 (PPPoE設定時)	54
4. 「VoIP用WAN側設定」画面	55
■ 回線状態表示 (ひかり電話(網直収))	55
■ 回線種別設定 (ひかり電話(網直収))	56
■ 回線設定 (ひかり電話(網直収))	56
5. 「ブリッジ設定」画面	57
■ PPPoEブリッジ	57
■ IPv6ブリッジ	57

(次ページにつづく)

表示される設定項目について

◎ 「ルーター機能設定」メニューの「WAN動作モード設定」画面で表示される[回線種別設定]項目の設定内容に応じて、表示される設定項目が一部変更になります。

 (DHCPクライアント設定時) は、「DHCPクライアント」を選択したときに表示される設定項目です。

 (固定IP設定時) は、「固定IP」を選択したときに表示される設定項目です。

 (PPPoE設定時) は、「PPPoE」を選択したときに表示される設定項目です。

◎ 「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面で表示される[SIPサーバー接続共通設定]項目の設定内容に応じて、表示される設定項目が一部変更になります。

 (ひかり電話(網直収)) は、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定項目です。

3 「ルーター機能設定」メニュー

下記は、前ページからの「つづき」です。

6. 「NAT設定」画面	58
■ アドレス変換設定	58
■ DMZホスト設定	58
■ 静的マスカレードテーブル設定	59
■ 現在の登録	59
7. 「ダイナミックDNS」画面	60
■ ダイナミックDNS設定(1)/(2)	60
■ ダイナミックDNS登録状況	62
8. 「VPNパススルー設定」画面	63
■ IPsecパススルー	63
■ PPTPパススルー	64
9. 「IPフィルター設定」画面	65
■ IPフィルター設定	65
■ 現在の登録	70
10. 「簡易DNS設定」画面	71
■ DNSサーバーの代理応答	71
■ 簡易DNSサーバー設定	71
■ 現在の登録	71
11. 「不正アクセス設定」画面	72
■ ICMPステルス	72
12. 「QoS設定」画面	73
■ QoS設定	73
■ QoSルール設定	74
■ 現在の登録	74

3 「ルーター機能設定」メニュー

1. 「LAN設定」画面

「ルーター機能設定」-「LAN設定」

本製品をネットワークに接続するための設定画面です。

■LAN設定

本製品のLAN側IPアドレスを設定します。

LAN設定	
LAN IPアドレス ①	192.168.0.1
LANサブネットマスク ②	255.255.255.0
LANデフォルトゲートウェイ ③	
プライマリーDNSサーバー ④	
セカンダリーDNSサーバー ⑤	

WAN動作モードが設定されている場合は無効となります。

①LAN IPアドレス …………… 本製品のLAN側IPアドレスを入力します。（出荷時の設定:192.168.0.1）
本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークアドレスに変更してください。
※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合は、[開始IPアドレス]欄についてもネットワーク部を同じに設定してください。

②LANサブネットマスク … 本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。（出荷時の設定:255.255.255.0）
※本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

例：「255.255.255.248」に設定する場合

同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲は、「192.168.0.0～192.168.0.7」になります。

この場合、端末に割り当てできるIPアドレスの範囲は、「192.168.0.2～192.168.0.6」です。

なお、端末に割り当てできないIPアドレスは次のようになります。

「192.168.0.0」：ネットワークアドレス

「192.168.0.1」：本製品のIPアドレス

「192.168.0.7」：ブロードキャストアドレス

③LANデフォルト
ゲートウェイ ……………

本製品のLAN側に、ほかのルーターなどデフォルトゲートウェイ装置があり、これを利用する場合、その装置のIPアドレスを入力します。

※LAN側にデフォルトゲートウェイが設定されていても、WAN側にデフォルトゲートウェイが作成された場合、この設定は無効になりWAN側経路を優先します。

※回線種別(P.50)を「使用しない」に設定している場合でも、ファームウェアの自動更新(P.235)や自動時計設定(NTPサーバーが外部ネットワークに存在する)を使用するときは、設定が必要です。

※本製品のLAN側IPアドレスは登録できません。

3 「ルーター機能設定」メニュー

1. 「LAN設定」画面

「ルーター機能設定」-「LAN設定」

■LAN設定(つづき)

LAN設定	
LAN IPアドレス ①	192.168.0.1
LANサブネットマスク ②	255.255.255.0
LANデフォルトゲートウェイ ③	
プライマリーDNSサーバー ④	
セカンダリーDNSサーバー ⑤	

WAN動作モードが設定されている場合は無効となります。

④プライマリーDNSサーバー

本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを入力します。

※ファームウェアの自動更新(P.235)を使用する場合に設定が必要です。

※使い分けたいアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力してください。

※回線種別(P.50)を「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」のいずれかに設定しているときは、この設定は無効になります。

設定した回線種別で表示される「WAN動作モード設定」画面で設定をしてください。(P.51、P.52、P.54)

⑤セカンダリーDNSサーバー

[プライマリーDNSサーバー](④)欄と同様に、本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを入力します。

※ファームウェアの自動更新(P.235)を使用する場合に設定が必要です。

※必要に応じて、使い分けたいDNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

※回線種別(P.50)を「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」のいずれかに設定しているときは、この設定は無効になります。

設定した回線種別で表示される「WAN動作モード設定」画面で設定をしてください。(P.52、P.53)

3 「ルーター機能設定」メニュー

1. 「LAN設定」画面

「ルーター機能設定」-「LAN設定」

■DHCPサーバー設定

本製品のDHCPサーバー機能を設定します。

DHCPサーバー設定	
DHCPサーバー機能 ①	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
開始IPアドレス ②	192.168.0.10
割り当て個数 ③	30 個
TFTPサーバーの配布 ④	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
TFTPサーバー ⑤	<input type="text"/> 空白の場合はLAN IPアドレスと同じになります。
プライマリーDNSサーバー ⑥	<input type="text"/>
セカンダリーDNSサーバー ⑦	<input type="text"/>

※ ⑥、⑦は、「簡易DNS設定」画面の「DNSサーバーの代理応答」項目にある「DNS代理応答機能」欄(P.71)を「無効」に設定した場合に表示されます。

- ①DHCPサーバー機能 …… 本製品のDHCPサーバー機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、「開始IPアドレス」(②)欄と「割り当て個数」(③)欄に設定された内容にしたがって、DHCPサーバーとして動作します。
- ②開始IPアドレス …… 本製品に接続する端末へ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。 (出荷時の設定: 192.168.0.10)
- ③割り当て個数 …… 本製品が自動割り当てできるIPアドレスの個数を設定します。 (出荷時の設定:30)
「開始IPアドレス」(②)欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当てできるIPアドレスの最大個数は、「0~128」(個)までです。
※128個を超える分については設定できませんので、手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てをしません。
- ④TFTPサーバーの配布 …… KX-UTシリーズの電話機を設定(プロビジョニング)するために、本製品のTFTPサーバー機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、電話機は本製品から設定データを取得して、自動的に設定を反映します。
※ご使用になる電話機ごとに、「簡単設定」メニュー、または「内線個別設定」画面でMACアドレスの登録が必要です。
※電話機は、DHCPサーバーからTFTPサーバー(⑤)のアドレスを取得しますので、固定IPアドレスで運用される場合は、本書28ページの設定方法をご覧ください。
- ⑤TFTPサーバー …… KX-UTシリーズの電話機が設定(プロビジョニング)を取得するために、接続するTFTPサーバーのアドレスを入力します。 (出荷時の設定:空白)
※空白の場合は、本製品の「LAN設定」項目にある「LAN IPアドレス」欄(P.40)の設定が、TFTPサーバーのアドレスになります。

3 「ルーター機能設定」メニュー

1. 「LAN設定」画面

「ルーター機能設定」-「LAN設定」

■DHCPサーバー設定(つづき)

DHCPサーバー設定	
DHCPサーバー機能 ①	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
開始IPアドレス ②	192.168.0.10
割り当て個数 ③	30 個
TFTPサーバーの配布 ④	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
TFTPサーバー ⑤	<input type="text"/> 空白の場合はLAN IPアドレスと同じになります。
プライマリーDNSサーバー ⑥	<input type="text"/>
セカンダリーDNSサーバー ⑦	<input type="text"/>

※ ⑥、⑦は、「簡易DNS設定」画面の「DNSサーバーの代理応答」項目にある「DNS代理応答機能」欄(P.71)を「無効」に設定した場合に表示されます。

- ⑥ **プライマリーDNSサーバー** 必要に応じて使い分けたいDNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバーアドレスをDHCPクライアントに通知します。
※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合に有効です。
※「簡易DNS設定」画面の「DNSサーバーの代理応答」項目にある「DNS代理応答機能」欄(P.71)が「有効」(出荷時の設定)に設定されている場合、設定は無効になり、表示されません。
- ⑦ **セカンダリーDNSサーバー** [プライマリーDNSサーバー] (⑥) 欄と同様に、使い分けたいDNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバーアドレスをDHCPクライアントに通知します。
※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合に有効です。
※「簡易DNS設定」画面の「DNSサーバーの代理応答」項目にある「DNS代理応答機能」欄(P.71)が「有効」(出荷時の設定)に設定されている場合、設定は無効になり、表示されません。

3 「ルーター機能設定」メニュー

1. 「LAN設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「LAN設定」

■ 固定IPアドレス設定

固定IPアドレスを特定の端末に割り当てる設定です。

固定IPアドレス設定		
MACアドレス	IPアドレス	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>

端末のMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録します。

※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。

※最大32個の組み合わせまで登録できます。

※本製品のDHCPサーバー機能を使用する場合に有効です。

※DHCPサーバー機能により自動で割り当てられるIPアドレスの範囲外でIPアドレスを設定してください。

例:[DHCPサーバー設定]項目(P.42)で,[開始IPアドレス]欄と[割り当て個数]欄が出荷時の設定の場合は、192.168.0.40以降のIPアドレスを設定してください。

※本製品のWAN側、およびLAN側のIPアドレスと重複しないように設定してください。

■ 固定IPアドレス一覧

[固定IPアドレス設定]項目で登録した内容を表示します。

固定IPアドレス一覧		
MACアドレス	IPアドレス	
<input type="text"/>	192.168.0.50	<input type="button" value="削除"/>
<input type="text"/>	192.168.0.100	<input type="button" value="削除"/>

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

■ DHCPクライアント一覧

本製品のDHCPサーバー機能を使用している場合、本製品に接続する端末に割り当てされたIPアドレスの状態と有効期限を表示します。

※最大160件(自動割り当て128個+固定割り当て32個)表示します。

DHCPクライアント一覧			
MACアドレス	IPアドレス	① 状態	② リース期限
<input type="text"/>	192.168.0.10	動的	2016/03/13 11:26
<input type="text"/>	192.168.0.50	解放済	
<input type="text"/>	192.168.0.100	静的	

① 状態 …………… 端末に割り当てされたIPアドレスの状態を、「動的」/「静的」/「解放済」で表示します。

◎動的 : IPアドレスが自動で割り当てされているとき

◎静的 : IPアドレスが固定で割り当てされているとき

◎解放済 : IPアドレスを解放したとき

② リース期限 …………… [状態]欄が「動的」のときだけ、端末に割り当てされたIPアドレスの有効期限を表示します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

2. 「スタティックルーティング設定」画面

「ルーター機能設定」-「スタティックルーティング設定」

通信経路(ルート)についての設定画面です。

■ IP経路情報

パケットの送信において、そのパケットをどのルーター、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。
※この項目には、現在有効な経路だけを表示します。

① IP経路情報	②	③	④	⑤
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	作成
127.0.0.0	255.0.0.0	127.0.0.1	lo0	misc
127.0.0.1	255.255.255.255	127.0.0.1	lo0	host
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	mirror0	misc
192.168.0.1	255.255.255.255		lo0	host

- ①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②サブネットマスク 宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ 宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④経路 宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを表示します。
 - ◎lo0 : ループバックアドレスを意味するインターフェース
 - ◎vr1 : インターフェースがWAN側固定IP、またはWAN側DHCPクライアントの場合
 - ◎pppoe0 : インターフェースがWAN側PPPoEの場合
 - ◎mirror0 : インターフェースがLANの場合
- ⑤作成 どのように経路情報が作成されたかを表示します。
 - ◎static : スタティック(定義された)ルートにより作成
 - ◎misc : ブロードキャストに関するフレーム処理で作成
 - ◎host : ホストルートにより作成

3 「ルーター機能設定」メニュー

2. 「スタティックルーティング設定」画面(つづき) 「ルーター機能設定」-「スタティックルーティング設定」

■スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を最大32件まで登録できます。

スタティックルーティング設定			
宛先①	サブネットマスク②	ゲートウェイ③	④
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	追加

※画面の値は、入力例です。

- ①宛先 …………… 対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
- ②サブネットマスク ……… 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ③ゲートウェイ …………… パケット転送先ルーターのIPアドレスを入力します。
- ④〈追加〉 …………… 入力内容が登録され、[現在の登録]項目に表示します。

■現在の登録

[スタティックルーティング設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録			
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	
192.168.10.0	255.255.255.0	192.168.0.254	削除

※画面の値は、入力例です。

- 〈削除〉…………… 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN動作モード設定」画面

「ルーター機能設定」-「WAN動作モード設定」

本製品をインターネットに接続するための設定画面です。

■ 回線状態表示 (DHCPクライアント設定時)

[回線種別設定]項目(P.50)、[回線設定]項目(P.51)で設定したWAN側回線への接続状態を表示します。

※「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄を「ひかり電話(GW配下)」、「サーバー接続」、「使用しない」のどれかを設定したとき使用できます。

回線状態表示	
接続状態	① 接続試行中 <input type="button" value="再接続"/> <input type="button" value="最新状態に更新"/>
回線種別	② DHCPクライアント
DNSサーバー	③
本体側のIPアドレス	④
相手先のIPアドレス	⑤
接続時間	⑥

- ① **接続状態** …………… WAN側回線への接続状態を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。
〈再接続〉
WAN側回線に再接続するとき、クリックします。
※「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄を「ひかり電話(GW配下)」に設定したときは、表示されません。
〈最新状態に更新〉
現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状態]欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ② **回線種別** …………… 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ③ **DNSサーバー** …………… 手動設定、またはDHCPで自動取得したDNSサーバーIPアドレスを表示します。
- ④ **本体側のIPアドレス** …… 本製品のWAN側に自動取得したIPアドレスを表示します。
- ⑤ **相手先のIPアドレス** …… DHCPで自動取得したゲートウェイIPアドレスを表示します。
- ⑥ **接続時間** …………… ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、〈最新状態に更新〉をクリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「WAN動作モード設定」

■回線状態表示 (固定IP設定時)

[回線種別設定]項目(P.50)、[回線設定]項目(P.52)で設定したWAN側回線への接続状態を表示します。

※「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄を「ひかり電話(GW配下)」、「サーバー接続」、「使用しない」のどれかを設定したとき使用できます。

回線状態表示	
接続状態	① 未接続 <input type="button" value="最新状態に更新"/>
回線種別	② 固定IP
DNSサーバー	③
本体側のIPアドレス	④
相手先のIPアドレス	⑤
接続時間	⑥

- ① **接続状態** …………… WAN側回線への接続状態を「未接続」/「接続中」で表示します。
〈最新状態に更新〉
現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状態]欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ② **回線種別** …………… 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ③ **DNSサーバー** …………… 手動設定したDNSサーバーIPアドレスを表示します。
- ④ **本体側のIPアドレス** …… 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。
- ⑤ **相手先のIPアドレス** …… 手動設定したデフォルトゲートウェイIPアドレスを表示します。
- ⑥ **接続時間** …………… ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、〈最新状態に更新〉をクリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「WAN動作モード設定」

■回線状態表示 (PPPoE設定時)

[回線種別設定]項目(P.50)、[回線設定]項目(P.53)で設定したWAN側回線への接続状態を表示します。

回線状態表示	
接続先の選択	① WAN01 ▼ 接続 最新状態に更新
接続状態	② 未接続
回線種別	③ PPPoE
DNSサーバー	④
本体側のIPアドレス	⑤
相手先のIPアドレス	⑥
接続時間	⑦

- ① **接続先の選択** [回線設定]項目(P.53)で登録したWAN側回線への接続先から選択します。
※回線接続中は、選択できません。
<接続>/<切断>
手動で回線を接続、および切断するとき、クリックします。
※<切断>は、回線が接続されているとき表示します。
<最新状態に更新>
現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状態](②)欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ② **接続状態** WAN側回線への接続状態を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。
- ③ **回線種別** 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
- ④ **DNSサーバー** ご契約の回線接続業者のDNSサーバーIPアドレスを表示します。
- ⑤ **本体側のIPアドレス** 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。
- ⑥ **相手先のIPアドレス** ご契約の回線接続業者のIPアドレスを表示します。
- ⑦ **接続時間** ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、<最新状態に更新>をクリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「WAN動作モード設定」

■回線種別設定

本製品の回線種別についての設定です。

回線種別設定	
回線種別	使用しない ▼

回線種別.....

ご契約の回線接続業者から指定された回線種別を選択します。

(出荷時の設定: 使用しない)

「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」を設定したときは、ルーター機能が有効になり、本製品のWAN側ポートが使用できます。

◎回線を本製品のWAN側ポートに接続しない場合

使用しない

回線を本製品のWAN側ポートに接続しても通信できません。

◎回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合

ブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置と接続できます。

DHCPクライアント★

ルーター機能を使用する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から「DHCP」方式で取得します。

固定IP★

ルーター機能を使用する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から指定された固定のIPアドレスを割り当てて使用するときに選択します。

PPPoE

本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者から「PPPoE」方式で取得します。

★「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄を「ひかり電話(網直収)」に設定したときは、「DHCPクライアント」、「固定IP」を選択できません。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「WAN動作モード設定」

■回線設定 (DHCPクライアント設定時)

[回線種別設定]項目(P.50)で選択した本製品のWAN側回線について設定します。

回線設定	
接続先名 ①	<input type="text"/>
プライマリ-DNSサーバー ②	<input type="text"/>
セカンダリ-DNSサーバー ③	<input type="text"/>

- ① **接続先名** …………… ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ② **プライマリ-DNSサーバー** ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
- ③ **セカンダリ-DNSサーバー** [プライマリ-DNSサーバー](②)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

DHCPによる自動取得について

DHCPクライアント設定時、[プライマリ-DNSサーバー]欄、[セカンダリ-DNSサーバー]欄が共に空白の場合、DHCPによる自動取得を開始します。

自動取得に成功すると、[回線状態表示]項目の[DNSサーバー]欄にIPアドレスが表示されます。(P.47)

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「WAN動作モード設定」

■ 回線設定 (固定IP設定時)

[回線種別設定]項目(P.50)で選択した本製品のWAN側回線について設定します。

回線設定	
接続先名	①
IPアドレス	②
サブネットマスク	③
デフォルトゲートウェイ	④
プライマリーDNSサーバー	⑤
セカンダリーDNSサーバー	⑥

- ① **接続先名** ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ② **IPアドレス** ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ③ **サブネットマスク** ご契約の回線接続業者から指定された本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ④ **デフォルトゲートウェイ** ご契約の回線接続業者から指定された本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑤ **プライマリーDNSサーバー** ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。
- ⑥ **セカンダリーDNSサーバー** [プライマリーDNSサーバー](⑤)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN動作モード設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「WAN動作モード設定」

■回線設定 (PPPoE設定時)

[回線種別設定]項目(P.50)で選択した本製品のWAN側回線について設定します。

回線設定		
接続先の選択	①	WAN01 ▼
接続先名	②	WAN01
ユーザーID	③
パスワード	④
接続方法	⑤	常時 ▼
IPアドレス	⑥
プライマリーDNSサーバー	⑦
セカンダリーDNSサーバー	⑧
認証プロトコル	⑨	接続先に合わせる ▼
MSS制限値	⑩	1322

- ① **接続先の選択** 接続先を追加するときは、〈▼〉をクリックして、「WAN01」～「WAN08」(最大8件まで設定可能)から選択します。 (出荷時の設定:WAN01)
登録されている接続先の内容を変更するときは、編集する接続先名を選択します。
- ② **接続先名** ご契約の回線接続業者の名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③ **ユーザーID** ご契約の回線接続業者から指定されたログインユーザー名、またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して入力します。
- ④ **パスワード** ご契約の回線接続業者から指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して入力します。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑤ **接続方法** 「PPPoE」回線への接続方法を選択します。 (出荷時の設定:常時)
◎**手動**
[回線状態表示]項目(P.49)の〈接続〉/〈切断〉をクリックして、回線を手動で接続、または切断できます。
※本製品を起動したときは、切断された状態です。
◎**常時**
常時接続します。
[接続先の選択] (①)欄で指定した接続先と常に接続状態を保持します。
※本製品を起動したときは、接続された状態です。
※[回線状態表示]項目の〈接続〉/〈切断〉(P.49)をクリックすると、手動で操作できます。
- ⑥ **IPアドレス** ご契約の回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ⑦ **プライマリーDNSサーバー** ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。
DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

3. 「WAN動作モード設定」画面

「ルーター機能設定」-「WAN動作モード設定」

■ 回線設定(つづき) (PPPoE設定時)

回線設定		
接続先の選択	①	WAN01 ▼
接続先名	②	WAN01
ユーザーID	③	■■■■■
パスワード	④	●●●●●●●●●●●●●●●●
接続方法	⑤	常時 ▼
IPアドレス	⑥	
プライマリーDNSサーバー	⑦	
セカンダリーDNSサーバー	⑧	
認証プロトコル	⑨	接続先に合わせる ▼
MSS制限値	⑩	1322

⑧ セカンダリーDNSサーバー [プライマリーDNSサーバー] (⑦) 欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

⑨ 認証プロトコル …………… ご契約の回線接続業者から指定された、認証プロトコルを設定します。
(出荷時の設定: 接続先に合わせる)

◎PAP

パスワードによってユーザーを識別します。
パスワードが暗号化されないなどの弱点があります。

◎CHAP

認証情報のやり取りが暗号化されるため、PAPよりも安全性が高い認証プロトコルです。

⑩ MSS制限値 …………… ご契約の回線接続業者から指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。
(出荷時の設定: 1322)

設定できる範囲は、「536～1452(バイト)」です。
MSS値とは、受信できるTCP最大セグメントサイズのことです。
一般に、MSS値は、フラグメントが発生しない範囲で大きいほどよいとされています。

しかし、[PPPoE]回線のMTUは、通常のEthernetのMTU(1500バイト)より小さいためMSS値が大きくなりすぎると、パケットがインターネット上を通過しないことがありますのでご注意ください。

■ 回線設定一覧 (PPPoE設定時)

[回線設定] 項目(P.53、P.54)で登録した接続先の一覧です。

回線設定一覧			
接続先名	ユーザーID	接続方法	
WAN01	■■■■■	常時	削除

<削除>…………… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

4. 「VoIP用WAN側設定」画面

「ルーター機能設定」-「VoIP用WAN側設定」

「電話回線設定」メニュー→「IP回線」画面→[SIPサーバー接続共通設定]項目の[接続先の選択]欄(P.89)を「ひかり電話(網直収)」に設定したときだけ表示され、設定できる画面です。

■ 回線状態表示 ひかり電話(網直収)

ご契約の回線接続業者との接続状態を表示します。

回線状態表示	
接続状態	① 接続中 最新状態に更新
回線種別	② DHCPクライアント(自動)
DNSサーバー	③
本体側のIPアドレス	④
相手先のIPアドレス	⑤
接続時間	⑥ 0 days 00:00:00

- ① **接続状態** 本製品に設定されている回線への接続状態を「未接続」/「接続中」で表示します。
 〈最新状態に更新〉
 現在の接続状態を更新するとき、クリックします。
 ※クリックしても[接続状態]欄に「接続中」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

- ② **回線種別** 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。

- ③ **DNSサーバー** ご契約の回線接続業者のDNSサーバーIPアドレスを表示します。

- ④ **本体側のIPアドレス** 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。

- ⑤ **相手先のIPアドレス** ご契約の回線接続業者のIPアドレスを表示します。

- ⑥ **接続時間** ご契約の回線接続業者に接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
 最新の接続時間を表示させるときは、〈最新状態に更新〉をクリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

4. 「VoIP用WAN側設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「VoIP用WAN側設定」

■回線種別設定 (ひかり電話(網直収))

本製品をひかり電話(網直収)でお使いになる場合に有効な設定です。

回線種別設定	
回線種別	DHCPクライアント(自動) ▼

回線種別.....

ひかり電話網より割り当てられるIPアドレスの設定です。

回線事業者からの指定のない限り、出荷時の設定で使用します。

(出荷時の設定:DHCPクライアント(自動))

本製品のWAN側ポートにブリッジタイプモデム、またはFTTHでお使いの回線終端装置を接続します。

DHCPクライアント(自動)

ひかり電話用WAN側IPアドレス、DNSアドレスをDHCP方式で自動取得します。

DHCPクライアント(手動)

ひかり電話用WAN側IPアドレスをDHCP方式で自動取得、DNSアドレスを[回線設定]項目に手動で設定します。

■回線設定 (ひかり電話(網直収))

ご契約の回線接続業者から指定されたWAN側のDNSサーバーアドレスについての設定です。

※[回線種別設定]項目の[回線種別]欄を「DHCPクライアント(手動)」に設定したときだけ表示される画面です。

回線設定	
プライマリーDNSサーバー ①	<input type="text"/>
セカンダリーDNSサーバー ②	<input type="text"/>

① プライマリーDNSサーバー

ご契約の回線接続業者から指定されたDNSサーバーアドレスを入力します。DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、優先したいほうのアドレスを入力します。

② セカンダリーDNSサーバー

[プライマリーDNSサーバー] (①)欄と同様、DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、DNSサーバーアドレスのもう一方を入力します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

5. 「ブリッジ設定」画面

「ルーター機能設定」-「ブリッジ設定」

本製品のブリッジ機能についての設定画面です。

■ PPPoEブリッジ

本製品のPPPoEブリッジ機能を設定します。

PPPoEブリッジ	
PPPoEブリッジ機能	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

PPPoEブリッジ機能 …………… 本製品の[LAN]ポートに接続されたパソコン、またはルーター(市販品)から異なるPPPoE接続をするための設定です。 (出荷時の設定:無効)
※「ルーター機能設定」メニュー→「WAN動作モード設定」画面→「回線種別設定」項目の「回線種別」欄が「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」のいずれかに設定されている状態で、「PPPoEブリッジ機能」欄を「有効」に設定すると、WANとLAN間でPPPoEフレームをブリッジします。

■ IPv6ブリッジ

本製品のIPv6ブリッジ機能を設定します。

IPv6ブリッジ	
IPv6ブリッジ機能	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

IPv6ブリッジ機能 …………… 本製品の[LAN]ポートに接続されたパソコン、またはルーター(市販品)からのIPv6パケットを透過するための設定です。 (出荷時の設定:無効)
※「ルーター機能設定」メニュー→「WAN動作モード設定」画面→「回線種別設定」項目の「回線種別」欄が「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」のいずれかに設定されている状態で、「IPv6ブリッジ機能」欄を「有効」に設定すると、WANとLAN間でIPv6フレームをブリッジします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

6. 「NAT設定」画面

「ルーター機能設定」-「NAT設定」

静的マスカレードと静的NATの設定画面です。

■アドレス変換設定

本製品のアドレス変換機能を設定します。

※回線種別を「DHCPクライアント」、「固定IP」、「PPPoE」に設定(P.50)したとき、使用できる機能です。

アドレス変換設定	
アドレス変換機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

アドレス変換機能…………… 本製品のアドレス変換機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、本製品のIPマスカレード機能を使用して、WAN側グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換します。

■DMZホスト設定

本製品のDMZホスト機能を設定します。

DMZホスト設定	
DMZホスト IPアドレス	<input type="text"/>

DMZホスト IPアドレス…… DMZホスト機能(非武装セグメント)の対象となるパソコン(ホスト)のIPアドレスを入力します。
DMZホスト機能を使用すると、WAN(インターネット)側から発信された転送先不明のIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。これにより、本製品のLAN側に存在する端末で各種サーバーを運用したり、ネットワーク対戦ゲームをしたりできますが、転送先に設定した端末のIPアドレスに対してセキュリティが低下しますので、ご使用には十分ご注意ください。
※DMZホスト機能と静的マスカレードテーブルを同時に使用した場合は、静的マスカレードテーブルの設定が優先されます。
※セキュリティの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■静的マスカレードテーブル設定

静的にIPマスカレード変換をするための設定です。

テーブルに追加すると、マスカレードIP(ルーターグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルとポート番号により判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へ転送します。

静的マスカレードテーブル設定				
WAN側ポート①	LAN側IP②	LAN側ポート③	プロトコル④	⑤
指定 ▼		指定 ▼	TCP ▼	追加

- ①WAN側ポート [プロトコル] (④) 欄で選択したプロトコルに対するWAN側ポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、TELNET、Web、Whois)から選択します。
- ②LAN側IP 該当するパケットを転送するLAN側プライベートIPアドレスを入力します。
- ③LAN側ポート [プロトコル] (④) 欄で選択したプロトコルに対するLAN側ポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、TELNET、Web、Whois)から選択します。
- ④プロトコル TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
- ⑤<追加> 静的マスカレードテーブルを本製品に登録するとき、クリックします。
※最大32個のマスカレードテーブルを登録できます。
※[現在の登録]項目で、<編集>をクリックしたときは、<更新>を表示します。

■現在の登録

[静的マスカレードテーブル設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録				
WAN側ポート	LAN側IP	LAN側ポート	プロトコル	
Web	192.168.0.100	Web	TCP	① 編集 ② 削除
12380	192.168.0.2	Web	TCP	編集 削除
12381	192.168.0.3	Web	TCP	編集 削除
21500	192.168.0.4	21500	UDP	編集 削除

※画面の値は、入力例です。

- ①<編集> 登録した内容を編集するときは、該当する欄の<編集>をクリックします。
※登録されている内容は、[静的マスカレードテーブル設定]項目に表示します。
- ②<削除> 登録した内容を削除するときは、該当する欄の<削除>をクリックします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

7. 「ダイナミックDNS」画面

「ルーター機能設定」-「ダイナミックDNS」

ダイナミックDNSサーバーに現在のIPアドレスを自動登録するための設定画面です。

■ダイナミックDNS設定(1)/(2)

ダイナミックDNSサービスから取得したドメインと、本製品のWAN側IPアドレスの関連付けについて登録、および更新するための設定です。

ダイナミックDNS設定(1)		
自動更新機能	①	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
定期更新間隔	②	10 日
ダイナミックDNSサーバー	③	RFC2136
サーバーURL	④	
ホスト名	⑤	
ドメイン	⑥	
ユーザーID	⑦	
パスワード	⑧	
接続状態	⑨	<input checked="" type="radio"/> オンライン <input type="radio"/> オフライン

※「RFC2136」を選択したときの[ダイナミックDNS設定(1)]項目を使用して説明しています。

- ① **自動更新機能** …………… ダイナミックDNSサーバーへIPアドレスを自動更新する機能です。
(出荷時の設定:無効)
「有効」に設定すると、本製品のWAN側(ご契約の回線接続業者から本製品に自動配布される)IPアドレスが変更されたらすぐに、ダイナミックDNSサーバーへの登録を自動で更新します。
※自動更新に失敗した場合は、その後、1時間ごとに自動更新します。
※「無効」を設定したときは、[定期更新間隔](②)欄も無効になります。
- ② **定期更新間隔** …………… ダイナミックDNSサーバーへの登録間隔を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「99」(日)です。(出荷時の設定:10)
※ご利用になるダイナミックDNSサーバーによっては、一定期間更新がないと、取得したドメインが無効になるため、定期的に更新することで防止できます。
- ③ **ダイナミックDNSサーバー** …………… ダイナミックDNSサーバーを選択します。(出荷時の設定:使用しない)
本製品では、「RFC2136」(RFC2136方式のダイナミックDNSサーバー)と「DynamicDO!」をご利用になれます。
- ④ **サーバーURL** …………… ご利用になるダイナミックDNSサーバーがRFC2136方式のとき、そのダイナミックDNSサーバーのURLを半角127文字以内で入力します。
※サーバーURLは、[ダイナミックDNSサーバー](③)欄で「RFC2136」を選択したときだけ表示されます。
- ⑤ **ホスト名** …………… ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したホスト名を半角31文字以内で入力します。
- ⑥ **ドメイン** …………… ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したドメインを半角31文字以内で入力します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

7. 「ダイナミックDNS」画面

「ルーター機能設定」-「ダイナミックDNS」

■ダイナミックDNS設定(1)/(2)つづき

ダイナミックDNS設定(1)		
自動更新機能	①	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
定期更新間隔	②	10日
ダイナミックDNSサーバー	③	RFC2136
サーバーURL	④	
ホスト名	⑤	
ドメイン	⑥	
ユーザーID	⑦	
パスワード	⑧	
接続状態	⑨	<input checked="" type="radio"/> オンライン <input type="radio"/> オフライン

※「RFC2136」を選択したときの[ダイナミックDNS設定(1)]項目を使用して説明しています。

- ⑦ **ユーザーID** ご利用になるダイナミックDNSサーバーへ接続するためのユーザーIDを半角31文字以内で入力します。
- ⑧ **パスワード** ご利用になるダイナミックDNSサーバーへ接続するためのパスワードを半角31文字以内で入力します。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑨ **接続状態** メンテナンスなどで、本製品を一時的に使用しない場合に、あらかじめ、ご利用になるダイナミックDNSサーバーへ「オフライン」であることを通知するときに使用します。
(出荷時の設定: オンライン)

3 「ルーター機能設定」メニュー

7. 「ダイナミックDNS」画面

「ルーター機能設定」-「ダイナミックDNS」

■ダイナミックDNS登録状況

ダイナミックDNSの自動更新機能を使用時、自動更新状況を表示します。

ダイナミックDNS登録状況			① 登録状態の更新
	③ 登録時刻	④ 登録状態	ホストアドレス⑤ IPアドレス ⑥
設定1 ② 再登録	2012/10/10 10:00:00	IPアドレスを更新しました	dynamicdo 172.22.254.66
設定2 ② 再登録	2012/10/10 10:00:00	IPアドレスを更新しました	dynamicdo 172.22.254.66

※画面の内容は、表示例です。

- ①<登録状態の更新> …………… <登録状態の更新>をクリックすると、[ダイナミックDNS登録状況]項目に表示される内容を更新します。
- ②<再登録> …………… 設定1/設定2の<再登録>をクリックすると、本製品に設定されたWAN側IPアドレスを、[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目で選択したダイナミックDNSサーバーに送信します。
- ③登録時刻 …………… ご契約の回線接続業者から本製品に自動配布されるIPアドレスの変更を、ご利用のダイナミックDNSサーバーに自動アップデート(更新)されたときの時刻を表示します。
- ④登録状態 …………… 正常に自動アップデートされたときは、「IPアドレスを更新しました」を表示します。
※[ダイナミックDNS登録状況]項目に表示される内容は、<登録状態の更新>をクリックするまで更新されません。
※下記の場合は、ご利用になるダイナミックDNSサーバーからの情報が、[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目の各欄に正しく設定されているかをご確認ください。
 - ◎「ダイナミックDNSサーバーにアクセスできませんでした」
 - ◎「ダイナミックDNSサーバーにログインできませんでした」
 - ◎「ダイナミックDNSサーバーからエラーが返されました」
 - ◎「設定エラー」
 - ◎「スクリプトエラー」など
- ⑤ホストアドレス …………… ダイナミックDNSサーバーに登録されているホスト名を表示します。
※[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目(P.60)の[ホスト名]欄、[ドメイン]欄に入力した内容です。
※ホスト名「dynamicdo」、ドメイン「ddo.jp」を登録した場合は、「dynamicdo.ddo.jp」と表示されます。
- ⑥IPアドレス …………… 現在、ダイナミックDNSサーバーに登録されているグローバルIPアドレスを表示します。

3 「ルーター機能設定」メニュー

8. 「VPNパススルー設定」画面

「ルーター機能設定」-「VPNパススルー設定」

インターネット経由で仮想プライベートネットワーク(VPN)サーバーにアクセスするための設定です

■ IPsecパススルー

IPsecによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。

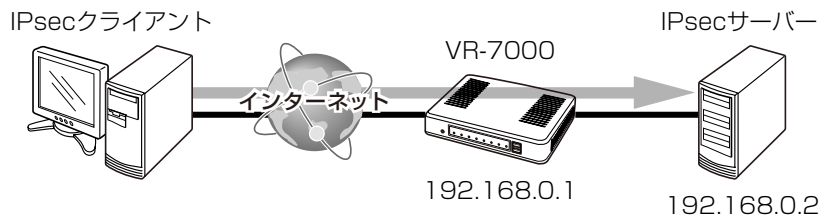
IPsecパススルー	
IPsecパススルー機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

IPsecパススルー機能……………

インターネットを経由してLAN側のIPsecクライアントからWAN側のIPsecサーバーへアクセスするときに設定します。(出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、IPsec ESPトンネルモードにおいてLAN側イニシエーター、レスポンドーターともに透過します。

登録例

下図のように、WAN側のIPsecクライアントからIKE(Internet Key Exchange)をLAN側のIPsecサーバーへ転送する場合は、「[NAT設定]画面にある[静的マスカレードテーブル設定]項目(P.59)で、開放するポート(UDP/500番)の登録が必要です。



[LAN側IP]欄には、IPsecサーバーのIPアドレス(例:192.168.0.2)を入力します。

静的マスカレードテーブル設定				
WAN側ポート	LAN側IP	LAN側ポート	プロトコル	
指定 ▼ 500	192.168.0.2	指定 ▼ 500	UDP ▼	更新

現在の登録				
WAN側ポート	LAN側IP	LAN側ポート	プロトコル	
500	192.168.0.2	500	UDP	編集 削除

3 「ルーター機能設定」メニュー

8. 「VPNパススルー設定」画面

「ルーター機能設定」-「VPNパススルー設定」

■PPTPパススルー

PPTPによる仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を使用するための設定です。

PPTPパススルー

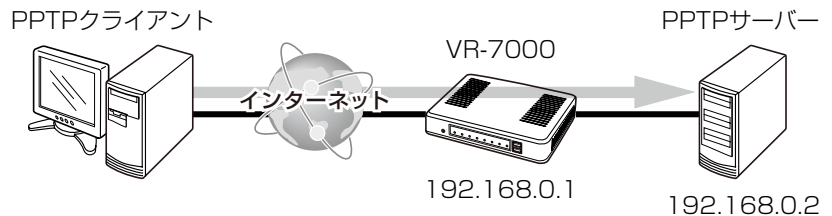
PPTPパススルー機能 無効 有効

PPTPパススルー機能……………

インターネットを經由してLAN側のPPTPクライアントからWAN側のPPTPサーバーへアクセスするときに設定します。(出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、LAN側のPPTPサーバーへWAN側のPPTPクライアントからアクセスすることもできます。

登録例

下図のように、WAN側のPPTPクライアントからLAN側のPPTPサーバーへ転送する場合は、「NAT設定」画面にある「静的マスカレードテーブル設定」項目(P.59)で、開放するポート(TCP/1723番)の登録が必要です。



[LAN側IP]欄には、PPTPサーバーのIPアドレス(例:192.168.0.2)を入力します。

静的マスカレードテーブル設定

WAN側ポート	LAN側IP	LAN側ポート	プロトコル	
指定 ▼ 1723	192.168.0.2	指定 ▼ 1723	TCP ▼	更新

現在の登録

WAN側ポート	LAN側IP	LAN側ポート	プロトコル	
1723	192.168.0.2	1723	TCP	編集 削除

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

本製品のIPフィルターについての設定画面です。

※IPフィルターの変更によるセキュリティの低下で生じる結果については、弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ IPフィルター設定

登録した条件に該当するパケットの通過と阻止についての設定です。

IPフィルター設定	
番号	① <input type="text" value="1"/>
エントリーの動作	② <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター方法	③ <input type="radio"/> 遮断 <input checked="" type="radio"/> 透過
フィルター方向	④ <input checked="" type="radio"/> IN <input type="radio"/> OUT
プロトコル	⑤ すべて <input type="text" value="指定時:"/>
TCPフラグ	⑥ 指定なし <input type="text"/>
送信元IPアドレス	⑦ <input type="text"/> マスク <input type="text" value="32"/>
送信元ポート番号	⑧ すべて <input type="text" value="指定時:"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑨ <input type="text"/> マスク <input type="text" value="32"/>
宛先ポート番号	⑩ すべて <input type="text" value="指定時:"/> ~ <input type="text"/>
ステートフルインスペクション(SPI)機能	⑪ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター検索合致時の動作	⑫ <input checked="" type="radio"/> 検索を終了 <input type="radio"/> 検索を継続
SYSLOGに出力	⑬ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

①番号 IPフィルターが比較する順位を指定します。
 選択できる範囲は、「1」～「64」です。
 IPフィルター機能を使用時、本製品が受信、または送信するパケットと[現在の登録]項目の内容を比較します。
 IPフィルター新規作成時、登録したIPフィルターと一致すると比較を終了するように設定されていますが、[フィルター検索合致時の動作](⑫)欄(P.69)で、フィルタリング処理方法を変更できます。

②エントリーの動作 登録するフィルターの使用について設定します。
 (IPフィルター新規作成時の初期値:無効)
 登録しても使用しないときは、「無効」を選択します。
 「無効」で登録すると、下記の画面のように、[現在の登録]項目の[番号]欄に「3 (off)」を表示します。

3 (off)	透過	TCP (指定なし)	* (*)	無効	編集 削除
	IN		* (*)	検索を終了 無効	

③フィルター方法 フィルタリングの方法は、次の2とおりから選択します。
 (IPフィルター新規作成時の初期値:透過)
 ◎遮断 : フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
 ◎透過 : フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。

④フィルター方向 フィルターの対象となるパケットの通信方向を設定します。
 (IPフィルター新規作成時の初期値:IN)
 ◎IN : WAN側から受信するパケットに対してフィルタリング処理をします。
 ◎OUT : WAN側へ送信するパケットに対してフィルタリング処理をします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■IPフィルター設定(つづき)

IPフィルター設定	
番号	① <input type="text"/>
エントリーの動作	② <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター方法	③ <input type="radio"/> 遮断 <input checked="" type="radio"/> 透過
フィルター方向	④ <input checked="" type="radio"/> IN <input type="radio"/> OUT
プロトコル	⑤ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/>
TCPフラグ	⑥ <input type="text"/> 指定なし <input type="text"/>
送信元IPアドレス	⑦ <input type="text"/> マスク <input type="text"/> 32 <input type="text"/>
送信元ポート番号	⑧ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑨ <input type="text"/> マスク <input type="text"/> 32 <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑩ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
ステートフルインスペクション(SPI)機能	⑪ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター検索合致時の動作	⑫ <input checked="" type="radio"/> 検索を終了 <input type="radio"/> 検索を継続
SYSLOGに出力	⑬ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

- ⑤ **プロトコル** …………… フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選択する項目です。 (IPフィルター新規作成時の初期値:すべて)
- ◎ **すべて** : すべてのプロトコルに一致します。
 - ◎ **TCP** : TCPだけに一致します。
 - ◎ **UDP** : UDPだけに一致します。
 - ◎ **TCP/UDP** : TCPとUDPに一致します。
 - ◎ **ICMP** : ICMPだけに一致します。
 - ◎ **IGMP** : IGMPだけに一致します。
 - ◎ **指定** : 右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル番号は、「0~255」までの半角数字を入力します。

- ⑥ **TCPフラグ** …………… [プロトコル] (⑤) 欄で「TCP」を選択したとき、フィルタリングの対象となるTCPの通信フラグを選択する項目です。
(IPフィルター新規作成時の初期値:指定なし)
- 本製品で指定できるTCPフラグは、FIN、SYN、RST、PSH、ACK、URGです。
※選択したTCPフラグは、[現在の登録]項目の[プロトコル(TCPフラグ)]欄で、下記の画面のように表示(例:RST)します。

3	透過	TCP (RST)	* (*)	無効	編集
	IN		* (*)	検索を終了 無効	

※「指定なし」を選択した場合は、TCPのフラグオプションをフィルターの条件にしません。

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■IPフィルター設定(つづき)

IPフィルター設定	
番号	① <input type="text"/>
エントリーの動作	② <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター方法	③ <input type="radio"/> 遮断 <input checked="" type="radio"/> 透過
フィルター方向	④ <input checked="" type="radio"/> IN <input type="radio"/> OUT
プロトコル	⑤ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/>
TCPフラグ	⑥ <input type="text"/> 指定なし <input type="text"/>
送信元IPアドレス	⑦ <input type="text"/> マスク <input type="text"/> 32 <input type="text"/>
送信元ポート番号	⑧ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑨ <input type="text"/> マスク <input type="text"/> 32 <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑩ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
ステートフルインスペクション(SPI)機能	⑪ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター検索合致時の動作	⑫ <input checked="" type="radio"/> 検索を終了 <input type="radio"/> 検索を継続
SYSLOGに出力	⑬ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

⑦送信元IPアドレス ……… 送信元ホストのIPアドレス、サブネットマスク(ビット数)を設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリング処理します。何も設定しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。マスク(ビット数)の選択できる範囲は、「1」～「32」です。

⑧送信元ポート番号 ……… フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。(IPフィルター新規作成時の初期値:すべて)
指定には、2とおりの方法があります。

◎数字で指定するとき

1. 「指定」を選択します。
2. 「指定時:(始点)～(終点)」欄のテキストボックスに番号を入力します。
特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できる範囲は、「1～65535」までの半角数字です。

◎二一モニックで指定するとき

「すべて」、「指定」以外の項目を選択します。
本製品で指定できる二一モニックは、「DNS」、「Finger」、「FTP」、「Gopher」、「NEWS」、「POP3」、「SMTP」、「Telnet」、「Web」、「Whois」です。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■ IPフィルター設定(つづき)

IPフィルター設定	
番号	① <input type="text"/>
エントリーの動作	② <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター方法	③ <input type="radio"/> 遮断 <input checked="" type="radio"/> 透過
フィルター方向	④ <input checked="" type="radio"/> IN <input type="radio"/> OUT
プロトコル	⑤ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/>
TCPフラグ	⑥ <input type="text"/> 指定なし <input type="text"/>
送信元IPアドレス	⑦ <input type="text"/> マスク <input type="text"/> 32 <input type="text"/>
送信元ポート番号	⑧ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑨ <input type="text"/> マスク <input type="text"/> 32 <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑩ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
ステートフルインスペクション(SPI)機能	⑪ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター検索合致時の動作	⑫ <input checked="" type="radio"/> 検索を終了 <input type="radio"/> 検索を継続
SYSLOGに出力	⑬ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

⑨ 宛先IPアドレス …………… 宛先ホストのIPアドレス、サブネットマスク(ビット数)を設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリング処理します。
何も設定しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
マスク(ビット数)の選択できる範囲は、「1」～「32」です。

⑩ 宛先ポート番号 …………… フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
(IPフィルター新規作成時の初期値: すべて)
指定には、2とおりの方法があります。

◎数字で指定するとき

1. 「指定」を選択します。
2. 「指定時: (始点)～(終点)」欄のテキストボックスに番号を入力します。
特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
入力できる範囲は、「1～65535」までの半角数字です。

◎ニーモニックで指定するとき

「すべて」、「指定」以外の項目を選択します。
本製品で指定できるニーモニックは、「DNS」、「Finger」、「FTP」、「Gopher」、「NEWS」、「POP3」、「SMTP」、「Telnet」、「Web」、「Whois」です。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■ IPフィルター設定(つづき)

IPフィルター設定	
番号	① <input type="text"/>
エントリーの動作	② <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター方法	③ <input type="radio"/> 遮断 <input checked="" type="radio"/> 透過
フィルター方向	④ <input checked="" type="radio"/> IN <input type="radio"/> OUT
プロトコル	⑤ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/>
TCPフラグ	⑥ <input type="text"/> 指定なし <input type="text"/>
送信元IPアドレス	⑦ <input type="text"/> マスク <input type="text"/> 32 <input type="text"/>
送信元ポート番号	⑧ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑨ <input type="text"/> マスク <input type="text"/> 32 <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑩ <input type="text"/> すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
ステートフルインスペクション(SPI)機能	⑪ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
フィルター検索合致時の動作	⑫ <input checked="" type="radio"/> 検索を終了 <input type="radio"/> 検索を継続
SYSLOGに出力	⑬ <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

⑪ ステートフルインスペクション(SPI)機能

.....

「有効」に設定すると、IPフィルターを通して本製品のWAN側へ送信されるパケットへの応答だけを、自動的に透過させます。

(IPフィルター新規作成時の初期値:無効)

※ [フィルター方法] (③) 欄を「遮断」に設定したときは、選択できません。

なお、「有効」に設定するときは、下記のように設定すると、本製品のWAN側へパケットを送信できます。

◎ [フィルター方法] : 「透過」

◎ [フィルター方向] : 「OUT」

※出荷時、または全設定を初期化したときから登録されている2番のIPフィルターには、SPI機能が「有効」に設定されています。(P.70)

⑫ フィルター検索合致時の動作

.....

[番号] (①) 欄で指定した順番(1~64)で比較するIPフィルターが一致したときの動作を設定します (IPフィルター新規作成時の初期値: 検索を終了)

◎ **検索を終了** : 登録したIPフィルターと一致すると比較を終了します。

◎ **検索を継続** : 登録したIPフィルターと一致しても検索を継続します。

その結果、ほかに一致するIPフィルターがない場合

先に一致したIPフィルターでフィルタリング処理をします。

その結果、ほかに一致するIPフィルターがある場合

検索終了後、最後に一致したIPフィルターでフィルタリング処理をします。

⑬ SYSLOGに出力

IPフィルター登録時、このオプションを「有効」に設定すると、フィルタリング処理をしたとき、SYSLOGを出力します。

(IPフィルター新規作成時の初期値:無効)

※SYSLOGが出力されると、「管理」メニューの「SYSLOG情報」画面に表示されます。(9章)

※大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。

動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。

3 「ルーター機能設定」メニュー

9. 「IPフィルター設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「IPフィルター設定」

■現在の登録

[IPフィルター設定]項目(P.65~P.69)から登録した現在の各エントリーの内容を表示します。

現在の登録					
番号	フィルター方法	プロトコル (TCPフラグ)	送信元IPアドレス (送信元ポート番号)	SPI機能 フィルタ 一致時	
	フィルター方向		宛先IPアドレス (宛先ポート番号)	SYSLOG に出力	
1	遮断	すべて	*(*)	無効	①編集 ②削除
	IN		*(*)	検索を 継続	
			()	無効	
			()	有効	
64	遮断	UDP	*(137-139)	無効	編集 削除
	OUT		*(137-139)	検索を 継続	
			*(137-139)	無効	

※画面の内容は、登録例です。

出荷時、または全設定を初期化したときから登録されているIPフィルターについて

- ◎1番 : 受信するパケットをすべて遮断する
- ◎2番 : 送信するパケット、およびそれに対する応答パケットをすべて通過する
※本製品から送信したパケットに対する応答パケットは、ステートフルインスペクション(SPI)機能が有効に設定されていますので、1番のIPフィルターでは遮断されません。
- ◎58番 : FTPを通過させる
- ◎59~64番 : Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性、およびファイル共有機能による外部への情報漏えいを防止する

※「*」は、各欄で設定できる「すべて」を対象としています。

- ①<編集> ボタンの左側に表示されたIPフィルターを編集するボタンです。
<編集>をクリックすると、表示された内容を[IPフィルター設定]項目の各欄に表示します。
- ②<削除> ボタンの左側に表示されたIPフィルターを削除するボタンです。

3 「ルーター機能設定」メニュー

10. 「簡易DNS設定」画面

「ルーター機能設定」-「簡易DNS設定」

本製品の代理DNSサーバー機能についての設定画面です。

■DNSサーバーの代理応答

本製品の代理DNSサーバー機能について設定します。

DNSサーバーの代理応答	
DNS代理応答機能	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

DNS代理応答機能 …………… 本製品のDNS代理応答機能を設定します。 (出荷時の設定: 有効)
DNS代理応答機能とは、端末からのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバーへ転送する機能です。
「有効」に設定すると、本製品のアドレスをネットワーク上の端末にDNSサーバーとして設定している場合、本製品が接続する先のDNSサーバーのアドレスが変更になったときでも、端末側の設定を変更する必要がありません。

■簡易DNSサーバー設定

本製品を簡易DNSサーバーとして使用するとき設定します。

簡易DNSサーバー設定		
IPアドレス	ホスト名	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>

端末のホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを入力して、〈追加〉をクリックします。
登録すると、ドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に回答します。
※最大32個の組み合わせまで登録できます。
※本製品のDNS代理応答機能を使用する場合に有効です。
※ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバーを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。
※ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答します。

■現在の登録

[簡易DNSサーバー設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録		
IPアドレス	ホスト名	
192.168.1.50	<input type="text"/>	<input type="button" value="削除"/>

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

本製品のICMPステルスモード機能についての設定画面です。

■ ICMPステルス

本製品のICMPステルスモード機能を設定します。

ICMPステルス	
ICMPステルス機能①	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
SYSLOGに出力 ②	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

- ① **ICMPステルス機能**…………… 本製品のICMPステルスモード機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、WAN側ポートがICMP Echo要求(Ping)に応答しなくなります。
- ② **SYSLOGに出力** …………… 「有効」に設定すると、WAN側ポートがICMP Echo要求(Ping)を受信したとき、SYSLOGを出力します。 (出荷時の設定:無効)
また、WAN側からICMP Echo要求(Ping)を受信した場合、[ICMPステルス機能] (①)欄の設定に関係なく、SYSLOGを出力します。
そのときの通知レベルは、NOTICEです。
※SYSLOGが出力されると、「管理」メニューの「SYSLOG情報」画面に表示されます。(9章)
※大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。
動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。

パケットを設定されたルールにしたがって優先して送信するための設定画面です。

■ QoS設定

IP電話機による通話中、および[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続された電話機の通話中(オフフックの状態を含む)のとき、WANとLAN間のデータ通信を設定した帯域で制限するための設定をします。

QoS設定			
QoS機能 ①		<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効
送信帯域制限 ②	WAN	10.0	Mbps
	LAN	10.0	Mbps

① **QoS機能** …………… パケット処理の優先制御機能について設定します。(出荷時の設定:有効)
 「有効」に設定すると、[QoSルール設定]項目(P.74)から登録したQoSルールが有効になり、パケットを優先して送信し、それ以外の送信帯域を制限できます。
 ※「SIP拡張設定」メニュー→「拡張設定」画面→[VoIP設定]項目(P.198)で、「TOS」、または「Diffserv」を設定すると、VoIPのパケットのTOSを設定します。

② **送信帯域制限** …………… 優先処理されないデータを送信できる帯域をインターフェースごとに、0.1Mbps単位で設定します。(出荷時の設定:10.0)
 設定された帯域を超えるパケットは抑止されますが、優先設定されたパケットは、設定された帯域に関係なく送信されます。
 設定できる範囲は、「0.0~100.0」(Mbps)です。
 ※0.0を設定しても、通信は完全に遮断できません。

送信帯域制限値の目安について

本製品は、最大12通話(内線:4通話と外線:8通話)を使用中でも、20Mbpsの送信帯域制限値を確保できます。

※「ルーター機能設定」メニューにある以下の機能と併用する場合、通話品質確保のため、送信帯域制限値は、10.0Mbps(出荷時の設定)の状態でお使いください。

◎「NAT設定」画面の[DMZホスト設定]項目(P.58)をお使いの場合

◎「IPフィルター設定」画面の[現在の登録]項目に、合計30件以上のIPフィルターを登録(P.70)してお使いの場合

※本製品には、各種ログ機能が搭載されていますが、大量のログを処理すると、システム処理速度に影響します。

動作確認や試験運用以外は、電話の通話品質を確保するため、ご利用をお控えください。

3 「ルーター機能設定」メニュー

12. 「QoS設定」画面(つづき)

「ルーター機能設定」-「QoS設定」

■QoSルール設定

優先するパケットの条件を、TOS値で指定します。

QoSルール設定	
番号 ①	<input type="text"/> <input type="button" value="追加"/>
TOS値 ②	<input type="text"/> 16進数で入力(01~FF)

- ①番号 QoSルールを登録するために、「1~8」の番号を入力します。
最大8件まで登録できます。
登録すると、本製品がパケットを送信するごとに、[現在の登録]項目に表示されたルールと比較します。
※番号が指定されていないときは、登録できません。
- 〈追加〉
新規作成、または編集した内容をQoSルールとして登録するとき、クリックします。
※[現在の登録]項目で登録内容をご確認ください。
※QoSのルールは、1つ以上指定してください。
- ②TOS値 対象となるTOS値を入力します。
設定できる範囲は、16進数(半角英数字)「01~FF」です。

■現在の登録

[QoSルール設定]項目から登録した内容を表示します。

現在の登録			
番号	TOS値	①	②
1	B8	<input type="button" value="編集"/>	<input type="button" value="削除"/>
2	80	<input type="button" value="編集"/>	<input type="button" value="削除"/>

※[QoS設定]項目の[QoS機能]欄(P.73)を「有効」に設定しているとき有効な機能です。

出荷時の状態では、VoIP関連のパケットを優先できるように、番号「1」にTOS値「B8」、「2」にTOS値「80」が登録されています。

- ①〈編集〉 ボタンの左側に表示されたQoSルールを編集するボタンです。
〈編集〉をクリックすると、表示された内容を[QoSルール設定]項目の各欄に表示します。
- ②〈削除〉 ボタンの左側に表示されたQoSルール設定を削除するボタンです。

この章では、
管理者用の「電話回線設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 「アナログ電話回線1/2」画面	76
■ PSTN設定(1)/(2)	76
■ モデムダイヤルイン設定	80
2. 「ISDN共通設定」画面	81
■ ISDN共通設定	81
3. 「ISDN回線1/2/3」画面	82
■ ISDN設定(1)/(2)/(3)	82
■ i-ナンバー/ダイヤルイン設定	84
4. 「代表取扱サービス」画面	86
■ 代表取扱サービス設定	86
■ 使用する回線の設定	87
■ 契約回線設定	88
■ ダイヤルイン設定	88
5. 「IP回線」画面	89
■ SIPサーバー接続共通設定	89
■ SIPサーバー設定 (ひかり電話(網直収))	92
■ SIPサーバー設定 (ひかり電話(GW配下))	94
■ SIPサーバー設定 (サーバー接続)	96
■ SIPサーバー設定一覧(契約者番号) (ひかり電話(網直収))	97
■ SIPサーバー設定一覧(追加番号) (ひかり電話(網直収))	98
■ SIPサーバー設定一覧(ひかり電話(GW配下))	99
■ SIPサーバー設定一覧(サーバー接続)	101
■ SIPサーバー一括設定 (ひかり電話(網直収))	103
■ SIPサーバー一括設定 (ひかり電話(GW配下))	104
■ SIPサーバー一括設定 (サーバー接続)	105
6. 「回線グループ設定」画面	106
■ 回線スライド設定	106
■ 回線グループ設定	107
■ 現在の登録	107

表示される設定項目について

「IP回線」画面で表示される[SIPサーバー接続共通設定]項目の設定内容に応じて、表示される設定項目が一部変更になります。

(ひかり電話(網直収)) は、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定項目です。

(ひかり電話(GW配下)) は、「ひかり電話(GW配下)」を選択したときに表示される設定項目です。

(サーバー接続) は、「サーバー接続」を選択したときに表示される設定項目です。

4 「電話回線設定」メニュー

1. 「アナログ電話回線1/2」画面

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

ご使用のアナログ電話回線(LINE1/LINE2)についての設定画面です。

■PSTN設定(1)/(2)

ご使用のアナログ電話回線(LINE1/LINE2)についての設定です。

PSTN設定(1)		
アナログ回線種別	①	自動
回線種別判別結果	②	未確認
発信待ち時間	③	50 ms
受話音量	④	0 dB
送話音量	⑤	0 dB
エコーキャンセラー	⑥	有効(起動時最適化)
最適化状況	⑦	未最適化
最適化を行う	⑧	<input type="button" value="実行"/> <input type="button" value="更新"/>
エコーサプレッション	⑨	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッションレベル	⑩	-30 dB
CNG	⑪	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
CNGレベル	⑫	-52 dB
ナンバーディスプレイ	⑬	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 自動
契約回線番号	⑭	

※[LINE1]ポートと[LINE2]ポートは、個別に設定できます。

※「アナログ電話回線1」画面を使用して説明しています。

- ① **アナログ回線種別** …… 本製品の[LINE1]ポート/[LINE2]ポートに接続するアナログ電話回線の種類を設定します。(出荷時の設定:自動)
※設定した回線種別が実際の回線と異なると、アナログ電話回線から発信できませんのでご注意ください。
- ◎**自動**
接続するアナログ電話回線のダイヤル方式を自動判別させるとき
- ◎**PB**
接続するアナログ電話回線のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
- ◎**DP(20pps)**
接続するアナログ電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
- ◎**DP(10pps)**
接続するアナログ電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき
- ② **回線種別判別結果** …… 回線種別の自動判別結果を、「未確認」/「PB回線」/「DP回線」で表示します。
※[アナログ回線種別]①欄で「自動」以外を選択すると、[回線種別判別結果]欄は表示されません。
- ③ **発信待ち時間** …… ダイヤルトーン検出後、ダイヤリングするまでの待ち時間を設定します。
設定できる範囲は、「50」(ms)~「3300」(ms)です。(出荷時の設定:50)
※ダイヤルの頭切れが発生する場合に、この待ち時間を調整してください。
- ④ **受話音量** …… アナログ電話回線使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を設定します。(出荷時の設定:0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)~「+6」(最大音量)(dB)です。

4 「電話回線設定」メニュー

1. 「アナログ電話回線1/2」画面

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

■PSTN設定(1)/(2)つづき

PSTN設定(1)		
アナログ回線種別	①	自動
回線種別判別結果	②	未確認
発信待ち時間	③	50 ms
受話音量	④	0 dB
送話音量	⑤	0 dB
エコーキャンセラー	⑥	有効(起動時最適化)
最適化状況	⑦	未最適化
最適化を行う	⑧	<input type="button" value="実行"/> <input type="button" value="更新"/>
エコーサプレッション	⑨	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッションレベル	⑩	-30 dB
CNG	⑪	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
CNGレベル	⑫	-52 dB
ナンバーディスプレイ	⑬	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 自動
契約回線番号	⑭	

※ [LINE1] ポートと [LINE2] ポートは、個別に設定できます。

※ 「アナログ電話回線1」画面を使用して説明しています。

⑤ **送話音量** …………… アナログ電話回線使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を設定します。
(出荷時の設定: 0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

⑥ **エコーキャンセラー** …… ご使用のアナログ回線に合わせて、本製品のエコーキャンセラーを最適化します。
(出荷時の設定: 有効(起動時最適化))

※最適化には、約30秒かかります。

※ [アナログ回線種別] (①) 欄で「自動」に設定しているときは、回線種別の自動判別と最適化が同時に動作します。

◎有効(起動時最適化)

本製品の電源投入時、自動的に最適化されます。

通常は、「する(起動時最適化)」を選択してください。

※本製品の電源を入れてから、[LINE] ポートに接続した場合は、回線を認識したあと、最適化を開始します。

◎有効(最適化手動)

[最適化を行う] (⑧) 欄の〈実行〉をクリックするまで最適化されません。

※回線種別を「自動」に設定しているときは、自動的に最適化されます。

※自動的に最適化しない場合は、回線種別をお使いの回線に応じて、「自動」以外に変更してください。

◎無効

本製品のエコーキャンセラーを無効にします。

※回線種別を「自動」に設定しているときには、最適化の動作をしますが、本製品のエコーキャンセラーは無効となります。

4 「電話回線設定」メニュー

1. 「アナログ電話回線1/2」画面

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

■PSTN設定(1)/(2)つづき

PSTN設定(1)		
アナログ回線種別	①	自動
回線種別判別結果	②	未確認
発信待ち時間	③	50 ms
受話音量	④	0 dB
送話音量	⑤	0 dB
エコーキャンセラー	⑥	有効(起動時最適化)
最適化状況	⑦	未最適化
最適化を行う	⑧	<input type="button" value="実行"/> <input type="button" value="更新"/>
エコーサプレッション	⑨	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッションレベル	⑩	-30 dB
CNG	⑪	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
CNGレベル	⑫	-52 dB
ナンバーディスプレイ	⑬	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 自動
契約回線番号	⑭	

※ [LINE1] ポートと [LINE2] ポートは、個別に設定できます。

※ 「アナログ電話回線1」画面を使用して説明しています。

- ⑦ **最適化状況** …………… 回線への最適化状況を、「未最適化」/「最適化中」/「最適化終了」/「最適化失敗」で表示します。
- ⑧ **最適化を行う** …………… **〈実行〉**
 手動で最適化するとき、クリックします。
〈更新〉
 現在の最適化状況を更新するとき、クリックします。
 ※ クリックしても「最適化状況」(⑦)欄に「最適化失敗」と表示された場合は、回線の接続などをご確認ください。
- ⑨ **エコーサプレッション** …… 本製品のエコーサプレッション機能について設定します。
 (出荷時の設定: 有効)
 「有効」に設定すると、電話回線への送話音の大きさを検知し、受話音量を低減することでエコーを抑止します。
- ⑩ **エコーサプレッション
 レベル** …………… エコーサプレッション機能使用時のエコー抑止レベルを設定します。
 (出荷時の設定: -30)
 設定できる範囲は、「-65」(最小)~「0」(最大)(dB)です。
 電話回線でのダブルトーク時、途切れ感がある場合にレベルを下げます。
 ※ レベルを下げすぎると、エコー量が増加しますのでご注意ください。

4 「電話回線設定」メニュー

1. 「アナログ電話回線1/2」画面

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

■PSTN設定(1)/(2)つづき

PSTN設定(1)		
アナログ回線種別	①	自動
回線種別判別結果	②	未確認
発信待ち時間	③	50 ms
受話音量	④	0 dB
送話音量	⑤	0 dB
エコーキャンセラー	⑥	有効(起動時最適化)
最適化状況	⑦	未最適化
最適化を行う	⑧	<input type="button" value="実行"/> <input type="button" value="更新"/>
エコーサプレッション	⑨	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッションレベル	⑩	-30 dB
CNG	⑪	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
CNGレベル	⑫	-52 dB
ナンバーディスプレイ	⑬	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 自動
契約回線番号	⑭	<input type="text"/>

※ [LINE1] ポートと [LINE2] ポートは、個別に設定できます。

※ 「アナログ電話回線1」画面を使用して説明しています。

- ⑪ **CNG** …………… 本製品のCNG(コンフォートノイズ生成)機能について設定します。
(出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、回線側から、こちらの受話器に聞こえる受話音に少しノイズ(サー)を付加して無通話時の違和感を軽減します。
- ⑫ **CNGレベル** …………… CNG機能使用時、回線側から、こちらの受話器に聞こえるノイズ(サー)の音量を設定します。
(出荷時の設定: -52)
設定できる範囲は、「-65」(最小音量)～「-30」(最大音量)(dB)です。
- ⑬ **ナンバーディスプレイ** …… 本製品の [LINE] ポートに接続する電話回線で機能するナンバーディスプレイ機能について設定します。
(出荷時の設定:自動)
※ナンバーディスプレイサービスを使用する場合、電話機がナンバーディスプレイ機能に対応していることをご確認ください。
- ⑭ **契約回線番号** …………… アナログ回線でご契約の電話番号を、市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。

4 「電話回線設定」メニュー

1. 「アナログ電話回線1/2」画面(つづき)

「電話回線設定」-「アナログ電話回線1/2」

■モデムダイヤルイン設定

「モデムダイヤルインサービス」でご契約の電話番号を追加登録する設定です。

モデムダイヤルイン設定	
モデムダイヤルイン ①	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
モデムダイヤルイン番号 ②	1 <input type="text"/>
	2 <input type="text"/>
	3 <input type="text"/>
	4 <input type="text"/>
	5 <input type="text"/>
	6 <input type="text"/>
	7 <input type="text"/>
	8 <input type="text"/>
	9 <input type="text"/>
	10 <input type="text"/>
	11 <input type="text"/>
	12 <input type="text"/>
	13 <input type="text"/>
	14 <input type="text"/>
	15 <input type="text"/>
	16 <input type="text"/>
	17 <input type="text"/>
	18 <input type="text"/>
	19 <input type="text"/>
	20 <input type="text"/>
	21 <input type="text"/>
	22 <input type="text"/>
	23 <input type="text"/>
	24 <input type="text"/>
	25 <input type="text"/>
	26 <input type="text"/>
	27 <input type="text"/>
	28 <input type="text"/>
	29 <input type="text"/>
	30 <input type="text"/>
	31 <input type="text"/>
	32 <input type="text"/>

※ [LINE1] ポートと [LINE2] ポートは、個別に設定できます。

※ 「アナログ電話回線1」画面を使用して説明しています。

- ① **モデムダイヤルイン** …… 本製品の [LINE1] ポート/[LINE2] ポートに接続する電話回線で機能する、モデムダイヤルイン機能の利用を設定します。 (出荷時の設定: 無効)
※ モデムダイヤルイン機能を使用する場合、電話回線がモデムダイヤルインサービスに対応していることをご確認ください。
- ② **モデムダイヤルイン番号** …… ご契約の「モデムダイヤルインサービス」で取得した電話番号を、市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
最大32件まで登録できます。

ご使用のISDN回線(ISDN1/ISDN2/ISDN3)共通の機能についての設定画面です。

■ ISDN共通設定

ご使用のISDN回線(ISDN1/ISDN2/ISDN3)共通の機能についての設定です。

ISDN共通設定	
ISDNマスタークロック	自動 ▼

ISDNマスタークロック ……

ISDN回線1～ISDN回線3のポートに接続された回線のクロック信号で同期を取ります。
(出荷時の設定:自動)

◎自動

ISDN回線1～ISDN回線3のポートの中で、小さい番号のポートを優先して同期します。

たとえば、ISDN回線1～ISDN回線3のすべてが接続されている場合は、ISDN回線1のポートで同期します。

ISDN回線2とISDN回線3が接続されている場合は、ISDN回線2のポートで同期します。

◎ISDN回線1～ISDN回線3

指定したISDN回線のクロック信号に同期します。

※マスタークロックは、ISDN回線から供給されており、接続されるISDN機器(本製品など)と同期を取るための基準となる信号です。

4 「電話回線設定」メニュー

3. 「ISDN回線1/2/3」画面

「電話回線設定」-「ISDN回線1/2/3」

ご使用のISDN回線、およびINSダイヤルインサービスについての設定画面です。

■ ISDN設定(1)/(2)/(3)

ご使用のISDN回線(ISDN1/ISDN2/ISDN3)についての設定です。

ISDN設定(1)		
受話音量	①	0 dB
送話音量	②	0 dB
エコーキャンセラー	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッション	④	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッションレベル	⑤	-30 dB
CNG	⑥	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
CNGレベル	⑦	-52 dB
契約回線番号	⑧	03
発番号通知	⑨	<input type="radio"/> 通知しない <input checked="" type="radio"/> 通知する

※ISDN1/ISDN2/ISDN3は、個別に設定できます。

※「ISDN回線1」画面を使用して説明しています。

- ① **受話音量** ISDN回線使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を設定します。
(出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ② **送話音量** ISDN回線使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を設定します。
(出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ **エコーキャンセラー** ご使用のISDN回線について、エコーキャンセラー機能を設定します。
(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、通話するとき起こるエコー(反響)を低減します。
- ④ **エコーサプレッション** ... 本製品のエコーサプレッション機能について設定します。
(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、電話回線への送話音の大きさを検知し、受話音量を低減することでエコーを抑止します。
- ⑤ **エコーサプレッション
レベル** エコーサプレッション機能使用時のエコー抑止レベルを設定します。
(出荷時の設定：-30)
設定できる範囲は、「-65」(最小)～「0」(最大)(dB)です。
電話回線でのダブルトーク時、途切れ感がある場合にレベルを下げます。
※レベルを下げすぎると、エコー量が増加しますのでご注意ください。
- ⑥ **CNG** 本製品のCNG(コンフォートノイズ生成)機能について設定します。
(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、回線側から、こちらの受話器に聞こえる受話音に少しノイズ(サー)を付加して無通話時の違和感を軽減します。

4 「電話回線設定」メニュー

3. 「ISDN回線1/2/3」画面

「電話回線設定」-「ISDN回線1/2/3」

■ISDN設定(1)/(2)/(3)つづき

ISDN設定(1)		
受話音量	①	0 dB
送話音量	②	0 dB
エコーキャンセラー	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッション	④	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッションレベル	⑤	-30 dB
CNG	⑥	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
CNGレベル	⑦	-52 dB
契約回線番号	⑧	03
発番号通知	⑨	<input type="radio"/> 通知しない <input checked="" type="radio"/> 通知する

※ISDN1/ISDN2/ISDN3は、個別に設定できます。

※「ISDN回線1」画面を使用して説明しています。

- ⑦ **CNGレベル** …………… CNG機能使用時、回線側から、こちらの受話器に聞こえるノイズ(サー)の音量を設定します。
(出荷時の設定: -52)
設定できる範囲は、「-65」(最小音量)～「-30」(最大音量)(dB)です。
- ⑧ **契約回線番号** …………… ISDN回線でご契約の電話番号を、市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
- ⑨ **発番号通知** …………… 契約回線番号を使用して電話をかけたとき、電話番号を相手側に通知する機能について設定します。
(出荷時の設定: 通知する)
「通知する」に設定すると、[契約回線番号](⑧)欄(ISDN回線の契約電話番号)に設定した電話番号を相手側へ自動的に通知します。

4 「電話回線設定」メニュー

3. 「ISDN回線1/2/3」画面(つづき)

「電話回線設定」-「ISDN回線1/2/3」

■i-ナンバー/ダイヤルイン設定

i-ナンバー、またはINSダイヤルインサービスでご契約の電話番号を追加登録する設定です。

※代表取扱サービス、ダイヤルインとの併用はできません。

使用するサービス:無効

i-ナンバー/ダイヤルイン設定			
使用するサービス	①	<input checked="" type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> i-ナンバー <input type="radio"/> ダイヤルイン

使用するサービス:i-ナンバー

i-ナンバー/ダイヤルイン設定			
使用するサービス	①	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> i-ナンバー <input type="radio"/> ダイヤルイン
i-ナンバー	②	番号 i-ナンバー番号	発番号通知
		2	<input type="text"/> 通知する ▼
		3	<input type="text"/> 通知する ▼

使用するサービス:ダイヤルイン

i-ナンバー/ダイヤルイン設定				
使用するサービス	①	<input type="radio"/> 無効	<input type="radio"/> i-ナンバー	<input checked="" type="radio"/> ダイヤルイン
ダイヤルイン	③	番号 ダイヤルイン番号	発番号通知	
		1	<input type="text"/> 通知する ▼	
		30	<input type="text"/> 通知する ▼	
		31	<input type="text"/> 通知する ▼	
		32	<input type="text"/> 通知する ▼	

※ISDN1/ISDN2/ISDN3は、個別に設定できます。

※「ISDN回線1」画面を使用して説明しています。

- ①使用するサービス …………… ご契約のサービスを使用するとき設定します。 (出荷時の設定:無効)
- ◎無効
i-ナンバー、またはINSダイヤルインサービスを使用しないとき
 - ◎i-ナンバー
i-ナンバーでご契約の電話番号を使用するとき
 - ◎ダイヤルイン
INSダイヤルインサービスでご契約の電話番号を使用するとき
- ②i-ナンバー …………… i-ナンバーの契約で指定された電話番号を[i-ナンバー番号]欄のテキストボックスに市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
追加番号の1つ目を[番号]欄2の行にある[i-ナンバー番号]欄、追加番号の2つ目を[番号]欄3の行にある[i-ナンバー番号]欄に設定します。
※[発番号通知]欄では、[i-ナンバー番号]欄に設定した電話番号を相手側に通知する機能について、「通知する」か「通知しない」を選択します。
(出荷時の設定:通知する)
「通知する」に設定すると、[i-ナンバー番号]欄に設定した電話番号を自動的に相手側に通知します。

4 「電話回線設定」メニュー

3. 「ISDN回線1/2/3」画面

「電話回線設定」-「ISDN回線1/2/3」

■i-ナンバー/ダイヤルイン設定(つづき)

使用するサービス:無効

i-ナンバー/ダイヤルイン設定	
使用するサービス ①	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> i-ナンバー <input type="radio"/> ダイヤルイン

使用するサービス:i-ナンバー

i-ナンバー/ダイヤルイン設定	
使用するサービス ①	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> i-ナンバー <input type="radio"/> ダイヤルイン
i-ナンバー ②	番号 i-ナンバー番号 発番号通知
	2 <input type="text"/> 通知する ▼
	3 <input type="text"/> 通知する ▼

使用するサービス:ダイヤルイン

i-ナンバー/ダイヤルイン設定	
使用するサービス ①	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> i-ナンバー <input checked="" type="radio"/> ダイヤルイン
ダイヤルイン ③	番号 ダイヤルイン番号 発番号通知
	1 <input type="text"/> 通知する ▼
	2 <input type="text"/> 通知する ▼
	31 <input type="text"/> 通知する ▼
	32 <input type="text"/> 通知する ▼

※ISDN1/ISDN2/ISDN3は、個別に設定できます。

※「ISDN回線1」画面を使用して説明しています。

③ダイヤルイン ……………

INSダイヤルインサービスの契約で指定された電話番号を[ダイヤルイン番号1]欄~[ダイヤルイン番号32]欄に半角で入力します。

入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。

※[発番号通知]欄では、[ダイヤルイン番号]欄に設定した電話番号を相手側に通知する機能について、「通知する」か「通知しない」を選択します。

(出荷時の設定:通知する)

「通知する」に設定すると、[ダイヤルイン番号]欄に設定した電話番号を自動的に相手側に通知します。

4 「電話回線設定」メニュー

4. 「代表取扱サービス」画面

「電話回線設定」-「代表取扱サービス」

■代表取扱サービス設定

代表取扱サービスとINSダイヤルインサービスとの併用について設定します。

代表取扱サービスとは、回線接続業者への申し込みが必要なサービスで、同一拠点に設置される複数の契約回線番号でグループ(代表群)を形成し、あらかじめ設定した代表(親)番号に着信通話があった場合、代表群から話中でない回線を自動的に選択して着信させるサービスについての設定です。

※代表取扱サービスが使用できる回線は、ISDN回線だけです。

※代表取扱サービスでは、i・ナンバーサービスは利用できません。

代表取扱サービス設定

代表取扱サービス

無効 有効

代表取扱サービス……………

代表取扱サービスの使用について設定します。 (出荷時の設定:無効)
「有効」に設定すると、[使用する回線の設定]項目(P.87)、[契約回線設定]項目(P.88)、[ダイヤルイン設定]項目(P.88)に設定された内容が有効になります。

■使用する回線の設定

代表取扱サービスで使用するISDN回線を指定するための設定です。

使用する回線の設定	
ISDN回線	<input type="checkbox"/> ISDN回線1
	<input type="checkbox"/> ISDN回線2
	<input type="checkbox"/> ISDN回線3

ISDN回線

[代表取扱サービス設定]項目で[代表取扱サービス]欄を「有効」に設定したとき、「ISDN回線1」～「ISDN回線3」のうち、どの回線を代表取扱サービスで使用するかを設定します。

代表取扱サービスで使用する回線番号のチェックボックスをクリックして、チェックマーク[✓]を入れます。

(出荷時の設定: ISDN回線1
 ISDN回線2
 ISDN回線3)

※「ISDN回線1」～「ISDN回線3」からどの組み合わせでも代表取扱サービスに指定できます。

例: 2回線代表とする場合

ISDN回線1、 ISDN回線2、 ISDN回線3

ISDN回線1、 ISDN回線2、 ISDN回線3

ISDN回線1、 ISDN回線2、 ISDN回線3

例: 3回線代表とする場合

ISDN回線1、 ISDN回線2、 ISDN回線3

※代表取扱サービスで使用するISDN回線については、「ISDN回線1/2/3」画面(P.82)での電話番号や番号通知の設定はできません。

「ISDN回線1/2/3」画面でこれらを先に設定していた場合、「代表取扱サービス」画面の設定内容に上書きされます。

4 「電話回線設定」メニュー

4. 「代表取扱サービス」画面(つづき)

「電話回線設定」-「代表取扱サービス」

■ 契約回線設定

代表取扱サービスでご契約の代表(親)番号の設定です。

契約回線設定	
契約回線番号 ①	<input type="text"/>
発番号通知 ②	<input type="radio"/> 通知しない <input checked="" type="radio"/> 通知する

- ① 契約回線番号 …………… 代表取扱サービスで代表(親)となる電話番号を、市外局番から半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
- ② 発番号通知 …………… 代表取扱サービスで代表(親)となる電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定: 通知する)
- ◎通知しない
発信先に電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[契約回線番号] (①) 欄で設定された電話番号を発信先に通知します。

■ ダイヤルイン設定

代表取扱サービスと併用するINSダイヤルインサービスの契約で指定された電話番号についての設定です。
※代表取扱サービスでは、i・ナンバーサービスは利用できません。

ダイヤルイン設定			
ダイヤルイン	番号	ダイヤルイン番号	発番号通知
	1	<input type="text"/>	通知する ▼
	2	<input type="text"/>	通知する ▼
	3	<input type="text"/>	通知する ▼
	4	<input type="text"/>	通知する ▼
	5	<input type="text"/>	通知する ▼
	6	<input type="text"/>	通知する ▼
	30	<input type="text"/>	通知する ▼
	31	<input type="text"/>	通知する ▼
	32	<input type="text"/>	通知する ▼

- ダイヤルイン…………… [使用する回線の設定] 項目の[ISDN回線] 欄(P.87)で指定した回線が、共通で使用するダイヤルイン番号(契約回線番号を含む)を[ダイヤルイン番号1] 欄~[ダイヤルイン番号32] 欄に半角で入力します。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
※ [発番号通知] 欄では、[ダイヤルイン番号] 欄に設定した電話番号を相手側に通知する機能について、「通知する」か「通知しない」かを選択します。
(出荷時の設定: 有効)
「通知する」に設定すると、[ダイヤルイン番号] 欄に設定した電話番号を自動的に相手側に通知します。

本製品が接続するIP回線についての設定画面です。

■SIPサーバー接続共通設定

本製品が接続するSIPサーバーについての設定です。

SIPサーバー接続共通設定			
接続先の選択	①	ひかり電話(GW配下)	▼
SIP接続簡易設定	②	半自動	▼
自動設定に使用するサーバー番号	③	1	▼
SIP設定取得	④	開始	

※説明には、「ひかり電話(GW配下)」(半自動)で接続するときの設定画面を使用しています。

① 接続先の選択 ……………

IP電話への接続するために、ご契約のIP電話接続業者が指定するSIPサーバーを選択します。
(出荷時の設定:ひかり電話(網直収))

接続先を変更すると、[SIPサーバー設定]項目(P.92~P.96)と、「ルーター機能設定」メニューにある「QoS設定」画面の「QoSルール設定」項目(P.74)で設定した内容が消去されます。

◎ひかり電話(網直収)

NTT東日本、またはNTT西日本のフレッツ光ネクスト(インターネット接続サービス)で提供するひかり電話サービスで、本製品が直接収容されます。

※本製品が対応するひかり電話サービスは、ひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタ입、ひかり電話オフィスエースの3種類です。

※ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイは必要ありません。

※「ルーター機能設定」メニュー→「WAN動作モード設定」画面→「回線種別設定」項目の「回線種別」欄で「DHCPクライアント」、または「固定IP」が設定されている場合は、「使用しない」に設定されます。

※「ルーター機能設定」メニューに「VoIP用WAN側設定」画面が表示されません。

◎ひかり電話(GW配下)

NTT東日本、またはNTT西日本のフレッツ光ネクスト(インターネット接続サービス)で提供するひかり電話サービスで、本製品をNTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続して、ひかり電話サービスを使用するとき設定します。

◎サーバー接続

簡易中継サーバー(親機)の子機として、簡易中継サーバーと接続するとき設定します。

※2016年5月現在、VE-AG1(アナログ回線)、VE-IG1(ISDN回線)を本製品と接続する場合にも、この設定を使用します。

◎使用しない

相手のSIP URI(相手先のIPアドレス)を登録して、Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)で使用するとき設定します。

■SIPサーバー接続共通設定(つづき)

SIPサーバー接続共通設定	
接続先の選択	① ひかり電話(GW配下) ▼
SIP接続簡易設定	② 半自動 ▼
自動設定に使用するサーバー番号	③ 1 ▼
SIP設定取得	④ 開始

※説明には、「ひかり電話(GW配下)」(半自動)で接続するときの設定画面を使用しています。

②SIP接続簡易設定……………

ひかり電話(網直収)

ひかり電話(GW配下)

本製品の起動時やDHCP更新時、[SIPサーバー設定]項目(P.92、P.94)を自動的に設定する機能です。 (出荷時の設定:有効)

[接続先の選択] (①)欄で、「ひかり電話(網直収)」を選択時は「無効」、「有効」から選択、「ひかり電話(GW配下)」を選択時は「無効」、「半自動」、「自動」から選択できます。

◎無効

自動設定しません。

◎有効

自動設定します。

◎半自動

[SIP設定取得] (④)欄の<開始>をクリックすると、[自動設定に使用するサーバー番号] (③)欄(P.91)で選択した番号の[SIPサーバー設定]項目(P.92、P.94)に登録するIP電話番号の設定情報を、上位ゲートウェイ機器から取得します。

DHCPで取得した「SIPサーバーアドレス」と「SIPサービスドメイン」を[SIPサーバー設定]項目に設定します。

◎自動

本製品の起動時やDHCP更新時、DHCPで上位機器から配られたIP電話番号の設定情報を、上位ゲートウェイ機器から取得し、[SIPサーバー設定]項目(P.92、P.94)に設定します。

[SIP設定取得] (④)欄の<開始>をクリックすると、[自動設定に使用するサーバー番号] (③)欄(P.91)で選択した番号の[SIPサーバー設定]項目(P.92、P.94)に登録するIP電話番号の設定情報を、上位ゲートウェイ機器から取得します。

DHCPで取得した「SIPサーバーアドレス」と「SIPサービスドメイン」を[SIPサーバー設定]項目に設定します。

ひかり電話におけるSIP設定自動取得についての注意

ひかり電話(網直収) は、ひかり電話網からDHCPで、契約番号(SIPアカウント)を自動取得します。

追加番号契約がある場合は、追加番号を4つまで自動取得します。

なお、追加番号が5つ以上の場合、すべての追加番号を手動で追加する必要があります。

ひかり電話(GW配下) は、上位のゲートウェイからDHCPで、上位のゲートウェイに設定した子機アカウント1つを自動取得します。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」-「IP回線」

■SIPサーバー接続共通設定(つづき)

SIPサーバー接続共通設定	
接続先の選択	① ひかり電話(GW配下) ▼
SIP接続簡易設定	② 半自動 ▼
自動設定に使用するサーバー番号	③ 1 ▼
SIP設定取得	④ <input type="button" value="開始"/>

※説明には、「ひかり電話(GW配下)」(半自動)で接続するときの設定画面を使用しています。

③自動設定に使用する

サーバー番号

電話番号に対するSIPサーバーの設定が、[SIPサーバー設定]項目(P.92、P.94)に自動設定される番号を選択します。(出荷時の設定:1)

設定できる範囲は、「1」～「32」です。

※「ひかり電話(網直収)」を選択時は、[SIP接続簡易設定](②)欄で「有効」を選択したとき表示されます。

※[接続先の選択](①)欄で「ひかり電話(GW配下)」を選択時は、[SIP接続簡易設定](②)欄で「半自動」、または「自動」を選択したとき表示されます。

④SIP設定取得

[SIPサーバー設定]項目の設定内容を取得するとき、〈開始〉をクリックします。

※[SIP接続簡易設定](②)欄で「半自動」、または「自動」を選択したとき表示されます。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定 (ひかり電話(網直収))

NTT東日本、またはNTT西日本が提供する「ひかり電話」サービスに接続するための設定です。

※ホームゲートウェイやオフィスゲートウェイは必要なく、NTTの交換機(SIPサーバー)に直接接続されます。

※[SIPサーバー接続共通設定]項目の[SIP接続簡易設定]欄(P.90)で「有効」を設定したときは、[SIPサーバー設定]項目が自動設定されます。

SIPサーバー設定			
番号	①	1	<input type="button" value="一括設定画面へ移動"/>
IP電話番号	②	<input type="text"/>	
番号種別	③	<input checked="" type="radio"/> 契約者番号 <input type="radio"/> 追加番号	
SIPサーバーアドレス	④	<input type="text"/>	
SIPサービスドメイン	⑤	<input type="text"/>	
ユーザーID	⑥	<input type="text"/>	
パスワード	⑦	<input type="text"/>	
登録時間	⑧	3600	秒

①番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「32」の番号を選択します。

最大32件まで登録できます。

〈一括設定画面へ移動〉

一括して新規登録するとき、クリックします。

クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.103)に切り替わります。

②IP電話番号 ご契約の回線業者から付与された契約回線番号、または追加で使用する電話番号を半角で入力します。

③番号種別 [IP電話番号](②)欄で入力した電話番号が契約回線番号か追加番号かを指定します。

「追加番号」をクリックしたときは、下記の画面を表示します。

追加番号を使用する回線の契約者番号を[契約者番号]欄で選択します。

番号	2
IP電話番号	<input type="text"/>
番号種別	<input type="radio"/> 契約者番号 <input checked="" type="radio"/> 追加番号
契約者番号	03 <input type="text"/>

④SIPサーバーアドレス ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑤SIPサービスドメイン ご契約の回線接続業者から指定のIPアドレスを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定(つづき) (ひかり電話(網直収))

SIPサーバー設定		
番号	①	1 <input type="button" value="一括設定画面へ移動"/>
IP電話番号	②	<input type="text"/>
番号種別	③	<input checked="" type="radio"/> 契約者番号 <input type="radio"/> 追加番号
SIPサーバーアドレス	④	<input type="text"/>
SIPサービスドメイン	⑤	<input type="text"/>
ユーザーID	⑥	<input type="text"/>
パスワード	⑦	<input type="text"/>
登録時間	⑧	3600 <input type="text"/> 秒

- ⑥ユーザーID SIPサーバーへの接続認証に使用するIDです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ⑦パスワード SIPサーバーへの接続認証に使用するパスワードです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑧登録時間 本製品の接続情報をSIPサーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60~28800」(秒)です。 (出荷時の設定:3600)

ご参考に

ひかり電話(網直収)選択時に、VE-AG1(アナログ回線)、またはVE-IG1(ISDN回線)と本製品を接続するときは、下記を参考に[SIPサーバー設定]項目を設定してください。

- ◎IP電話番号 : VE-AG1、またはVE-IG1に設定した内線番号
- ◎番号種別 : 契約回線番号
- ◎SIPサーバーアドレス : VE-AG1、またはVE-IG1に設定したIPアドレス
- ◎SIPサービスドメイン : VE-AG1、またはVE-IG1に設定したドメイン名
- ◎ユーザーID : VE-AG1、またはVE-IG1に設定した内線番号
- ◎パスワード : VE-AG1、またはVE-IG1に設定したパスワード

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定 (ひかり電話(GW配下))

NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに接続するための設定です。

ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイの内線設定に合わせた内容を設定します。

※[SIPサーバー接続共通設定]項目の[SIP接続簡易設定]欄(P.90)で、[SIPサーバー設定]項目の設定を「半自動」/「自動」から選択することもできます。

SIPサーバー設定			
番号	①	1 ▼	<input type="button" value="一括設定画面へ移動"/>
IP電話番号	②	<input type="text"/>	
SIPサーバーアドレス	③	<input type="text"/>	
SIPサービスドメイン	④	<input type="text"/>	
ユーザーID	⑤	<input type="text"/>	
パスワード	⑥	<input type="text"/>	
登録時間	⑦	3600	秒

①番号 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「32」の番号を選択します。

最大32件まで登録できます。

〈一括設定画面へ移動〉

一括して新規登録するとき、クリックします。

クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.104)に切り替わります。

②IP電話番号 上位のゲートウェイに設定されたIP端末の内線番号を半角で入力します。

③SIPサーバーアドレス 接続するホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイのIPアドレスを入力します。

入力は、半角英数字で63文字までです。

④SIPサービスドメイン 上位のゲートウェイに設定されたSIPサーバーのドメイン名、または接続するゲートウェイのIPアドレスを入力します。

入力は、半角英数字で63文字までです。

⑤ユーザーID SIPサーバーへの接続認証に使用するIDです。

上位のゲートウェイに設定されたものを入力してください。

入力は、半角英数字で31文字までです。

IP電話番号について

NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイとの接続では、本製品に設定する「IP電話番号」はホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイに設定されている1桁～2桁の内線番号となります。

この内線番号と実際に使用する発着信外線電話番号との関連付けは、ホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイ側で設定します。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定(つづき) (ひかり電話(GW配下))

SIPサーバー設定	
番号	① 1 <input type="button" value="一括設定画面へ移動"/>
IP電話番号	② <input type="text"/>
SIPサーバーアドレス	③ <input type="text"/>
SIPサービスドメイン	④ <input type="text"/>
ユーザーID	⑤ <input type="text"/>
パスワード	⑥ <input type="text"/>
登録時間	⑦ 3600 秒

- ⑥パスワード …………… SIPサーバーへの接続認証に使用するパスワードです。
上位のゲートウェイに設定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑦登録時間 …………… 本製品の接続情報をSIPサーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60~28800」(秒)です。 (出荷時の設定:3600)

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定 (サーバー接続)

簡易中継サーバー(親機)の子機として、簡易中継サーバーと接続するとき設定します。

SIPサーバー設定			
番号	①	1	<input type="button" value="一括設定画面へ移動"/>
IP電話番号	②	<input type="text"/>	
SIPサーバーアドレス	③	<input type="text"/>	
SIPサービスドメイン	④	<input type="text"/>	
ユーザーID	⑤	<input type="text"/>	
パスワード	⑥	<input type="text"/>	
登録時間	⑦	600	秒
再登録周期	⑧	通常時: 50	% 異常時: 50 %

- ① **番号** 電話番号に対するSIPサーバーの設定を登録するために、「1」～「32」の番号を選択します。
最大32件まで登録できます。
〈一括設定画面へ移動〉
一括して新規登録するとき、クリックします。
クリックすると、「SIPサーバー一括設定」画面(P.105)に切り替わります。
- ② **IP電話番号** 簡易中継サーバーの子機として使用するIP電話番号を半角で入力します。
入力は、任意の半角数字7桁までです。
※簡易中継サーバー(親機)側に登録されているときだけ、IP電話を使用できます。
- ③ **SIPサーバーアドレス** 簡易中継サーバー(親機)側のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ④ **SIPサービスドメイン** 簡易中継サーバー(親機)側に設定されている内線ドメインを入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑤ **ユーザーID** [IP電話番号](②)欄で設定した同じ番号を半角で入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ⑥ **パスワード** 簡易中継サーバー(親機)側への接続認証に使用するパスワードです。
入力は、半角英数字で31文字までです。
入力中の文字は、すべて*(アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ⑦ **登録時間** 本製品の接続情報を簡易中継サーバー(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60～28800」(秒)です。 (出荷時の設定:600)
- ⑧ **再登録周期** 本製品の接続情報を簡易中継サーバー(親機)側に再登録する周期を設定します。
(出荷時の設定:通常時:50、異常時:50)
周期は、通常(接続成功)時と異常(接続失敗)時について、設定した[登録時間](⑦)欄に対する比で指定します。
設定できる範囲は、「10～90」(%)です。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■SIPサーバー設定一覧(契約者番号) (ひかり電話(網直収))

[SIPサーバー設定]項目(P.92)で登録した契約者(IP電話)番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。発信番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧(契約者番号)				
①	②	③	④	⑤
番号	IP電話番号	接続状況	発信番号通知	再接続
1	03	接続中…	通知する	再接続
			⑦	⑧
			編集	削除

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ③ **接続状況** …………… SIPサーバーとの接続状態を、「接続中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発信番号通知** …………… IP電話使用時、契約者(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定:通知する)
 - ◎通知しない
発信先に契約者(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
 - ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された契約者(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** …………… 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況] (③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。
- ⑥ **〈再接続〉** …………… 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦ **〈編集〉** …………… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- ⑧ **〈削除〉** …………… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目の下にある〈全削除〉をクリックします。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■SIPサーバー設定一覧(追加番号) (ひかり電話(網直収))

[SIPサーバー設定]項目(P.92)で登録した追加(IP電話)番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。発信番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧(追加番号)					
番号①	IP電話番号②	契約者番号③	発信番号通知④	⑤	⑥
2	03	03	通知する	編集	削除
			登録	取消	全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ②IP電話番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した追加(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、追加(IP電話)番号を変更できません。
- ③契約者番号 [SIPサーバー設定]項目で登録した契約者(IP電話)番号を表示します。
※この欄では、契約者(IP電話)番号を変更できません。
- ④発信番号通知 IP電話使用時、追加(IP電話)番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定:通知する)
 - ◎通知しない
発信先に追加(IP電話)番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
 - ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定された追加(IP電話)番号を発信先に通知します。
- ⑤<編集> ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目では、[番号]、[IP電話番号]、[契約者番号]以外は確認できません。
- ⑥<削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。
- ⑦<登録> [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑧<取消> [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑨<全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧(追加番号)]項目と[SIPサーバー設定一覧(契約者番号)]項目(P.97)の内容がすべて削除されます。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■SIPサーバー設定一覧 (ひかり電話(GW配下))

[SIPサーバー設定]項目(P.94)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発信番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧				5	6	
①	②	③	④	接続状況の更新	再接続	
番号	IP電話番号	接続状況	発信番号通知	7	8	
1	3	接続中…	通知する	編集	削除	
				9	10	11
				登録	取消	全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①**番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ②**IP電話番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録したIP電話番号を表示します。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。
- ③**接続状況** …………… SIPサーバーとの接続状態を、「接続中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④**発信番号通知** …………… IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定:通知する)
- ◎**通知しない**
発信先にIP電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎**通知する**
[SIPサーバー設定]項目で設定されたIP電話番号を通知します。
※NTTのホームゲートウェイ、またはオフィスゲートウェイ側で設定が必要です。
詳しくは、ゲートウェイ装置の取扱説明書をご確認ください。
- ⑤**〈接続状況の更新〉** …………… 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況](③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定一覧(つづき) (ひかり電話(GW配下))

SIPサーバー設定一覧				5	6
①	②	③	④	接続状況の更新	再接続
番号	IP電話番号	接続状況	発番号通知		
1	3	接続中…	通知する ▾	7 編集	8 削除
				9 登録	10 取消
					11 全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ⑥<再接続> …………… 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦<編集> …………… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- ⑧<削除> …………… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。
- ⑨<登録> …………… [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑩<取消> …………… [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑪<全削除> …………… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧]項目の内容がすべて削除されます。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定一覧 (サーバー接続)

[SIPサーバー設定]項目(P.96)で登録したIP電話番号で接続するSIPサーバー設定の一覧です。
発信番号通知の設定、または登録したSIPサーバー設定の編集と削除にも使用します。

SIPサーバー設定一覧					
① 番号	② IP電話番号	③ 接続状況	④ 発信番号通知	⑤ 接続状況の更新	⑥ 再接続
1		接続中…	通知する ▼	編集	削除
			登録	取消	全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ② **IP電話番号** …………… [SIPサーバー設定]項目で登録したIP電話番号を表示します。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。
- ③ **接続状況** …………… SIPサーバーとの接続状態を、「接続中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバー未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。
- ④ **発信番号通知** …………… IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定:通知する)
- ◎通知しない
発信先にIP電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては、通知される場合があります。
- ◎通知する
[SIPサーバー設定]項目で設定されたIP電話番号を発信先に通知します。
- ⑤ **〈接続状況の更新〉** …………… 現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況](③)欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー設定一覧(つづき) (サーバー接続)

SIPサーバー設定一覧					
① 番号	② IP電話番号	③ 接続状況	④ 発番号通知	⑤ 接続状況の更新	⑥ 再接続
1		接続中…	通知する ▾		
				⑦ 編集	⑧ 削除
			⑨ 登録	⑩ 取消	⑪ 全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ⑥<再接続> …………… 登録されているSIPサーバーに再接続するとき、クリックします。
- ⑦<編集> …………… ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバー設定]項目で、その内容を確認できます。
※[SIPサーバー設定一覧]項目では、[番号]と[IP電話番号]以外は確認できません。
- ⑧<削除> …………… ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。
- ⑨<登録> …………… [SIPサーバー設定一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。
- ⑩<取消> …………… [SIPサーバー設定一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑪<全削除> …………… 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[SIPサーバー設定一覧]項目の内容がすべて削除されます。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー一括設定 (ひかり電話(網直収))

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。

SIPサーバー一括設定				
開始番号	①	1	▼	
追加回数	②	3	▼	
番号種別		<input checked="" type="radio"/> 契約者番号 <input type="radio"/> 追加番号		
SIPサーバーアドレス	③			
SIPサービスドメイン				
登録時間		3600	秒	
開始番号以降に、指定した個数の登録を一括で追加します。 (既に登録のある番号は飛ばします。)				
番号	IP電話番号	ユーザーID	パスワード	発番号通知
1				通知する ▼
2				通知する ▼
3				通知する ▼

※画面の内容は、表示例です。

- ① **開始番号** 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。
- ② **追加回数** [個別設定項目]欄(④)で登録するSIPサーバーの件数を、〈▼〉をクリックして設定します。
- ③ **SIPサーバー設定項目** 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。
- ④ **個別設定項目** SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番号通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■SIPサーバー一括設定 (ひかり電話(GW配下))

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。

SIPサーバー一括設定				
開始番号	①	1	▼	
追加回数	②	3	▼	
SIPサーバーアドレス	③			
SIPサービスドメイン				
登録時間		3600	秒	
開始番号以降に、指定した個数の登録を一括で追加します。 (既に登録のある番号は飛ばします。)				
番号	IP電話番号	ユーザーID	パスワード	発番号通知
1				通知する ▼
2				通知する ▼
3				通知する ▼

※画面の内容は、表示例です。

- ① **開始番号** 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。
- ② **追加回数** [個別設定項目]欄(④)で登録するSIPサーバーの件数を、〈▼〉をクリックして設定します。
- ③ **SIPサーバー設定項目** 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。
- ④ **個別設定項目** SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番号通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。

4 「電話回線設定」メニュー

5. 「IP回線」画面(つづき)

「電話回線設定」-「IP回線」

■ SIPサーバー一括設定 (サーバー接続)

接続するSIPサーバーを一括して登録する設定です。

SIPサーバー一括設定				
開始番号	①	1	▼	
追加回数	②	3	▼	
SIPサーバーアドレス				
SIPサービスドメイン				
登録時間		600	秒	
再登録周期		通常時: 50	%	異常時: 50 %
開始番号以降に、指定した個数の登録を一括で追加します。 (既に登録のある番号は飛ばします。)				
番号	IP電話番号	ユーザーID	パスワード	発番号通知
1				通知する ▼
2				通知する ▼
3				通知する ▼

※画面の内容は、表示例です。

- ① **開始番号** 各電話番号に対するSIPサーバーの設定を一括登録するために、開始番号を設定します。
- ② **追加回数** [個別設定項目]欄(④)で登録するSIPサーバーの件数を、〈▼〉をクリックして設定します。
- ③ **SIPサーバー設定項目** 各電話番号に対するSIPサーバーについて、入力します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定]項目をご覧ください。
- ④ **個別設定項目** SIPサーバーに登録されている簡易中継サーバー(子機)ごとに、「IP電話番号」、「ユーザーID」、「パスワード」を入力し、「発番号通知」で通知する/しないを設定します。
※各設定欄の説明は、[SIPサーバー設定一覧]項目をご覧ください。

4 「電話回線設定」メニュー

6. 「回線グループ設定」画面

「電話回線設定」-「回線グループ設定」

グループに登録した複数の回線で、スライド発信するための設定画面です。

■ 回線スライド設定

スライド動作を許可するSIPサーバーからのレスポンスコードを設定します。

※「IP回線」画面で設定する接続先(P.89)により、初期値が異なります。

特に問題がある場合を除いては、初期値でお使いください。

回線スライド設定					
SIPレスポンス番号	500	503			

スライド動作を許可するSIPのレスポンスコードを設定します。

※上図は、「IP回線」画面で、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定内容です。

SIPレスポンス番号…………… スライド発信を許可するSIPサーバーからのレスポンスコードを登録します。
最大10件まで登録できます。

4 「電話回線設定」メニュー

6. 「回線グループ設定」画面(つづき)

「電話回線設定」-「回線グループ設定」

■回線グループ設定

スライド発信する複数の回線(電話番号)を回線グループに登録します。
※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

回線グループ設定			
回線グループ番号 ①	1		追加
回線種別 ②	IP回線		
電話回線の登録 ③	01	03 (IP)	06
	02	03 (IP)	07
	03	03 (IP)	08
	04		09
	05		10

※画面の内容は、登録例です。

- ①回線グループ番号 …………… 各回線グループを登録する番号を設定します。
最大50件まで登録できます。
〈追加〉
[回線グループ設定]項目(①～③)で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。
- ②回線種別 …………… 回線グループに登録する回線種別を、「IP回線」、「ISDN回線」、「アナログ回線」から選択します。
- ③電話回線の登録 …………… スライド発信する回線(電話番号)を登録します。
「01」のテキストボックスに登録された回線(電話番号)から順番に発信します。
使用中の場合は、次の番号に登録された回線(電話番号)にスライドし、発信します。

■現在の登録

[回線グループ設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録					
番号	回線番号			①	②
1	03 (IP)	03 (IP)	03 (IP)	編集	削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈編集〉 …………… 登録した内容を編集するときは、該当する欄の〈編集〉をクリックします。
※登録されている内容は、[回線グループ設定]項目に表示します。
- ②〈削除〉 …………… 登録した内容を削除するときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

この章では、
管理者用の「Peer to Peer設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「Peer to Peer設定」画面	109
■ Peer to Peer共通設定	109
■ Peer to Peer設定	109
■ Peer to Peer設定一覧	110
2.「VoIP電話帳設定」画面	111
■ VoIP電話帳の保存と書き込み	111
■ VoIP電話帳への登録	113
■ VoIP電話帳登録一覧	114

5 「Peer to Peer設定」メニュー

1. 「Peer to Peer設定」画面

「Peer to Peer設定」—「Peer to Peer設定」

Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)で通話するときの設定画面です。

■Peer to Peer共通設定

WAN側回線からのPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)着信を禁止、または許可します。

Peer to Peer共通設定	
WAN側からの着信	拒否

WAN側からの着信 ……………

WAN側回線からのPeer to Peer着信について設定します。

(出荷時の設定: 拒否)

「許可」に設定すると、WAN側回線からのPeer to Peer着信を許可します。

※WAN側からの着信には、相手先SIP URIがVoIP電話帳に登録されている必要があります。

■Peer to Peer設定

Peer to Peer (SIPサーバーを経由しない1対1での通話)で通話するとき、自分のSIP URIを設定します。

Peer to Peer設定	
番号 ①	1
SIP URI ②	sip: VR7000@telephone.icom.co.jp SIP URIの@以前にはa~z、A~Zの文字を1文字以上含むように入力してください。

※画面の内容は、設定例です。

①番号 ……………

自分の[SIP URI]を登録するために、「1」～「64」の番号を選択します。
最大64件まで登録できます。

②SIP URI ……………

自分のSIP URIを半角英数字(63文字以内)で入力します。
次のどちらかの書式で入力できます。

◎sip: [SIPユーザー名]@[本製品のIPアドレス]

◎sip: [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]

[SIPユーザー名]部分の入力について

任意の英数字を入力します。

※[SIPユーザー名]部分は、数字だけの入力としないで、必ず英字1文字以上を含むように入力(例: VR7000)してください。

[ホスト名.ドメイン名]部分について

◎通話相手のVoIP電話帳に、本製品のIPアドレスで登録されている場合は、本製品のLAN側IPアドレスを入力します。

◎通話相手のVoIP電話帳に、本製品のホスト名がダイナミックDNSや固定IPアドレスで登録されている場合は、通話相手から指定されたホスト名(例: telephone). ドメイン名(例: icom.co.jp)を半角英数字で入力します。

Peer to Peer通話とは

IP電話サービスなどを含む上位SIPサーバーを経由せずに、複数の収容内線子機間で通話できます。

たとえば、VR-7000複数稼働でのIP-VPN経路で接続された事業所間の通話や、1つのLAN内に複数設置された異なる部署間での通話ができます。

WAN側経路を使用した通話もできますが、この場合は、WAN側回線からのPeer to Peerの着信を許可に設定し、VoIP電話帳に相手のSIP URIを登録する必要があります。

Peer to Peer通話では、経路となる回線全体の通信品質(帯域や遅延)が通話品質に影響しますので、安定した回線での利用をおすすめします。

5 「Peer to Peer設定」メニュー

1. 「Peer to Peer設定」画面(つづき)

「Peer to Peer設定」-「Peer to Peer設定」

■ Peer to Peer設定一覧

[Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]の表示、および編集する[SIP URI]を選択します。

Peer to Peer設定一覧		③	④	⑤
番号①	SIP URI②	編集	削除	全削除
1	sip:VR7000@telephone.icom.co.jp			

※画面の内容は、登録例です。

- ①番号 [Peer to Peer設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。
- ②SIP URI [Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]を表示します。
※この欄では[SIP URI]の変更はできません。
- ③〈編集〉 ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[Peer to Peer設定]項目で、その内容を確認できます。
- ④〈削除〉 ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ⑤〈全削除〉 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※ [Peer to Peer設定一覧] 項目の内容がすべて削除されます。

2. 「VoIP電話帳設定」画面

「Peer to Peer設定」—「VoIP電話帳設定」

Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)の発信などで使用するVoIP電話帳の登録画面です。

■VoIP電話帳の保存と書き込み

登録したVoIP電話帳をファイルに保存したり、保存したファイルの本製品に書き込んだりします。

保存したファイルを書き込む ①	<input type="button" value="参照..."/> <input type="button" value="書き込み"/> CSV形式のファイルが書き込みできます。 ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。
ファイルに保存する ②	<input type="button" value="保存"/> voiptbl.csvで保存されます。

①保存したファイルを書き込む

書き込む ……………

[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」(拡張子:csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

「電話帳登録ファイル」の保存先を指定するため、〈参照…〉をクリックします。表示された画面から目的の電話帳登録ファイル(例:voiptbl.csv)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。

選択した電話帳登録ファイルの参照先が表示されたことを確認できたら、〈書き込み〉をクリックすると、[VoIP電話帳登録一覧]項目にその内容が表示されます。

書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「管理」メニューの「設定のバックアップ/リストア」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、VoIP電話帳の内容も、その設定ファイルに保存されているVoIP電話帳の内容に上書きされますのでご注意ください。

※[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した状態のファイル、および本書112ページの書式で編集したファイル以外のインポートは、保証対象外になります。

②ファイルに保存する ……

[VoIP電話帳登録一覧]項目の内容を電話帳登録ファイル(例:voiptbl.csv)として、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、電話帳登録ファイルを保存できます。

※保存した電話帳登録ファイルは、表計算ソフトウェアなどで編集できます。また、保存した電話帳登録ファイルは、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。

5 「Peer to Peer設定」メニュー

2. 「VoIP電話帳設定」画面(つづき)

「Peer to Peer設定」—「VoIP電話帳設定」

■ VoIP電話帳の保存と書き込み(つづき)

電話帳登録ファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.111)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「電話帳登録ファイル」(拡張子: csv)の書式

	A	B	C	D	E	F
1	#	VR-7000	VoIP電話帳	設定保存ファイル		
2	#	Firm Ver. 4.0.0	4.0.0 (2015.12.10)			
3	#	File Ver. 1.0				
4	#登録番号	名前	電話番号	SIP URI		
5	1	telephone	tel:70	sip:icom70@telephone.voip.net	voip	
6	2	telephone1	tel:71	sip:icom71@telephone.voip.net	voip	

A列: レコード番号(1~2000)、重複しない番号を入力

B列: 名前(半角30(全角15)文字以内)

C列: 電話番号 (tel:任意の数字(半角31桁以内)と記号(#、*))、文字列認識用のため、tel:につづけて入力

D列: SIPURI (半角英数字63文字以内)

通話相手のSIP URIの書式に合わせて、下記のどちらかで入力できます。

sip : [SIPユーザー名]@[相手先のIPアドレス]

sip : [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]

E列: 発信経路("voip" 固定)

ご注意

- ◎ A列、C列には、コメント行(A列の#ではじまる行)を除き、重複しない番号を入力してください。
上記画面の例では、1行~3行がコメント行です。
- ◎ 一度、[ファイルに保存する]欄(P.111)の操作で、CSVファイルとして保存してから、そのCSVファイルを表計算ソフトウェアなどで編集してください。
- ◎ CSVファイルに含まれる改行コードがエラーの原因となりますので、他機種からの電話帳を移行する場合は、テキストエディターなどで不要な改行コードを削除してください。

■VoIP電話帳への登録

Peer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)でIP電話する相手の電話番号を登録します。

VoIP電話帳への登録	
番号 ①	1
名前 ②	telephone
電話番号 ③	7000
SIP URI ④	sip: icom7000@telephone.voip.net

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** 相手先電話番号を登録するために、「1」～「1000」の番号を選択します。
最大1000件まで登録できます。

- ② **名前** 相手の名前を任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。

- ③ **電話番号** 電話機からダイヤルする電話番号を半角で入力します。
※緊急番号(110、118、119)の番号は、登録できません。
※任意の半角数字と半角記号(#、*)を31桁以内で入力します。

- ④ **SIP URI** SIPサーバーを中継しないでPeer to Peerで発信する場合、相手の[SIP URI]を半角英数字(63文字以内)で入力します。
[電話番号](③)欄に設定した電話番号を電話機からダイヤルをすると、[SIP URI]欄に入力した宛先に電話をかけます。
通話相手のSIP URIの書式に合わせて、下記のどちらかで入力できます。
◎sip: [SIPユーザー名]@[相手先のIPアドレス]
◎sip: [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]

5 「Peer to Peer設定」メニュー

2. 「VoIP電話帳設定」画面(つづき)

「Peer to Peer設定」-「VoIP電話帳設定」

■VoIP電話帳登録一覧

[VoIP電話帳への登録]項目で登録した内容を表示します。

VoIP電話帳登録一覧				
番号	名前	電話番号	SIP URI	① ②
1	telephone	7000	icom7000@telephone.net	編集 削除
				③ 全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集> ボタンの左欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[VoIP電話帳への登録]項目で、その内容を確認できます。
- ②<削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
- ③<全削除> 登録した内容をすべて削除するとき、クリックします。
※[VoIP電話帳登録一覧]項目の内容がすべて削除されます。

この章では、
管理者用の「簡単設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 「簡単設定」画面	116
■ 簡単設定ウィザード	116
2. 「内線・内線代表の追加/削除」画面	117
■ 内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)	117
3. 「内線代表着信設定」画面	120
■ 内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)	120
4. 「着信設定」画面	122
■ 内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)	122
5. 「内線機種選択」画面	123
■ 内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)	123
6. 「発信設定」画面	125
■ 内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)	125

6 「簡単設定」メニュー

1. 「簡単設定」画面

「簡単設定」-「簡単設定」

本製品に登録する内線子機の内線番号、内線代表、鳴り分け判別、内線子機の機種をウィザードにしたがって設定します。

■簡単設定ウィザード

本製品で使用する内線子機に登録を開始するときに、〈設定開始〉をクリックします。

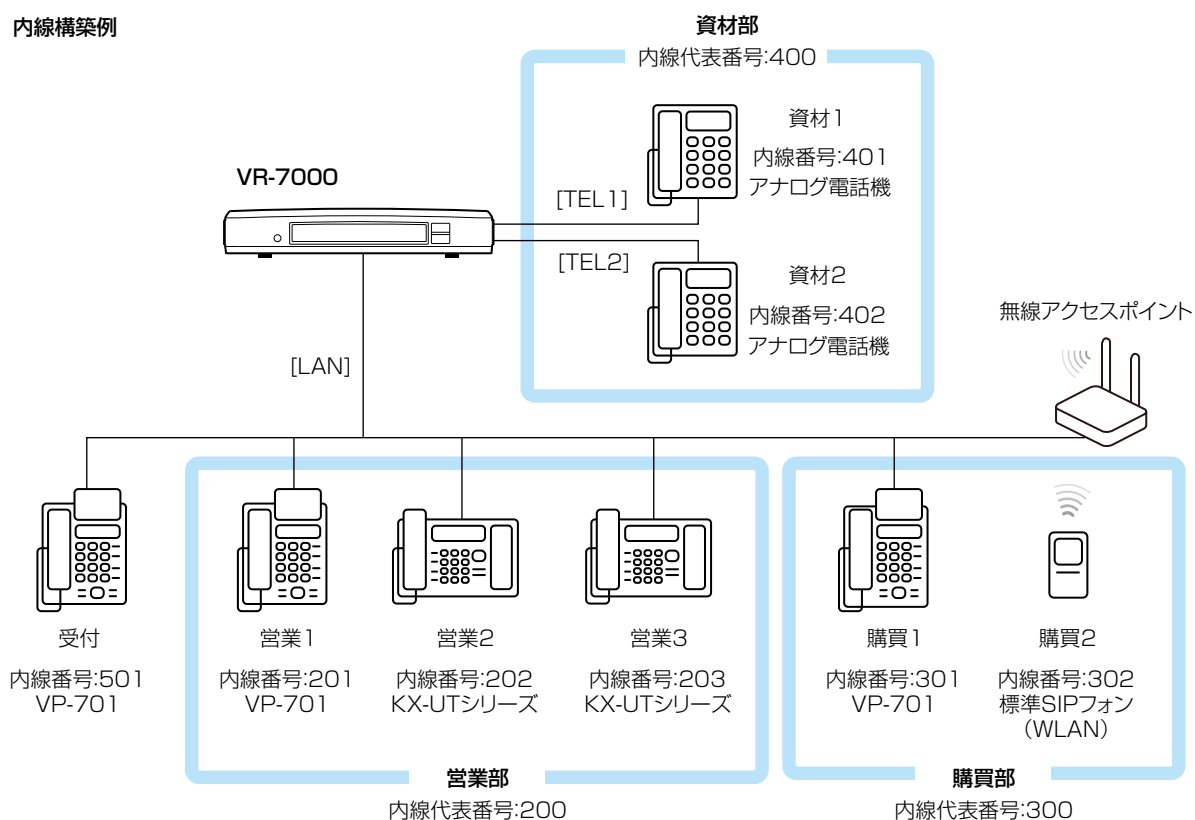
※一度設定した内線代表番号や所属を変更するときも、このウィザードを使用します。

※登録できる内線子機は、[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機2台を含め、最大26台です。

簡単設定ウィザード

設定開始

内線構築例



6 「簡単設定」メニュー

2. 「内線・内線代表の追加/削除」画面

「簡単設定」-「内線・内線代表の追加/削除」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)

登録する内線子機の内線番号、内線代表番号を設定して、〈次へ〉>>をクリックします。

内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)			
① キャンセル		② 次へ>>	
③ 8ユーザー			
内線代表名④	内線代表番号⑤	内線追加⑥	内線⑦
内線代表に属さない内線			
		追加 削除	501
営業部 (一斉)	200	追加 削除	201, 202, 203
購買部 (一斉)	300	追加 削除	301, 302
資材部 (順次)	400	順次の内線代表は編集できません。	
内線代表の追加⑧			
一斉		追加	
① キャンセル		② 次へ>>	

※画面の内容は、設定した内線代表名(営業部/購買部/資材部)に所属しない内線番号(501)と内線代表名に所属する内線代表番号(200/300/400)の登録例です。

- ①〈キャンセル〉 …………… 簡単設定ウィザードで、変更した設定内容を取り消すときに、クリックするボタンです。
※クリックすると、「簡単設定」メニューをクリックしたとき表示される[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ②〈次へ>>〉 …………… [内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)]項目で変更した内容を確定するボタンです。
クリックすると、次の[内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)]項目になります。
- ③登録端末数 …………… 本製品の内線子機として登録した内線子機数を「8ユーザー」(表示例)で表示します。

内線代表とは

1台以上の内線子機を1つのグループにまとめて、識別用の内線代表名とその内線代表番号を設定することにより、そのグループ内の内線子機への着信を、そのグループ内で空いている内線子機に指定できます。

たとえば、内線代表番号(例:200)をダイヤルしたとき、そのグループに所属する内線番号(例:201、202、203)の中で、空いている内線子機に一斉着信します。

また、外線から内線代表番号に着信するように設定した場合も、そのグループに所属する内線番号(例:201、202、203)の中で、空いている内線子機に一斉着信します。

※「順次」を設定すると、内線代表番号(例:400)をダイヤルしたとき、そのグループに登録された内線番号(例:401)が通話中の場合は、次に登録された内線番号(例:402)に着信します。

6 「簡単設定」メニュー

2. 「内線・内線代表の追加/削除」画面

「簡単設定」-「内線・内線代表の追加/削除」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)つづき

☞内線・内線代表の追加/削除

内線代表着信設定

着信設定

内線機種選択

発信設定

内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)

① キャンセル
② 次へ>>

③ ユーザー

内線代表名④	内線代表番号⑤	内線追加⑥	内線⑦
内線代表に属さない内線		~ 追加 削除	501
営業部 (一斉) 削除	200	~ 追加 削除	201, 202, 203
購買部 (一斉) 削除	300	~ 追加 削除	301, 302
資材部 (順次) 削除	400	順次の内線代表は 編集できません。	401, 402

内線代表の追加⑧

一斉 追加

① キャンセル
② 次へ>>

※画面の内容は、設定した内線代表名(営業部/購買部/資材部)に所属しない内線番号(501)と内線代表名に所属する内線代表番号(200/300/400)の登録例です。

- ④ 内線代表名 …………… [内線代表の追加] (⑥) 欄で追加した内線代表名と動作(一斉/順次)を表示します。
 ※表示された動作(一斉/順次)は、この欄では変更できません。
 ※登録した内容を削除するときは、該当する欄の<削除>をクリックします。
 ※登録例の内線番号(例:501)は、内線代表に属さない内線として登録されていますので、この項目では変更できません。
- ⑤ 内線代表番号 …………… [内線代表の追加] (⑧) 欄で追加した内線代表名に対する内部識別用の内線番号を、半角数字2桁~7桁で入力します。
 ※緊急通報(110、118、119、)の番号は、使用しないでください。
 ※「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
 ※この欄で設定した内線代表番号をダイヤルすると、[内線代表の追加] (⑧) 欄の動作設定(一斉/順次)にしたがって着信します。
- ⑥ 内線追加 …………… 内線番号を入力して、<追加>をクリックします。
 入力は、半角数字2桁~7桁までです。
 ※登録する内線番号の範囲(例:201~203)を入力すると、連番で一括に登録できます。
 ※削除するときは、該当する内線代表名の[内線追加] 欄のテキストボックスに内線番号を入力して、<削除>をクリックします。

6 「簡単設定」メニュー

2. 「内線・内線代表の追加/削除」画面

「簡単設定」-「内線・内線代表の追加/削除」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)つづき

☞内線・内線代表の追加/削除

内線代表着信設定

着信設定

内線機種選択

発信設定

内線・内線代表設定ウィザード(内線・内線代表の追加/削除)

① キャンセル
② 次へ>>

③ ユーザー

内線代表名④	内線代表番号⑤	内線追加⑥	内線⑦
内線代表に属さない内線		~ 追加 削除	501
営業部 (一斉) 削除	200	~ 追加 削除	201, 202, 203
購買部 (一斉) 削除	300	~ 追加 削除	301, 302
資材部 (順次) 削除	400	順次の内線代表は 編集できません。	401, 402

内線代表の追加⑧

追加

一斉 ▾

① キャンセル
② 次へ>>

※画面の内容は、設定した内線代表名(営業部/購買部/資材部)に所属しない内線番号(501)と内線代表名に所属する内線代表番号(200/300/400)の登録例です。

- ⑦内線 …………… 登録した内線番号を内線代表名ごとに表示します。
- ⑧内線代表の追加 …………… 内線代表を追加するとき、内線代表名を任意の半角31(全角15)文字以内で入力し、動作(一斉/順次)を選択します。
 ※〈追加〉をクリックすると、内線代表名と動作が[内線代表名] (④) 欄に表示されますので、内線代表番号(⑤)と内線追加(⑥)を設定します。
- 着信動作について**
- ◎順次：[内線追加] (⑥) 欄で追加した順に着信しますが、通話中の場合は、次に登録された内線電話に着信します。
 ※着信させる順番は、「PBX設定」メニューの[内線代表設定]項目で変更できます。
- ◎一斉：次に設定する[内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)]項目の内容にしたがって着信します。

6 「簡単設定」メニュー

3. 「内線代表着信設定」画面

「簡単設定」-「内線代表着信設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)

一斉着信を設定した内線代表名ごとに、所属する内線子機の着信動作を指定して、〈次へ〉ををクリックします。

※順次着信(例：400)の動作については、「PBX設定」メニューの「内線代表設定」項目で変更できます。(P.152)

内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)

① キャンセル ② 次へ>>

④ ③ 営業部(200)

1次着信: 201 202 203

2次着信: 201 202 203

⑤ 15秒後

なし

1次着信: 301 302

なし

購買部(300)

1次着信: 401 402

なし

資材部(400)

① キャンセル ② 次へ>>

順次着信: 401 402

罫線で囲まれた左図の内容が、営業部(200)の動作設定と鳴動時間です。

罫線で囲まれた右図の内容が、資材部(400)の着信する順番です。

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈キャンセル〉 …………… 簡単設定ウィザードの操作を取り消すときにクリックするボタンです。
※クリックすると、「簡単設定ウィザード」項目に戻ります。
- ②〈次へ>>〉 …………… [内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)]項目で変更した内容を確定するボタンです。
クリックすると、次の「内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)」項目になります。
- ③内線代表名(内線代表番号) …………… 設定する内線代表名(例:営業部)と内線代表番号(例:200)を表示します。
- ④動作設定 …………… 内線代表番号(例:200)をダイヤルしたとき、着信(鳴動)させる内線子機の内線番号を選択します。
[鳴動時間]欄(⑤)を設定すると、3次着信まで動作を設定できます。
- ⑤鳴動時間 …………… 次の着信動作に切り替わるまでの鳴動時間を設定します。
設定できる範囲は、「なし」、「10秒後」～「60秒後」です。(出荷時の設定:なし)
※「なし」を設定すると、次の着信動作に切り替わりません。

6 「簡単設定」メニュー

3. 「内線代表着信設定」画面

「簡単設定」-「内線代表着信設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)つづき

内線代表番号に一斉着信したときの動作について

- ◎内線着信の場合 内線で下記の営業部(200)に電話をかけると、1次着信の内線子機(201)に着信(鳴動)します。内線子機(201)が通話中、または[鳴動時間]欄(⑤)に設定された時間が経過すると、2次着信の内線子機(202、203)に着信(鳴動)します。
※設定した内線子機がすべて通話中のときは、通話は切断されます。
- ◎外線着信の場合 [内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)]項目で営業部(200)を着信先に設定した場合、設定した外線電話番号(回線)に電話がかかってくると、1次着信の内線子機(201)に着信(鳴動)します。
[鳴動時間]欄(⑤)に設定された時間が経過すると、2次着信の内線子機(202、203)に着信(鳴動)します。
※1次着信の内線子機(201)がVP-701、またはKX-UTシリーズの場合、フレキシブルボタンに割り当てられた<外線キー>が空いているとき(消灯時)は、通話中でも、すぐに2次着信*へ移行しません。
[鳴動時間]欄(⑤)に設定された時間、フレキシブルボタンに割り当てられた<外線キー>の高速点滅(赤色)と小さな鳴動音で着信をお知らせします。(外線マルチライン対応)
★VP-701、またはKX-UTシリーズ以外の電話機では、すぐに2次着信へ移行します。

内線・内線代表設定ウィザード(内線代表着信設定)

キャンセル 次へ>>

営業部(200)

1次着信: 201 202 203

2次着信: 201 202 203

15秒後 ▾

内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)

キャンセル 次へ>>

外線電話番号	回線	着信内線番号	鳴り分け判別
03	IP回線	200 ▾	外線音A ▾

6 「簡単設定」メニュー

4. 「着信設定」画面

「簡単設定」-「着信設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)

外線から着信したときの動作を設定して、〈次へ>>〉をクリックします。

外線電話番号③	回線④	着信内線番号⑤	鳴り分け判別⑥
03	IP回線	200	外線音A
03	IP回線	300	外線音A
03	IP回線	400	外線音A
03	ISDN回線	401	外線音B
03	アナログ回線	402	通知番号で判別
vr7000	Peer to Peer	501	内線音A

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈キャンセル〉 …………… 簡単設定ウィザードの操作を取り消すときにクリックするボタンです。
※クリックすると、[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ②〈次へ>>〉 …………… [内線・内線代表設定ウィザード(着信設定)]項目で変更した内容を確認するボタンです。
クリックすると、次の[内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)]項目になります。
- ③外線電話番号 …………… 「アナログ電話回線1/2」画面、「ISDN回線1/2/3」画面、「IP回線」画面で登録した、「契約回線番号」や「ダイヤルイン番号」、「IP電話番号」を表示します。
※「Peer to Peer設定」画面の[Peer to Peer]項目でSIP URIが設定されている場合は、SIPユーザー名を表示します。
- ④回線 …………… 「アナログ電話回線1/2」画面、「ISDN回線1/2/3」画面、「IP回線」画面、「Peer to Peer設定」画面で登録した、回線の種類を表示します。
- ⑤着信内線番号 …………… 登録した外線電話番号(回線)に電話がかかってきたとき、着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。(出荷時の設定：なし)
着信内線番号には内線代表番号、または内線番号を設定できます。
- ⑥鳴り分け判別 …………… 登録した外線電話番号ごとに、着信時の音(パターン)を設定します。
(出荷時の設定：外線音A(アナログ回線/ISDN回線/IP回線時)
内線音A(Peer to Peer時)
- ★VP-701、KX-UTシリーズ以外の電話機では無効な設定です。
VP-701、KX-UTシリーズを本製品に接続している場合は、下記から選択できます。
- 外線音A～外線音C：外線着信時に使用される音(パターン)です。
 - 内線音A～内線音C：内線着信時に使用される音(パターン)です。
 - 通知番号で判別：「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合、着信時に「外線音A」を使用し、それ以外の場合は、「内線音A」を使用します。

6 「簡単設定」メニュー

5. 「内線機種選択」画面

「簡単設定」—「内線機種選択」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)

登録する内線子機の機種を設定して、〈次へ〉ををクリックします。

内線番号	名前	機種	留守電ボックス	MACアドレス	内線代表番号
501	受付	自動	ボックス1		内線代表なし
201	営業1	自動	ボックス2		200
202	営業2	自動	ボックス3		200
203	営業3	自動	ボックス1		200
301	購買1	自動	ボックス1		300
302	購買2	自動	ボックス1		300
401		TEL1	ボックス1		400
402		TEL2	ボックス1		400

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈キャンセル〉 …………… 簡単設定ウィザードの操作を取り消すときにクリックするボタンです。
※クリックすると、[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ②〈次へ〉 …………… [内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)]項目で変更した内容を確定するボタンです。
クリックすると、次の[内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)]項目になります。
- ③設定コピー …………… 登録した内線子機の設定内容を、ほかの内線子機にコピーできます。
コピーできる設定内容
機種(⑥)
留守電ボックス(⑦)
コピーのしかた
 1. コピー元の内線子機(例:501)について、機種と留守電ボックス(⑥、⑦)を設定します。
 2. [コピー元]項目で、設定をコピーする内線子機(例:501)を選択します。
 3. [範囲指定]欄で、登録する内線番号の範囲(例:201～302)を選択します。
1台を指定してコピーする場合は、「内線番号」(例:201)～「なし」のように範囲を選択します。
 4. [設定コピー]項目の〈コピー〉をクリックします。
- ④内線番号 …………… 設定する内線番号を表示します。
- ⑤名前 …………… 任意の名称を、半角31(全角15)文字以内で入力します。
※[機種](⑥)欄で、「TEL1」、「TEL2」を選択したときは入力できません。

6 「簡単設定」メニュー

5. 「内線機種選択」画面

「簡単設定」-「内線機種選択」

■内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)つづき

- 内線・内線代表追加/削除
- 内線代表着信設定
- 着信設定
- 内線機種選択
- 発信設定

内線・内線代表設定ウィザード(内線機種選択)

① キャンセル
② 次へ>>

③ 設定コピー

コピー元 内線番号: なし

範囲指定 内線番号: なし ~ なし コピー

コピー元の「機種」と「留守電ボックス」が指定の範囲にコピーされます

④

内線番号	名前 ⑤	機種 ⑥	留守電ボックス ⑦	MACアドレス ⑧	内線代表番号 ⑨
501	受付	自動	ボックス1		内線代表なし
201	営業1	自動	ボックス2		200
202	営業2	自動	ボックス3		200
203	営業3	自動	ボックス1		200
301	購買1	自動	ボックス1		300
302	購買2	自動	ボックス1		300
401		TEL1	ボックス1		400
402		TEL2	ボックス1		400

① キャンセル
② 次へ>>

※画面の内容は、登録例です。

⑥ **機種** 登録する内線子機の機種を「自動」、「VP-701」、「KX-UTシリーズ」、「標準SIPフォン」、「標準SIPフォン(WLAN)」、「TEL1」、「TEL2」から選択します。
(出荷時の設定:自動)

※「TEL1」と「TEL2」は、アナログ電話機のことです。

アナログ電話機を本製品の[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続したとき、「TEL1」、「TEL2」を指定します。

※アナログ電話機以外を登録する場合は、機種を自動判別する「自動」をおすすめします。

機種を指定して登録する場合は、VP-701は「VP-701」、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N)は「KX-UTシリーズ」、無線IP携帯は「標準SIPフォン(WLAN)」を選択します。

⑦ **留守電ボックス** 登録する内線子機が使用する留守電ボックスを、「使用しない」、「ボックス1」、「ボックス2」、「ボックス3」から選択します。(出荷時の設定:ボックス1)

※[機種] (⑥)欄で、「自動」、「VP-701」、「KX-UTシリーズ」を設定したときだけ、選択できます。

⑧ **MACアドレス** ご使用になるパナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N)のMACアドレスを入力します。

※MACアドレスの入力を間違えると、電話機を利用できません。

※[機種] (⑥)欄で、「自動」、「KX-UTシリーズ」以外を選択していると、MACアドレスを入力できません。

※MACアドレスの確認方法については、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

⑨ **内線代表番号** 所属する内線代表の内線代表番号を表示します。

■内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)

登録された内線子機が、プリセット発信(外線経路を捕捉しないで発信した場合の自動捕捉動作)時に使用する外線を選択して、〈完了〉をクリックします。

④ 内線番号	⑤ 優先度	⑥ IP回線	⑦ ISDN回線	⑧ アナログ回線	⑨ Peer to Peer
501	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
201	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
202	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
203	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
301	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
302	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
401	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	vr7000
402	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	vr7000

※画面の内容は、登録例です。

- ①〈キャンセル〉 …………… 簡単設定ウィザードの操作を取り消すときにクリックするボタンです。
※クリックすると、[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ②〈完了〉 …………… [内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)]項目で変更した内容を確定するボタンです。
※クリックすると、変更した内容が確定され、[簡単設定ウィザード]項目に戻ります。
- ③設定コピー …………… 登録した内線子機の設定内容を、ほかの内線子機にコピーできます。
コピーできる設定内容
優先度(⑤)
IP回線(⑥)
ISDN回線(⑦)
アナログ回線(⑧)
Peer to Peer(⑨)
コピーのしかた
1. コピー元の内線子機(例：501)について設定します。
2. [コピー元]項目で、設定をコピーする内線子機(例：501)を選択します。
3. [範囲指定]欄で、登録する内線番号の範囲(例：201～302)を選択します。
範囲指定しないときは、「内線番号」(例：201)～「なし」のように範囲を選択します。
4. [設定コピー]項目の〈コピー〉をクリックします。
- ④内線番号 …………… 設定する内線番号を表示します。

6 「簡単設定」メニュー

6. 「発信設定」画面

「簡単設定」－「発信設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)つづき

- 内線・内線代表追加/削除
- 内線代表着信設定
- 着信設定
- 内線機種選択
- 発信設定

内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)

① キャンセル
② 完了

③ 設定コピー

コピー元 内線番号: なし

範囲指定 内線番号: なし ~ なし コピー

コピー元の設定が指定の範囲にコピーされます

④ 内線番号	⑤ 優先度	⑥ IP回線	⑦ ISDN回線	⑧ アナログ回線	⑨ Peer to Peer
501	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
201	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
202	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
203	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
301	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
302	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
401	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	vr7000
402	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	vr7000

① キャンセル
② 完了

※画面の内容は、登録例です。

⑤ 優先度 ……………

登録された内線子機が、プリセット発信を使用して外線発信した回線が使用中の場合、次にどの回線へ捕捉スライドして発信するかを設定します。

(出荷時の設定: IP回線⇒ISDN回線)

◎IP回線⇒ISDN回線

IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信します。

◎IP回線⇒アナログ回線

IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信します。

◎ISDN回線⇒IP回線

ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信します。

◎ISDN回線⇒アナログ回線

ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信します。

◎アナログ回線⇒IP回線

アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信します。

◎アナログ回線⇒ISDN回線

アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信します。

◎IP回線

IP回線が使用中の場合、発信しません。

◎ISDN回線

ISDN回線が使用中の場合、発信しません。

◎アナログ回線

アナログ回線が使用中の場合、発信しません。

6 「簡単設定」メニュー

6. 「発信設定」画面

「簡単設定」-「発信設定」

■内線・内線代表設定ウィザード(発信設定)つづき

④ 内線番号	⑤ 優先度	⑥ IP回線	⑦ ISDN回線	⑧ アナログ回線	⑨ Peer to Peer
501	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
201	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
202	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
203	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
301	IP回線⇒ISDN回線	回線グループ1	03	捕捉しない	捕捉しない
302	IP回線⇒ISDN回線	03	03	捕捉しない	捕捉しない
401	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	vr7000
402	アナログ回線	捕捉しない	捕捉しない	03	vr7000

※画面の内容は、登録例です。

- ⑥ IP回線 プリセット発信時に使用するIP回線の電話番号、または回線グループ(下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない)
- ⑦ ISDN回線 プリセット発信時に使用するISDN回線の電話番号、または回線グループ(下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない)
- ⑧ アナログ回線 プリセット発信時に使用するアナログ電話回線の電話番号、または回線グループ(下記参照)を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない)
※相手への発信者番号通知は、アナログ電話回線の仕様により、ダイヤルイン追加番号を選択しても契約回線番号が通知されます。
- ⑨ Peer to Peer [VoIP電話帳登録一覧]項目(P.114)に登録された電話番号の相手にPeer to Peer発信したとき、使用するSIPユーザー名を選択します。
(出荷時の設定: 捕捉しない)

回線グループ機能について

上記の⑥～⑧で、回線グループを選択すると、その回線グループに登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面(P.107)で確認できます。

※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

この章では、
管理者用の「PBX設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 「PBX情報」画面	130
■ 内線代表一覧	130
■ 内線一覧	131
2. 「基本設定」画面	133
■ 基本設定	133
3. 「特番設定」画面	135
■ 特番設定	135
■ 外線発信特番設定	142
4. 「内線個別設定」画面	143
■ 内線設定	143
■ 内線設定一覧	146
■ 内線一括設定	147
■ TEL1設定/TEL2設定	148
5. 「内線代表設定」画面	150
■ 内線代表設定(新規登録)	150
■ 内線代表設定(編集(内線代表名:内線代表番号))	152
■ 内線代表設定一覧	153
6. 「着信設定」画面	154
■ 着信設定	154
7. 「電話機設定」(VP-701)画面	155
■ 電話機のメンテナンス	155
■ 電話機設定	156
■ 機種個別設定(VP-701) <input type="button" value="共通設定"/>	157
■ 着信音設定 <input type="button" value="共通設定"/>	157
■ 機種共通設定 <input type="button" value="設定グループ"/>	158
■ 機種個別設定(VP-701) <input type="button" value="設定グループ"/>	159

(次ページにつづく)

電話機設定について

「電話機設定」(VP-701)画面、および「電話機設定」(KX-UTシリーズ)画面の[設定グループの選択]項目を選択すると、表示される内容が切り替わります。

は、「共通設定」を選択したときに表示される設定項目です。

は、「設定グループ(1~20)」を選択したときに表示される設定項目です。

7 「PBX設定」メニュー

下記は、前ページからの「つづき」です。

8.「電話機設定」(KX-UTシリーズ)画面	167
■ 電話機のメンテナンス	167
■ 電話機設定	168
■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) <input type="button" value="共通設定"/>	169
■ 発信音 <input type="button" value="共通設定"/>	170
■ 話中音 <input type="button" value="共通設定"/>	171
■ 規制音 <input type="button" value="共通設定"/>	172
■ 呼出音 <input type="button" value="共通設定"/>	173
■ 保留アラーム音 <input type="button" value="共通設定"/>	174
■ 着信音パターン <input type="button" value="共通設定"/>	175
■ 着信音パターン割り当て <input type="button" value="共通設定"/>	176
■ 機種共通設定 <input type="button" value="設定グループ"/>	177
■ 機種個別設定(KX-UTシリーズ) <input type="button" value="設定グループ"/>	178
9.「電話帳設定」画面	189
■ 設定グループの選択	189
■ 電話帳の保存と書き込み	190
■ 電話帳への登録	192
■ 電話帳登録一覧	194

「PBX設定」メニュー、または「簡単設定」メニュー(6章)から登録された内線子機の設定内容を表示します。

■内線代表一覧

登録された内線子機に対する各内線代表番号と、内線代表の設定内容を表示します。

内線代表一覧		
内線代表に属さない内線①		501
200 (営業部) ②	内線一覧 ③	201 202 203
	1次着信	201
	2次着信	202 203
	3次着信	なし
300 (購買部)	内線一覧	301 302
	1次着信	301 302
	2次着信	なし
	3次着信	なし
400 (資材部)	内線一覧	401 402
	順次着信	401 402

※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

- ①内線代表に属さない内線 内線代表に所属しない内線子機の内線番号を表示します。
- ②内線代表番号 内線子機が所属する内線代表の内線番号と内線代表名を表示します。
- ③内線一覧 内線代表に所属する内線子機の内線番号を表示します。
- ④内線代表着信設定 内線代表番号(②)に着信したとき、鳴動させる内線子機の内線番号を表示します。

登録した内線代表の設定を編集するときは

[内線代表一覧]項目に表示された内線代表(例:200、300、400)の設定内容は、「PBX設定」メニューの「内線代表設定」画面、または「簡単設定」メニュー(6章)で編集できます。

登録した内線代表に属さない設定を編集するときは

[内線代表一覧]項目に表示された内線代表に属さない内線(例:501)の設定内容は、「PBX設定」メニューの「内線代表設定」画面、または「簡単設定」メニュー(6章)で編集できます。

7 「PBX設定」メニュー

1. 「PBX情報」画面(つづき)

「PBX設定」-「PBX情報」

■内線一覧

登録された内線代表に所属する各内線子機の設定内容を表示します。

※[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機を、内線子機に使用する機種に設定している場合は、⑥~⑨に「--」を表示します。

内線一覧			
501 (受付) ①	内線代表番号 ②	内線代表なし	
	機種 ③	自動	
	ダイヤルイン番号 ④	なし	
	自動捕捉回線番号 ⑤	IP回線	03
		ISDN回線	03
		アナログ回線	03
		Peer to Peer	捕捉しない
		優先度	IP回線 ⇒ISDN回線
	留守電ボックス ⑥	ボックス1	
	WAN側からの接続 ⑦	禁止	
	MACアドレス ⑧	--	
IPアドレス ⑨	未接続		
内線代表番号	200		

※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

- ①内線番号 登録された内線子機の内線番号と名称を表示します。
- ②内線代表番号 登録された内線子機が所属している内線代表の内線代表番号を表示します。
※内線代表に所属しない内線子機の場合は、「内線代表なし」を表示します。
- ③機種 登録された内線子機の機種(自動、VP-701、KX-UTシリーズ、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2)を表示します。
- ④ダイヤルイン番号 登録された内線子機に着信するダイヤルイン番号を表示します。
※ダイヤルイン(着信内線番号)が設定されていない場合は、「なし」を表示します。
- ⑤自動捕捉回線番号 登録された内線子機で発信するときの回線捕捉と優先度を表示します。
- ⑥留守電ボックス 登録された内線子機で使用するボックス番号(ボックス1~ボックス3)を表示します。
- ⑦WAN側からの接続 登録された内線子機へのWAN側回線からの登録(レジスト)状態(禁止/許可)を表示します。

7 「PBX設定」メニュー

1. 「PBX情報」画面

「PBX設定」-「PBX情報」

■内線一覧(つづき)

内線一覧				
501 (受付) ①	内線代表番号 ②	内線代表なし		
	機種 ③	自動		
	ダイヤルイン番号 ④	なし		
	自動捕捉回線番号 ⑤	IP回線	03	
		ISDN回線	03	
		アナログ回線	03	
		Peer to Peer	捕捉しない	
		優先度	IP回線 ⇒ISDN回線	
	留守電ボックス ⑥	ボックス1		
	WAN側からの接続 ⑦	禁止		
	MACアドレス ⑧	-		
IPアドレス ⑨	未接続			
内線代表番号	200			

※画面の内容は、各内線子機の登録例です。

⑧MACアドレス …………… 登録された内線子機(KX-UTシリーズ)のMACアドレスを表示します。

⑨IPアドレス …………… 登録された内線子機が使用しているIPアドレスを表示します。
※内線子機が本製品に接続していない(電源が入っていない)場合は、「未接続」を表示します。

登録した内線子機の設定を編集するときは

[内線一覧]項目に表示された各内線子機の設定内容は、「PBX設定」メニューの「内線個別設定」画面と「着信設定」画面、または「簡単設定」メニュー(6章)で編集できます。

※内線子機が所属する内線代表については、「PBX設定」メニューの「内線代表設定」画面、または「簡単設定」メニュー(6章)で編集できます。

2. 「基本設定」画面

「PBX設定」-「基本設定」

登録された内線子機で共通に使用する基本機能についての設定画面です。

■ 基本設定

登録された内線子機で共通に使用する基本設定です。

基本設定			
転送切り戻り時間	①	20 秒	鳴動時間 30 秒
パークリコール時間	②	120 秒	
保留音	③	保留音1	
保留音の音量	④	<input checked="" type="radio"/> 0 dB <input type="radio"/> +6 dB	
留守番電話機能	⑤	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
TELポートの通信中転送	⑥	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効	

- ① 転送切り戻り時間 ……… 内線子機から転送に失敗したとき、元の通話に戻すまでの時間です。
設定時間内に転送先が応答できなかったときは、転送を元の通話に戻します。
設定できる範囲は、「0～99」(秒)です。 (出荷時の設定:20)
※「0」を設定した場合は、元の通話に戻りません。
- [鳴動時間] …………… 転送を切り戻したときに鳴動時間が経過すると、通話を切断します。
設定できる範囲は、「1～99」(秒)です (出荷時の設定:30)
- ② パークリコール時間 ……… 通話をパーク保留したとき、転送元の内線子機をリコール(再呼び出し)するまでの時間です。
パークリコール設定時間内に誰もパーク応答しなかったとき、通話をパーク保留した子機にリコールを開始します。 (出荷時の設定:120)
設定できる範囲は、「0～600」(秒)です。
※「0」を設定した場合は、リコールしません。
- ③ 保留音 …………… 内線子機で通話を保留したときの保留音を設定します。
保留音は、以下の全8種類から選択できます。 (出荷時の設定:保留音1)
◎保留音1:エリーゼのために
◎保留音2:グリーンスリーブス
◎保留音3:峠の我が家
◎保留音4:カノン
◎保留音5:メヌエット
◎オリジナル保留音1
◎オリジナル保留音2
◎オリジナル保留音3
※オリジナル保留音(1～3)を使用する場合は、指定フォーマット形式で保存されたオーディオファイルを、あらかじめ本製品に読み込ませておく必要があります。(P.19、P.24)
- ④ 保留音の音量 …………… 内線子機で通話を保留したとき、設定した保留音(③)の音量を、「0dB」(小)、「+6dB」(大)から設定します。 (出荷時の設定:0dB)

■基本設定(つづき)

基本設定			
転送切り戻り時間	①	20 秒	鳴動時間 30 秒
パークリコール時間	②	120 秒	
保留音	③	保留音1 ▾	
保留音の音量	④	<input checked="" type="radio"/> 0 dB <input type="radio"/> +6 dB	
留守番電話機能	⑤	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
TELポートの通信中転送	⑥	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効	

- ⑤留守番電話機能 …………… 本製品の留守番電話機能を設定します。 (出荷時の設定:無効)
 「有効」に設定すると、登録された内線子機から留守番電話を操作できます。
 留守番電話の応答やリモコン用の電話番号は、ユーザー用の設定画面で設定
 できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑥TELポートの通信中転送 本製品の[TEL1]/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機でのフッキング
 により、通話保留した相手を転送する機能です。 (出荷時の設定:無効)
 「有効」に設定すると、保留中に第2発信ができます。
 ※「無効」に設定している場合は、フッキングによる保留/解除ができます。

3. 「特番設定」画面

「PBX設定」-「特番設定」

本製品に登録した内線子機で使用する特別番号についての設定画面です。
 ※電話機ごとの操作については、本書254ページ～257ページでご確認ください。

■特番設定

[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続されたアナログ電話機など、フレキシブルボタンのない電話機などで操作したり、内部処理をしたりするために割り当てる特別番号について設定します。

※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。

※任意の半角数字と半角記号(#、*)を3桁以内で入力します。

※緊急通報(110、118、119)の番号は使用しないでください。

※「0」ではじまる番号は使用しないでください。

※②、⑤、⑩、⑭の設定は、同じ設定グループ番号が割り当てられた内線子機に対して有効です。

特番設定		
コールピックアップ	①	*81
グループピックアップ	②	**
指定ピックアップ	③	*80
パーク保留	④	保留 *90 応答 *91
外線キー応答	⑤	*92
音声呼出	⑥	*83
不在転送	⑦	*94
不応答転送	⑧	*95
話中転送	⑨	*96

- ① **コールピックアップ** …… この欄で設定した番号をダイヤルすると、ほかの内線子機への呼び出しに代理応答できます。 (出荷時の設定: *81)

- ② **グループピックアップ** …… この欄で設定した番号をダイヤルすると、同じ設定グループに所属するほかの内線子機への呼び出しに代理応答できます。 (出荷時の設定: **)
 ※この欄で設定した番号につづけてピックアップグループ番号(P.156)をダイヤルすると、指定した設定グループへの呼び出しに代理応答できます。

- ③ **指定ピックアップ** …… この欄で設定した番号につづけて内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の内線子機への呼び出しに代理応答できます。 (出荷時の設定: *80)

- ④ **パーク保留** …… 登録した内線子機で、パーク保留・応答するための特番です。
 - [保留]** …… この欄で設定した番号につづけてパーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24)をダイヤルすると、通話をパーク保留できます。 (出荷時の設定: *90)
 - [応答]** …… この欄で設定した番号につづけてパーク番号、またはパーク機能を割り当てたフレキシブルボタンの番号(01～24)をダイヤルすると、ほかの内線子機でパーク保留した呼び出しに応答できます。 (出荷時の設定: *91)

■特番設定(つづき)

特番設定		
コールピックアップ	①	*81
グループピックアップ	②	**
指定ピックアップ	③	*80
パーク保留	④	保留 *90 応答 *91
外線キー応答	⑤	*92
音声呼出	⑥	*83
不在転送	⑦	*94
不応答転送	⑧	*95
話中転送	⑨	*96

⑤ 外線キー応答

同じ設定グループに所属する内線子機から、外線着信や外線保留に回答するとき使用する特番です。 (出荷時の設定：*92)

※着信している番号に、〈外線キー〉(P.161)、〈外線状態通知キー〉(P.181)を割り当てていない場合は、外線キー応答ができません。

※VP-701やKX-UTシリーズの着信に、ほかの内線子機から回答するときには、フレキシブルボタンがない内線子機でも使用できます。

VP-701に着信した電話を、ほかの内線子機から回答する場合

同じ設定グループに所属する内線子機から、この欄で設定した番号(例：*92)につづけて、外線着信中、または外線保留中の〈外線キー〉のキー番号(01～24)をダイヤルすると、外線着信や外線保留に回答できます。

例：03番のキー番号に回答するには、「*9203」とダイヤルします。

KX-UT136Nに着信した電話を、ほかの内線子機から回答する場合

同じ設定グループに所属する内線子機から、この欄で設定した番号(例：*92)につづけて、外線着信中、または外線保留中の〈外線状態通知キー〉のキー番号(01～24)をダイヤルすると、外線着信や外線保留に回答できます。

例：03番のキー番号に回答するには、「*9203」とダイヤルします。

フレキシブルボタンがない内線子機に着信した電話の場合

着信した内線子機に、フレキシブルボタンがないときは、VP-701やKX-UT136Nに着信したときのように、電話機本体で〈外線状態通知キー〉のキー番号(01～24)を識別できませんので、「*81」(コールピックアップ)で回答することをおすすめします。

⑥ 音声呼出

この欄で設定した番号につづけて内線番号をダイヤルすると、ダイヤルした内線番号の内線子機を音声で呼び出します。 (出荷時の設定：*83)

※VP-701、KX-UTシリーズ以外の電話機には、音声呼び出しできません。

■ 特番設定(つづき)

特番設定		
コールピックアップ	①	*81
グループピックアップ	②	**
指定ピックアップ	③	*80
パーク保留	④	保留 *90 応答 *91
外線キー応答	⑤	*92
音声呼出	⑥	*83
不在転送	⑦	*94
不応答転送	⑧	*95
話中転送	⑨	*96

- ⑦ **不在転送** …………… この欄で設定した番号をダイヤルすると、あらかじめ指定した内線子機ごとの転送先に着信が転送されます。(出荷時の設定：*94)
 ※[*94]につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
 ※不在転送機能を解除するときは、[*94]だけをダイヤルします。
 ※ユーザー用の「着信設定」画面で、内線子機ごとの転送先を設定できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑧ **不応答転送** …………… この欄で設定した番号をダイヤルすると、設定時間内に応答できない場合、あらかじめ指定した転送先に着信が転送されます。(出荷時の設定：*95)
 ※[*95]につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
 ※不応答転送機能を解除するときは、[*95]をダイヤルします。
 ※ユーザー用の「着信設定」画面で、内線子機ごとの転送先と呼び出し時間(出荷時の設定：5秒)を設定できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)
- ⑨ **話中転送** …………… この欄で設定した番号をダイヤルすると、内線通話中に、ほかの内線から着信した場合、あらかじめ指定した転送先に着信が転送されます。(出荷時の設定：*96)
 ※[*96]につづけて転送先の電話番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
 ※話中転送機能を解除するときは、[*96]だけをダイヤルします。
 ※ユーザー用の「着信設定」画面で、登録した内線子機ごとの転送先を設定できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

■特番設定(つづき)

特番設定						
コールピックアップ		*81				
話中転送		*96				
外線着信転送の切替	⑩	*97				
昼夜切替	⑪	*98				
留守電の開始と停止	⑫	*99				
留守電の再生	⑬	*84				
回線閉塞の開始と停止	⑭	*87				
着信おまたせの開始と停止	⑮	*86				
システム特番	⑯	*82	*93	*85	*88	*89

⑩外線着信転送の切替 ……

指定した外線着信転送の「有効」/「無効」を切り替えます。

(出荷時の設定: *97)

※この機能を使用する場合、フレキシブルボタンに外線着信転送切替の割り当てが必要です。

※ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で回線(電話番号)ごとの転送先を設定できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

VP-701の場合

「*97」につづけて、外線着信転送通知(P.166)を割り当てたVP-701のフレキシブルボタン番号(01~24)をダイヤルします。(例: *9724)

KX-UTシリーズの場合

KX-UT136Nと同じ設定グループに所属する内線子機は、「*97」につづけて、外線着信転送切替(P.32、P.188)を割り当てたKX-UT136Nのフレキシブルボタン番号(01~24)をダイヤルします。(例: *9724)

⑪昼夜切替 ……………

外線からの着信先を、昼間と夜間で切り替えます。 (出荷時の設定: *98)

「*98」につづけて外線サービスグループ番号(01~08)(P.209)をダイヤルすると、指定の外線サービスグループ番号に対する着信動作の設定を昼間から夜間、または夜間から昼間に変更できます。

※「*98」をダイヤルする、またはKX-UT136Nに割り当てた〈昼夜切替〉を押すと、すべての外線サービスグループに対する着信動作の設定(昼間から夜間、または夜間から昼間)を一括して変更できます。

※回線ごとの夜間転送先は、「夜間転送先設定」画面(P.212)で設定できます。

※切替状況は、ユーザー用の「昼夜切替設定」画面(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)、またはVP-701に割り当てた〈昼夜切替通知〉、KX-UT136Nに割り当てた〈昼夜切替〉によるランプで確認できます。(昼間:消灯、夜間:赤点灯)

■ 特番設定(つづき)

特番設定					
コールピックアップ			*81		
話中転送			*96		
外線着信転送の切替	⑩		*97		
昼夜切替	⑪		*98		
留守電の開始と停止	⑫		*99		
留守電の再生	⑬		*84		
回線閉塞の開始と停止	⑭		*87		
着信おまたせの開始と停止	⑮		*86		
システム特番	⑯		*82	*93	*85 *88 *89

⑫留守電の開始と停止 …… この欄で設定した番号につづけて留守電ボックス番号(01~03)をダイヤルすると、ダイヤルした番号の留守電ボックスの留守番電話機能を開始、または停止できます。(操作例: *9901) (出荷時の設定: *99)

⑬留守電の再生 …………… この欄で設定した番号につづけて、留守電ボックス番号(01~03)をダイヤルすると、ダイヤルした番号の留守電ボックスの留守番電話操作メニュー(メインメニュー)にログインできます。(操作例: *8401)

(出荷時の設定: *84)

ログインした状態で、電話機から聞こえるメッセージにしたがって操作すると、録音内容の再生や各種設定ができます。

※留守番電話操作メニュー(メインメニュー)の詳細については、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」(留守番電話操作一覧)をご覧ください。

■ 特番設定(つづき)

特番設定					
コールピックアップ		*81			
話中転送		*96			
外線着信転送の切替	⑩	*97			
昼夜切替	⑪	*98			
留守電の開始と停止	⑫	*99			
留守電の再生	⑬	*84			
回線閉塞の開始と停止	⑭	*87			
着信おまたせの開始と停止	⑮	*86			
システム特番	⑯	*82	*93	*85	*88 *89

- ⑭ 回線閉塞の開始と停止 … 回線閉塞機能を開始、または停止するときに使用する特番です。
(出荷時の設定: *87)
- 回線閉塞機能とは、通話中や不在など、あらかじめ応答できないことがわかっている場合に、回線を話中状態にできる機能です。

VP-701の場合

同じ設定グループに所属する電話機から、この欄で設定した番号につづけて、外線キーを割り当てたフレキシブルボタンの番号(01~24)をダイヤルすると、選択した回線について回線閉塞機能を開始、または停止できます。回線閉塞機能が動作しているあいだは、選択した回線の〈外線キー〉が赤色に点灯して、外線からの着信を拒否します。

※この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに〈外線キー〉の割り当てが契約チャネル数分必要です。(P.161)

KX-UTシリーズの場合

同じ設定グループに所属する電話機から、この欄で設定した番号につづけて、外線状態通知キーを割り当てたフレキシブルボタンの番号(01~24)をダイヤルすると、選択した回線について回線閉塞機能を開始、または停止できます。回線閉塞機能が動作しているあいだは、選択した回線の〈外線状態通知キー〉が赤色に点灯して、外線からの着信を拒否します。

※この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに〈外線状態通知キー〉の割り当てが契約チャネル数分必要です。(P.181)

回線閉塞機能を設定したときは

ほかの機能と回線閉塞機能の設定が重複した場合は、下記のような条件で動作します。

回線閉塞機能が優先される機能は

完全に回線が閉塞された状態では、話中になるため、下記の機能は同時に利用できません。

- ◎着信キューイング機能
- ◎着信おまたせ機能
- ◎着信転送機能

回線閉塞機能より優先される機能は

- ◎迷惑電話お断り機能
- ◎非通知着信拒否機能
- ◎留守番電話機能(ただし、該当する留守電ボックスが開始状態で、外線着信転送機能がOFFの場合)

■ 特番設定(つづき)

特番設定					
コールピックアップ		*81			
話中転送		*96			
外線着信転送の切替	⑩	*97			
昼夜切替	⑪	*98			
留守電の開始と停止	⑫	*99			
留守電の再生	⑬	*84			
回線閉塞の開始と停止	⑭	*87			
着信おまたせの開始と停止	⑮	*86			
システム特番	⑯	*82	*93	*85	*88 *89

⑮ 着信おまたせの開始と停止

この欄で設定した番号をダイヤルすると、通話中など登録した内線子機が設定した時間内に応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただく着信おまたせ機能を開始、または停止できます。(出荷時の設定: *97)
 ※ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で、回線ごとに使用するパターンを設定します。

※VP-701で、この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに〈外線キー〉の割り当てが契約チャンネル数分必要です。(P.161)

※KX-UTシリーズで、この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに〈外線状態通知キー〉の割り当てが契約チャンネル数分必要です。(P.181)

※着信おまたせ機能で、オリジナルおまたせメッセージをご利用になる場合は、USBメモリーからオーディオファイルを本製品に読み込ませる必要があります。

ファイル形式や操作方法など、詳しくは本書21ページ、26ページをご覧ください。

⑯ システム特番 ……………

本製品のシステム内部で使用する特番です。

(出荷時の設定: *82 *93 *85 *88 *89)

これらの番号をほかの特番や内線番号として使用したい場合には、重複しない番号に変更してください。

※システム特番は、登録した内線子機からダイヤルする番号ではありません。

■外線発信特番設定

「内線個別設定」画面(P.143)で登録した回線捕捉と異なる回線を使用して外線へ発信するための番号です。

外線発信特番設定		
外線電話番号	回線	プレフィクス
03	IP回線	*1*
03	IP回線	*2*
03	IP回線	*3*
03	ISDN回線	*4*
03	アナログ回線	*5*
回線グループ1	IP回線	*6*

※表示されている外線電話番号と回線は、登録例です。

プレフィクス…………… 回線(電話番号)ごとに、任意の半角数字と半角記号(#、*)を7桁以内で入力します。
 [プレフィクス]を付けて発信すると、選択した回線に切り替えて発信できます。
 ※ほかの特番や内線番号などと重複しないように設定してください。

回線グループ機能について

上記の例で、「回線グループ1」に設定した[プレフィクス]を付けて発信すると、その回線グループ(P.107)に登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。

※[外線発信特番設定]項目に表示されるのは、回線グループ番号と回線種別だけです。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面(P.107)で確認できます。

※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

4. 「内線個別設定」画面

「PBX設定」-「内線個別設定」

内線子機の新規登録や編集、本製品の[TEL1]ポート/[TEL2]ポートについての設定画面です。

※登録できる内線子機は、[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機2台を含め、最大26台です。

※「簡単設定」メニュー(6章)からも内線子機を設定できます。

■内線設定

内線子機を新規登録するとき、または設定内容を編集するときを使用します。

※内線番号と内線代表番号は重複して登録できません。

登録されている内線代表番号は、「内線代表設定」画面の「内線代表設定一覧」項目(P.153)で確認できます。

内線設定		
機種	①	自動
番号	②	3
名前	③	営業2
内線番号	④	202
パスワード	⑤	
優先度	⑥	IP回線⇒ISDN回線
内線		

※説明には、[機種]①欄で「自動」を選択したときの画面を使用しています。

- ① **機種** 登録する内線子機の機種を「自動」、「VP-701」、「KX-UTシリーズ」、「標準SIPフォン」、「標準SIPフォン(WLAN)」、「TEL1」、「TEL2」から選択します。
(出荷時の設定：自動)
※「TEL1」と「TEL2」は、アナログ電話機のことです。
アナログ電話機を本製品の[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続したとき、「TEL1」、「TEL2」を指定します。
※アナログ電話機以外を登録する場合は、機種を自動判別する「自動」をおすすめします。
機種を指定して登録する場合は、VP-701は「VP-701」、パナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N)は「KX-UTシリーズ」、無線IP携帯は「標準SIPフォン(WLAN)」を選択します。
- ② **番号** 内線子機を登録するために、「1」～「24」の番号を選択します。
※[機種]①欄で「TEL1」、「TEL2」を選択したときは表示されません。
- ③ **名前** 登録する内線子機の名前を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
※[機種]①欄で「TEL1」、「TEL2」を選択したときは表示されません。
- ④ **内線番号** 登録する内線子機の内線番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。

■内線設定(つづき)

内線設定		
機種	①	自動
番号	②	3
名前	③	営業2
内線番号	④	202
パスワード	⑤	
優先度	⑥	IP回線⇒ISDN回線
回線		

※説明には、[機種](①)欄で「自動」を選択したときの画面を使用しています。

- ⑤ **パスワード** …………… 登録した内線子機が、本製品に接続するとき使用するパスワードを、半角英数字31文字以内で入力します。
 ※[機種](①)欄で「TEL1」、「TEL2」を選択したときは表示されません。
 ※「簡単設定」メニュー(6章)で新規に内線子機を登録すると、パスワードは自動的に内線番号が設定されます。
 パスワードは、長く複雑なものに変更されることをおすすめします。
 ※ご使用になるIP電話機側のパスワードと一致しない場合は、本製品の内線子機として使用できませんのでご注意ください。(アナログ電話機を除く)
- ⑥ **優先度** …………… 登録された内線子機が、プリセット発信(外線経路を捕捉しないで発信した場合の自動捕捉動作)を使用して外線発信した回線が使用中の場合、次にどの回線へ捕捉スライドして発信するかを設定します。
 (出荷時の設定:IP回線⇒ISDN回線)
- ◎ **IP回線⇒ISDN回線**
 IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信します。
 - ◎ **IP回線⇒アナログ回線**
 IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信します。
 - ◎ **ISDN回線⇒IP回線**
 ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信します。
 - ◎ **ISDN回線⇒アナログ回線**
 ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信します。
 - ◎ **アナログ回線⇒IP回線**
 アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信します。
 - ◎ **アナログ回線⇒ISDN回線**
 アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信します。
 - ◎ **IP回線**
 IP回線が使用中の場合、発信しません。
 - ◎ **ISDN回線**
 ISDN回線が使用中の場合、発信しません。
 - ◎ **アナログ回線**
 アナログ回線が使用中の場合、発信しません。

■内線設定(つづき)

内線設定	
機種	自動
回線	ISDN
IP回線 ⑦	03
ISDN回線 ⑧	03
アナログ回線 ⑨	捕捉しない
Peer to Peer ⑩	捕捉しない
留守電ボックス ⑪	ボックス3
WAN側からの接続 ⑫	禁止
MACアドレス ⑬	

※説明には、[機種](①)欄で「自動」を選択したときの画面を使用しています。

- ⑦ IP回線 プリセット発信時に使用するIP回線の電話番号、または回線グループ(下記参照)を選択します。 (出荷時の設定: 捕捉しない)
- ⑧ ISDN回線 プリセット発信時に使用するISDN回線の電話番号、または回線グループ(下記参照)を選択します。 (出荷時の設定: 捕捉しない)
- ⑨ アナログ回線 プリセット発信時に使用するアナログ電話回線の電話番号、または回線グループ(下記参照)を選択します。 (出荷時の設定: 捕捉しない)
- ⑩ Peer to Peer Peer to Peer発信時に使用するSIPユーザー名を選択します。 (出荷時の設定: 捕捉しない)
- ⑪ 留守電ボックス 登録する内線子機が使用する留守電ボックスを、「使用しない」、「ボックス1」、「ボックス2」、「ボックス3」から選択します。 (出荷時の設定: ボックス1)
※[機種](①)欄で、「自動」、「VP-701」、「KX-UTシリーズ」を設定したときだけ、選択できます。
- ⑫ WAN側からの接続 WAN側回線からの接続について設定します。 (出荷時の設定: 禁止)
「許可」に設定すると、WAN側回線からの接続を許可します。
※「許可」に設定した場合、特に[パスワード](⑤)欄に入力するパスワードは、長く複雑なものに設定することをおすすめします。
- ⑬ MACアドレス ご使用になるパナソニック社製IP電話機(KX-UT123N、KX-UT136N)のMACアドレスを入力します。
※[機種](①)欄で、「自動」、「KX-UTシリーズ」以外を選択していると、MACアドレスを入力できません。
※MACアドレスの入力を間違えると、電話機を利用できません。
MACアドレスの確認方法については、ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

回線グループ機能について

上記の⑦～⑨で、回線グループを選択すると、その回線グループに登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面(P.107)で確認できます。

※回線グループに登録できる回線(電話番号)は、同じ回線種別だけです。

■内線設定一覧

[内線設定]項目(P.143)、または[簡単設定]メニュー(6章)で登録した内線子機の内線番号と機種などを表示します。

※登録されている内線代表番号は、「内線代表設定」画面の[内線代表設定一覧]項目(P.153)で確認できます。

内線設定一覧							
①	すべて	番号	名前	内線番号	機種	②	③
<input type="checkbox"/>		1	受付	501	自動	編集	削除
<input type="checkbox"/>		2	営業1	201	自動	編集	削除
<input type="checkbox"/>		3	営業2	202	自動	編集	削除
<input type="checkbox"/>		4	営業3	203	自動	編集	削除
<input type="checkbox"/>		5	購買1	301	自動	編集	削除
<input type="checkbox"/>		6	購買2	302	自動	編集	削除
		TEL1		401	TEL1	編集	削除
		TEL2		402	TEL2	編集	削除
						④	⑤
						選択削除	全削除

※画面の内容は、内線番号と機種の登録例です。

- ① **子機選択ボックス** …………… 複数の内線子機を削除するとき、または複数の内線子機に設定をコピーするとき、ボックスにチェックマークを入れます。
 ※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
 ※設定を複数の内線子機にコピーするときは、コピー先にしたい子機選択ボックスにチェックマークを入れてから、[内線一括設定]項目でコピー元になる内線子機の選択が必要です。(P.147)
- ② **編集** …………… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線番号(内線子機)の内容を[内線設定]項目で編集できます。
- ③ **削除** …………… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線番号に対する登録を削除します。
- ④ **選択削除** …………… クリックすると、[子機選択ボックス](①)欄で選択した内線子機の内容を削除します。
- ⑤ **全削除** …………… クリックすると、内線子機として登録されたすべての内容を削除します。

■内線一括設定

連番で内線番号を一括登録したり、設定内容をほかの内線番号に一括コピーしたりできます。

内線一括設定	
一括登録 ①	<input type="text"/> ~ <input type="text"/> <input type="button" value="追加"/> 指定した範囲の連番を内線番号として登録を行います。
設定コピー ②	コピー元: [内線子機1(501)] <input type="button" value="コピー"/> コピー元から選択した子機へ内線設定をコピーします。
	コピーする設定項目 <input type="checkbox"/> 機種 <input type="checkbox"/> 優先度 <input type="checkbox"/> IP回線 <input type="checkbox"/> ISDN回線 <input type="checkbox"/> アナログ回線 <input type="checkbox"/> Peer to Peer <input type="checkbox"/> 留守電ボックス <input type="checkbox"/> WAN側からの接続

※画面の内容は、内線番号と機種登録例です。

- ①一括登録 連番で一括に登録したい内線番号の範囲を入力します。
〈追加〉
 クリックすると、入力した範囲(例: 601 ~ 605)の内線番号が[内線設定一覧]項目に登録されます。
 ※入力した範囲で、すでに登録された内線番号がある場合は、「電話番号が重複しています」を表示します。

- ②設定コピー 登録した内線子機の設定内容をほかの内線子機にコピーできます。
【コピーのしかた】
 1. [内線設定]項目で、コピー元の子機(例:501)について設定します。
 2. [一括登録]欄で、登録する内線番号の範囲(例:601~605)を入力して、〈追加〉をクリックします。
 3. [現在の登録]項目で、設定をコピーしたい内線子機(例:601~605)のチェックボックスをクリックします。
 4. [設定コピー]欄で、コピー元の内線子機(例:501)を選択し、コピーする項目のチェックボックスをクリックします。
 5. [設定コピー]欄の〈コピー〉をクリックします

■TEL1設定/TEL2設定

本製品の[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続する電話機の基本設定です。

TEL1 設定		
ナンバーディスプレイ	①	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
FAXの接続	②	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
受話音量	③	0 ▾ dB
送話音量	④	0 ▾ dB
電話機のダイヤル方式	⑤	全方式に対応 ▾
桁間タイマー	⑥	5 秒
エコーキャンセラー	⑦	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッション	⑧	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッションレベル	⑨	-30 ▾ dB
CNG	⑩	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
CNGレベル	⑪	-55 ▾ dB

※[TEL1]ポートと[TEL2]ポートは、個別に設定できます。

※[TEL1設定]項目の画面を使用して説明しています。

- ① **ナンバーディスプレイ** … [TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機で使用するナンバーディスプレイ機能について設定します。 (出荷時の設定:無効)
※ナンバーディスプレイ機能を「有効」に設定する場合、アナログ電話機がナンバーディスプレイ機能に対応していることをご確認ください。
- ② **FAXの接続** …………… [TEL1]ポート/[TEL2]ポートにアナログ電話回線用のFAXを接続するときの設定です。 (出荷時の設定:有効)
※「無効」に設定すると、FAXを接続しても動作しません。
- ③ **受話音量** …………… アナログ電話機使用時、自分の受話器に聞こえる音量を設定します。 (出荷時の設定:0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)~「+6」(最大音量)(dB)です。
- ④ **送話音量** …………… アナログ電話機使用時、相手の受話器に聞こえる音量を設定します。 (出荷時の設定:0)
設定できる範囲は、「-12」(最小音量)~「+6」(最大音量)(dB)です。
- ⑤ **電話機のダイヤル方式** … 本製品の[TEL1]ポート/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機のダイヤル信号の種類を設定します。 (出荷時の設定:全方式に対応)
◎全方式に対応 : 電話機のダイヤル方式を自動認識させるとき
◎PB : 電話機のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
◎DP : 電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)のとき
- ⑥ **桁間タイマー** …………… ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。 (出荷時の設定:5)
設定できる範囲は、「1~99」(秒)です。
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎて操作がないと発信を開始しますのでご注意ください。

■ TEL1設定/TEL2設定(つづき)

TEL1 設定		
ナンバーディスプレイ	①	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
FAXの接続	②	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
受話音量	③	0 ▾ dB
送話音量	④	0 ▾ dB
電話機のダイヤル方式	⑤	全方式に対応 ▾
桁間タイマー	⑥	5 秒
エコーキャンセラー	⑦	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッション	⑧	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
エコーサプレッションレベル	⑨	-30 ▾ dB
CNG	⑩	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
CNGレベル	⑪	-55 ▾ dB

※ [TEL1] ポートと [TEL2] ポートは、個別に設定できます。

※ [TEL1 設定] 項目の画面を使用して説明しています。

- ⑦ **エコーキャンセラー** …… 本製品の [TEL1] ポート/[TEL2] ポートで使用するエコーキャンセラー機能について設定します。
(出荷時の設定: 有効)
※「有効」に設定すると、通話するときに起こるエコー(反響)を低減します。
(通話する相手に返るエコー抑止に効果があります)
- ⑧ **エコーサプレッション** …… 本製品のエコーサプレッション機能について設定します。
(出荷時の設定: 有効)
※「有効」に設定すると、送話音量を検知し、それに応じた受話音量を下げて、エコー量を抑止します。
- ⑨ **エコーサプレッション
レベル** …………… エコーサプレッション機能使用時のエコー抑止レベルを設定します。
(出荷時の設定: -30)
設定できる範囲は、「-65」(最小)～「0」(最大)(dB)です。
ダブルトーク時、途切れ感がある場合にレベルを下げます。
※レベルを下げすぎると、エコー量が増加しますのでご注意ください。
- ⑩ **CNG** …………… 本製品のCNG(コンフォートノイズ生成)機能について設定します。
(出荷時の設定: 有効)
※「有効」に設定すると、相手の受話器に聞こえる受話音に少しノイズ(サー)を付加して無通話時の違和感を軽減します。
- ⑪ **CNGLレベル** …………… CNG機能を使用時、相手の受話器に聞こえるノイズ(サー)の音量を設定します。
(出荷時の設定: -55)
設定できる範囲は、「-65」(最小音量)～「-30」(最大音量)(dB)です。

5. 「内線代表設定」画面

「PBX設定」-「内線代表設定」

複数の内線番号を内線代表番号という1つのグループにまとめ、最大26件まで登録できます。

- ◎一斉着信：設定したグループ内で、着信させる内線子機、着信させない内線子機を選択できます。
一斉着信では、一定時間、応答できない状態がつづく、着信させる内線子機を変更できます。
※着信させる内線子機を選択は、1次着信から3次着信まで設定できます。
- ◎順次着信：設定したグループ内で、着信させる内線子機の順番を指定できます。
順次着信では「01」～「26」のテキストボックスに登録された順番に着信します。(P.152)
※通話中の場合は、次の番号に登録された内線子機に着信します。

■内線代表設定(新規登録)

内線代表で使用する内線代表番号を新規登録するときに使用します。

- ※「簡単設定」メニュー(6章)で登録した内線子機の設定を変更できます。
- ※内線番号と内線代表番号は重複して登録できません。

登録されている内線子機の内線番号と機種は、「内線個別設定」画面(P.143)で確認できます。

内線代表設定(新規登録)				
内線代表番号	① <input type="text"/>			
内線代表名	② <input type="text"/>			
動作	③ 一斉 ▼			
<1次着信>				
内線番号	<input type="checkbox"/> すべて④	<input type="checkbox"/> 501	<input type="checkbox"/> 201	<input type="checkbox"/> 202
		<input type="checkbox"/> 301	<input type="checkbox"/> 302	<input type="checkbox"/> 401
			<input type="checkbox"/> 203	<input type="checkbox"/> 402
<2次着信>				
起動開始時間	⑤ 10秒後 ▼			
内線番号	<input type="checkbox"/> すべて④	<input type="checkbox"/> 501	<input type="checkbox"/> 201	<input type="checkbox"/> 202
		<input type="checkbox"/> 301	<input type="checkbox"/> 302	<input type="checkbox"/> 401
			<input type="checkbox"/> 203	<input type="checkbox"/> 402
<3次着信>				
起動開始時間	⑤ なし ▼			

- ※[動作](③)欄で「一斉」を選択したときの画面を使用しています。
- 「順次」を選択したときの説明については、本書150ページをご覧ください。

- ①内線代表番号 …………… 内線代表名(②)に対する内線代表番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。
設定された内線代表番号をダイヤルすると、この項目で設定された内容にしたがって着信します。
外線から内線代表番号に着信させるときは、「着信設定」画面の[着信設定]項目にある[着信内線番号]欄(P.154)、または「簡単設定」メニュー(6章)で設定できます。
※緊急通報(110、118、119)の番号は、使用しないでください。
※「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
- ②内線代表名 …………… 登録する内線代表の名称を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③動作 …………… 内線代表番号で着信したときの動作を選択します。
◎一斉：[内線番号](④)欄で、着信させる内線子機のチェックボックスをクリックします。
※一定時間、応答できない状態がつづいたとき、着信させる内線子機を変更する場合は、[起動開始時間](⑤)欄を設定します。
◎順次：設定したグループ内で、着信させる内線子機の順番を指定できます。(P.152)

■内線代表設定(新規登録)つづき

内線代表設定(新規登録)				
内線代表番号	①	<input type="text"/>		
内線代表名	②	<input type="text"/>		
動作	③	一斉 ▼		
<1次着信>				
内線番号	<input type="checkbox"/> すべて④	<input type="checkbox"/> 501	<input type="checkbox"/> 201	<input type="checkbox"/> 202
		<input type="checkbox"/> 301	<input type="checkbox"/> 302	<input type="checkbox"/> 401
			<input type="checkbox"/> 402	<input type="checkbox"/> 203
<2次着信>				
起動開始時間	⑤	10秒後 ▼		
内線番号	<input type="checkbox"/> すべて④	<input type="checkbox"/> 501	<input type="checkbox"/> 201	<input type="checkbox"/> 202
		<input type="checkbox"/> 301	<input type="checkbox"/> 302	<input type="checkbox"/> 401
			<input type="checkbox"/> 402	<input type="checkbox"/> 203
<3次着信>				
起動開始時間	⑤	なし ▼		

※[動作](③)欄で「一斉」を選択したときの画面を使用しています。
 「順次」を選択したときの説明については、本書150ページをご覧ください。

- ④内線番号 …………… 内線代表番号で着信したとき鳴動させる内線子機の内線番号を選択します。
 ※[すべて]欄のボックスをクリックすると、一括して選択、解除ができます。
 ※[動作](③)欄で「一斉」を選択したときは、[起動開始時間](⑤)欄を設定すると、3次着信まで動作を設定できます。

- ⑤起動開始時間 …………… 次の着信動作に切り替わるまでの鳴動時間を設定します。
 (出荷時の設定：なし)
 設定できる範囲は、「なし」、「10秒後」～「60秒後」です。
 ※[動作](③)欄で「順次」を選択したときは、表示されません。

■内線代表設定(編集(内線代表名:内線代表番号))

登録された内線代表番号に対する設定内容を編集するときに使用します。

※編集するときは、「内線代表設定一覧」項目(P.153)に表示された内線代表番号の〈編集〉をクリックします。

※登録された内線番号は、「内線個別設定」画面の「内線設定」項目(P.143)で編集できます。

内線代表設定 (編集(資材部:400))			
内線代表番号 ①	400		
内線代表名 ②	資材部		
動作 ③	順次 ▾		
内線番号 ④	01	401 ▾	14 ▾
	02	402 ▾	15 ▾
	03	▾	16 ▾
	04	▾	17 ▾
	05	▾	18 ▾
	06	▾	19 ▾
	07	▾	20 ▾
	08	▾	21 ▾
	09	▾	22 ▾
	10	▾	23 ▾
	11	▾	24 ▾
	12	▾	25 ▾
	13	▾	26 ▾

※[動作](③)欄で「順次」を選択したときの画面を使用しています。

※「一斉」を選択したときの説明については、本書150ページをご覧ください。

- ①内線代表番号 …………… 内線代表名(②)に対する内線代表番号を、半角数字2桁～7桁で入力します。設定された内線代表番号をダイヤルすると、この項目で設定された内容にしたがって着信します。
外線から内線代表番号に着信させるときは、「着信設定」画面の「着信設定」項目にある「着信内線番号」欄(P.154)、または「簡単設定」メニュー(6章)で設定できます。
※緊急通報(110、118、119)の番号は、使用しないでください。
※「0」ではじまる番号は、使用しないでください。
- ②内線代表名 …………… 登録する内線代表の名称を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ③動作 …………… 内線代表番号で着信したときの動作を選択します。
◎一斉：設定したグループ内で、着信させる内線子機を選択できます。
※一定時間、応答できない状態がつづいたとき、着信させる内線子機を変更できます。
着信させる内線子機の選択は、1次着信から3次着信まで設定できます。(P.150)
◎順次：「01」～「26」のテキストボックス(④)で、着信させる内線子機の順番を指定します。
- ④内線番号 …………… 内線代表番号で着信したとき、鳴動させる内線子機の内線番号を選択します。
※「01」のテキストボックスに登録された内線子機が通話中の場合は、次の番号に登録された内線子機に着信します。

■内線代表設定一覧

[内線代表設定(新規登録)]項目(P.150)、または「簡単設定」メニュー(6章)で登録した内線代表番号に設定された着信動作を表示します。

内線代表設定一覧			
内線代表番号	内線代表名	動作	内線番号
200	営業部	一斉	<1次着信> 201 <2次着信> 15秒後 202 203 <3次着信> なし
300	購買部	一斉	<1次着信> 301 302 <2次着信> なし <3次着信> なし
400	資材部	順次	401 402

① 編集 ② 削除

編集 削除

編集 削除

③ 全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線代表番号の設定内容を[内線代表設定(編集(内線代表名:内線代表番号))]項目で編集できます。
- ②<削除> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内線代表番号に対する登録を削除します。
- ③<全削除> クリックすると、内線代表番号として登録されたすべての番号を削除します。

6. 「着信設定」画面

「PBX設定」-「着信設定」

外線から着信したときの着信内線番号の変更と着信キューイングについての設定画面です。

■ 着信設定

「簡単設定」メニュー(6章)で登録した着信内線番号の変更、着信キューイングの設定をします。

着信設定		①	②	③
外線電話番号	回線	着信内線番号	鳴り分け判別	着信キューイング
03	IP回線	200	外線音A	使用しない
03	IP回線	300	外線音A	使用しない
03	IP回線	400	外線音A	使用しない
03	ISDN回線	401	外線音B	使用しない
03	アナログ回線	402	通知番号で判別	使用しない
vr7000	Peer to Peer	501	内線音A	使用しない

※画面の内容は、登録例です。

① 着信内線番号 …………… 登録した外線電話番号(回線)に電話がかかってきたとき、着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。(出荷時の設定：なし)
着信内線番号には内線番号、または内線代表番号を設定できます。

② 鳴り分け判別 …………… 登録した外線電話番号ごとに、着信時の音(パターン)*を設定します。
(出荷時の設定：外線音A(アナログ回線/ISDN回線/IP回線時)、内線音A(Peer to Peer時))

※VP-701、KX-UTシリーズ以外の電話機では無効な設定です。
VP-701、KX-UTシリーズを本製品に接続している場合は、下記から選択できます。

◎外線音A～外線音C：外線着信時に使用される音(パターン)です。

◎内線音A～内線音C：内線着信時に使用される音(パターン)です。

◎通知番号で判別：「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合、着信時の音に「外線音A」を使用し、それ以外の場合は、「内線音A」を使用します。

★KX-UTシリーズの電話機では、着信音ではなく、着信音の鳴るパターン(リズム)になります。

「電話機設定(KX-UTシリーズ)」画面の[着信音パターン割り当て設定]項目で割り当てたパターン(リズム)で鳴ります。

③ 着信キューイング …………… 着信中、または通話中に、新たに外線からの着信があっても話中にならないようにする機能です。(出荷時の設定：使用しない)

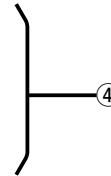
※「使用する」に設定すると、[着信内線番号](①)欄で選択した内線子機に着信できない状態で、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。

登録された内線子機の内線番号に対して、設定グループの設定や機能の割り当てをします。

■ 電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

内線番号	機種	状態	グループ設定	全端末再起動
501	自動	接続済み	設定グループ1	再起動
201	自動	接続済み	設定グループ1	再起動
202	自動	接続済み	設定グループ1	再起動
203	自動	接続済み	設定グループ1	再起動
301	自動	未接続	設定グループ1	再起動
302	自動	未接続	設定グループ1	再起動
401	TEL1	--	設定グループ1	再起動
402	TEL2	--	設定グループ1	再起動



※画面の内容は、登録例です。

※「電話機設定」(KX-UTシリーズ)画面でも同じ内容を表示します。

- ① **機種** 「内線個別設定」画面(P.143)、または「簡単設定」メニュー(6章)で登録された内線子機の機種(自動、VP-701、KX-UTシリーズ、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2)を表示します。
- ② **状態** 本製品に登録された内線子機の接続状況を、「接続済み」/「未接続」で表示します。
 ※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」を表示します。
 ※機種を「TEL1」、「TEL2」(アナログ電話機)に設定した場合は、「--」が表示されます。
- ③ **グループ設定** 本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
 設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ20」までです。
 (出荷時の設定：設定グループ1)
 設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
 ※フレキシブルボタンに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番+ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答はパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。
- ④ **再起動** [状態] (②)欄が「接続済み」と表示されているVP-701、KX-UTシリーズを再起動するとき、クリックします。
 <全端末再起動>をクリックすると、[状態] (②)欄が「接続済み」と表示されているすべてのVP-701、KX-UTシリーズを一斉に再起動できます。

■電話機設定

本製品に登録した内線子機で共通に使用する設定です。

電話機設定		
設定グループの選択	共通設定 ▼	設定グループを変更

設定グループの選択……………

本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「設定グループ1」～「設定グループ20」から選択します。

〈設定グループを変更〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎共通設定

本製品に登録したVP-701で使用する共通の設定

- ・ [機種個別設定(VP-701)]項目(受話音量/送話音量)
- ・ [着信音設定]項目

◎設定グループ1～設定グループ20

[電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定

- ・ [機種共通設定]項目
- ・ [機種個別設定(VP-701)]項目(ボタン割当など)

■機種個別設定(VP-701) 共通設定

VP-701の音量について設定します。

機種個別設定(VP-701)		
受話音量	①	0 ▼ dB
送話音量	②	-6 ▼ dB

※上図は、[電話機設定]項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

- ① **受話音量** VP-701の受話音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-21」(最小音量)～「+21」(最大音量)(dB)です。
- ② **送話音量** VP-701の送話音量を設定します。 (出荷時の設定：-6)
設定できる範囲は、「-21」(最小音量)～「+21」(最大音量)(dB)です。

■着信音設定 共通設定

VP-701の着信音パターンを設定します。

着信音設定	
外線A	着信音1 ▼
外線B	着信音2 ▼
外線C	着信音3 ▼
内線A	着信音5 ▼
内線B	着信音6 ▼
内線C	着信音7 ▼
デフォルト内線	着信音5 ▼
リコール	着信音4 ▼

※上図は、[電話機設定]項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

「着信設定」画面(P.154)、または「簡単設定」メニュー(6章)の[鳴り分け判別]欄で設定した着信音のパターンを、「着信音1」～「着信音7」、または「着信音なし」から選択します。

たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、VP-701に着信したとき「着信音1」が鳴ります。

※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。

※[鳴り分け判別]欄で内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)からの着信は、内線として扱われます。

※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。

※パーク保留した電話機にリコール(再呼出)する場合は、「リコール」に設定した着信音が鳴ります。

■機種共通設定

設定グループ

ピックアップ対象や外線発信時の発信規制ルールについて設定します。

機種共通設定		
ピックアップグループ番号 ①		01
コールピックアップ対象 ②		内線のみ
グループピックアップ対象 ③		外線/内線
指定ピックアップ対象 ④		外線/内線
発信規制 ⑤		無効

※上図は、「電話機設定」項目で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

- ①ピックアップグループ番号**
設定グループへの着信を代理応答するとき使用するピックアップグループ番号を半角数字7桁以内で入力します。
(出荷時の設定：01(設定グループ1の場合))
※グループピックアップ特番(出荷時の設定：**)につづけて、この欄で設定した番号をダイヤルすると、指定した設定グループへの着信に代理応答できます。
- ②コールピックアップ対象**
ほかの内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」(下記参照)から設定します。(出荷時の設定：内線のみ)
- ③グループピックアップ対象**
同じ設定グループのほかの子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」(下記参照)から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)
- ④指定ピックアップ対象 ...**
指定の内線子機への着信について、応答できる対象を、「外線/内線」、「外線のみ」、「内線のみ」(下記参照)から設定します。(出荷時の設定：外線/内線)
- ⑤発信規制**
設定グループごとに、外線への発信規制を設定します。(出荷時の設定：無効)
 - 無効 : 発信を規制しません。
 - 発信規制ルール1～16: 「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
 - 外線発信規制 : 外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。

各ピックアップで応答できる対象について

- 外線/内線
内線着信(Peer to Peer着信を含む)と外線着信(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信)をコールピックアップの対象とします。
- 外線のみ
外線着信(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線からの着信)だけをコールピックアップの対象とします。
- 内線のみ
内線着信(Peer to Peer着信を含む)だけをコールピックアップの対象とします。
※「着信設定」画面、または「簡単設定」メニューにある「鳴り分け判別」欄を内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)からの着信は、内線として扱われます。

■機種個別設定(VP-701) 設定グループ

選択した内線子機の設定グループごとに、キー操作や機能の割り当てを設定します。

機種個別設定(VP-701)			
ダイヤル待ち時間	①	5	秒
外線発信キー	②	0	
外線捕捉範囲	③	1	~ 24
オフフック回線捕捉	④	<input checked="" type="radio"/> 内線	<input type="radio"/> 外線
オフフック外線応答	⑤	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効
着信優先順位	⑥	<input checked="" type="radio"/> 内線優先	<input type="radio"/> 外線優先
外線通話中の内線着信	⑦	<input checked="" type="radio"/> 拒否	<input type="radio"/> 許可
代理応答キー動作	⑧	<input type="radio"/> コールピックアップ	<input checked="" type="radio"/> グループピックアップ
長時間保留の監視時間	⑨	180	秒
電話帳[共通]の利用	⑩	<input type="radio"/> 無効	<input checked="" type="radio"/> 有効

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

- ① **ダイヤル待ち時間**…………… ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「60」(秒)です。 (出荷時の設定:5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。

- ② **外線発信キー** …………… 空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるための番号を「0」～「9」、「*」、「#」から選択します。 (出荷時の設定:0)

- ③ **外線捕捉範囲** …………… 空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるため、VP-701のフレキシブルボタンに割り当てる<外線キー>の設定範囲を、「1」～「24」から選択します。 (出荷時の設定:1～24)

- ④ **オフフック回線捕捉** …… 受話器を上げて、ダイヤルしたとき、発信先(内線/外線)を設定します。 (出荷時の設定:内線)
 - ◎**内線**:受話器を上げたときに内線発信音(ツーツー)が聞こえ、ダイヤルした内線番号の内線子機を呼び出します。
 - ◎**外線**:受話器を上げたとき、[外線捕捉範囲](③)欄で設定した空いている回線を自動的に捕捉します。

- ⑤ **オフフック外線応答** …… 「有効」を設定すると、外線から電話がかかってきたときに受話器を上げるだけで応答できます。 (出荷時の設定:有効)
 ※「無効」を設定すると、外線着信より発信操作を優先したり、<外線キー>を押して応答する同時着信中の外線を選択したりできます。

■機種個別設定(VP-701)つづき 設定グループ

機種個別設定(VP-701)	
ダイヤル待ち時間	① 5 秒
外線発信キー	② 0
外線捕捉範囲	③ 1 ~ 24
オフフック回線捕捉	④ <input checked="" type="radio"/> 内線 <input type="radio"/> 外線
オフフック外線応答	⑤ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
着信優先順位	⑥ <input checked="" type="radio"/> 内線優先 <input type="radio"/> 外線優先
外線通話中の内線着信	⑦ <input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
代理応答キー動作	⑧ <input type="radio"/> コールピックアップ <input checked="" type="radio"/> グループピックアップ
長時間保留の監視時間	⑨ 180 秒
電話帳[共通]の利用	⑩ <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

- ⑥ **着信優先順位** …………… 「外線優先」を設定すると、外線からの電話を優先して内線子機に着信させます。
(出荷時の設定：内線優先)
※外線からの電話は、ディスプレイに「着信中(キー番号)」を表示して、使用している回線を確認できます。

- ⑦ **外線通話中の内線着信** …… 外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。
(出荷時の設定：拒否)
「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。

- ⑧ **代理応答キー動作** …………… <代理応答>を操作したときの動作について設定します。
(出荷時の設定：グループピックアップ)
◎**グループピックアップ**：ピックアップグループ番号(P.177)が一致する内線子機への着信に対して代理応答できます。
◎**コールピックアップ**：ほかの内線子機への着信に対して代理応答できます。
※代理応答する対象範囲(内線、外線)は、[機種共通設定]項目(P.177)で選択します。

- ⑨ **長時間保留の監視時間** …… 設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音(プププ)を鳴らします。
設定できる範囲は、「30～1800」(秒)です。 (出荷時の設定：180)

- ⑩ **電話帳[共通]の利用**…………… VP-701が起動したときに、本製品の共通電話帳(最大300件)の内容をVP-701本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。(出荷時の設定：有効)
「無効」に設定すると、VP-701が起動しても、VP-701本体の電話帳に反映されません。

機種個別設定(VP-701)つづき 設定グループ

機種個別設定(VP-701)					
ダイヤル待ち時間	5 秒				
① ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーカ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
着信おまかせ通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
不在転送通知					
応答転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
話中転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
昼夜切替通知					
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用					

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1~24) …… VP-701のフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。
(出荷時の設定:ワンタッチ)

◎外線キー

外線発信時に使用する回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)の電話番号、または回線グループ★を選択できる機能です。

ボタン1
外線キー
0312345678 (IP)

例: ボタン1に〈外線キー〉(IP回線)を割り当てた場合

※〈外線キー〉に割り当てた回線の使用状況は、ランプ表示で確認できます。

使用する外線を選択するには

ボタンを押すと、緑色に点灯します。
ダイヤルすると、選択した回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)で発信します。
カーソルキー(着信履歴/発信履歴)+〈外線キー〉で、履歴からでも回線を選択して発信できます。

★回線グループについて

回線グループを〈外線キー〉に割り当てた場合は、その回線グループに登録した複数の回線(電話番号)から、空いている回線を自動的に捕捉して発信できます。

※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面で(P.107)で確認できます。

※回線グループに登録した回線(電話番号)は、単独で〈外線キー〉に割り当てられません。

回線の使用状況を確認するには

回線が使用中で発信できないときは、赤色に点灯します。
着信すると、赤色に高速点滅します。
保留中は緑色に低速点滅します。
※ほかの子機で保留したときは、赤色に低速点滅します。

機種個別設定(VP-701)つづき 設定グループ

機種個別設定(VP-701)					
ダイヤル待ち時間	5 秒				
① ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーク	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
着信おまかせ通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
不在転送通知					
応答転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
話中転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
昼夜切替通知					
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用					

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎ワンタッチ

よく利用する内線番号や外線番号、および本製品で設定した特番などを登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。
VP-701ごとに、ワンタッチで発信できる番号を登録します。

◎パーク

通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能です。
最大24件まで、パーク保留・応答として設定できます。

ボタン4
パーク
パーク1

例：ボタン4に(パーク)(パーク1)を割り当てた場合

◎留守電設定通知

内線子機が使用するボックスについて、留守番電話機能の動作状態を確認できる機能です。
留守番電話機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが赤色に点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)
※「特番設定」画面の[留守電の開始と停止]欄(P.139)で設定した特番(出荷時の設定：*99)につづけて、留守電ボックス番号(01～03)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

◎留守電通知

内線子機が使用するボックスについて、新しいメッセージがあるか確認できる機能です。
新しいメッセージがあるときは、VP-701のフレキシブルボタンが赤色に点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)
※ボタンを押しても、録音されたメッセージの再生操作はできません。
※留守電の再生操作については、本書139ページをご覧ください。

機種個別設定(VP-701)つづき 設定グループ

機種個別設定(VP-701)					
ダイヤル待ち時間		5	秒		
① ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーカ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
着信おまたせ通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
不在転送通知					
不在転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
応答転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
話中転送通知					
昼夜切替通知					
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用					

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎着信おまたせ通知

通話中など登録した内線子機が設定した時間内に応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただく機能が設定されているか確認できる機能です。

着信おまたせ機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが赤色に点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※着信おまたせ機能を解除するときは、「特番設定」画面の[着信おまたせの開始と停止]欄(P.141)で設定した特番(出荷時の設定：*86)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※着信おまたせ機能で、留守番電話に接続する場合は、「基本設定」画面の[留守番電話機能]欄を「有効」に設定しておく必要があります。

※ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で、回線ごとに使用するパターンを選択していない場合は、無効な機能です。(P.141、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎不在転送通知

不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能が設定されているか確認できる機能です。

不在転送機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが赤色に点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※不在転送機能を解除するときは、「特番設定」画面の[不在転送]欄(P.137)で設定した特番(出荷時の設定：*94)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、特番(出荷時の設定：*94)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「着信設定」画面に反映されます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

機種個別設定(VP-701)つづき 設定グループ

機種個別設定(VP-701)					
ダイヤル待ち時間	5 秒				
① ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ 外線キー パーカ 留守電設定通知 留守電通知 着信おませ通知 不在転送通知 不応答転送通知 話中転送通知 昼夜切替通知 外線着信転送通知 音声呼出 未使用	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎不応答転送通知

電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能が設定されているか確認できる機能です。

不応答転送機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが赤色に点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※不応答転送機能を解除するときは、「特番設定」画面の[不応答転送]欄 (P.137)で設定した特番(出荷時の設定：*95)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、特番(出荷時の設定：*95)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「着信設定」画面に反映されます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎話中転送通知

内線通話中にほかの内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能が設定されているか確認できる機能です。

話中転送機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが赤色に点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※話中転送機能を解除するときは、「特番設定」画面の[話中転送]欄 (P.137)で設定した特番(出荷時の設定：*96)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、特番(出荷時の設定：*96)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「着信設定」画面に反映されます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

機種個別設定(VP-701)つづき 設定グループ

機種個別設定(VP-701)					
ダイヤル待ち時間		5 秒			
① ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーカ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
着信おまかせ通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
不在転送通知					
応答転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
話中転送通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
昼夜切替通知					
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用					

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎昼夜切替通知

あらかじめ登録した外線サービスグループ(P.209)ごとに、昼間か夜間かを確認できる機能です。

ボタン12
昼夜切替通知
外線サービスグループ1

例：ボタン12に<昼夜切替通知>(外線サービスグループ1)を割り当てた場合

指定の外線サービスグループが夜間の場合は、VP-701のフレキシブルボタンが赤色に点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※夜間転送を解除するときは、「特番設定」画面の[昼夜切替]欄(P.138)で設定した昼夜切替特番(出荷時の設定：*98)につづけて外線サービスグループ番号(01～08)をダイヤルする、またはユーザー用の「昼夜切替設定」画面でボタンをクリックして、消灯をご確認ください。

※夜間転送を一括解除するときは、「特番設定」画面の[昼夜切替]欄(P.138)で設定した昼夜切替特番(出荷時の設定：*98)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※「PBX拡張設定」メニューの「夜間転送先設定」画面(P.212)で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

機種個別設定(VP-701)つづき 設定グループ

機種個別設定(VP-701)					
ダイヤル待ち時間		5 秒			
① ボタン割当					
ボタン1	ボタン2	ボタン3	ボタン4	ボタン5	ボタン6
ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
ワンタッチ					
外線キー	ボタン8	ボタン9	ボタン10	ボタン11	ボタン12
パーカ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
留守電設定通知					
留守電通知	ボタン14	ボタン15	ボタン16	ボタン17	ボタン18
着信おまかせ通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
不在転送通知					
応答転送通知					
話中転送通知	ボタン20	ボタン21	ボタン22	ボタン23	ボタン24
昼夜切替通知	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ	ワンタッチ
外線着信転送通知					
音声呼出					
未使用					

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎外線着信転送通知

あらかじめ登録した外線(電話番号)に外線からの着信を転送する機能が設定されているか確認できる機能です。

ボタン13

外線着信転送通知

0312345670 (IP)

例：ボタン13に〈外線着信転送通知〉(IP外線)を割り当てた場合

外線着信転送機能が動作しているときは、VP-701のフレキシブルボタンが赤色に点灯します。(フレキシブルボタンを押しても、何も操作できません。)

※外線着信転送機能を解除するときは、「特番設定」画面の[外線着信転送の切替]欄(P.138)で設定した特番(出荷時の設定：*97)のダイヤルにつづけて、外線着信転送通知に割り当てたVP-701のフレキシブルボタン(01～24)を押して、消灯をご確認ください。

※ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。

ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先のKX-UTシリーズ、またはVP-701のスピーカー機能が有効になります。

◎未使用

機能を割り当てません。

8. 「電話機設定」(KX-UTシリーズ)画面

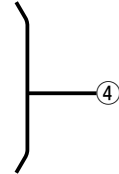
「PBX設定」-「電話機設定(KX-UTシリーズ)」

登録された内線子機の内線番号に対して、設定グループの設定や機能の割り当てをします。

■ 電話機のメンテナンス

登録された内線番号に、設定グループを設定します。

電話機のメンテナンス				
内線番号	①機種	②状態	③グループ設定	全端末再起動
501	自動	接続済み	設定グループ1	再起動
201	自動	接続済み	設定グループ1	再起動
202	自動	接続済み	設定グループ1	再起動
203	自動	接続済み	設定グループ1	再起動
301	自動	未接続	設定グループ1	再起動
302	自動	未接続	設定グループ1	再起動
401	TEL1	--	設定グループ1	再起動
402	TEL2	--	設定グループ1	再起動



※画面の内容は、登録例です。

※「電話機設定」(VP-701)画面でも同じ内容を表示します。

- ①機種 …………… 「内線個別設定」画面(P.143)、または「簡単設定」メニュー(6章)で登録された内線子機の機種(自動、VP-701、KX-UTシリーズ、標準SIPフォン、標準SIPフォン(WLAN)、TEL1、TEL2)を表示します。
- ②状態 …………… 本製品に登録された内線子機の接続状況を、「接続済み」/「未接続」で表示します。
 ※電話機の電源が入っていないときやネットワークに接続されていないときなど、本製品のSIPサーバーに登録(レジスト)されていない状態では、「未接続」を表示します。
 ※機種を「TEL1」、「TEL2」(アナログ電話機)に設定した場合は、「--」が表示されます。
- ③グループ設定 …………… 本製品に登録された内線子機に対して、設定グループを設定します。
 設定できる範囲は、「設定グループ1～設定グループ20」までです。
 (出荷時の設定：設定グループ1)
 設定グループごとに、フレキシブルキーの機能割り当てを使用できます。
 ※フレキシブルボタンに割り当てた機能を、ほかの内線子機から、特番+ボタン番号指定操作で利用する場合(例：外線キー保留への応答やパーク応答)は、設定グループを同じ設定にしてください。
- ④<再起動> …………… [状態] (②)欄が「接続済み」と表示されているVP-701、KX-UTシリーズを再起動するとき、クリックします。
 <全端末再起動>をクリックすると、[状態] (②)欄が「接続済み」と表示されているすべてのVP-701、KX-UTシリーズを一斉に再起動できます。

■電話機設定

本製品に登録した内線子機で共通に使用する設定です。

電話機設定		
設定グループの選択	共通設定 ▼	設定グループを変更

設定グループの選択……………

本製品に登録した内線子機について設定する項目を、「共通設定」、「設定グループ1」～「設定グループ20」から選択します。

〈設定グループを変更〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎共通設定

本製品に登録したKX-UTシリーズで使用する共通の設定

- ・ [機種個別設定(KX-UTシリーズ)]項目(受話音量/送話音量)
- ・ [電話機音設定]項目

◎設定グループ1～設定グループ20

[電話機のメンテナンス]項目で登録した設定グループごとの設定

- ・ [機種共通設定]項目
- ・ [機種個別設定(KX-UTシリーズ)]項目(ボタン割当など)

■機種個別設定(KX-UTシリーズ) 共通設定

KX-UTシリーズの音量について設定します。

機種個別設定(KX-UTシリーズ)		
受話音量	①	0 dB
送話音量	②	0 dB
エコーキャンセラー	③	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

※上図は、[電話機設定]項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

- ① **受話音量** KX-UTシリーズの受話音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-6」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

- ② **送話音量** KX-UTシリーズの送話音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-6」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

- ③ **エコーキャンセラー** KX-UTシリーズのエコーキャンセラー機能を設定します。
(出荷時の設定：無効)
「有効」に設定すると、通話するときにかかるエコー(反響)を低減します。

■ 発信音 共通設定

KX-UTシリーズの発信音(発信時に受話器を上げたときの音)を設定します。

発信音									
周波数1	①	400	Hz						
周波数2		0	Hz						
音量	②	0							
繰り返し	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング	④	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON
		60	250	190					

※上図は、「電話機設定」項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

- ① 周波数1/周波数2 …………… 発信音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
 (出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
 設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
 たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 …………… 発信音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
 設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し …………… [タイミング](④)欄で作成した発信音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
 無効：パターン最後の(上図：190)に到達すると、発信音を停止します。
 有効：パターン最後の(上図：190)に到達すると、パターンの最初(上図：60)に戻り、発信音を繰り返します。
 連続：連続的に[周波数1]/[周波数2](①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング …………… 最大9個の値を使用して、発信音のパターン(OFF/ON)を設定します。
 (出荷時の設定：60、250、190)
 最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
 それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
 出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、250ミリ秒間鳴り、190ミリ秒間停止を繰り返します。

■ 話中音 共通設定

KX-UTシリーズの話中音を設定します。

話中音									
周波数1 ①	400	Hz							
周波数2 ①	0	Hz							
音量 ②	0								
繰り返し ③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続								
タイミング④	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	60	500	440						

※上図は、「電話機設定」項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

- ① 周波数1/周波数2 …………… 話中音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
 (出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
 設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
 たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
 組み合わせた音が鳴ります。

- ② 音量 …………… 話中音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
 設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

- ③ 繰り返し …………… [タイミング](④)欄で作成した話中音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴
 らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
 ◎無効：パターン最後の(上図:440)に到達すると、話中音を停止します。
 ◎有効：パターン最後の(上図:440)に到達すると、パターンの最初(上図:
 60)に戻り、話中音を繰り返します。
 ◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2](①)欄で設定した音を鳴らします。

- ④ タイミング …………… 最大9個の値を使用して、話中音のパターン(OFF/ON)を設定します。
 (出荷時の設定：60、500、440)
 最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
 それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
 出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停
 止を繰り返します。

■ 規制音 共通設定

KX-UTシリーズの規制音を設定します。

規制音									
周波数1	①	400	Hz						
周波数2		0	Hz						
音量	②	0							
繰り返し	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続							
タイミング	④	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON
		60	500	440					

※上図は、「電話機設定」項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

- ① 周波数1/周波数2 …………… 規制音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
 (出荷時の設定：400(周波数1)/0(周波数2))
 設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
 たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を
 組み合わせた音が鳴ります。

- ② 音量 …………… 規制音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
 設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

- ③ 繰り返し …………… [タイミング](④)欄で作成した規制音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴
 らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
 無効：パターン最後の(上図:440)に到達すると、規制音を停止します。
 有効：パターン最後の(上図:440)に到達すると、パターンの最初(上図:
 60)に戻り、規制音を繰り返します。
 連続：連続的に[周波数1]/[周波数2](①)欄で設定した音を鳴らします。

- ④ タイミング …………… 最大9個の値を使用して、規制音のパターン(OFF/ON)を設定します。
 (出荷時の設定：60、500、440)
 最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
 それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
 出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、500ミリ秒間鳴り、440ミリ秒間停
 止を繰り返します。

■呼出音 共通設定

KX-UTシリーズの呼出音(相手先を呼び出し中に使用する音)を設定します。

呼出音	
周波数1 ①	400 Hz
周波数2	440 Hz
音量 ②	0
繰り返し ③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続
タイミング ④	OFF ON OFF ON OFF ON OFF ON OFF
	60 1000 1940

※上図は、「電話機設定」項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

- ①周波数1/周波数2 …………… 呼出音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：400(周波数1)/440(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。

- ②音量 …………… 呼出音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。

- ③繰り返し …………… [タイミング](④)欄で作成した呼出音のパターン(OFF/ON)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
◎無効：パターンの最後(上図：1940)に到達すると、呼出音を停止します。
◎有効：パターンの最後(上図：1940)に到達すると、パターンの最初(上図：60)に戻り、呼出音を繰り返します。
◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2](①)欄で設定した音を鳴らします。

- ④タイミング …………… 最大9個の値を使用して、呼出音のパターン(OFF/ON)を設定します。
(出荷時の設定：60、1000、1940)
最初のOFFに設定できる範囲は、「60～16000」(ミリ秒)です。
それ以外に設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、60ミリ秒間停止、1000ミリ秒間鳴り、1940ミリ秒間停止を繰り返します。

■ 保留アラーム音 共通設定

KX-UTシリーズの保留アラーム音(保留後の第2通話が長時間になった場合に流れる音)を設定します。

保留アラーム音	
周波数1 ①	425 Hz
周波数2 ②	0 Hz
音量 ③	0
繰り返し ④	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 連続
タイミング④	ON OFF ON OFF ON OFF ON OFF
	120 14880

※上図は、「電話機設定」項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

- ① 周波数1/周波数2 …………… 保留アラーム音の周波数を、2個の値(Hz)を使用して設定します。
(出荷時の設定：425(周波数1)/0(周波数2))
設定できる範囲は、「0(無音)、200～2000」(Hz)です。
たとえば、「350」、「440」を設定すると、350Hzと440Hzのトーン信号を組み合わせた音が鳴ります。
- ② 音量 …………… 保留アラーム音の音量を設定します。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「-24」(最小音量)～「+6」(最大音量)(dB)です。
- ③ 繰り返し …………… [タイミング](④)欄で作成した保留アラーム音のパターン(ON/OFF)を、繰り返し鳴らすかどうか設定します。 (出荷時の設定：有効)
◎無効：パターンの最後(上図：14880)に到達すると、保留アラーム音を停止します。
◎有効：パターンの最後(上図：14880)に到達すると、パターンの最初(上図：120)に戻り、保留アラーム音を繰り返します。
◎連続：連続的に[周波数1]/[周波数2](①)欄で設定した音を鳴らします。
- ④ タイミング …………… 最大8個の値を使用して、保留アラーム音のパターン(ON/OFF)を設定します。
(出荷時の設定：120、14880)
設定できる範囲は、「51～16000」(ミリ秒)です。
出荷時の設定では、120ミリ秒間鳴り、14880ミリ秒間停止を繰り返します。
※パターンの最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

■ 着信音パターン 共通設定

KX-UTシリーズの着信音パターンを設定します。

着信音パターン								
パターン1	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	1000	2000						
パターン2	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	800	400	800	2000				
パターン3	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	400	200	400	200	800	2000		
パターン4	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	300	200	300	200	300	1000		
パターン5	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	250	250	250	2250				

※上図は、「電話機設定」項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

パターン1～パターン5 ……

最大8個の値を使用して、着信音のパターン(ON/OFF)を設定します。

(出荷時の設定：パターン1 1000、2000

パターン2 800、400、800、2000

パターン3 400、200、400、200、800、2000

パターン4 300、200、300、200、300、1000

パターン5 250、250、250、2250)

設定できる範囲は、「51～5000」(ミリ秒)です。

たとえば、「1000(ON)、2000(OFF)」と指定した場合、1000ミリ秒間鳴り、2000ミリ秒間停止のパターンとなります。

※パターン最後はONで終了できませんので、ON/OFFをセットにして登録してください。

※KX-UTシリーズの着信音(パターン)は、パターンを割り当て電話機ごとの鳴り分け判別で使用します。(P.154、P.176)

※電話帳に一致した場合の着信音(音色)は、所属する設定グループごとに設定できます。(P.179)

■ 着信音パターン割り当て 共通設定

KX-UTシリーズの着信音パターン割り当てを設定します。

着信音パターン割り当て	
外線A	パターン1 ▼
外線B	パターン2 ▼
外線C	パターン3 ▼
内線A	パターン5 ▼
内線B	パターン2 ▼
内線C	パターン3 ▼
デフォルト内線	パターン5 ▼
リコール	パターン4 ▼

※上図は、[電話機設定]項目で「共通設定」を選択したときの画面です。

「着信設定」画面(P.154)、または「簡単設定」メニュー(6章)で設定した鳴り分け判別を、「パターン1」～「パターン5」から選択します。

たとえば、[鳴り分け判別]欄で「外線音A」に設定されている場合、KX-UTシリーズに着信したとき「パターン1」が鳴ります。

※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音が鳴ります。

※[鳴り分け判別]欄で内線(内線A～内線C)に設定している回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)からの着信は、内線として扱われます。

※ほかの内線子機から内線で着信した場合、「デフォルト内線」に設定した着信音が鳴ります。

※パーク保留した電話機にリコール(再呼出)する場合は、「リコール」に設定した着信音が鳴ります。

■機種個別設定(KX-UTシリーズ) 設定グループ

選択した内線子機の設定グループごとに、キー操作や機能の割り当てを設定します。

機種個別設定(KX-UTシリーズ)		
ダイヤル待ち時間	①	5 秒
外線通話中の内線着信	②	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
ボタン割当てが無い外線着信	③	<input type="radio"/> 拒否 <input checked="" type="radio"/> 許可
外線状態通知キーの保留	④	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
長時間保留の監視時間	⑤	180 秒
電話帳の利用	⑥	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
電話帳[共通]の利用	⑦	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
電話帳の着信音	⑧	着信音1
キー操作音	⑨	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
不在着信のディスプレイ表示	⑩	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

- ① **ダイヤル待ち時間**…………… ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「15」(秒)です。 (出荷時の設定:5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎても操作がないときは、発信を開始しますのでご注意ください。
- ② **外線通話中の内線着信** …… 外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。
(出荷時の設定:拒否)
「拒否」を設定すると、外線通話時に内線着信を拒否(話中応答)します。
- ③ **ボタン割当てがない外線着信** [ボタン割当て](①)欄で、〈外線状態通知キー〉(P.181)を割り当てていないときや、〈外線状態通知キー〉がすべて使用中の場合に、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉への着信動作を設定します。 (出荷時の設定:許可)
◎ **許可**: 〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いているとき、そのボタンに着信します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降は、〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に着信します。
ただし、〈外線状態通知キー〉での確認や応答はできません。
◎ **拒否**: 〈外線着信キー〉、または〈DNキー〉に割り当てたフレキシブルボタンが空いていても、そのボタンへの着信を拒否します。
たとえば、〈外線状態通知キー〉を2つ割り当て、それがすべて使用中の場合、3本目以降の着信が拒否されます。
- ④ **外線状態通知キーの保留** 「許可」を設定すると、外線通話時に〈外線状態通知キー〉を操作して、外線保留できます。 (出荷時の設定:拒否)
- ⑤ **長時間保留の監視時間**……… 設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音を鳴らします。
設定できる範囲は、「30～240」(秒)です。 (出荷時の設定:180)

■機種個別設定(KX-UTシリーズ)つづき 設定グループ

機種個別設定(KX-UTシリーズ)		
ダイヤル待ち時間	①	5 秒
外線通話中の内線着信	②	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
ボタン割当が無い外線着信	③	<input type="radio"/> 拒否 <input checked="" type="radio"/> 許可
外線状態通知キーの保留	④	<input checked="" type="radio"/> 拒否 <input type="radio"/> 許可
長時間保留の監視時間	⑤	180 秒
電話帳の利用	⑥	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
電話帳[共通]の利用	⑦	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
電話帳の着信音	⑧	着信音1
キー操作音	⑨	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
不在着信のディスプレイ表示	⑩	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

- ⑥ 電話帳の利用 …………… KX-UTシリーズの電話機が起動したときに、本製品の電話帳(共通最大300件/設定グループ最大100件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。
(出荷時の設定：有効)
※「無効」に設定すると、電話機が起動しても、電話機本体の電話帳に反映されません。

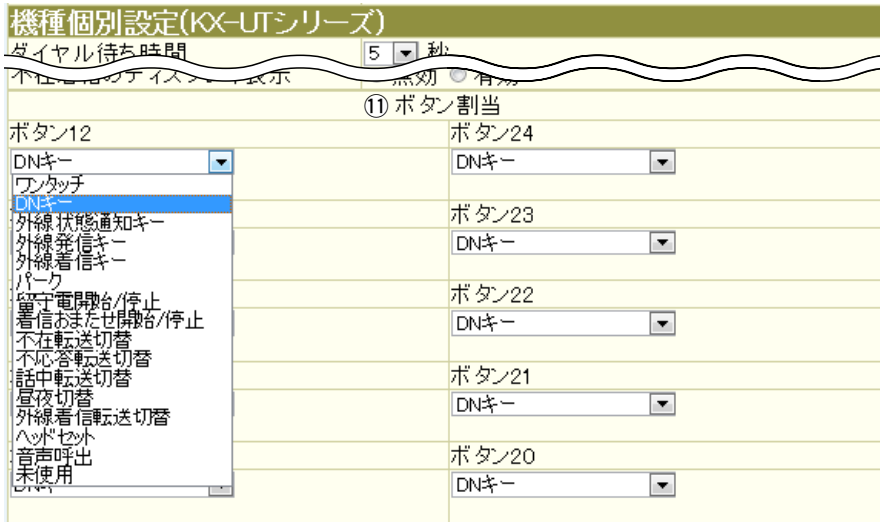
- ⑦ 電話帳[共通]の利用…………… KX-UTシリーズの電話機が起動したときに、本製品の共通電話帳(最大300件)の内容を電話機本体の電話帳に反映するかどうかの設定です。
(出荷時の設定：有効)
※[電話帳の利用](⑥)欄で「無効」を選択したときは、表示されない項目です。

- ⑧ 電話帳の着信音 …………… KX-UTシリーズの電話機に登録した相手先から着信したときの音を、「着信音1」～「着信音32」から設定します。
(出荷時の設定：着信音1)

- ⑨ キー操作音 …………… KX-UTシリーズの電話機でキー操作したときの確認音を設定します。
(出荷時の設定：有効)
「無効」を設定すると、キー操作したときの確認音が鳴りません。

- ⑩ 不在着信のディスプレイ表示 …………… 「不在着信」を待受画面に表示するかどうかを設定します。
(出荷時の設定：無効)

■機種個別設定(KX-UTシリーズ)つづき 設定グループ



※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24) ……

KX-UT136Nのフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。

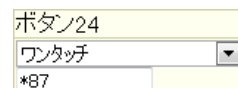
(出荷時の設定: DNキー)

◎ワンタッチ

よく利用する内線番号や外線番号、および本製品で設定した特番などを、あらかじめ登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

※外線発信先を登録する場合、外線発信特番設定のプレフィクスを前置すると、指定回線(発信番号)での発信もできます。

指定しない場合、内線個別設定の回線捕捉設定にしたがいます。



例: ボタン24に〈ワンタッチ〉(特番*87)を割り当てた場合

◎DNキー(Directory Number)

着信時、自己保留時など、状況を確認して応答できる機能です。

ランプ表示について

高速点滅(緑) : 内線着信中/外線着信中

低速点滅(緑) : 自己保留中(自端末)

点灯(緑) : 通話中

※フレキシブルボタン番号(01～24)の点滅(緑)は、小さい番号順です。

※〈DNキー〉の割り当ては、最低2つ以上必要です。

※〈DNキー〉と〈外線着信キー〉の合計数が使用できる最大通話数です。

ただし、「通話数制限設定」画面で通話数が制限されている場合は、そちらを優先します。

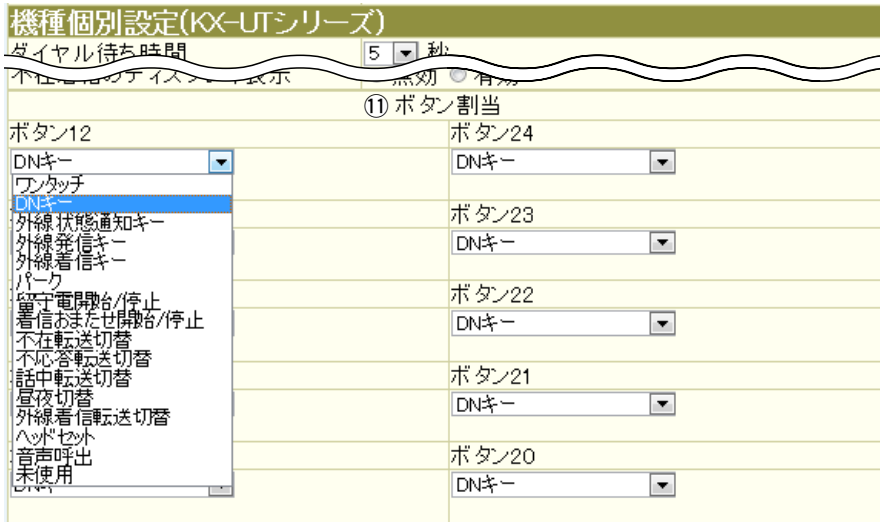
DNキーについてのご注意

◎ DNキーは、内線/外線の通話や着信中に1つ、さらに保留など通話呼を保持するときに1つ使用します。

◎ DNキーが不足すると通話呼を保留できない、新たな着信を受けられないような事象が発生します。

◎フレキシブルボタンがないKX-UT123Nでは、DNキーは本体内部に2つ固定割り当てされ、追加設定はできません。外線通話中に新たな外線着信を受けると、先の通話を保留したり転送したりできません。(DNキー不足状態のため)このような場合は、先の通話を終了するか、ほかの電話機であとの着信に応答する必要があります。

■機種個別設定(KX-UTシリーズ)つづき 設定グループ



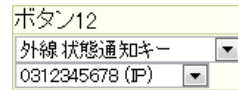
※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

①ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎外線状態通知キー

割り当てた回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)、または回線グループの使用状況を確認して、着信に应答、外線保留/応答できる機能です。



例：ボタン12に<外線状態通知キー>(IP回線)を割り当てた場合

ランプ表示について

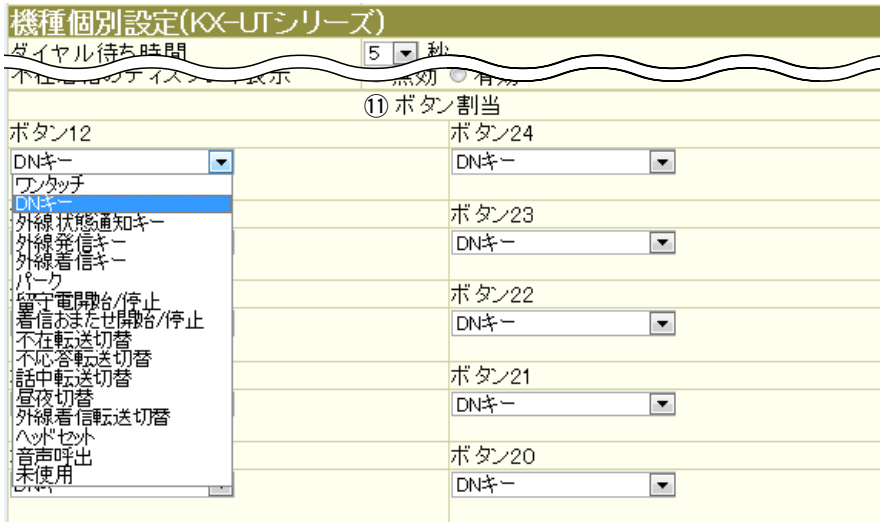
赤点滅：外線着信中/外線保留中

赤点灯：回線閉塞中/外線使用中(ほかの端末)

緑点灯：外線使用中(自端末)

※<外線状態通知キー>の割り当ては、契約チャネル数分必要です。

■機種個別設定(KX-UTシリーズ)つづき 設定グループ



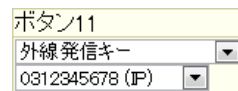
※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

①ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎外線発信キー

外線発信時に使用する回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)の電話番号、または回線グループ★を選択できる機能です。



例：ボタン11に〈外線発信キー〉(IP回線)を割り当てた場合

ボタンを押すと、電話機のディスプレイに該当する(設定した)発信プレフィクスが表示され、これにつづけて電話番号をダイヤルするか、あらかじめ電話番号を登録した〈ワンタッチ〉を押すと、選択した回線(IP回線)で発信します。

- ※電話帳から発信する場合、〈外線発信キー〉による回線捕捉ができません。
- ※〈外線発信キー〉と電話帳の短縮番号を組み合わせるとダイヤルできません。
- ※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認できます。

★回線グループについて

回線グループを〈外線発信キー〉に割り当てた場合は、その回線グループに登録した複数の電話番号から、空いているIP回線(電話番号)を自動的に捕捉して発信できます。

- ※登録されている回線グループは、「電話回線設定」メニューの「回線グループ設定」画面で(P.107)で確認できます。
- ※回線グループに登録した電話番号は、単独では割り当てられません。

7 「PBX設定」メニュー

8. 「電話機設定(KX-UTシリーズ)」画面

「PBX設定」-「電話機設定(KX-UTシリーズ)」

■機種個別設定(KX-UTシリーズ) つづき 設定グループ

機種個別設定(KX-UTシリーズ)	
ダイヤル待ち時間	5 秒
不在着信ディスプレイ表示	無効 <input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/>
① ボタン割当	
ボタン12	ボタン24
DNキー	DNキー
フック	
DNキー	ボタン23
外線状態通知キー	DNキー
外線着信キー	
外線着信キー	ボタン22
パーカ	DNキー
留守電開始/停止	
着信おまかせ開始/停止	ボタン21
不在転送切替	DNキー
不在着転送切替	
話中転送切替	ボタン20
昼夜切替	DNキー
外線着信転送切替	
ヘッドセット	
音声呼出	
未使用	DNキー

※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎外線着信キー

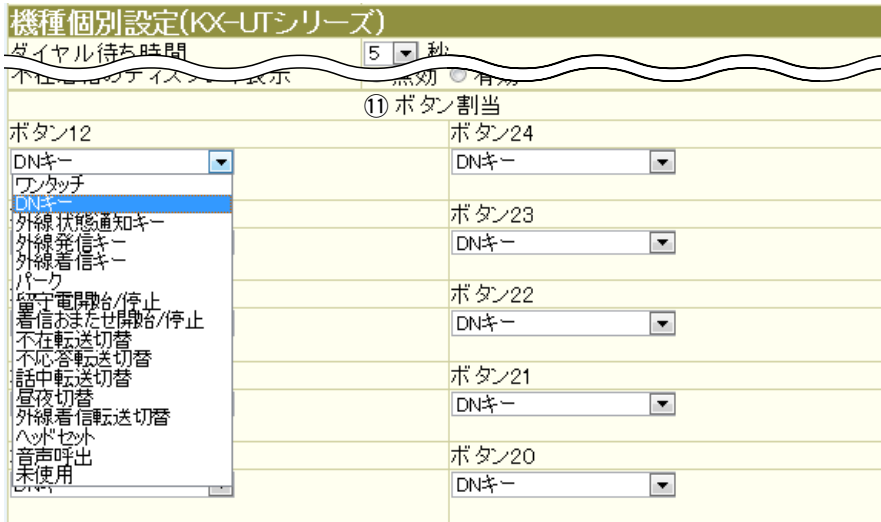
割り当てた回線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)の電話番号、または回線グループへの着信に応答できる機能です。

ボタン10
外線着信キー
0312345678 (IP)

例：ボタン10に〈外線着信キー〉(IP回線)を割り当てた場合

※割り当てた回線の使用状況は、〈外線状態通知キー〉で確認や応答ができます。

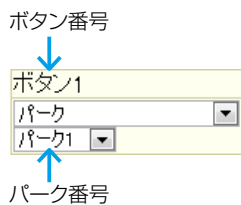
■機種個別設定(KX-UTシリーズ)つづき 設定グループ



※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

①ボタン割当(1～24)

(つづき)



例：ボタン1にパーク1を割当てた場合

◎パーク

通話をパーク保留して、どの内線子機からでも応答できる機能です。最低必要な<DNキー>の割り当て(2つ)以外に、最大22件まで、パーク保留・応答として設定できます。

※フレキシブルボタンがないKX-UT123Nだけの場合でも、パーク機能の割り当てが必要です。(左図参照)

ボタン1にパーク機能が割り当てられていない場合は、「*90」「01」(ボタン番号)をダイヤルしても、パーク保留できません。

※特番につづけてダイヤルする番号の桁数により動作が異なりますのでご注意ください。

1桁：パーク番号(1～9)

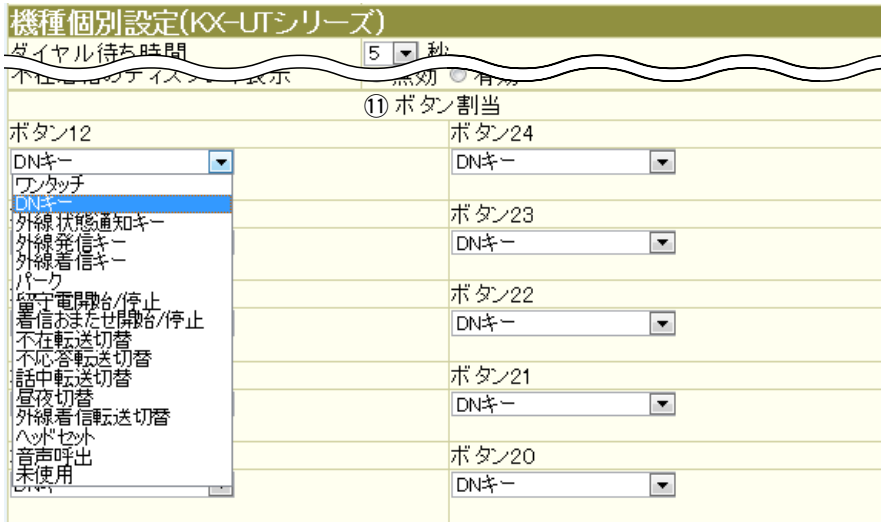
2桁：ボタン番号(01～24)

フレキシブルボタンの番号とパーク番号が一致するようにしてください。

設定が異なると、パーク保留できないことがあります。(下表参照)

ボタン番号とパーク番号 設定例	ダイヤル操作例	
	「*90」「1」(パーク番号)	「*90」「01」(ボタン番号)
番号が一致している場合 	パーク1が割り当てられたボタン1にパーク保留されます。	ボタン1にパーク保留されます。
番号が一致していない場合 	パーク1が割り当てられたボタン9にパーク保留されます。	ボタン9にパーク保留されません。

■機種個別設定(KX-UTシリーズ)つづき 設定グループ



※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

①ボタン割当(1～24)
(つづき)

◎留守電開始/停止

内線子機が使用するボックスについて、留守番電話機能の開始、停止を操作できます。

留守番電話機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※留守番電話機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※「基本設定」画面の[留守番電話機能]欄を「有効」に設定していない場合は、無効な機能です。

◎着信おまたせ開始/停止

着信おまたせ機能を設定すると、通話中など登録した内線子機が設定した時間内に応答できないときに、メッセージを流して相手に待っていただけます。

着信おまたせ機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

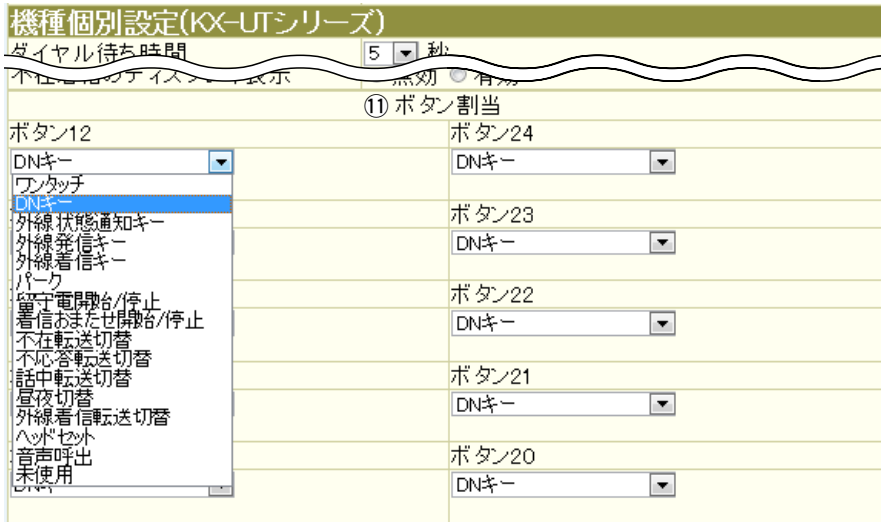
※着信おまたせ機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※着信おまたせ機能で、留守番電話に接続する場合は、「基本設定」画面の[留守番電話機能]欄を「有効」に設定しておく必要があります。

※KX-UTシリーズで、この機能を使用する場合は、回線の使用状況を確認するために、フレキシブルボタンに<外線状態通知キー>の割り当てが契約チャンネル数分必要です。(P.181)

※ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面で、回線ごとに使用するパターンを選択していない場合は、無効な機能です。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

■機種個別設定(KX-UTシリーズ) つづき 設定グループ



※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24)
(つづき)

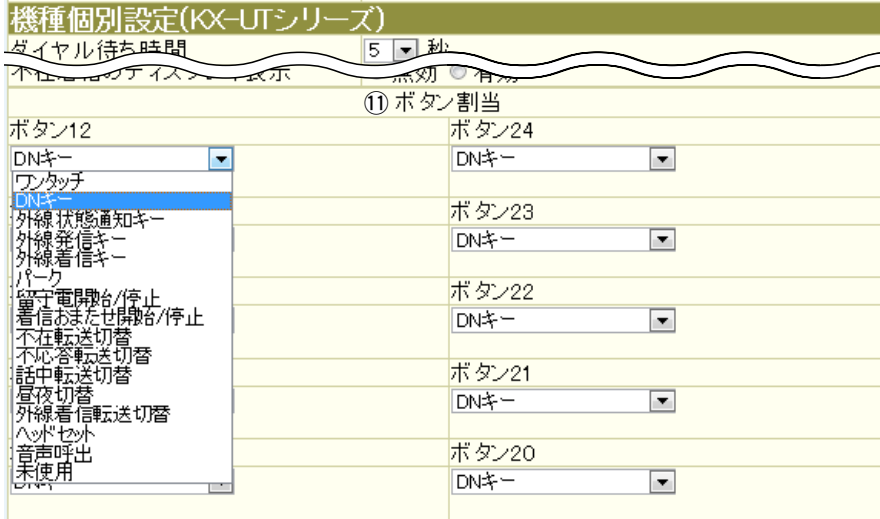
◎不在転送切替

不在中にかかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。
不在転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。
※不在転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。
※転送先を設定していない場合は、「特番設定」画面の[不在転送]欄(P.137)で設定した特番(出荷時の設定：*94)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。
ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「着信設定」画面に設定されます。

◎不応答転送切替

電話に応答できないときなど、かかってきた電話をほかの電話機に転送する機能です。
不応答転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。
※不応答転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。
※転送先を設定していない場合は、「特番設定」画面の[不応答転送]欄(P.137)で設定した特番(出荷時の設定：*95)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。
ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「着信設定」画面に設定されます。

■機種個別設定(KX-UTシリーズ)つづき 設定グループ



※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

①ボタン割当(1～24)
(つづき)

◎話中転送切替

内線通話中にほかの内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能です。

話中転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

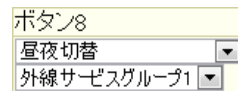
※話中転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※転送先を設定していない場合は、「特番設定」画面の[話中転送]欄(P.137)で設定した特番(出荷時の設定：*96)につづけて転送先電話番号をダイヤルすると機能します。

ダイヤルした転送先電話番号は、ユーザー用の「着信設定」画面に設定されます。

◎昼夜切替

あらかじめ登録した外線サービスグループ(P.209)ごとに、昼間か夜間で、着信したときの動作を切り替える機能です。



例：ボタン8に〈昼夜切替〉(外線サービスグループ1)を割り当てた場合

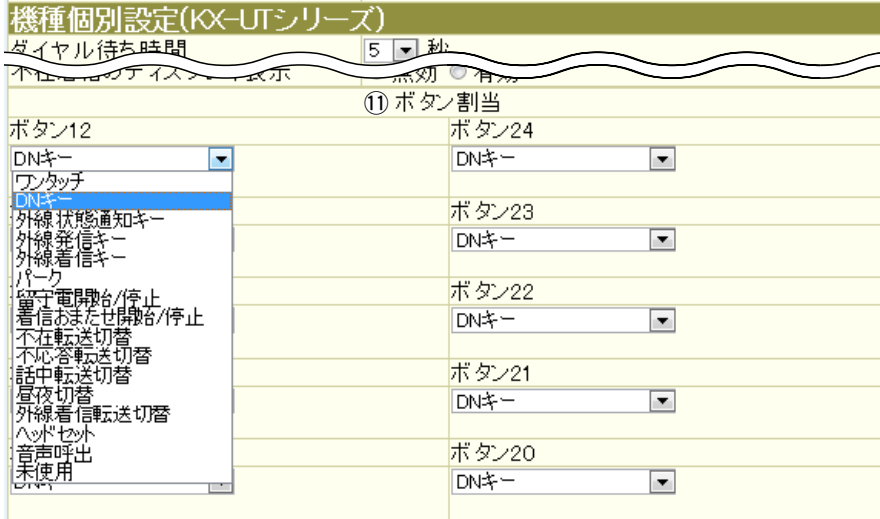
指定の外線サービスグループが夜間の場合は、ボタンが赤色に点灯します。

※夜間転送を解除するときは再度ボタンを押す、またはユーザー用の「昼夜切替設定」画面でボタンをクリックして消灯をご確認ください。

※夜間転送を一括解除するときは、「特番設定」画面の[昼夜切替]欄(P.138)で設定した昼夜切替特番(出荷時の設定：*98)をダイヤルして、消灯をご確認ください。

※「PBX拡張設定」メニューの「夜間転送先設定」画面(P.212)で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

■機種個別設定(KX-UTシリーズ)つづき 設定グループ



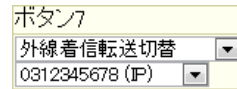
※上図は、[設定グループの選択]欄で「設定グループ1」を選択したときの画面です。

① ボタン割当(1～24)

(つづき)

◎外線着信転送切替

回線(電話番号)ごとに、外線からの着信をあらかじめ登録した転送先へ転送する機能です。



例：ボタン7に<外線着信転送切替>(IP回線)を割り当てた場合

外線着信転送機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

※外線着信転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※「夜間転送先設定」画面で「外線」に設定されているときは、夜間転送に切り替わると、この設定に関わらず、夜間転送先設定が優先されます。

※ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で転送先を設定していない場合は、無効な機能です。

(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

◎ヘッドセット

KX-UT136Nにヘッドセットを接続して通話するとき使用するボタンです。

ヘッドセット機能が動作しているときは、ボタンが赤色に点灯します。

◎音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。

ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先の電話機(KX-UTシリーズ、またはVP-701)のスピーカー機能が有効になります。

◎未使用

機能を割り当てません。

共通で使用する電話帳を編集します。

■ 設定グループの選択

IP電話機(VP-701/KX-UTシリーズ)用の共通電話帳や設定グループごとに登録できる電話帳を編集するときに選択します。

設定グループの選択

共通 0件				
設定グループ 1 0件	設定グループ 2 0件	設定グループ 3 0件	設定グループ 4 0件	設定グループ 5 0件
設定グループ 6 0件	設定グループ 7 0件	設定グループ 8 0件	設定グループ 9 0件	設定グループ 10 0件
設定グループ 11 0件	設定グループ 12 0件	設定グループ 13 0件	設定グループ 14 0件	設定グループ 15 0件
設定グループ 16 0件	設定グループ 17 0件	設定グループ 18 0件	設定グループ 19 0件	設定グループ 20 0件

共通電話帳(最大300件)はすべての多機能電話機に登録されます。
設定グループ1~20(最大100件)は各内線子機の多機能電話設定グループに対応して登録されます。

※上図は、〈共通〉をクリックしたときの画面です。

電話帳の選択.....

編集するIP電話機(VP-701/KX-UTシリーズ)用の電話帳を、〈共通〉、〈設定グループ1〉〜〈設定グループ20〉から選択します。

クリックすると、選択した電話帳の登録内容を[電話帳登録一覧]項目(P.194)で確認、または編集できます。

※[電話帳の保存と書き込み]項目では、選択した電話帳ごとに、電話帳の保存やファイルを書き込みできます。

※登録した件数は、それぞれのボタンの下に表示されます。

※IP電話機(VP-701/KX-UTシリーズ)の設定グループは、「電話機設定」画面の[電話機のメンテナンス]項目(P.155、P.167)で登録できます。

■電話帳の保存と書き込み

選択した電話帳ごとに、ファイルに保存したり、保存したファイルの本製品に書き込んだりします。

電話帳の保存と書き込み	
保存したファイルを書き込む ①	<div style="text-align: right;">参照... 書き込み</div> CSV形式のファイルが書き込みできます。 ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。
ファイルに保存する ②	<div style="text-align: right;">保存</div> phonebook.csvで保存されます。

※上図は、[設定グループの選択]項目(P.189)で〈共通〉をクリックしたときの画面です。

①保存したファイルを

書き込む ……………

[ファイルに保存する] (②) 欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」(拡張子:csv)の内容を本製品に書き込むとき使用します。

電話帳登録ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。

表示された画面で目的の電話帳登録ファイルを選択して、〈開く(O)〉をクリックします。

テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[電話帳登録一覧]項目にその内容を書き込みます。

書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「管理」メニューの「設定のバックアップ/リストア」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、あとから書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますのでご注意ください。

※ユーザー用の設定画面で電話帳が書き込まれると、管理者用の「電話帳設定」画面の内容が上書きされます。

※下記ファイル以外のインポートは、保証対象外になります。

- ◎[ファイルに保存する] (②) 欄の操作で保存した状態のファイル
- ◎本書191ページの書式で保存した状態のファイル
- ◎ユーザー用の「電話帳の編集」画面で保存したファイル

②ファイルに保存する ……

[電話帳登録一覧]項目に表示された内容を電話帳登録ファイルとして、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された画面の〈保存(S)〉をクリックすると、電話帳登録ファイル(拡張子:csv)として保存できます。

※ファイル名は、[設定グループの選択]項目(P.189)でクリックしたボタンに応じて変わります。

たとえば、設定グループ1をクリックしたときの電話帳登録ファイル名は、phonebook01.csvになります。

■電話帳の保存と書き込み(つづき)

電話帳登録ファイルのインポートについて

保存した状態のファイル(P.190)、および下記条件で編集したファイル以外の書き込みは、保証対象外になります。

「電話帳登録ファイル」(拡張子:csv)の書式

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	#	VR-7000	多機能電話帳	設定	保存	ファイル				
2	#	Firm Ver.	(N)							
3	#	File Ver.								
4	#	番号	名前	電話番号		ヨミガナ	短縮番号	表示種別(0=電話番号、1=短縮番号)	回線種別(0=外線、1=内線)	電話帳グループ
5	1	営業1	tel:0900987866		イイヨ71	tel:201		0	0	1
6	2	営業2	tel:0900987867		イイヨ72	tel:202		0	0	1
7										

A列: レコード番号(共通電話帳: 1~300、グループ電話帳: 1~100)、重複しない番号を入力

B列: 名前(半角30(全角15)文字以内)

C列: 電話番号(tel:半角数字22桁以内)、文字列認識用のため、tel:につづけて入力

D列: 文字の入力はしないこと(入力すると、内容は無効になる)、列は削除しないこと

E列: 文字の入力はしないこと(入力すると、内容は無効になる)、列は削除しないこと

F列: ヨミガナ(任意の半角30文字以内)

G列: 短縮番号(tel:半角数字7桁以内)、文字列認識用のため、tel:につづけて入力

※短縮番号を使用しない場合は、空白にすること

H列: 表示種別(電話番号:0、短縮番号:1)

I列: 回線種別(外線:0、内線:1)

J列: 電話帳グループ(1~10)

ご注意

- ◎A列、C列、G列には、コメント行(A列の#ではじまる行)を除き、重複しない番号を入力してください。
上記画面の例では、1行~4行がコメント行です。
- ◎一度、[ファイルに保存する]欄(P.190)の操作で、CSVファイルとして保存してから、そのCSVファイルを表計算ソフトウェアなどで編集してください。
- ◎CSVファイルに含まれる改行コードがエラーの原因となりますので、他機種からの電話帳を移行する場合は、テキストエディターなどで不要な改行コードを削除してください。
- ◎JIS第2水準、旧字体などの一部で、正しく表示されない文字があります。
- ◎KX-UTシリーズの電話機では、UTF-16非対応の文字(株、丸など)が使用できません。

■ 電話帳への登録

よく利用する電話番号を電話帳に登録します。

※電話帳を利用した発信など電話機ごとの操作については、本書254ページ～257ページもあわせてご覧ください。

電話帳への登録		
番号	①	1 ▼
名前	②	<input type="text"/>
ヨミガナ	③	<input type="text"/>
電話番号	④	<input type="text"/>
短縮番号	⑤	<input type="text"/>
表示種別	⑥	電話番号 ▼
回線種別	⑦	外線 ▼
電話帳グループ	⑧	電話帳グループ1 ▼

- ① **番号** 相手先電話番号を登録する番号を設定します。
 ◎共通電話帳の場合 : 「1」～「300」の番号を選択します。
 ◎グループ電話帳の場合 : 「1」～「100」の番号を選択します。

- ② **名前** 相手の名前を、任意の半角30文字(全角15)以内で入力します。

- ③ **ヨミガナ** 相手のヨミガナを、任意の半角30文字以内で入力します。
 ※半角カタカナ、半角英数字が使用できます。
 ※全角カナは、半角カタカナに変換されます。
 ※「ヨミガナ」が空白(何も設定していない)の場合、電話帳に登録できません。

- ④ **電話番号** 電話機からダイヤルする電話番号を、半角数字22桁以内で入力します。
 ※「電話番号ルーティング設定」画面で設定した宛先電話番号、プレフィクスを付加した電話番号でも登録できます。

- ⑤ **短縮番号** 必要に応じて、短縮番号を、半角数字7桁以内で入力します。
 外線(IP回線/ISDN回線/アナログ電話回線)へ発信する、またはPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)で発信する場合に使用できます。
 ※特番やプレフィクスと短縮番号を組み合わせるとダイヤルできません。
 ※KX-UT136Nに割り当てられた〈外線発信キー〉と短縮番号を組み合わせるとダイヤルできません。
 ※短縮番号が使用できるのは、内線個別設定で割り当てた回線捕捉番号だけです。
 ※短縮番号は、VP-701やKX-UTシリーズ以外の電話機からも利用できません。
短縮ダイヤル機能について
 [短縮番号](⑤)欄に、緊急通報(110、118、119)、時報(117)や天気予報(177)など、「1」ではじまる3桁の番号を設定して、その番号をダイヤルすると、短縮番号発信が優先されるため、該当するサービスへ発信できないことがあります。
 短縮ダイヤル機能は、特別な理由がない限り、「1」ではじまる3桁の番号を避けてご利用していただくことをおすすめします。

■ 電話帳への登録(つづき)

電話帳への登録		
番号	①	1 ▼
名前	②	<input type="text"/>
ヨミガナ	③	<input type="text"/>
電話番号	④	<input type="text"/>
短縮番号	⑤	<input type="text"/>
表示種別	⑥	電話番号 ▼
回線種別	⑦	外線 ▼
電話帳グループ	⑧	電話帳グループ1 ▼

⑥表示種別 発信者の名前を表示させるとき、発信した相手の「短縮番号」、または「電話番号」のどちらを名前表示の識別に使用するかを選択します。
(出荷時の設定：電話番号)

⑦回線種別 発信時に捕捉する回線の種類を、「外線」、「内線」から選択します。
(出荷時の設定：外線)
※「外線」をVP-701の電話帳に登録している場合は、外線自動捕捉をしてから発信します。
「内線」に登録している場合は、自動捕捉をせず発信します。
なお、「内線」に登録している場合でも、デフォルト発信経路が割り当てられていたり、発信ルールで外線経路が割り当てられていれば、その経路が優先されます。
※回線種別を間違えて登録すると、発信できないことがありますのでご注意ください。
※KX-UTシリーズの電話機では、使用できない機能です。

⑧電話帳グループ 必要に応じて、VP-701本体の電話帳をグループ分けするとき選択します。
(出荷時の設定：電話帳グループ1)
選択できる範囲は、「電話帳グループ1」～「電話帳グループ10」です。
※KX-UTシリーズの電話機では、使用できない機能です。

■ 電話帳登録一覧

[電話帳への登録]項目(P.192)で登録した内容を表示します。

電話帳登録一覧									
番号	名前	ヨミガナ	電話番号	短縮番号	表示種別	回線種別	電話帳グループ	①	②
1	ICOM1	アイコム1	05012345678		電話番号	外線	電話帳グループ1	編集	削除
2	ICOM2	アイコム2	05012345679		電話番号	外線	電話帳グループ1	編集	削除
3	営業所1	エイキョウショ1	0612345678		電話番号	外線	電話帳グループ1	編集	削除
								全削除	

※上図は、[設定グループの選択]項目(P.189)で<共通>をクリックしたときの登録例です。

- ①<編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を[電話帳への登録]項目で編集できます。
- ②<削除> ボタンの左欄に表示された登録内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。y

この章では、
管理者用の「PBX拡張設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1. 「拡張設定」画面	196
■ SIP拡張設定	196
■ VoIP設定	198
2. 「番号計画」画面	201
■ 電話番号ルーティング設定	201
■ 電話番号ルーティング設定一覧	203
■ 番号計画例外ルール	204
■ 発信先番号変換ルール設定	205
■ 発信先番号変換ルール一覧	206
■ 発信規制ルール設定	207
■ 発信規制ルール一覧	208
3. 「外線サービスグループ」画面	209
■ 外線サービスグループ設定	209
4. 「昼夜切替設定」画面	210
■ 昼夜切替曜日設定	210
■ 昼夜切替日付設定	211
5. 「夜間転送先設定」画面	212
■ 夜間転送先設定	212
6. 「通話数制限設定」画面	213
■ 通話数制限設定(システム全体)	213
■ 通話数制限設定	214
7. 「ゲートウェイ接続設定」画面	215
■ ゲートウェイ接続設定	215
■ ゲートウェイ接続設定一覧	216
8. 「番号表示変換設定」画面	217
■ 発信元回線設定	217
■ 番号表示変換ルール設定	218
■ 番号表示変換ルール一覧	219

1. 「拡張設定」画面

「PBX拡張設定」-「拡張設定」

本製品に登録された内線子機で共通に使用する詳細な機能を設定します。

■ SIP拡張設定

本製品に登録された端末で共通に使用する拡張設定です。

SIP拡張設定		
内線ドメイン	①	<input checked="" type="radio"/> LAN IPアドレス <input type="radio"/> 指定 <input type="text"/>
SIP 183対応	②	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
電話回線 レスポンス変換	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
SIP レスポンス中継	④	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
呼出中転送方式	⑤	<input type="radio"/> 被転送番号を中継しない <input checked="" type="radio"/> 被転送番号を中継する
SIP URI競合時の優先	⑥	<input checked="" type="radio"/> IP回線 <input type="radio"/> Peer to Peer

- ① **内線ドメイン** …………… 簡易中継サーバーとその子機間が共通で使用するSIPサービスドメイン名を任意に設定できます。 (出荷時の設定: LAN IPアドレス)
 入力は、半角英数字で63文字までです。
 ※ここで設定した値を子機側の[SIPサービスドメイン]欄に入力します。
- ② **SIP 183対応** …………… 発信時、上位SIPサーバーから受信したSDP付き183 Session Progressの中継方法についての設定です。 (出荷時の設定: 無効)
 ◎**有効**: 電話機に音声情報を伴う呼出(SDP付き183)もそのまま伝えます。それによって、呼出中、通話中の状態遷移を区別して伝えることができますが、一部の端末で、呼出中状態ではDTMF信号が送出できないことがあります。
 ◎**無効**: 相手への音声情報を伴う呼出(SDP付き183)を受信すると、子機に通話中に変換して伝え、上記の現象を回避できる場合があります。
 ※特に問題がある場合を除いては、出荷時の設定でお使いください。
- ③ **電話回線 レスポンス変換** …………… 一般加入電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードに変換する設定です。 (出荷時の設定: 有効)
 ※[SIP 183対応](②)欄で、「有効」を設定したとき使用できる機能です。

ご注意

IP電話ネットワーク内で、同じ内線ドメインは使用できません。

ほかのSIPサーバー(簡易中継サーバー)、VE-IG1やVE-AG1などのゲートウェイ装置を増設する場合、それぞれ異なる内線ドメインを設定してください。

[内線ドメイン]欄(①)を出荷時の設定(LAN IPアドレス)でお使いいただくと、内線ドメイン名の競合を回避できます。

本製品に設定した内線ドメインと、本製品の「電話回線設定」メニューの「IP回線」画面にあるSIPサービスドメインが一致するような構成はできません。

■ SIP拡張設定(つづき)

SIP拡張設定		
内線ドメイン	①	<input checked="" type="radio"/> LAN IPアドレス <input type="radio"/> 指定 <input type="text"/>
SIP 183対応	②	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
電話回線 レスポンス変換	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
SIP レスポンス中継	④	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
呼出中転送方式	⑤	<input type="radio"/> 被転送番号を中継しない <input checked="" type="radio"/> 被転送番号を中継する
SIP URI競合時の優先	⑥	<input checked="" type="radio"/> IP回線 <input type="radio"/> Peer to Peer

- ④ SIP レスポンス中継 …… 発信時、上位SIPサーバーから受信したエラーメッセージの中継方法についての設定です。 (出荷時の設定：有効)
 ◎有効：発信時、SIPサーバーからのエラーレスポンス(4xx～6xx)を受信すると、レスポンスコードをそのまま中継します。
 ◎無効：発信時、SIPサーバーからのエラーレスポンス(4xx～6xx)を受信すると、486レスポンスに変換して中継します。
 ※この設定は、スライド発信をするために必要です。
 ※ほかのSIPサーバーを簡易中継サーバーの子機として、本製品に接続するような構成で、スライド発信をご利用の場合は、[SIP レスポンス中継]欄を「有効」に設定してください。

- ⑤ 呼出中転送方式 …………… 「被転送番号を中継する」に設定すると、呼出中に受話器を置いて転送する(呼出中転送)とき、転送先に被転送の電話番号を表示します。
 (出荷時の設定：被転送番号を中継する)

操作例

AからBにかかってきた電話を、BがCに転送するとき、Cの電話機にAの電話番号が表示されます。
 「被転送番号を中継しない」に設定されている場合は、Cの電話機には、Bの電話番号が表示されます。

- ⑥ SIP URI競合時の優先 …… 上位のSIPサーバー(簡易中継サーバー)からの着信で、IP回線とPeer to Peer(SIPサーバーを経由しない1対1での通話)のSIP URIが競合したとき、どちらとみなして動作するかを設定します。 (出荷時の設定：IP回線)

1. 「拡張設定」画面(つづき)

「PBX拡張設定」-「拡張設定」

■VoIP設定

IP電話での音質について設定します。

※下記のように、TOS種別の設定ごとに[VoIP設定]項目の内容が変更になります。

TOS種別:使用しない

VoIP設定					
ジッターバッファ	①	40	ms		
TOS種別	②	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv			

TOS種別:TOS

VoIP設定					
ジッターバッファ	①	40	ms		
TOS種別	②	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv			
メディア(RTP)	③	優先度	5	サービスタイプ	12
				16進表示:	B8
呼制御(SIP)	④	優先度	5	サービスタイプ	12
				16進表示:	B8

TOS種別:Diffserv

VoIP設定					
ジッターバッファ	①	40	ms		
TOS種別	②	<input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv			
メディア(RTP)	③	DSCP	46	16進表示:	B8
呼制御(SIP)	④	DSCP	46	16進表示:	B8

※上図は、「IP回線」画面で、「ひかり電話(網直取)」を選択したときに表示される設定内容です。

- ① **ジッターバッファ** …… 音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
(出荷時の設定:40)
設定できる範囲は、「20」(ms)~「160」(ms)です。
設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。
- ② **TOS種別** …………… 本製品のTOS機能について設定します。 (出荷時の設定:Diffserv)
- ◎**使用しない**
TOSを使用しないネットワークに該当します。
- ◎**TOS**
TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
RFC1349に準拠して、1ビット~3ビットを優先度、4ビット~7ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。
残りの1ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。
- ◎**Diffserv**
Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
1ビット~6ビットをDSCPとして、10進数で設定します。
残りの2ビットは、未使用フィールドとして、0に固定されています。

1. 「拡張設定」画面

「PBX拡張設定」-「拡張設定」

■VoIP設定(つづき)

TOS種別:使用しない

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv	

TOS種別:TOS

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv	
メディア(RTP)	③	優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8
呼制御(SIP)	④	優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8

TOS種別:Diffserv

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	<input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv	
メディア(RTP)	③	DSCP 46	16進表示: B8
呼制御(SIP)	④	DSCP 46	16進表示: B8

※上図は、「IP回線」画面で、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定内容です。

③メディア(RTP) ……………

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※「IP回線」画面の「接続先の選択」欄を設定すると、回線仕様に合わせた値になりますので、変更された値のままご使用ください。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。

(出荷時の設定: 5
7)

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。

(出荷時の設定: 12
0)

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。

(出荷時の設定: 46
56)

1. 「拡張設定」画面

「PBX拡張設定」-「拡張設定」

■VoIP設定(つづき)

TOS種別:使用しない

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv	

TOS種別:TOS

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> TOS <input type="radio"/> Diffserv	
メディア(RTP)	③	優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8
呼制御(SIP)	④	優先度 5	サービスタイプ 12 16進表示: B8

TOS種別:Diffserv

VoIP設定			
ジッターバッファ	①	40	ms
TOS種別	②	<input type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> TOS <input checked="" type="radio"/> Diffserv	
メディア(RTP)	③	DSCP 46	16進表示: B8
呼制御(SIP)	④	DSCP 46	16進表示: B8

※上図は、「IP回線」画面で、「ひかり電話(網直収)」を選択したときに表示される設定内容です。

④呼制御(SIP).....

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

※「IP回線」画面の[接続先の選択]欄を設定すると、回線仕様に合わせた値になりますので、変更された値のままご使用ください。

◎優先度

TOSの優先度フィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0~7」(10進数)です。

(出荷時の設定: 5
6

優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ

TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。

設定できる範囲は、「0~15」(10進数)です。

(出荷時の設定: 12
0

◎DSCP

DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。

設定できる範囲は、「0~63」(10進数)です。

(出荷時の設定: 46
48

TOS設定時の16進数表記

TOS設定時、出荷時の呼制御(SIP)の優先度設定値を2進数で表示すると、優先度(101)、サービスタイプ(1100)、未使用フィールド(0)なので、「10111000」の16進数表記は、「B8」になります。

Diffserv設定時の16進数表記

Diffserv設定時、出荷時の呼制御(SIP)のDSCP設定値46を2進数で表示すると、(101110)、未使用フィールド(00)なので「10111000」の16進表記は「B8」になります。

外線発信するとき、「簡単設定」メニュー(6章)の「発信設定」画面、または「PBX設定」メニュー(7章)の「内線個別設定」画面で設定した優先度に関係なく、特定の相手先への発信に対して使用する回線を指定するための設定です。

■ 電話番号ルーティング設定

相手先の電話番号、外線発信に使用する回線など、ルーティングの対象となる条件を設定します。

① 番号	② プレフィクス	③ 宛先電話番号	④ 優先度	⑤ 回線指定	⑥ 第1発信回線	⑦ 第2発信回線	⑧ 追加
1			IP回線⇒ISDN回線	内線設定優先			追加

- ① 番号 各宛先電話番号に対して使用する回線を登録するために、「1」～「200」の番号を選択します。
最大200件まで登録できます。
- ② プレフィクス 半角数字7桁以内で、プレフィクスを入力します。
入力したプレフィクスを相手先の電話番号に付けて発信すると、プレフィクスを取り除いた電話番号で、指定した回線(④～⑦)に発信します。
※[外線発信特番設定]項目(P.142)でもプレフィクスを登録できます。
- ③ 宛先電話番号 対象となる番号を、半角数字30桁以内で入力します。
入力した電話番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、指定した回線(④～⑦)に発信します。
- ④ 優先度 プレフィクスを付けたルーティング発信を使用して外線発信したときに、どの回線を優先して発信するか、回線が使用中の場合は、次にどの回線へ捕捉スライドして発信するかを設定します。(出荷時の設定:IP回線⇒ISDN回線)
 - ◎IP回線⇒ISDN回線
IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信します。
 - ◎IP回線⇒アナログ回線
IP回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信します。
 - ◎ISDN回線⇒IP回線
ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信します。
 - ◎ISDN回線⇒アナログ回線
ISDN回線が使用中の場合、捕捉スライドしてアナログ回線で発信します。
 - ◎アナログ回線⇒IP回線
アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてIP回線で発信します。
 - ◎アナログ回線⇒ISDN回線
アナログ回線が使用中の場合、捕捉スライドしてISDN回線で発信します。
 - ◎IP回線
IP回線が使用中の場合、発信しません。
 - ◎ISDN回線
ISDN回線が使用中の場合、発信しません。
 - ◎アナログ回線
アナログ回線が使用中の場合、発信しません。

■ 電話番号ルーティング設定(つづき)

電話番号ルーティング設定							
① 番号	② プレフィクス	③ 宛先電話番号	④ 優先度	⑤ 回線指定	⑥ 第1発信回線	⑦ 第2発信回線	⑧ 追加
1			IP回線⇒ISDN回線	内線設定優先			<input type="button" value="追加"/>

- ⑤ 回線指定 …………… [発信設定]画面(6章)、または「内線個別設定」画面(7章)で設定した回線捕捉を使用して発信するか、異なる回線を指定して発信するか設定します。
(出荷時の設定：内線設定優先)
- ◎内線設定優先： [優先度](④)欄で設定した優先順位で、「発信設定」画面、または「内線個別設定」画面で設定した回線捕捉を使用して発信します。
- ◎指定： [優先度](④)欄で設定した優先順位で、[第1発信回線](⑥)欄、または[第2発信回線](⑦)で設定した回線を使用して発信します。
- ⑥ 第1発信回線…………… [回線指定](⑤)欄で「指定」を設定したとき、最初に発信する回線です。
※[優先度](④)欄の設定に応じて、選択できる回線が切り替わります。
- ⑦ 第2発信回線…………… [第1発信回線](⑤)欄の回線が使用中の場合に、次に発信する回線です。
※[優先度](④)欄の設定に応じて、選択できる回線が切り替わります。
- ⑧ <追加> …………… [電話番号ルーティング設定]項目で設定した内容を[電話番号ルーティング設定一覧]項目に登録するボタンです。

■電話番号ルーティング設定一覧

[電話番号ルーティング設定]項目で登録した設定内容を表示します。

電話番号ルーティング設定一覧								
番号	プレフィクス	宛先電話番号	優先度	回線指定	第1発信回線	第2発信回線		
1		090	IP回線⇒ISDN回線	内線設定優先			① 編集	② 削除
2		050	IP回線⇒ISDN回線	指定	03	03	編集	削除
							③ 全削除	

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を[電話番号ルーティング設定]項目で編集できます。
- ②<削除> クリックすると、ボタンの左欄に表示された設定内容を削除します。
- ③<全削除> クリックすると、表示された設定内容をすべて削除します。

■番号計画例外ルール

外線発信時、番号変換ルール/発信規制ルールの対象にしない特番について設定します。

番号計画例外ルール	
184/186自動判定 ①	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
例外番号 ②	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

- ① **184/186自動判定** …… 「184」や「186」につづけてダイヤルした宛先電話番号に対して、番号変換ルール/発信規制ルールを適用するかどうかを設定します。
(出荷時の設定:有効)
- ② **例外番号** ……………… 番号変換ルール/発信規制ルールを適用しない特番(例外番号)を、最大5件まで登録できます。
外線発信時、ここに登録した特番以降の宛先電話番号が、番号変換ルール/発信規制ルールの対象になります。

■ 発信先番号変換ルール設定

番号変換ルールの対象/例外となる発信先番号とグループを設定します。

① 番号	② 種別	③ 宛先電話番号	④ 削除桁数	⑤ 付加番号	⑥ 追加
1	変換	98765432	削除しない	080	追加

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** 登録された番号変換ルールを比較する順位を指定します。
設定できる範囲は、「1」～「100」です。
- ② **種別** 対象となる番号の変換条件を設定します。 (出荷時の設定:変換)
 変換 : 番号変換ルールに一致した場合、番号を変換します。
 例外 : 番号変換ルールに一致した場合、番号を変換しません。
- ③ **宛先電話番号** 対象となる番号を半角数字15桁以内で入力します。 (出荷時の設定:空白)
ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、番号変換ルールが適用されます。
- ④ **削除桁数** [宛先電話番号] (③) 欄で入力した番号を変換する場合に、その先頭から削除する番号の桁数を設定します。 (出荷時の設定:削除しない)
設定できる範囲は、「削除しない」、「1」～「15」です。
- ⑤ **付加番号** 先頭に付加する番号を半角数字15桁以内で入力します。 (出荷時の設定:空白)
- ⑥ **追加** [発信先番号変換ルール設定] 項目で設定した内容を [発信先番号変換ルール一覧] 項目に登録するボタンです。

変換ルール設定時の動作例について

下記は、上記画面で設定した変換ルールに対する動作例です。

◎ 例1

[宛先電話番号] (③) 欄 : 98765432

[削除桁数] (④) 欄 : 削除しない

[付加番号] (⑤) 欄 : 080

この場合、「98765432」をダイヤルすると、「08098765432」に変換されて発信します。

◎ 例2

[宛先電話番号] (③) 欄 : 00065432

[削除桁数] (④) 欄 : 3

[付加番号] (⑤) 欄 : 080987

の場合、「08098765432」で発信する。

この場合、「00065432」をダイヤルすると、「08098765432」に変換されて発信します。

番号変換ルールの対象となる番号について

内線子機からダイヤルした電話番号のうち、プレフィクスや特番以降の電話番号が番号変換ルールの対象になります。

■ 発信先番号変換ルール一覧

[発信先番号変換ルール設定]項目で登録した内容を表示します。

発信先番号変換ルール一覧					
番号	種別	宛先電話番号	削除桁数	付加番号	
1	変換	98765432	削除しない	080	① 編集 ② 削除
2	変換	090	削除しない	1234	編集 削除
3	例外	0800			編集 削除
4	変換	5678	4	1234	編集 削除
					全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[発信先番号変換ルール設定]項目で編集できます。
- ②<削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。

設定例について

上記画面の登録例では、発信時、下記のルールにしたがって、発信者番号を変換して発信します。

- ◎「080」ではじまる番号に対して「1234」を付加し、「0800」ではじまる番号だけをそのままにするルール
「08012345678」をダイヤルしたときは、「123408012345678」に変換されて発信されます。
「08001234567」をダイヤルしたときは、番号3(上記画面)の行に設定された「例外」に一致するため、変換されずに「08001234567」をそのまま発信します。
- ◎「090」ではじまる番号に対して「1234」を付加するルール
「09012345678」をダイヤルしたときは、「123409012345678」に変換されて発信されます。
- ◎「5678」ではじまる番号に対して「5678」の4桁を削除して、「1234」を付加するルール
5678123456をダイヤルしたときは、1234123456に変換されて発信されます。
- ◎「0667935301」をダイヤルしたときは、番号1～番号4(上記画面)のどの行にも一致しないため、変換されずに「0667935301」をそのまま発信します。

番号表示変換ルール適用時について

- ◎内線子機から外線へ発信するときだけ、番号変換ルールが適用されます。
ルールの適用については、登録した回線(電話番号)ごとに「外線サービスグループ」画面で設定できます。
- ◎変換種別は、例外設定が優先されます。
- ◎番号変換ルールを複数設定しているときは、番号の小さい順に比較を開始します。
条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のルールは比較しません。
- ※削除により番号を付加する前の有効桁数が0以下になる場合、番号変換後の桁数が32桁以上になる場合は番号変換ルールが適用されません。

■ 発信規制ルール設定

発信規制ルールのグループと対象/例外となる宛先電話番号を設定します。

発信規制ルール設定				
発信規制ルール番号①共通				
追加				
発信規制リスト②	宛先電話番号			
	0			
発信許可リスト③	宛先電話番号			
	01			

※画面の内容は、登録例です。

- ① **発信規制ルール番号** …… 対象となる発信規制ルールのグループを選択します。(出荷時の設定：共通)
 選択できる範囲は、「共通」、または「1」～「16」です。
 発信規制ルールの適用については、内線子機の設定グループごとに「電話機設定」画面で設定できます。
 ※「共通」に設定した内容は、すべてのグループ(1～16)に適用されます。
〈追加〉
 [発信規制ルール設定]項目で設定した内容を、[発信規制ルール一覧]項目に登録するボタンです。

- ② **発信規制リスト** …………… 発信規制ルールに一致した場合、外線への発信を規制する番号を、半角数字15桁以内で入力します。(出荷時の設定：空白)
 ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、発信規制ルールが適用されます。
 [発信規制ルール番号](①)欄で選択したルール番号ごとに、最大20件まで登録できます。

- ③ **発信許可リスト** …………… 発信規制ルールに一致した場合、外線への発信を許可する番号を、半角数字15桁以内で入力します。(出荷時の設定：空白)
 ここで指定した番号が、外線へ発信するときの番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、発信規制ルールが適用されます。
 [発信規制ルール番号](①)欄で選択したルール番号ごとに、最大20件まで登録できます。

■ 発信規制ルール一覧

[発信規制ルール設定]項目で登録した内容を表示します。

発信規制ルール一覧			
発信規制ルール番号	宛先電話番号 規制リスト	許可リスト	
共通	0	01	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> ① 編集 ② 削除 </div>
1	0990		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 編集 削除 </div>
2	0880		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 編集 削除 </div>
			全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[発信規制ルール設定]項目で編集できます。
- ②<削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。

発信規制ルールの順番について

「電話機設定」画面や「外線サービスグループ」画面で設定した発信規制は、内線子機(設定グループ)、選択した回線(電話番号)の順に適用され、外線発信を規制します。

※海外への発信を許可しない、または特定の拠点への発信だけを許可するなど、外線発信を規制できます。

発信規制ルールの対象となる番号について

◎「電話機設定」画面(設定グループ)の[機種共通設定]項目で発信規制ルールを設定した場合

内線子機からダイヤルした電話番号のうち、プレフィクスや特番以降の宛先電話番号が発信規制ルールの対象になります。

◎「外線サービスグループ」画面で発信規制グループを設定した場合

選択した回線(電話番号)から発信するときの電話番号★が発信規制ルールの対象になります。

★内線子機からダイヤルした電話番号は、「番号計画」画面の番号変換ルールにしたがって、変更されます。

3. 「外線サービスグループ」画面

「PBX拡張設定」-「外線サービスグループ」

本製品に登録した回線(電話番号)が所属する外線サービスグループ番号を設定します。

※ユーザー用の設定画面では、下記の「外線サービスグループ設定」項目で設定した外線サービスグループごとに、「昼間に切替」、「夜間に切替」を選択できます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

■外線サービスグループ設定

本製品に登録した回線(電話番号)について、グループを設定します。

外線サービスグループ設定			①	②	③
外線電話番号	回線	外線サービスグループ	発信規制	番号変換	
03	IP回線	外線サービスグループ1	無効	無効	
03	IP回線	外線サービスグループ1	無効	無効	
03	IP回線	外線サービスグループ1	無効	無効	
03	ISDN回線	外線サービスグループ1	無効	無効	
03	アナログ回線	外線サービスグループ1	無効	無効	

※画面の内容は、登録例です。

- ①外線サービスグループ … 設定できるグループは、「外線サービスグループ1」～「外線サービスグループ8」までです。
(出荷時の設定:外線サービスグループ1)
- ②発信規制 ……………… 登録した回線(電話番号)ごとに、外線への発信規制を設定します。
(出荷時の設定:無効)
 - ◎無効 ……………… : 発信を規制しません。
 - ◎発信規制ルール1～16: 「番号計画」画面で設定した発信規制ルールにしたがって、特定の番号への発信を規制します。
※発信規制ルール「共通」の内容も適用されます。
 - ◎外線発信規制 ……………… : 外線への発信はできません。
※内線(Peer to Peerを含む)への発信は規制されません。
- ③番号変換 ……………… 登録した回線(電話番号)ごとに、外線発信時の番号変換ルールを設定します。
(出荷時の設定:無効)
「有効」に設定すると、「番号計画」画面で設定したルールにしたがって変換された番号で外線へ発信します。

4. 「昼夜切替設定」画面

「PBX拡張設定」-「昼夜切替設定」

すべての外線サービスグループの昼夜(昼間から夜間、または夜間から昼間)切り替えを一括して、自動で切り替えるための設定です。

※ユーザー用の設定画面では、外線サービスグループごとに昼夜切り替えできます。(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

■ 昼夜切替曜日設定

設定した曜日と時間にしがって、着信時の昼夜切り替え動作を最大10件まで設定できます。

昼夜切替	切替時刻	有効曜日						
		日	月	火	水	木	金	土
夜間に切替 ▼	18 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
昼間に切替 ▼	08 : 00	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 ▼	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 ▼	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 ▼	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 ▼	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 ▼	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 ▼	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 ▼	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
無効 ▼	00 : 00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※画面の内容は、登録例です。

切替時刻・有効曜日 ……………

[昼夜切替] 欄で、「昼間に切替」、または「夜間に切替」を選択し、切り替え開始時間を24時間制で入力します。

指定する曜日のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。設定後は、[昼夜切替曜日設定]項目の<登録>をクリックします。

※本製品の自動時計設定機能(P.237)と併せてご使用になることをおすすめします。

※[昼夜切替日付設定]項目(P.211)の設定と重複する場合は、[昼夜切替日付設定]項目の設定が優先されます。

※昼間から夜間に着信動作が切り替わったあとに、本製品が再起動されたときは、次回設定した曜日と時間になるまで、昼間の着信となります。

■ 昼夜切替日付設定

設定した日時と時間にしがって、着信時の昼夜切り替え動作を最大30件まで設定できます。

昼夜切替		切替日時						
夜間に切替 ▼		7	月	7	日	18	:	00
昼間に切替 ▼		7	月	8	日	08	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00
無効 ▼			月		日	00	:	00

※画面の内容は、登録例です。

切替日時.....

[昼夜切替] 欄で、「昼間に切替」、または「夜間に切替」を選択し、切り替え開始の日時を入力します。

開始時間を24時間制で入力します。

設定後は、[昼夜切替日付設定]項目の<登録>をクリックします。

※本製品の自動時計設定機能と併せてご使用になることをおすすめします。

※[昼夜切替曜日設定]項目(P.210)の設定と重複する場合は、[昼夜切替日付設定]項目の設定が優先されます。

※昼間から夜間に着信動作が切り替わったあとに、本製品が再起動されたときは、次回設定した日時と時間になるまで、昼間の着信となります。

5. 「夜間転送先設定」画面

「PBX拡張設定」-「夜間転送先設定」

■夜間転送先設定

昼夜切り替え動作において、夜間に切り替わったときの転送先を、回線(電話番号)ごとに設定します。

夜間転送先設定			
外線サービスグループ1 ①			
外線電話番号	回線	夜間転送先	着信内線番号 ②
03	IP回線	転送しない	なし
03	IP回線	転送しない	なし
03	IP回線	転送しない	なし
03	ISDN回線	転送しない	なし
03	アナログ回線	転送しない	なし

※画面の内容は、「外線サービスグループ1」に登録された回線(電話番号)の設定例です。

- ①夜間転送先 …………… 昼夜切り替え動作で夜間に切り替わったときの着信動作を設定します。
 (出荷時の設定:転送しない)
- ◎転送しない : 夜間に切り替わっても「簡単設定」メニュー(6章)、または「PBX設定」メニュー(7章)の「着信設定」画面で設定した着信内線番号に着信します。
 - ◎外線 : ユーザー用の「外線着信転送設定」画面で設定した回線(電話番号)ごとの転送先番号へ転送します。
 - ◎内線 : [着信内線番号](②)欄に設定した内線番号、または内線代表番号の子機に着信します。
 - ◎留守番電話 : ユーザー用の「留守電ボックス設定」画面で設定した回線(電話番号)ごとの留守電ボックスで応答します。
 ※留守電ボックスが設定されていないときは、「転送しない」を選択したときと同じ着信動作になります。
- ②着信内線番号 …………… 夜間に切り替わったときに着信させる内線子機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。
 (出荷時の設定:なし)
 着信内線番号には、内線番号、または内線代表番号を設定できます。

着信動作の優先順位について
 管理者用の「夜間転送先設定」画面やユーザー用の設定画面*で重複した着信動作を設定したときは、下記の優先順位になります。

1. 「夜間転送先設定」画面
2. 「外線着信転送設定」画面*
3. 「留守電ボックス設定」画面*
4. 「着信設定」画面*

★設定について詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。

■通話数制限設定(システム全体)

本製品に登録したすべての回線(電話番号)について、通話数の制限を設定します。

通話数制限設定(システム全体)	
外線通話本数制限	① 8
優先回線用の通話確保数	② 2

※画面の内容は、登録例です。

- ①外線通話本数制限 ………… 本製品に登録した回線で、発着信できる総通話数を設定します。
設定できる範囲は、「1」～「8」です。 (出荷時の設定：8)
※本製品に登録した回線の総通話数が、[外線通話本数制限]欄で設定した通話数になると、新たに発着信があったとき話中になります。
- ②優先回線用の通話確保数 優先したい回線に確保する総通話数を設定します。
設定できる範囲は、「0」～「8」です。 (出荷時の設定：0)
※[外線通話本数制限](①)欄で設定した以上の通話数を設定できませんが、本製品で発着信できる総通話数を超える通話はできません。
※[外線通話本数制限](①)欄と同じ、またそれ以上の通話数を設定した場合は、通常回線★を使用できません。
※通常回線★での通話総数は、外線通話本数制限から優先回線用の通話確保数を除いた値となります。
★本書では、優先回線の割り当てをしない回線を「通常回線」と表記します。

■通話数制限設定

本製品に登録した回線(電話番号)について、通話数の制限や優先回線の割り当てを設定します。

通話数制限設定			
外線①話番号	回線 ②	通話数制限③	優先回線割り当て④
03	IP回線	制限なし	しない
03	IP回線	制限なし	しない
03	IP回線	制限なし	しない
03	ISDN回線	-	する
03	アナログ回線	-	する

※画面の内容は、登録例です。

- ①外線電話番号 …………… 「電話回線設定」メニューで登録した回線の電話番号を表示します。
※この欄では電話番号の変更はできません。
- ②回線 …………… 「電話回線設定」メニューで登録した回線の種別を表示します。
※この欄では種別の変更はできません。
- ③通話数制限 …………… 電話番号ごとに、発着信できる通話数を制限します。
設定できる範囲は、「制限なし」、「1」～「8」です。(出荷時の設定：制限なし)
※通話数制限を設定できるのは、IP回線だけです。
※本製品に登録したVP-701やKX-UT136Nの電話機では、回線の使用状況をフレキシブルボタンの点灯で確認できます。
- ④優先回線割り当て …………… 本製品に登録した電話番号ごとに、優先回線の割り当てを設定します。
(出荷時の設定：しない)
○「する」に設定した回線は優先回線として機能します。
優先回線の通話数は、[通話数制限設定(システム全体)]項目の[外線通話本数制限]欄で設定した総通話数、または[通話数制限](③)欄で設定した通話数にしたがいます。
○「しない」に設定した回線は、通常回線★として機能します。
※優先回線数が外線通話本数以上の場合、通常回線★は使用できません。
★本書では、優先回線の割り当てをしない回線を「通常回線」と表記します。

優先回線の割り当てについて

優先回線と通常回線の総通話数を、[通話数制限設定(システム全体)]項目で設定します。

優先回線の総通話数は、[外線通話本数制限]欄で設定した値です。

通常回線の総通話数は、[外線通話本数制限]欄の値から[優先回線用の通話確保数]欄の値を除いた値です。

設定例) IP回線が使用できないよう緊急時にISDN回線とアナログ回線を確保しておきたい場合

○外線通話本数制限 : 8

○優先回線用の通話確保数 : 2

○優先回線割り当て : ISDN回線/アナログ回線「する」、IP回線「しない」

※この場合、IP回線での総通話数は「6」に制限されるため、ISDNやアナログ回線用の通話を確保できます。

■ゲートウェイ接続設定

本製品のゲートウェイ接続について設定します。

※特定のシステム環境が必要となりますので、特別な理由がない限り出荷時のままでご使用ください。

ゲートウェイ接続設定	
内線番号	① 501 ▼
ゲートウェイ接続	② 無効 ▼
内線番号判定	③ 有効 ▼
DisplayName発信者番号を優先	④ しない ▼
ゲートウェイ発信時ドメインを使用	⑤ しない ▼
ゲートウェイ発信先アドレス	⑥ <input type="text"/>
ゲートウェイ発信先ドメイン	⑦ <input type="text"/>

※画面の内容は、登録例です。

- ①内線番号 ゲートウェイ接続を使用する内線子機の内線番号を選択します。
※この欄では「簡単設定」メニュー、または「PBX設定」メニューで登録した内線番号を変更できません。

- ②ゲートウェイ接続 本製品のゲートウェイ接続について設定します。 (出荷時の設定:無効)
「有効」に設定すると、内線子機が本製品にレジストされていなくても通信できる特殊な動作となります。

- ③内線番号判定 ゲートウェイ接続時の内線番号判定機能について設定します。
(出荷時の設定:有効)
「無効」に設定すると、内線番号ではなくドメインの一致により、どの端末からの発信か判定します。
この機能により、多台数のゲートウェイ接続端末から内線機能を使用できるようになります。

- ④DisplayName発信者番号を優先 ゲートウェイ接続を使用した着信時に、内線番号を判定する方法を設定します。
(出荷時の設定:しない)
「する」に設定すると、SIP URIの「DisplayName」エリアと内線番号で判定します。
「ユーザパート」エリアと内線番号で判定するときは、「しない」に設定します。
※この設定に関わらず、[内線番号判定] (③)欄が優先されます。

- ⑤ゲートウェイ発信時ドメインを使用 ゲートウェイ接続を使用した発信時に、指定されたドメインを使用するか設定します。
(出荷時の設定:しない)
本製品のIPアドレスを使用するときは、「しない」に設定します。

8 「PBX拡張設定」メニュー

7. 「ゲートウェイ接続設定」画面

「PBX拡張設定」-「ゲートウェイ接続設定」

■ゲートウェイ接続設定(つづき)

ゲートウェイ接続設定	
内線番号	① 501 ▼
ゲートウェイ接続	② 無効 ▼
内線番号判定	③ 有効 ▼
DisplayName発信者番号を優先	④ しない ▼
ゲートウェイ発信時ドメインを使用	⑤ しない ▼
ゲートウェイ発信先アドレス	⑥ <input type="text"/>
ゲートウェイ発信先ドメイン	⑦ <input type="text"/>

※画面の内容は、登録例です。

⑥ゲートウェイ発信先

アドレス

ゲートウェイ接続を使用した発信時に、接続する機器について設定します。
指定されたIPアドレスを入力します。

⑦ゲートウェイ発信先

ドメイン

ゲートウェイ接続を使用した着信時の端末判定に、ドメインを使用する場合に設定します。
指定されたドメイン(または該当する機器のIPアドレス)を半角英数字63文字以内で入力します。

■ゲートウェイ接続設定一覧

[ゲートウェイ接続設定]項目で登録した内容を表示します。

ゲートウェイ接続設定一覧					
番号	名前	内線番号	ゲートウェイ接続	ゲートウェイ発信先アドレス	ゲートウェイ発信先ドメイン
1	受付	501	有効	192.168.0.10	192.168.0.10
2	営業1	201	有効	192.168.0.10	192.168.0.10
3	営業2	202	無効		
4	営業3	203	無効		
5	購買1	301	無効		
6	購買2	302	無効		

※登録した内容を変更するときは、[ゲートウェイ接続設定]項目で該当する内線番号を選択します。

■発信元回線設定

着信時に、発信元番号(発番号)表示を変換する機能について設定します。

発信元回線設定		
回線	電話番号	番号表示変換
IP回線	03 []	有効 ▾
IP回線	03 []	無効 ▾
IP回線	03 []	無効 ▾
ISDN回線	03 []	無効 ▾
アナログ回線	03 []	無効 ▾
Peer to Peer	vr7000	無効 ▾
内線	-	無効 ▾

※画面の内容は、登録例です。

番号表示変換.....

着信時に、発信元番号(発番号)を変換して表示するかどうか、登録した回線ごとに設定します。
(出荷時の設定:無効)

「有効」に設定すると、[番号表示変換ルール設定]項目で設定したルールにしたがって番号を表示します。

※「内線」は同じSIPサーバー(本製品)に登録された内線子機からの着信が該当します。

■番号表示変換ルール設定

番号表示変換ルールの対象/例外となる発信元番号(発番号)を設定します。

① 番号	② 種別	③ 電話番号	④ 削除桁数	⑤ 付加番号	⑥ 追加
1	変換	98765432	削除しない	080	追加

※画面の内容は、登録例です。

- ① **番号** 登録された番号表示変換ルールを比較する順位を指定します。
設定できる範囲は、「1」～「100」です。
- ② **種別** 対象となる番号の変換条件を設定します。 (出荷時の設定:変換)
 - ◎**変換** : 番号表示変換ルールに一致した場合、表示番号を変換します。
 - ◎**例外** : 番号表示変換ルールに一致した場合、表示番号を変換しません。
- ③ **電話番号** 対象となる番号を半角数字15桁以内で入力します。 (出荷時の設定:空白)
ここで指定した番号が、着信した番号に含まれている場合(先頭からの部分一致)に、番号表示変換ルールが適用されます。
- ④ **削除桁数** [電話番号] (③)欄で入力した番号を変換する場合に、その先頭から削除する番号の桁数を設定します。 (出荷時の設定:削除しない)
設定できる範囲は、「削除しない」、「1」～「15」です。
- ⑤ **付加番号** 先頭に付加する番号を半角数字15桁以内で入力します。
(出荷時の設定:空白)

変換ルール設定時の動作例について

下記は、上記画面で設定した変換ルールに対する動作例です。

◎例1

[電話番号] (③)欄 : 98765432

[削除桁数] (④)欄 : 削除しない

[付加番号] (⑤)欄 : 080

この場合、「98765432」から着信すると、「08098765432」に変換されて表示されます。

◎例2

[電話番号] (③)欄 : 00065432

[削除桁数] (④)欄 : 3

[付加番号] (⑤)欄 : 080987

この場合、「00065432」から着信すると、「08098765432」に変換されて表示されます。

■番号表示変換ルール一覧

[番号表示変換ルール設定]項目で登録した内容を表示します。

番号表示変換ルール一覧					
番号	種別	電話番号	削除桁数	付加番号	
1	変換	080	削除しない	1234	① 編集 ② 削除
2	変換	090	削除しない	1234	編集 削除
3	例外	0800			編集 削除
4	変換	5678	4	1234	編集 削除
					全削除

※画面の内容は、登録例です。

- ①<編集> クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を、[番号表示変換ルール設定]項目で編集できます。
- ②<削除> ボタンの左欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容をすべて削除するときは、<全削除>をクリックします。

設定例について

上記画面の登録例では、着信時、下記のルールにしたがって、発信者番号を変換して表示します。

- ◎「080」ではじまる番号に対して「1234」を付加し、「0800」ではじまる番号だけをそのままにするルール
「08012345678」から着信したときは、「123408012345678」に変換されて表示されます。
「08001234567」から着信したときは、番号3(上記画面)の行に設定された「例外」に一致するため、変換されずに「08001234567」をそのまま表示します。
- ◎「090」ではじまる番号に対して「1234」を付加するルール
「09012345678」から着信したときは、「123409012345678」に変換されて表示されます。
- ◎「5678」ではじまる番号に対して「5678」の4桁を削除して、「1234」を付加するルール
「5678123456」から着信したときは、「1234123456」に変換されて表示されます。
- ◎「0667935301」から着信したときは、番号1～番号4(上記画面)のどの行にも一致しないため、変換されずに「0667935301」をそのまま表示します。

番号表示変換ルール適用時について

- ◎変換種別は、例外設定が優先されます。
- ◎番号表示変換ルールを複数設定しているときは、番号の小さい順に比較を開始します。
条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のルールは比較しません。
- ※削除により番号を付加する前の有効桁数が0以下になる場合、番号表示変換後の桁数が32桁以上になる場合は番号表示変換ルールが適用されません。

この章では、
管理者用の「管理」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.	「SYSLOG情報」画面	221
	■ SYSLOGサーバー設定	221
	■ SYSLOG情報	221
	■ SYSLOG表示	222
2.	「電話通信記録」画面	223
	■ 電話通信記録	223
3.	「内線子機情報」画面	224
	■ 内線子機情報	224
4.	「留守電情報」画面	225
	■ 留守電ボックス情報	225
	■ 内蔵メモリー録音メッセージ	226
5.	「管理者設定」画面	227
	■ パスワードの設定	227
	■ ユーザー画面 管理設定	228
6.	「設定のバックアップ/リストア」画面	229
	■ 設定のバックアップ	229
	■ 設定のリストア	229
	■ オンライン設定	230
	■ 設定内容一覧	230
7.	「再起動」画面	231
	■ 再起動	231
8.	「初期化」画面	232
	■ 初期化	232
9.	「ファームウェアの更新」画面	233
	■ ファームウェアの更新	233
	■ 自動更新	234
	■ 手動更新	235
10.	「時刻設定」画面	236
	■ 時刻設定	236
	■ 自動時計設定	237
11.	「SNMP設定」画面	238
	■ SNMP設定	238
12.	「USB設定」画面	239
	■ USB設定	239

1. 「SYSLOG情報」画面

「管理」-「SYSLOG情報」

SYSLOG機能についての設定画面です。

■SYSLOGサーバー設定

SYSLOGを受けるホストを設定します。

SYSLOGサーバー設定

サーバーアドレス

サーバーアドレス…………… SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。

※ホストはSYSLOGサーバー機能に対応している必要があります。

■SYSLOG情報

指定したホストにログ情報などを出力するための設定です。

※[SYSLOG表示]項目で情報収集したあとの表示フィルターとしても動作します。

SYSLOG情報

DEBUG	①	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
INFO	②	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
NOTICE	③	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

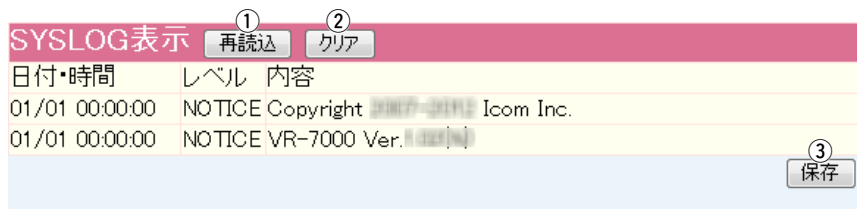
①DEBUG…………… 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力する設定です。 (出荷時の設定:無効)

②INFO …………… INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
(出荷時の設定:有効)

③NOTICE …………… NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
(出荷時の設定:有効)

■SYSLOG表示

本製品のログ情報を表示します。



- ①<再読込> SYSLOG情報を最新の状態にするボタンです。
 ※最大511件のログ情報を記憶できます。
 511件を超えると、古いログ情報から削除されます。
- ②<クリア> 表示されたログ情報を削除するボタンです。
 ※電源を切る、または設定の変更や初期化に伴う再起動でも、それまでのログ情報は削除されます。
- ③<保存> 表示されたログ情報を保存するボタンです。
 <保存>をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、ログ情報をテキスト形式(拡張子:txt)で保存できます。

2. 「電話通信記録」画面

「管理」—「電話通信記録」

加入電話、およびIP電話の発信と着信履歴を表示する画面です。

■ 電話通信記録

加入電話、およびIP電話の発信と着信履歴を表示します。

電話通信記録	
	<input type="button" value="① 再読込"/> <input type="button" value="② クリア"/>
日付・時間	内容
01/01 00:21:02	終了: <通話終了> (ID=2)
01/01 00:20:59	通話開始: 201 [子機No.1] (ID=2)
01/01 00:20:56	内線発信: 202 [子機No.2] → 201 [子機No.1] (ID=2)
01/01 00:20:39	終了: <発信中止> (ID=1)
01/01 00:20:36	内線発信: 201 [子機No.1] → 202 [子機No.2] (ID=1)
01/01 00:19:32	[REGISTER]端末登録: 202 [子機No.2]
01/01 00:18:51	[REGISTER]端末登録: 203 [子機No.3]
01/01 00:15:49	[REGISTER]端末登録: 201 [子機No.1]
	<input type="button" value="③ 保存"/>

※画面の内容は、表示例です。

- ①<再読込> 履歴を最新の状態にするボタンです。
 ※最大1000件の履歴を記憶できます。
 1000件を超えると、古い履歴から削除されます。
- ②<クリア> 表示された履歴を削除するボタンです。
 ※電源を切る、または設定の変更や初期化に伴う再起動でも、それまでの履歴は削除されます。
- ③<保存> 表示された履歴を保存するボタンです。
 <保存>をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、履歴をテキスト形式(拡張子:txt)で保存できます。

3. 「内線子機情報」画面

「管理」-「内線子機情報」

本製品に登録した内線子機のIPアドレスやプレゼンスなどを表示します。

■内線子機情報

本製品に登録した内線子機の情報を表示します。

① 内線子機情報 再読込						
②名前	③内線番号	④機種	⑤バージョン	⑥アドレス	⑦プレゼンス	
1 受付	501	自動 (VP-701)	3.3		電話中	
2 営業1	201	自動 (VP-701)	3.3		オンライン	
3 営業2	202	自動 (KX-UTシリーズ)	01.167		オンライン	
4 営業3	203	自動			オフライン	
5 購買1	301	標準SIPフォン(WLAN)			オフライン	
6 購買2	302	標準SIPフォン			オフライン	

※画面の内容は、表示例です。

- ① **再読込** 本製品に登録した内線子機の情報を更新するとき、クリックします。
- ② **名前** 「簡単設定」メニュー、または「PBX設定」メニュー→「内線個別設定」画面の[内線設定]項目に登録された名前を表示します。
- ③ **内線番号** 「簡単設定」メニュー、または「PBX設定」メニュー→「内線個別設定」画面の[内線設定]項目に登録された内線番号を表示します。
- ④ **機種** 「簡単設定」メニュー、または「PBX設定」メニュー→「内線個別設定」画面の[内線設定]項目に登録された機種を表示します。
※「自動」に設定された内線子機が本製品に接続した(電源が入っている)場合は、取得した機種情報を上図のように表示します。
- ⑤ **バージョン** 本製品に登録した内線子機のファームウェア情報を表示します。
※内線子機 (VP-701、KX-UTシリーズ)が本製品に接続していない(電源が入っていない)場合は、空欄になります。
- ⑥ **アドレス** 本製品に登録した内線子機が使用しているIPアドレスを表示します。
※内線子機が本製品に接続していない(電源が入っていない)場合は、空欄になります。
- ⑦ **プレゼンス** 本製品に登録した内線子機の使用状況を表示します。
オフライン : 電話機未登録
オンライン★ : 電話機登録成功
電話中★ : 通話中(保留中)
離席★ : 不在転送設定中(無線系端末を除く)
★は登録成功時

4. 「留守電情報」画面

「管理」—「留守電情報」

留守番電話機能の使用状態を表示します。

■留守電ボックス情報

留守電ボックスごとの使用状態を表示します。

留守電ボックス情報				
ボックス1	状態	動作中		
	保存件数	内蔵メモリー	新着:3件	再生済み:1件
ボックス2	状態	動作中		
	保存件数	内蔵メモリー	新着:0件	再生済み:0件
ボックス3	状態	動作中		
	保存件数	内蔵メモリー	新着:0件	再生済み:0件

※画面の内容は、表示例です。

ボックス1～ボックス3 ……

留守番電話のボックスごとに、新着や再生済みの件数など使用状態を表示します。

※留守番電話機能を使用する回線(電話番号)ごとのボックス番号、保存できる録音件数などは、ユーザー用の設定画面で設定できます。

(詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。)

■内蔵メモリー録音メッセージ

録音された留守番電話ごとに、相手先の電話番号や状態などを表示します。

① ボックス番号	② 録音日時	③ 相手先番号	④ 着信先番号	⑤ 状態	⑥ 音声データ
1	2016/03/14 16:22	08012345678	03	再生済み	FB01M000.wav
1	2016/03/14 17:08	08012345678	03	新着	FB01M001.wav
2	2016/03/17 11:30	0612345678	03	新着	FB01M002.wav
3	2016/03/17 11:31	P	03	新着	FB01M003.wav

※画面の内容は、表示例です。

- ① **ボックス番号** …………… メッセージが録音されたボックス番号(1~3)を表示します。
- ② **録音日時** …………… メッセージが録音された日時を表示します。
- ③ **相手先番号** …………… ナンバーディスプレイサービスをご契約の場合、メッセージを録音した相手先から通知された発信者番号を表示します。
 発信者番号を表示できないときは、非通知理由を下記の記号で表示します。
 ◎P：ユーザー非通知(相手が非通知発信(184発信など)したことによる非通知)
 ◎C：公衆電話発信による非通知
 ◎O：サービス提供不可(一部の国際電話などで非通知理由が取得できない場合)
 ◎S：サービス競合のため通知不可能(相手から発信者番号が通知されているが、サービスの契約条件などにより発信番号を通知しない)
 ※ナンバーディスプレイサービスをご契約でない場合は、非通知理由として、O(サービス提供不可)を表示します。
- ④ **着信先番号** …………… 不在時などにメッセージが録音された電話番号を表示します。
 ※留守番電話を使用する電話番号(本製品に登録した回線)とボックス番号の設定は、ユーザー用の設定画面で設定できます。
 (詳しくは、弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」をご覧ください。)
- ⑤ **状態** …………… メッセージの確認状態を「再生済み」/「新着」で表示します。
- ⑥ **音声データ** …………… ファイル名を右クリックして、表示された画面にしたがって操作すると、音声データ(拡張子:wav)を保存できます。
 ※ファイル名をクリックすると、再生用ソフトウェア(Windows Media® Playerなど)が起動して、音声データ(拡張子:wav)を再生できます。
 ※操作方法は、ご使用のソフトウェアによって異なりますので、ソフトウェアの取扱説明書などでご確認ください。

本製品の設定画面にアクセスするためのパスワードを変更する画面です。

■パスワードの設定

本製品の設定画面にアクセスするためのパスワードを変更します。

パスワードの設定			
管理者ID	①	admin	
現在のパスワード	②	<input type="password"/>	
新しいパスワード	③	<input type="password"/>	
新しいパスワード(確認用)	④	<input type="password"/>	

- ① **管理者ID** 本製品の設定画面へのアクセスを許可する管理者IDを表示します。
 ※本製品の設定画面にアクセスすると、ユーザー名として入力を求められますので、本製品の管理者ID (admin)を入力します。
 ※本製品の[管理者ID]は、変更できません。
- ② **現在のパスワード** 新しいパスワードに変更するとき、現在のパスワードを大文字/小文字の区別に注意して入力します。
 (出荷時の設定: admin)
 ※入力中の文字は、すべて* (アスタリスク)、または●(黒丸)で表示します。
- ③ **新しいパスワード** 新しいパスワードを入力します。
 大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。
 ※新しいパスワードを登録後は、設定内容がマスクされ、すぐにパスワードの入力を求める画面を表示しますので、そこに新しいパスワードを入力します。
- ④ **新しいパスワード(確認用)** 確認のために、新しいパスワードを再入力します。

不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
 数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせた長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更されることをおすすめします。

ご注意

管理者パスワードを忘れた場合、設定画面にアクセスするには、工場出荷時(初期化)の状態に戻す必要があります。
 ※初期化するときは、別紙の「ご注意と保守について」にしたがって、本製品の<INT>ボタンを操作してください。

■ユーザー画面 管理設定

本製品の「ユーザー設定」画面(ユーザー用)へのアクセス制限を設定します。

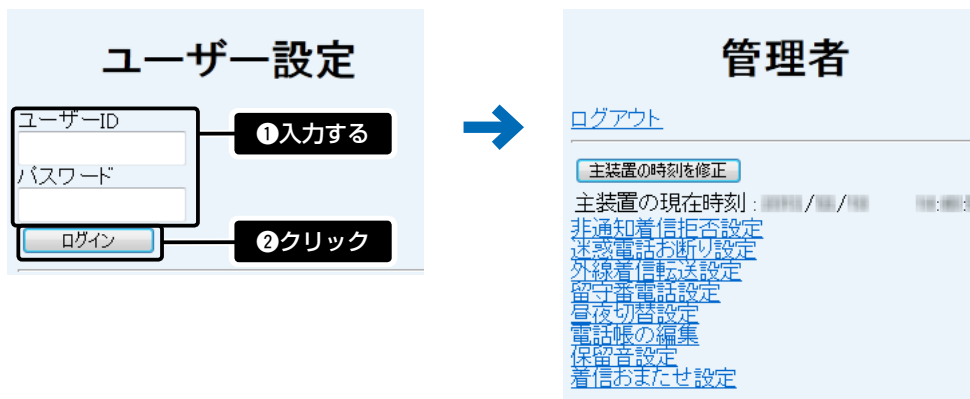
※この項目を設定することで、管理者以外が「ユーザー設定」画面の共通設定を変更できないようにします。

ユーザー画面 管理設定		
共通設定の認証 ①		<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
管理者ID(ユーザー画面) ②		<input type="text"/>
パスワード(ユーザー画面) ③		<input type="text"/>

①共通設定の認証 …………… 本製品の「ユーザー設定」画面へのアクセス制限を設定します。
 (出荷時の設定:無効)
 ※「有効」に設定しても、不在転送などの設定画面には、内線子機ごとのユーザーIDとパスワードでログインできます。

②管理者ID (ユーザー画面)…………… 本製品の「ユーザー設定」画面へのアクセスを制限するために、管理者としての名前(ユーザーID)を設定します。
 大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。(入力例:ICOM)
 ※[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザーIDの入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。(下記参照)

③パスワード (ユーザー画面)…………… [管理者ID]に対するパスワードを設定します。
 大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。
 パスワードを設定すると、次回のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[パスワード]を入力します。(下記参照)



管理者IDでログインしたときの「ユーザー設定」画面

6. 「設定のバックアップ/リストア」画面

「管理」-「設定のバックアップ/リストア」

本製品の設定内容を保存する画面です。

■ 設定のバックアップ

本製品の設定内容を保存します。



設定のバックアップ…………… 本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップできます。
 〈バックアップ〉をクリックして、表示された画面にしたがって操作すると、設定ファイル(拡張子:sav)を保存できます。
 保存したファイルは、[設定のリストア]項目の操作で、本製品に書き込みできます。
 ※保存した設定ファイル(拡張子:sav)は、本製品以外では使用できません。

■ 設定のリストア

保存した設定ファイルの本製品に書き込みます。

※書き込みには数分かかる場合があります。



① 設定ファイルの選択 …… [設定のバックアップ]項目の操作で保存した設定ファイル(拡張子:sav)の内容を本製品に書き込むとき使用します。
 設定ファイルの保存先を指定するため、〈参照...〉をクリックします。
 表示された画面から目的の設定ファイルをクリックして、〈開く(O)〉をクリックすると、選択した設定ファイルの参照先が表示されます。

② リストア ……………… [設定ファイルの選択](①)欄のテキストボックスに保存先を指定後、〈リストア〉をクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。
 書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。
 ※書き込みを完了すると、本製品は自動的に再起動します。
 ※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。
 ※[設定のバックアップ]項目の操作で保存した状態の設定ファイル(拡張子:sav)以外の書き込みは、保証対象外になります。

ご注意

本製品の設定ファイルの本製品以外の機器に組み込んだ場合や、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■オンライン設定

本製品の設定内容を暗号化された通信経路を利用して転送でき、遠隔地から保守できます。
 ※オンライン設定を使用するには、別途SFTPサーバーが必要です。

オンライン設定		
オンライン設定	①	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
サーバーホスト名	②	<input type="text"/>
契約ユーザー名	③	<input type="text"/>
パスワード	④	<input type="text"/>
設定をアップロード	⑤	<input type="button" value="実行"/>
設定をダウンロード	⑥	<input type="button" value="実行"/>

- ① **オンライン設定** …………… オンライン設定を使用するとき、「有効」にします。 (出荷時の設定:無効)
 ※SFTPサーバーの設備がない場合は、「有効」に設定しても、使用できません。
- ② **サーバーホスト名** …………… SFTPサーバーホスト名のIPアドレス、またはFQDN(Fully Qualified Domain Name)を128文字(半角)以内で入力します。
- ③ **契約ユーザー名** …………… SFTPサーバー契約ユーザー名を、128文字(半角英数字/記号)以内で入力します。
- ④ **パスワード** …………… SFTPサーバーパスワードを、128文字(半角英数字/記号)以内で入力します。
- ⑤ **設定をアップロード** …… <実行>をクリックすると、本製品から設定内容を読み出して、自動でSFTPサーバーへ転送します。
- ⑥ **設定をダウンロード** …… <実行>をクリックすると、SFTPサーバーから本製品の設定内容を読み出して、本製品に自動で書き込みます。
 ※設定内容の書き込みが完了すると、本製品が自動的に再起動され、設定が有効になります。

■設定内容一覧

出荷時の設定から変更された内容を表示します。
 ※出荷時や全設定初期化後は、何も表示されません。

```

設定内容一覧
isdn port global calling 1
isdn port global telnumber 1 "03 [REDACTED]"
voip answering on
voip ptop uri 1 "sip:VR7000@telephone.icom.co.jp"
voip relayserver hunt group 2 "200"
voip relayserver hunt group 3 "300"
voip relayserver hunt group 4 "400"
voip relayserver hunt number 2 3 "201"
voip relayserver hunt number 3 6 "301"
    
```

※画面の内容は、表示例です。

9 「管理」メニュー

7. 「再起動」画面

「管理」-「再起動」

本製品を再起動する画面です。

■再起動

〈実行〉をクリックすると、本製品は再起動します。



8. 「初期化」画面

「管理」→「初期化」

本製品の設定内容を出荷時の状態に戻す画面です。

■ 初期化

〈実行〉をクリックすると、本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。



※IPアドレスと管理者用のパスワードが不明な場合などの初期化については、別紙の「ご注意と保守について」をご覧ください。

ご注意

初期化実行後、本製品のLAN側IPアドレスは、「192.168.0.1 (出荷時の設定)」で動作します。

初期化によって、ご使用になる端末を内線子機としてご利用いただけなくなりますので、ご契約の回線接続業者から指定された回線種別と契約者番号、本製品に接続する電話機の内線番号などを設定しなおしてください。

9 「管理」メニュー

9.「ファームウェアの更新」画面

「管理」-「ファームウェアの更新」

ファームウェアを更新する画面です。

バージョンアップについてのご注意

- ◎故障の原因になるため、ファームウェアの更新が完了するまで、本製品の電源を切らないでください。
 - ◎通話中、または留守番電話録音終了後しばらくのあいだ(本製品への書き込みが完了するまで)は、ファームウェアを更新できません。
 - ◎緊急番号へ発信したあと、数分間はファームウェアを更新できません。(NTTひかり電話設定時のみ)
 - ◎自動更新中は、ひかり電話がご利用いただけません。
そのあいだは、緊急通報(110、118、119)などもかけることができませんのでご注意ください。
 - ◎更新中(数分間)は、すべての接続が切断されます。
インターネットご利用中に更新が実行される場合がありますのでご注意ください。
 - ◎ネットワークやサーバーの状態によっては、更新に失敗することがあります。
- ※バージョンアップによって追加や変更になる機能、注意事項については、あらかじめ弊社ホームページでご確認ください。

■ファームウェアの更新

本製品のファームウェアについて、バージョン情報を表示します。

ファームウェアの更新	
IPL	Rev. 1.0000
ファームウェアバージョン	Ver. 1.0000
	Copyright 2007-2011 Icom Inc.

■自動更新

ファームウェアをオンラインでバージョンアップします。

※ファームウェアの確認や自動更新には、インターネットへの接続環境と本製品へのDNS設定、デフォルトゲートウェイの設定が必要です。

自動更新	
ファームウェアの確認 ①	<input type="button" value="確認"/>
自動更新 ②	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

- ① **ファームウェアの確認** … <確認>をクリックすると、アップデート管理サーバーに接続します。接続に成功すると、最新のファームウェア情報(下図)を表示します。

ファームウェア情報	
状況	情報取得成功
バージョン	Ver. 1.0.0
更新内容	最新のファームウェアの更新内容です。
<input type="button" value="最新の情報に更新"/> <input type="button" value="ファームウェアを更新"/>	

【ファームウェア情報について】

- ◎ 「新しいファームウェアはありません」が表示される場合は、現在のファームウェアが最新ですので、ファームウェアの更新は必要ありません。
- ◎ 新しいファームウェアがあるときは、「情報取得成功」と更新内容が表示され、[PWR/MSG]ランプが橙色で点灯します。
<ファームウェアを更新>をクリックすると最新のファームウェアをアップデート管理サーバーからオンラインで更新できます。
- ◎ 「接続失敗」や「通信エラー」が表示される場合は、下記を参考に、本製品からアップデート管理サーバーへ接続できる環境であることをご確認ください。
 - LANケーブルが[WAN]ポートに接続されていますか？
→ [WAN]ランプの点灯(緑)を確認する
 - デフォルトゲートウェイとDNSサーバーアドレスを本製品に設定していますか？
→ 「ルーター機能設定」メニューの「LAN設定」画面で設定を確認する(3章)
 - 本製品からWeb通信することを、ファイアウォールなどで遮断していませんか？
→ ネットワーク管理者に確認する

■自動更新(つづき)

自動更新	
ファームウェアの確認 ①	<input type="button" value="確認"/>
自動更新 ②	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

- ② **自動更新** …………… ファームウェアの自動更新機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)
- ◎ **ファームウェアに重要な更新が含まれる場合**
 自動更新機能が動作し、アップデート管理サーバーから本製品のファームウェアを更新します。
 ※運用中にファームウェアを更新して本製品が再起動しますので、自動更新を望まない場合は「無効」に設定してください。
- ◎ **ファームウェアに重要な更新が含まれていない場合**
 [PWR/MSG]ランプが橙色に点灯します。
 ※オンラインファーム検知時、ファームウェアは自動的に更新されません。
 ※ご都合のよいときに、234ページの手順にしたがって「ファームウェア情報」画面下部の〈ファームウェアを更新〉をクリックする、または別紙の「ご注意と保守について」にしたがって、本製品の〈UPDATE〉ボタンを操作して、ファームウェアを更新してください。

■手動更新

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアをバージョンアップします。

手動更新	
ファームウェアの選択 ①	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/>
ファームウェアの更新 ②	<input type="button" value="更新"/>

- ① **ファームウェアの選択** …… 〈参照...〉をクリックして、表示された画面から、パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子:dat)を選択して、〈開く(O)〉をクリックします。
 選択したファイルとその階層が、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに自動入力されたことを確認します。
- ② **ファームウェアの更新** …… 〈更新〉をクリックすると、[ファームウェアの選択]項目のテキストボックスに表示された保存先のファームウェアファイル(拡張子:dat)を本製品に書き込みます。
 更新を開始すると、「ファームウェアを更新しています。」と表示されます。

10. 「時刻設定」画面

「管理」-「時刻設定」

本製品の内部時計についての設定画面です。

■時刻設定

本製品の内部時計を手動で設定します。

時刻設定	
主装置の現在時刻 ①	2013年 04月 26日 09時 49分
設定する時刻 ②	2016年 03月 24日 18時 58分 ③ 設定

- ①主装置の現在時刻 …………… 本製品に設定されている時刻を表示します。
 ※自動時計設定時、インターネット上に存在するNTPサーバーに日時の間い合わせをしているときは、「NTPサーバーへアクセスしています...」を表示します。
- ②設定する時刻 …………… 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を表示します。
 ※お使いのWWWブラウザで表示画面を更新すると、パソコンの時計設定を取得して表示します。
- ③〈設定〉 …………… [設定する時刻] (②)欄に表示された時刻を本製品に手動で設定するボタンです。
 ※時刻を手動で設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスするか、お使いのWWWブラウザで表示画面を更新してから、〈設定〉をクリックしてください。

■自動時計設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバーの設定です。

自動時計設定	
自動時計設定	① <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
NTPサーバーIPアドレス1②	210.173.160.27
NTPサーバーIPアドレス2③	210.173.160.57

- ①自動時計設定 …………… 本製品の自動時計設定機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、インターネット上に存在するNTPサーバーに日時の間
い合わせをして、内部時計を自動設定します。
※「無効」に設定した場合は、[時刻設定]項目で内部時計を手動で設定します。
- ②NTPサーバーIPアドレス1 アクセスするNTPサーバーのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定:210.173.160.27)
返答がないときは、[NTPサーバーIPアドレス2] (③)欄で設定したNTPサー
バーにアクセスします。
※初期に参照しているNTPサーバーアドレスは、インターネットマルチ
フィード株式会社 <http://www.jst.mfeed.ad.jp/> のものです。
- ③NTPサーバーIPアドレス2 [NTPサーバー IPアドレス1] (②)欄の次にアクセスさせるNTPサーバーが
あるときは、そのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定:210.173.160.57)

ご注意

自動時計設定機能は、NTPサーバーへの問い合わせ先(経路)を設定する必要があります。
経路を設定しないときは、問い合わせできませんので、自動時計設定機能をお使いいただけません。
「ルーター機能設定」メニュー→「LAN設定」画面→「IPアドレス設定」項目にある「LANデフォルトゲートウェイ」欄、または「スタティックルーティング」画面の「スタティックルーティング設定」項目で、ルーティングテーブルを設定するか、「WAN動作モード設定」画面の「回線種別設定」項目を設定してください。

11. 「SNMP設定」画面

「管理」-「SNMP設定」

SNMP機能についての設定画面です。

■ SNMP設定

TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから本製品の情報を自動的に収集して、ネットワーク管理をするときの設定です。

SNMP設定	
SNMPの使用 ①	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
コミュニティID(GET) ②	<input type="text" value="public"/>

- ① **SNMPの使用** …………… 本製品のSNMP機能を設定します。 (出荷時の設定:有効)
「有効」に設定すると、本製品の設定情報をSNMP管理ツール側で管理できます。
- ② **コミュニティID(GET)** 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを、半角31文字以内の英数字で入力します。 (出荷時の設定: public)

本製品の[USB]ポートについての設定画面です。

■USB設定

市販のUSBメモリーを本製品の[USB]ポートに差し込んだときの動作を設定します。

USB設定	
USBポート ①	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
USBアクセス許可 ②	<input checked="" type="checkbox"/> ファームウェアの更新
	<input checked="" type="checkbox"/> 設定のバックアップ/リストア
	<input checked="" type="checkbox"/> オリジナル保留音
	<input checked="" type="checkbox"/> オリジナルおまたせメッセージ

①USBポート …………… 本製品の[USB]ポートの有効と無効について設定します。
 (出荷時の設定:有効)
 ※「無効」に設定されていると、本製品のファームウェアファイルや設定ファイルなどを保存したUSBメモリー(市販品)を差し込んだ状態で、本製品の電源を接続しても、設定の復元やファームウェアのバージョンアップをしません。

②USBアクセス許可 ……… 本製品に接続されたUSBメモリーから読み込むファイルを選択します。
 (出荷時の設定: ファームウェアの更新
 設定のバックアップ/リストア
 オリジナル保留音
 オリジナルおまたせメッセージ)
 ※チェックマーク[]をはずすと、ファイルを保存したUSBメモリー(市販品)を差し込んだ状態で、本製品の電源を接続しても、該当ファイルを読み込みません。

◎**ファームウェアの更新**(P.24)
 本製品のファームウェアファイル(拡張子: dat)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、ファームウェアをバージョンアップします。

◎**設定のバックアップ/リストア**(P.22)
 本製品の設定ファイルをUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、自動で設定を復元します。

◎**オリジナル保留音**(P.21、P.25)
 オーディオファイル(拡張子: wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、オリジナル保留音として読み込みます。
 ※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)
 ※オーディオファイルが読み込まれていない状態では、オリジナル保留音を選択しても保留音が再生されないまま保留状態となります。

■USB設定

USB設定	
USBポート ①	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
USBアクセス許可 ②	<input checked="" type="checkbox"/> ファームウェアの更新
	<input checked="" type="checkbox"/> 設定のバックアップ/リストア
	<input checked="" type="checkbox"/> オリジナル保留音
	<input checked="" type="checkbox"/> オリジナルおまたせメッセージ

②USBアクセス許可

(つづき)

◎オリジナルおまたせメッセージ(P.21、P.26)

オーディオファイル(拡張子:wav)をUSBメモリー(市販品)に保存後、本製品にUSBメモリーを差し込んで、着信おまたせ機能のオリジナルおまたせメッセージとして読み込みます。

※読み込めるオーディオファイルは、1件につき最大60秒までです。(最大3件まで)

※オーディオファイルが読み込まれていない状態で、ユーザー用の「着信おまたせ設定」画面でオリジナルおまたせメッセージを選択していると、メッセージが再生されないまま、着信おまたせ機能が動作します。

この章では、
Telnetを使用した接続、設定画面の構成、初期値などを説明しています。

1. Telnetで接続するには	242
■ Windows Vista/Windows 7の場合	242
■ Telnetコマンドについて	242
2. 設定画面の構成について	243
■ 管理者用の設定画面	243
■ ユーザー用の設定画面	246
3. 設定項目の初期値一覧	248
4. 機能一覧	253
5. 電話機の操作について	254

1. Telnetで接続するには

Telnet での接続について説明します。

ご使用の OS や Telnet クライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■Windows Vista/Windows 7の場合

お使いいただくときは、「コントロールパネル」→「プログラム」→「Windows の機能の有効化または無効化」から、「Telnetクライアント」を有効にしてから、下記の手順で操作してください。

設定のしかた

- ①Windowsを起動します。
- ② [スタート] (ロゴボタン) から [プログラムとファイルの検索] を選択します。
名前欄に「telnet.exe」と入力し、[Enter]キーを押します。
※Windows Vistaをご使用の場合は、[スタート] (ロゴボタン) から [検索の開始] を選択します。
※Windows 8.1ご使用の場合は、「スタート」(ロゴボタン) から [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、下記のように入力します。
Microsoft Telnet>open 本製品のLAN側IPアドレス(入力例:open 192.168.0.1)
- ④ 下記を入力して [Enter] キーを押すと、ログインできます。
`login` : admin
`password` : admin
※adminは、本製品の出荷時や全設定初期化時のpasswordです。
※passwordは、管理者用の設定画面にある「管理」メニューで設定された内容と同じです。
- ⑤ ログインメッセージ (VR-7000 #) が表示されます。

■Telnetコマンドについて

本製品で使用できるTelnetコマンドの表示方法と、コマンド入力について説明します。

コマンド一覧……………	[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。 コマンド名の入力につづいて [Tab] キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。
コマンドヘルプ……………	コマンドの意味を知りたいときは、ヘルプコマンドにつづいて、コマンド名を入力するとコマンドのヘルプが表示されます。 例) help save (saveコマンドのヘルプを表示する場合)
コマンド名の補完……………	コマンド名を先頭から数文字入力し [Tab] キーを押すと、コマンド名が補完されます。 入力した文字につづくコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。 例) n[Tab]→network 複数のコマンドがあるときは、コマンドの候補を表示します。 例) res[Tab]→reset restart

2. 設定画面の構成について

本製品の全設定を初期化したとき、WWW ブラウザーに表示される画面構成です。

■ 管理者用の設定画面

設定メニュー	設定画面	設定項目
TOP		設定一覧(製品情報)
		設定一覧(ネットワーク)
		設定一覧(外線電話番号)
ルーター機能設定	LAN設定	LAN設定
		DHCPサーバー設定
		固定IPアドレス設定
		固定IPアドレス一覧
	スタティックルーティング設定	DHCPクライアント一覧
		IP経路情報
		スタティックルーティング設定
	WAN動作モード設定	現在の登録
		回線状態表示
	VoIP用WAN側設定	回線種別設定
		回線状態表示
	ブリッジ設定	回線種別設定
		回線設定
		PPPoEブリッジ
	NAT設定	IPv6ブリッジ
		アドレス変換設定
		DMZホスト設定
		静的マスカレードテーブル設定
	ダイナミックDNS	現在の登録
		ダイナミックDNS設定(1)
		ダイナミックDNS設定(2)
	VPNパススルー設定	ダイナミックDNS登録状況
		IPsecパススルー
IPフィルター設定	PPTPパススルー	
	IPフィルター設定	
簡易DNS設定	現在の登録	
	DNSサーバーの代理応答	
	簡易DNSサーバー設定	
不正アクセス設定	現在の登録	
	ICMPステルス	
	QoS設定	
電話回線設定	アナログ電話回線1	QoS設定
		QoSルール設定
	アナログ電話回線2	現在の登録
		PSTN設定(1)
	ISDN共通設定	モデムダイヤルイン設定
		PSTN設定(2)
	ISDN回線1	モデムダイヤルイン設定
		ISDN共通設定
	ISDN回線2	ISDN設定(1)
		i・ナンバー/ダイヤルイン設定
ISDN回線3	ISDN設定(2)	
	i・ナンバー/ダイヤルイン設定	
		ISDN設定(3)
		i・ナンバー/ダイヤルイン設定

(次ページにつづく)

2. 設定画面の構成について

■ 管理者用の設定画面(つづき)

設定メニュー	設定画面	設定項目	
電話回線設定	代表取扱サービス	代表取扱サービス設定	
		使用する回線の設定	
		契約回線設定	
		ダイヤルイン設定	
	IP回線	SIPサーバー接続共通設定	
		SIPサーバー設定	
		SIPサーバー設定一覧(契約者番号)	
		SIPサーバー設定一覧(追加番号)	
	回線グループ設定	回線スライド設定	
		回線グループ設定	
		現在の登録	
	Peer to Peer設定	Peer to Peer設定	Peer to Peer共通設定
Peer to Peer設定			
Peer to Peer設定一覧			
VoIP電話帳設定		VoIP電話帳の保存と書き込み	
		VoIP電話帳への登録	
		VoIP電話帳登録一覧	
簡単設定		簡単設定ウィザード	
PBX設定		PBX情報	
		内線代表一覧	
			内線一覧
	基本設定	基本設定	
		特番設定	
	特番設定	特番設定	
		外線発信特番設定	
	内線個別設定	内線設定	
		内線設定一覧	
		内線一括設定	
		TEL1設定	
		TEL2設定	
		内線代表設定	内線代表設定(新規登録)
		内線代表設定一覧	
	着信設定	着信設定	
	電話機設定(VP-701)	電話機のメンテナンス	
		電話機設定	
		機種個別設定(VP-701)	
		着信音設定	
	電話機設定(KX-UTシリーズ)	電話機のメンテナンス	
電話機設定			
機種個別設定(KX-UTシリーズ)			
電話機音設定			
発信音			
話中音			
規制音			
呼出音			
保留アラーム音			
着信音パターン			
着信音パターン割り当て			
電話帳設定	設定グループの選択		
	電話帳の保存と書き込み		
	電話帳への登録		
	電話帳登録一覧		

2. 設定画面の構成について

■ 管理者用の設定画面(つづき)

設定メニュー	設定画面	設定項目
PBX拡張設定	拡張設定	SIP拡張設定
		VoIP設定
	番号計画	電話番号ルーティング設定
		電話番号ルーティング設定一覧
		番号計画例外ルール
		発信先番号変換ルール設定
		発信先番号変換ルール一覧
		発信規制ルール設定
		発信規制ルール一覧
		外線サービスグループ
	昼夜切替設定	昼夜切替曜日設定
		昼夜切替日付設定
	夜間転送先設定	夜間転送先設定
	通話数制限設定	通話数制限設定(システム全体)
		通話数制限設定
	ゲートウェイ接続設定	ゲートウェイ接続設定
		ゲートウェイ接続設定一覧
	番号表示変換設定	発信元回線設定
		番号表示変換ルール設定
		番号表示変換ルール一覧
管理	SYSLOG情報	SYSLOGサーバー設定
		SYSLOG情報
		SYSLOG表示
	電話通信記録	電話通信記録
	内線子機情報	内線子機情報
	留守電情報	留守電ボックス情報
		内蔵メモリー録音メッセージ
	管理者設定	パスワードの設定
		ユーザー画面 管理設定
	設定のバックアップ/リストア	設定のバックアップ
		設定のリストア
		オンライン設定
		設定内容一覧
	再起動	再起動
	初期化	初期化
	ファームウェアの更新	ファームウェアの更新
		自動更新
		手動更新
	時刻設定	時刻設定
		自動時計設定
	SNMP設定	SNMP設定
	USB設定	USB設定

2. 設定画面の構成について(つづき)

■ユーザー用の設定画面

(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

設定画面	設定項目
非通知着信拒否設定	回線の選択
	非通知条件の追加
	着信拒否の方式
迷惑電話お断り設定	回線の選択
	着信拒否の方式
	相手先名
	電話番号
	動作
	着信内線番号
	鳴り分け判別
外線着信転送設定	回線
	転送状態
	転送先(1~3)
	番号
	使用回線
留守番電話設定	留守電ボックス情報
	留守電ボックス設定
	使用するボックス
	留守番電話状態
	留守番電話の応答時間(開始状態)
	留守番電話の応答時間(停止状態)
	オリジナル応答メッセージ
	応答専用モード
	応答専用メッセージ
	パスワードアクセス
	パスワード(4桁)
	留守電保存件数
	リモコン設定
	リモコン用電話番号
外線サービスグループ(1~8)	
昼夜切替設定 電話帳の編集	名前
	ヨミガナ
	電話番号
	短縮番号
	表示種別
	回線種別
	電話帳グループ
保留音設定	保留音
	保留音の音量
着信おまたせ設定	使用するパターン
	保留音
	保留音の音量
	メッセージ再生中の保留音
	内線リコールの開始時間
	留守電ボックス
	1次動作
2次動作	
3次動作	

10 ご参考に

2. 設定画面の構成について

■ユーザー用の設定画面（つづき）

設定画面		設定項目
ユーザーID	着信設定★	不在転送
パスワード		不応答転送
		呼び出し時間
		話中転送
	パスワード変更★	内線代表着信時の転送
		現在のパスワード
		新しいパスワード

★管理者用の「簡単設定」メニューで、内線子機を登録したあとに利用できます。

ユーザー用設定画面で[ユーザーID](内線番号)、[パスワード](初期設定:内線番号)を入力して、〈ログイン〉をクリックします。

3. 設定項目の初期値一覧

本製品の設定画面について、全設定を初期化したとき表示される各項目の初期値です。

ルーター機能設定

「LAN設定」画面

LAN設定

LAN IPアドレス: 192.168.0.1

LANサブネットマスク: 255.255.255.0

DHCPサーバー設定

DHCPサーバー機能: 有効

開始IPアドレス: 192.168.0.10

割り当て個数: 30個

TFTPサーバーの配布: 有効

TFTPサーバー: 空白

「WAN動作モード設定」画面

回線種別設定

回線種別: 使用しない

「VoIP用WAN側設定」画面

回線種別設定

回線種別: DHCPクライアント(自動)

「ブリッジ設定」画面

PPPoEブリッジ

PPPoEブリッジ機能: 無効

IPv6ブリッジ

IPv6ブリッジ機能: 無効

「NAT設定」画面

アドレス変換設定

アドレス変換機能: 有効

「ダイナミックDNS」画面

ダイナミックDNS設定(1)/(2)

自動更新機能: 無効

定期更新間隔: 10(日)

ダイナミックDNSサーバー: 使用しない

接続状態: オンライン

「VPN/パススルー設定」画面

IPsecパススルー

IPsecパススルー機能: 有効

PPTPパススルー

PPTPパススルー機能: 有効

ルーター機能設定(つづき)

「IPフィルター設定」画面

IPフィルター設定

エントリーの動作: 無効

フィルター方法: 透過

フィルター方向: IN

プロトコル: すべて

TCPフラグ: 指定なし

送信元ポート番号: すべて

宛先ポート番号: すべて

ステートフルインスペクション(SPI)機能: 無効

フィルター検索合致時の動作: 検索を終了

SYSLOGに出力: 無効

現在の登録

1番(受信するパケットをすべて遮断する)

2番(送信するパケット、およびそれに対する応答パケットをすべて通過する)

58番(FTPを通過させる)

59~64番

(Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性、およびファイル共有機能による外部への情報漏えいを防止)

「簡易DNS設定」画面

DNSサーバーの代理応答

DNS代理応答機能: 有効

「不正アクセス設定」画面

ICMPステルス

ICMPステルス機能: 有効

SYSLOGに出力: 無効

「QoS設定」画面

QoS設定

QoS機能: 有効

送信帯域制限

WAN: 10.0(Mbps)/LAN: 10.0(Mbps)

現在の登録

1番(TOS値: B8)

2番(TOS値: 80)

3. 設定項目の初期値一覧(つづき)

電話回線設定

「アナログ電話回線1/2」画面

PSTN設定(1)/(2)

アナログ回線種別:自動

発信待ち時間:50(ms)

受話音量:0(dB)

送話音量:0(dB)

エコーキャンセラー:有効(起動時最適化)

エコーサプレッション:有効

エコーサプレッションレベル:-30(dB)

CNG:有効

CNGレベル:-52(dB)

ナンバーディスプレイ:自動

モデムダイヤルイン設定

モデムダイヤルイン:無効

「ISDN共通設定」画面

ISDN共通設定

ISDNマスタークロック:自動

「ISDN設定1/2/3」画面

ISDN設定(1)/(2)/(3)

受話音量:0(dB)

送話音量:0(dB)

エコーキャンセラー:有効

エコーサプレッション:有効

エコーサプレッションレベル:-30(dB)

CNG:有効

CNGレベル:-52(dB)

発信番号通知:通知する

iナンバー/ダイヤルイン設定

使用するサービス:無効

「代表取扱サービス」画面

代表取扱サービス設定

代表取扱サービス:無効

使用する回線の設定

ISDN回線:ISDN回線1、ISDN回線2、ISDN回線3

契約回線設定

発信番号通知:通知する

ダイヤルイン設定

発信番号通知:通知する

「IP回線」画面

SIPサーバー接続共通設定

接続先の選択:ひかり電話(網直収)

SIP接続簡易設定:有効

自動設定に使用するサーバー番号:1

SIPサーバー設定

番号種別:契約者番号

登録時間:3600(秒)

「回線グループ設定」画面

回線スライド設定

SIPレスポンス:500、503

Peer to Peer設定

「Peer to Peer設定」画面

Peer to Peer共通設定

WAN側からの着信:拒否

Peer to Peer設定

SIP URI:sip:(空白)

PBX設定

「基本設定」画面

基本設定

転送切り戻り時間:20(秒)

鳴動時間:30(秒)

パークリコール時間:120(秒)

保留音:保留音1

保留音の音量:0dB

留守番電話機能:無効

TELポートの通信中転送:無効

「特番設定」画面

特番設定

コールピックアップ:*81

グループピックアップ:**

指定ピックアップ:*80

パーク保留:*90

パーク応答:*91

外線キー応答:*92

音声呼出:*83

不在転送:*94

不応答転送:*95

話中転送:*96

外線着信転送の切替:*97

昼夜切替:*98

留守電の開始と停止:*99

留守電の再生:*84

回線閉塞の開始と停止:*87

着信おまたせの開始と停止:*86

システム特番:*82、*93、*85、*88、*89

「内線個別設定」画面

内線設定

機種:自動

優先度:IP回線⇒ISDN回線

IP回線:捕捉しない

ISDN回線:捕捉しない

アナログ回線:捕捉しない

Peer to Peer:捕捉しない

留守電ボックス:ボックス1

WAN側からの接続:禁止

TEL1設定/TEL2設定

ナンバーディスプレイ:無効

FAXの接続:有効

3. 設定項目の初期値一覧

PBX設定(つづき)

受話音量:0(dB)
 送話音量:0(dB)
 電話機のダイヤル方式:全方式に対応
 桁間タイマー:5(秒)
 エコーキャンセラー:有効
 エコーサプレッション:有効
 エコーサプレッションレベル:-30(dB)
 CNG:有効
 CNGレベル:-55(dB)

「電話機設定」画面(VP-701)

電話機設定

設定グループの選択:共通設定

機種個別設定(VP-701)

受話音量:0(dB)
 送話音量:-6(dB)

着信音設定

外線A:着信音1
 外線B:着信音2
 外線C:着信音3
 内線A:着信音5
 内線B:着信音6
 内線C:着信音7
 デフォルト内線:着信音5
 リコール:着信音4

「電話機設定」画面(KX-UTシリーズ)

電話機設定

設定グループの選択:共通設定

機種個別設定(KX-UTシリーズ)

受話音量:0(dB)
 送話音量:0(dB)
 エコーキャンセラー:無効

電話機音設定

発信音

周波数1:400(Hz)
 周波数2:0(Hz)
 音量:0
 繰り返し:有効
 タイミング:60、250、190

話中音

周波数1:400(Hz)
 周波数2:0(Hz)
 音量:0
 繰り返し:有効
 タイミング:60、500、440

規制音

周波数1:400(Hz)
 周波数2:0(Hz)
 音量:0
 繰り返し:有効
 タイミング:60、500、440

PBX設定(つづき)

呼出音

周波数1:400(Hz)
 周波数2:440(Hz)
 音量:0
 繰り返し:有効
 タイミング:60、1000、1940

保留アラーム音

周波数1:425(Hz)
 周波数2:0(Hz)
 音量:0

繰り返し:有効

タイミング:120、14880

着信音パターン

パターン1:1000、2000
 パターン2:800、400、800、2000
 パターン3:400、200、400、200、800、2000
 パターン4:300、200、300、200、300、1000
 パターン5:250、250、250、2250

着信音パターン割り当て

外線A:パターン1
 外線B:パターン2
 外線C:パターン3
 内線A:パターン5
 内線B:パターン2
 内線C:パターン3
 デフォルト内線:パターン5
 リコール:パターン4

PBX拡張設定

「拡張設定」画面

SIP拡張設定

内線ドメイン:LAN IPアドレス
 SIP 183対応:無効
 電話回線 レスポンス変換:有効
 SIP レスポンス中継:有効
 呼出中転送方式:被転送番号を中継する
 SIP URI競合時の優先:IP回線

VoIP設定

ジッターバッファ:40(ms)
 TOS種別:Diffserv
 メディア(RTP)DSCP:46
 呼制御(SIP)DSCP:46

「番号計画」画面

電話番号ルーティング設定

優先度:IP回線⇒ISDN回線
 回線指定:内線設定優先

番号計画例外ルール

184/186自動判定:有効

3. 設定項目の初期値一覧

PBX拡張設定(つづき)

発信先番号変換ルール設定

種別: 変換
削除桁数: 削除しない

発信規制ルール設定

発信規制ルール番号: 共通

「外線サービスグループ」画面

外線サービスグループ設定

外線サービスグループ: 外線サービスグループ1

「昼夜切替設定」画面

昼夜切替曜日設定

昼夜切替: 無効

昼夜切替日付設定

昼夜切替: 無効

「夜間転送先設定」画面

夜間転送先設定

夜間転送先: 転送しない

「通話数制限設定」画面

通話数制限設定(システム全体)

外線通話本数制限: 8
優先回線用の通話確保数: 0

「ゲートウェイ接続設定」画面

ゲートウェイ接続設定

ゲートウェイ接続: 無効
内線番号判定: 無効
DisplayName発信者番号を優先: しない
ゲートウェイ発信時ドメインを使用: しない

「番号表示変換設定」画面

発信元回線設定

番号表示変換: 無効

番号表示変換ルール設定

種別: 無効
削除桁数: 削除しない

管理(つづき)

「ファームウェアの更新」画面

自動更新

自動更新: 有効

「時刻設定」画面

時刻設定

設定する時刻: パソコンから取得した時刻

自動時計設定

自動時計設定: 有効

NTPサーバーIPアドレス1: 210.173.160.27

NTPサーバーIPアドレス2: 210.173.160.57

※初期に参照しているNTPサーバーは、インターネット
マルチフィード株式会社のものです。

<http://www.jst.mfeed.ad.jp/>

「SNMP設定」画面

SNMP設定

SNMPの使用: 有効

コミュニティID(GET): public

「USB設定」画面

USB設定

USBポート: 有効

USBアクセス許可

USBポート: 有効

ファームウェアの更新

設定のバックアップ/リストア

オリジナル保留音

オリジナルおまたせメッセージ

管理

「SYSLOG情報」画面

SYSLOG情報

DEBUG: 無効

INFO: 有効

NOTICE: 有効

「管理者設定」画面

パスワードの設定

現在のパスワード: admin(半角小文字)

ユーザー画面 管理設定

共通設定の認証: 無効

「設定のバックアップ/リストア」画面

オンライン設定

オンライン設定: 無効

3. 設定項目の初期値一覧(つづき)

ユーザー設定(ユーザー用)

(弊社ホームページに掲載の「ユーザー設定画面マニュアル」)

「非通知着信拒否設定」画面

非通知条件の追加:C(公衆電話)
S(サービス競合)
O(サービス提供付加)

着信拒否の方式:ビジー

「迷惑電話お断り設定」画面

着信拒否の方式:ビジー

動作:着信拒否

「外線着信転送設定」画面

転送状態:無効

使用回線:なし

「留守番電話設定」画面

留守電ボックス設定

使用するボックス:使用しない

留守番電話状態:停止

留守番電話の応答時間(開始状態):9(秒)

留守番電話の応答時間(停止状態):120(秒)

オリジナル応答メッセージ:無効

応答専用モード:無効

応答専用メッセージ:ただいま留守にしております…

パスワードアクセス:無効

パスワード(4桁):無効

留守電保存件数:15(件)

※1ボックスの件数

「昼夜切替設定」画面

外線サービスグループ(1~8):状況:昼間

「電話帳の編集」画面

表示種別:電話番号

回線種別:外線

電話帳グループ:電話帳グループ1

「保留音設定」画面

保留音:保留音1

保留音の音量:0dB

「着信おませ設定」画面

使用するパターン:使用しない

保留音:保留音5

保留音の音量:0dB

メッセージ再生中の保留音:無効

内線リコールの開始時間:30秒後/鳴動しない

留守電ボックス:ボックス1

1次動作:なし

ユーザーID、パスワード

着信設定

不在転送:転送しない

不応答転送:転送しない

呼び出し時間:5(秒)

話中転送:転送しない

内線代表着信時の転送:転送しない

4. 機能一覧

電話機能

- 内線登録(SIP:24+TEL:2)
- 上位SIPサーバー接続(32件)
- IP電話事業者対応(NTTひかり電話★)
- 内線代表着信
- 外線保留/外線応答
- マルチラインキー
- パーク保留/パーク応答
- 代理応答
- 保留転送
- 無条件転送/不応答転送
- 多機能電話機設定
- 電話帳(共通300件/グループ100件)
※VP-701、KX-UT123N、KX-UT136N用
- VoIP電話帳(1000件)
- エコーキャンセラー
- ナンバーディスプレイ
- PSTN自動最適化
- Peer to Peer
- 留守番電話
- 非通知着信お断り機能
- ユーザーポータル
- 迷惑電話お断り機能(指定着信機能)
- 昼夜切替機能
- ダイヤルライン(IP電話/PSTN/ISDN)
- 回線グループ機能
- 電話番号ルーティング機能
- 外線着信転送機能
- 着信おまたせ機能
- 回線閉塞機能
- ゲートウェイ接続
- 番号表示変換
- 発信番号変換
- 発信番号規制
- 外線通話本数制限
- 保留音選択(内蔵5+ユーザー登録3)
- オリジナル保留音
- オリジナルおまたせメッセージ
(着信おまたせ機能で使用する自動応答メッセージ)

ルーター機能

- PPPoE接続
- IPマスカレード
- 固定IP接続
- 静的マスカレード
- DHCPクライアント接続
- DMZ
- 自動接続
- PPTPパススルー
- IPsecパススルー
- ステルスモード
- DHCPサーバー
- ダイナミックDNS
- 静的DHCPサーバー
- スタティックルーティング
- DNS代理応答
- IPフィルター
- IPv6ブリッジ
- PPPoEブリッジ
- QoS

その他

- 管理者ID/パスワード
- SNMP
- 自動時計設定
- 設定保存
- SYSLOG
- WEBメンテナンス
- Telnetメンテナンス
- 音声ガイダンス
- オンラインファームアップ(自動/手動)

※定格・仕様・外觀等は改良のため予告なく変更する場合があります。

★ NTT東日本、またはNTT西日本のフレッツ光ネクスト(インターネット接続サービス)で提供するひかり電話(ひかり電話エースを含む)、ひかり電話オフィスタイプ、ひかり電話オフィスエースに対応します。

5. 電話機の操作について

ご使用になる電話機により、本製品で設定した特番、フレキシブルボタン(キー番号)などの操作方法が異なります。

操作	アナログ電話機	KX-UT136N	KX-UT123N	VP-701
発信 ダイヤル 発信 (内線/外線) ★1★2★3	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる ※電話機によりできない場合があります。	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる	◎受話器を上げ、電話番号をダイヤルする ◎電話番号をダイヤルして受話器を上げる
電話帳 発信 (内線/外線) ★1	—	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳、検索の順に操作して、相手先を選択してから受話器を上げる	電話帳を押して、相手先を選択してから受話器を上げる
ワンタッチ (内線/外線) ★1	—	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめ本製品側で登録した電話番号に発信します。	—	◎受話器を上げ、〈ワンタッチ〉を押す ◎〈ワンタッチ〉を押して受話器を上げる ※あらかじめVP-701ごとに登録した電話番号に発信します。
外線発信 キー/ 外線キー (外線)	—	◎受話器を上げ、〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルする ◎〈外線発信キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる	—	◎電話番号をダイヤルし、〈外線キー〉を押してから受話器を上げる ◎〈外線キー〉を押して電話番号をダイヤルして受話器を上げる
短縮ダイヤル 発信 (内線/外線) ★1	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする	あらかじめ本製品側で登録した共用電話帳の短縮番号をダイヤルする ※VP-701に登録された電話帳の番号(001～999)をダイヤルし、最後の番号を1秒以上長押ししても発信できます。
履歴発信 (内線/外線) ★1	※電話機により操作が異なります。	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①履歴を押し、履歴(不在/着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる	①カーソルキー(左右)を押し、履歴(不在・着信/発信)を選択する ②相手先を選択してから受話器を上げる

★1 外線時は、回線捕捉の設定が必要です。
ご使用になる電話機ごとに、「内線個別設定」画面で、優先度や回線を設定してください。

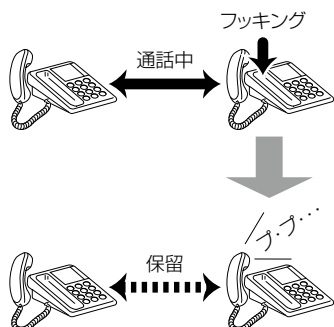
★2 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番を押してください。
(アナログ電話機、KX-UT136N、KX-UT123N使用時)

★3 回線捕捉が設定されていない場合、外線時は、ダイヤルする前に外線発信特番、または外線発信キー(例:0)を押してください。(VP-701使用時)

5. 電話機の操作について(つづき)

操作	アナログ電話機	KX-UT136N	KX-UT123N	VP-701	
着信	内線着信に 応答	受話器を上げる	◎受話器を上げる(画面 に表示されている発信 元に応答する場合) ◎高速点滅(緑■)してい る<DNキー>を押す	受話器を上げる (画面に表示されている 発信元に応答する場合)	受話器を上げる (画面に表示されている 発信元に応答する場合)
	外線着信に 応答	受話器を上げる	◎受話器を上げる(画面 に表示されている発信 元に応答する場合) ◎高速点滅(緑■)してい る<外線着信キー>を押す ◎高速点滅(赤■)してい る<外線状態通知 キー>、または高速点滅 (緑■)している<DN キー>を押す	受話器を上げる (画面に表示されている 発信元に応答する場合)	◎着信中に高速点滅 (赤■)している<外線 キー>を押す ◎受話器を上げる(画面 に表示されている発信 元に応答する場合) ※オフフック外線応答 が「有効」に設定され ている場合だけで す。
	着信拒否	—	あらかじめ ^{不在} □を押し、 不在設定を「オン」にし ておく ※内線着信時、着信拒否 (切断)します。 発信元には話中音が聞 こえます。 ※外線着信時は鳴動しな いだけで<外線状態通 知キー>は高速点滅(赤 ■)し、切断しません。	あらかじめ ^{不在} □を押し、 不在設定を「オン」にし ておく ※内線着信時、着信拒否 (切断)します。 発信元には話中音が聞 こえます。 ※外線着信時、ほかに外 線着信を確認できる電 話機がある場合は、切 断しません。	あらかじめ<着信拒否>を 押しておく ※内線着信時、着信拒否 (切断)します。 発信元には話中音が聞 こえます。 ※外線着信時は鳴動しな いだけで<外線キー>は 高速点滅(赤■)し、切 断しません。
通話保留 (自己保留)	通話中にフッキングす る、またはキャッチボタ ンを押す★ ※保留中、受話器は上げ たままにしてください。 受話器を置くと、鳴り 返し状態になります。	通話中に ^{保留} □を押す	通話中に ^{保留} □を押す	通話中に ^{自己保留} □を押す	
保留解除	保留中にフッキングす る、またはキャッチボタ ンを押す★	保留中に高速点滅(緑■) している<DNキー>を押 す	保留中に ^{保留} □を押す ※受話器を置いたままだ とハンズフリー通話状 態になります。	保留中に ^{自己保留} □を押す	

★1 フッキングは、アナログ電話機の切断ボタンを短く(1秒以内)押す操作のことです。
※電話機によっては、「キャッチ」というボタンがありますので、同様に操作できます。

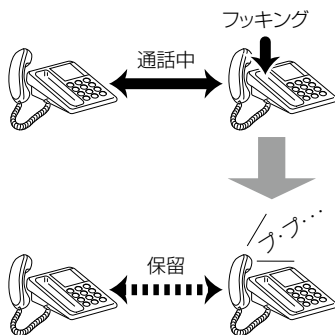


(次ページにつづく)

5. 電話機の操作について(つづき)

操作	アナログ電話機	KX-UT136N	KX-UT123N	VP-701
パーク保留★2★3 (保留特番：*90)	①通話中にフッキングする★1 ②「*90」+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例：*9001) ③音声ガイダンスを確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に「パーク」を押す ②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に「 ^{転送} 」を押す ②「*90」+「パーク番号」をダイヤルする ※パーク番号は01～24(例：*9001) ③音声ガイダンスを確認して通話を切る ④転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える	①通話中に「パーク」を押す ②低速点滅(緑■)のキー番号を確認する ③転送先に口頭や内線でパーク保留したキー番号を伝える
パーク応答 (応答特番：*91)	「*91」+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101)	伝えられた番号の「パーク」(低速点滅(赤■))を押して、応答する	「*91」+「パーク番号」をダイヤルして発信する(例：*9101)	伝えられた番号の「パーク」(低速点滅(赤■))を押して、応答する
呼出転送★3	①通話中にフッキングする★1 ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、受話器を置く ※転送操作中に再度フッキングすると、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に「 ^{転送} 」を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、「実行」を押す、または受話器を置く ※転送操作中に「フック」 ^{転送} の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に「 ^{転送} 」を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、「実行」を押す、または受話器を置く ※転送操作中に「フック」 ^{転送} の順に押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。	①通話中に「 ^{転送} 」を押す ②転送先の電話番号をダイヤルする ③応答確認後、受話器を置く ※転送操作中に「 ^{転送} 」を押すと、転送を中止して元の通話に戻ります。

★1 フッキングは、アナログ電話機の切断ボタンを短く(1秒以内)押す操作のことで、
※電話機によっては、「キャッチ」というボタンがありますので、同様に操作できます。



★2 パーク保留は、通話中に保留した電話を任意の電話機から応答できる機能です。
※転送先には、パーク保留したキー番号を口頭や内線で伝えます。
※パーク番号の1桁「01～09」をダイヤルする場合は、「0」を省略できます。(例：*9001→*901)



★3 アナログ電話機で、パーク保留と呼出転送を操作する場合、あらかじめ本製品側で「TELポートの通信中転送」を「有効」に設定しておいてください。

(次ページにつづく)

5. 電話機の操作について(つづき)

操作	アナログ電話機	KX-UT136N	KX-UT123N	VP-701
代理応答 (コールピックアップ特番：* 81)	自分以外の電話機が着信中に受話器を上げ、代理応答の特番をダイヤルする	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる ※外線からの着信は、高速点滅(赤■)している(外線状態通知キー)でも代理応答できます。 ※あらかじめ(ワンタッチ)に代理応答の特番を登録しておく、同様に代理応答できます。	自分以外の電話機が着信中に代理応答の特番を押して、受話器を上げる	自分以外の電話機が着信中に ^{代理応答} []を押して、受話器を上げる ※代理応答の特番をダイヤルしても代理応答できます。

高品質がテーマです。

